

(仮称) 千葉県こども計画策定に係る
こどもの意見反映のための調査業務委託
調査結果報告書

令和6年12月26日

社会システム株式会社

目次

1章 調査概要	1
2章 調査結果の概要	2
(1) 子どもの権利の認知度	2
(2) 生命生存及び発達に対する権利の感じ方	3
(3) 子どもの最善の利益の感じ方	5
(4) 子どもの意見の尊重の感じ方	7
(5) 差別的な扱いの感じ方	9
(6) 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（複数選択式 3 つまで）	12
(7) 将来の希望（複数選択式 5 つまで）	14
(8) 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（複数選択式 5 つまで）	16
(9) 何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと	18
3章 集計結果	20
3. 1 単純集計	21
(1) 個人属性	21
(2) 子どもの権利の認知度	23
(3) 生命生存及び発達に対する権利の感じ方	23
(4) 子どもの最善の利益の感じ方	24
(5) 子どもの意見の尊重の感じ方	24
(6) 差別的な扱いの感じ方	24
(7) 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み	25
(8) 将来の希望	26
(9) 安心して自分らしく暮らすために必要なこと	27
3. 2 クロス集計	28
(1) 子どもの権利の認知度	28
(2) 生命生存及び発達に対する権利の感じ方	32
(3) 子どもの最善の利益の感じ方	36
(4) 子どもの意見の尊重の感じ方	41
(5) 差別的な扱いの感じ方	46
(6) 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み	51
(7) 将来の希望	72
(8) 安心して自分らしく暮らすために必要なこと	77
4章 自由記述分析	111
4. 1 自由記述の集計結果	111
4. 2 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由	114
4. 3 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由	120
4. 4 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由	126
4. 5 差別的禁止の侵害・軽視を感じる理由	132

4. 6	子どもの権利を守るためにあると良い仕組み.....	138
4. 7	将来の希望	144
4. 8	安心して自分らしく暮らすために必要なこと.....	151
4. 9	何か大人の人に伝えたいことやこども計画に入れてほしいこと.....	158
5 章	調査の課題点・改善点及び工夫点	165
参考資料 1	アンケート項目	166
参考資料 2	チラシ	169

※「子どもの権利」「子どもの権利条約のいわゆる 4 つの原則」については、日本ユニセフ協会の表現をそのまま使っています。

1章 調査概要

(1) 調査目的

- 「(仮称) 千葉県こども計画」策定に当たり、計画の内容にこどもの意見を反映するために、こどもの意見を幅広く聴取すること。

(2) 調査対象

- 千葉県内の調査協力校 155 校に通う小学 5 年生～高校 3 年生 約 50,000 人
- 地域ごとに小・中・高の調査数の割合を按分比例により算出しランダムに選定
- 得られた回答数は 35,330 件（チラシ配布数の約 7 割）

表 学校種別調査対象者数（チラシ配布数・調査対象校数）

学校種別	チラシ配布数	対象校数
小学校	13,680	80
中高計	36,220	75
中学校（公）	18,910	49
中学校（私）	810	2
高校（公）	9,920	16
高校（私）	6,580	8
合計	49,900	155

表 属性別回答者数

学年	回答数
小学生	10,607
小学 5 年生	5,394
小学 6 年生	5,213
中学生	14,293
中学 1 年生	4,993
中学 2 年生	4,592
中学 3 年生	4,708
高校生	10,430
高校 1 年生	4,103
高校 2 年生	3,384
高校 3 年生	2,943
合計	35,330

性別	回答数
男	17,892
女	16,598
その他	840
合計	35,330

世帯人員(本人含む)	回答数
2 人以下	921
1 人	50
2 人	871
3 人以上	33,985
3 人	6,079
4 人	15,937
5 人	8,049
6 人以上	3,920
その他	424
合計	35,330

(3) 調査期間

- 令和 6 年 7 月 1 日から令和 6 年 7 月 17 日までの約 2 週間にかけて行った。期間内の回答が難しい学校に対しては期間を延長し対応した。

(4) 調査方法

- アンケートは Google Forms にて実施した。

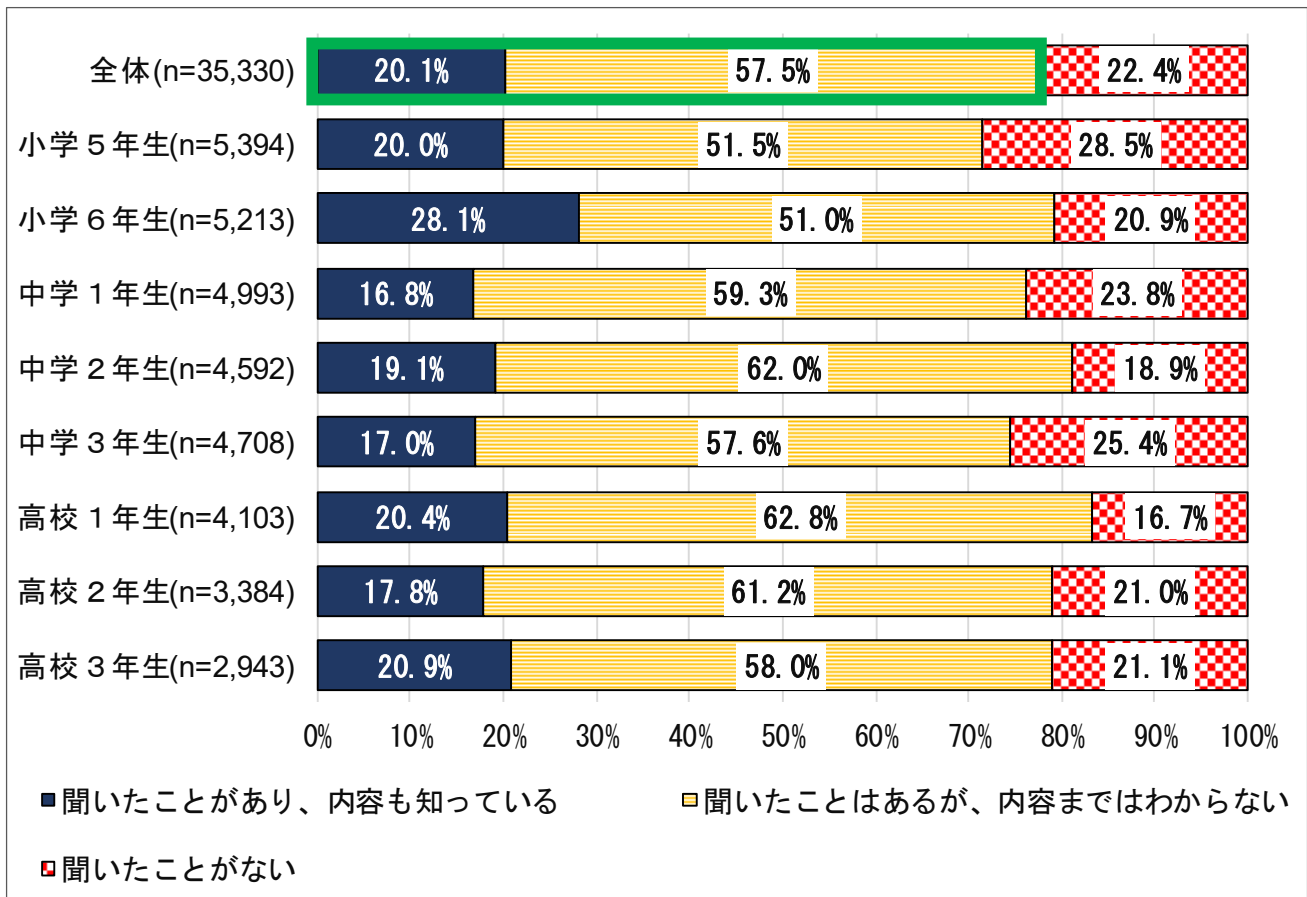
2章 調査結果の概要

(1) 子どもの権利の認知度

問 あなたは子どもの権利について知っていますか？

- 「子どもの権利」について、**聞いたことがある児童・生徒：約 78%**
- そのうち、内容も知っている児童・生徒：約 20%

図 こどもの権利の認知度



クロス集計の特徴的な結果

- いずれの学年においても聞いたことがない児童・生徒：約 2 割

※【子どもの権利条約のいわゆる 4 つの原則】

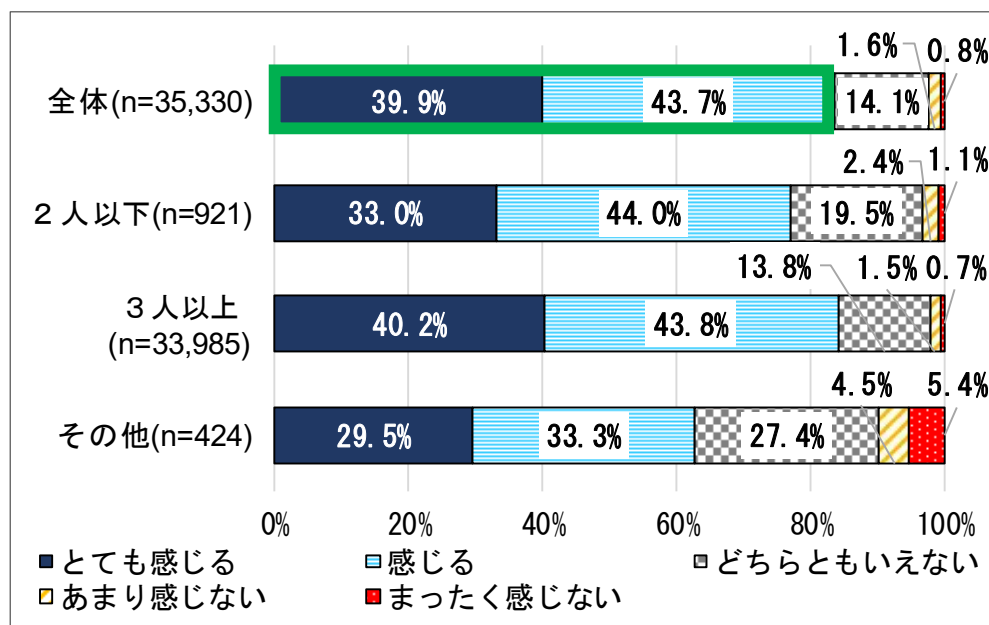
①生命、生存及び発達に対する権利 ②子どもの最善の利益 ③子どもの意見の尊重 ④差別の禁止

（２）生命生存及び発達に対する権利の感じ方

問 あなたは、まわりの大人があなたの心も体も大事にしてくれていると感じますか？

- **「生命生存及び発達に対する権利」が守られていると感じる児童・生徒：約 84%**

図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方



クロス集計の特徴的な結果

- 世帯人員「2人以下」「その他」の児童・生徒：生命生存及び発達に対する権利が守られていると感じると回答した割合は比較的低い。

【自由記述回答について】

- 自由記述の分析について、設問内容・回答内容の属性からそれぞれの設問に適したカテゴリを設定し、分類を行った。
- 複数のカテゴリに属する回答を対象にカテゴリ間の関連度を見出すため、カテゴリ同士のクロス集計を実施した。
- クロス集計の結果について、それぞれのカテゴリの回答数と関連度を直感的に把握できるように各カテゴリを円で表し、関連度が一定以上あるカテゴリを直線で結ぶ模式図を作成した。模式図は、カテゴリの回答数が円の大きさ、カテゴリごとの相関性（直線でつながれた2つのカテゴリに分類されている回答数）を直線の太さで表している。

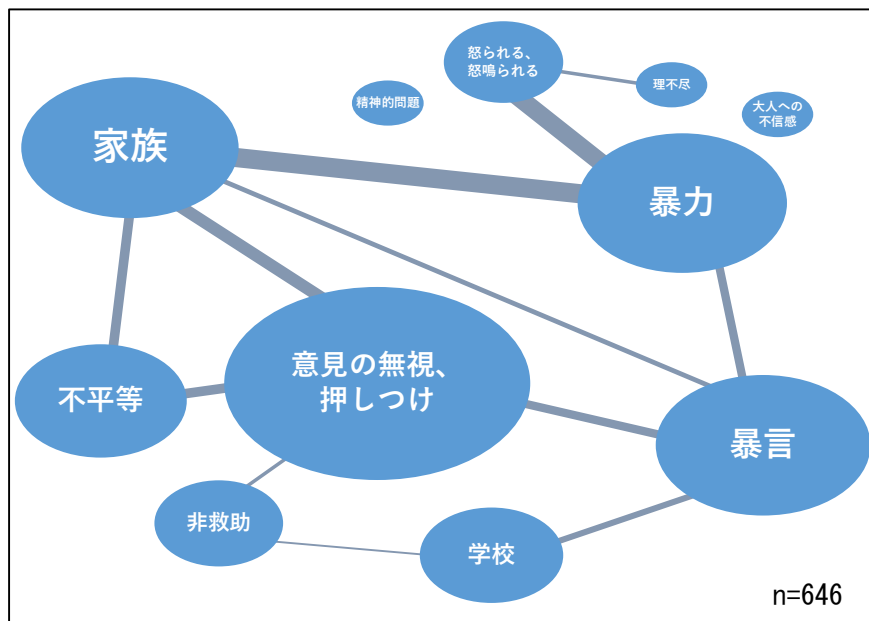
● 自由記述の具体的回答

～生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由～

権利が守られていると「感じない」と回答した837人のうち、理由について回答した人数 646 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
親に相談をしても、話を最後まで聞いてくれない。アドバイス？しかしてくれない	● 家族 ● 意見の無視、押しつけ	小学6年生	女	3
女の子らしく振る舞うというのを無理やりされている感じ	● 意見の無視、押しつけ	中学1年生	その他	6
虐待を受けたとき	● 暴力 ● 家族	中学2年生	男	2
お母さんがたまにすごく怒ると殴られることがあるから	● 暴力 ● 家族	小学5年生	男	5
お父さんが怒り、家から閉め出された時。	● 暴力 ● 家族 ● 怒られる、怒鳴られる	小学6年生	男	4

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由～



カテゴリの設定・分類

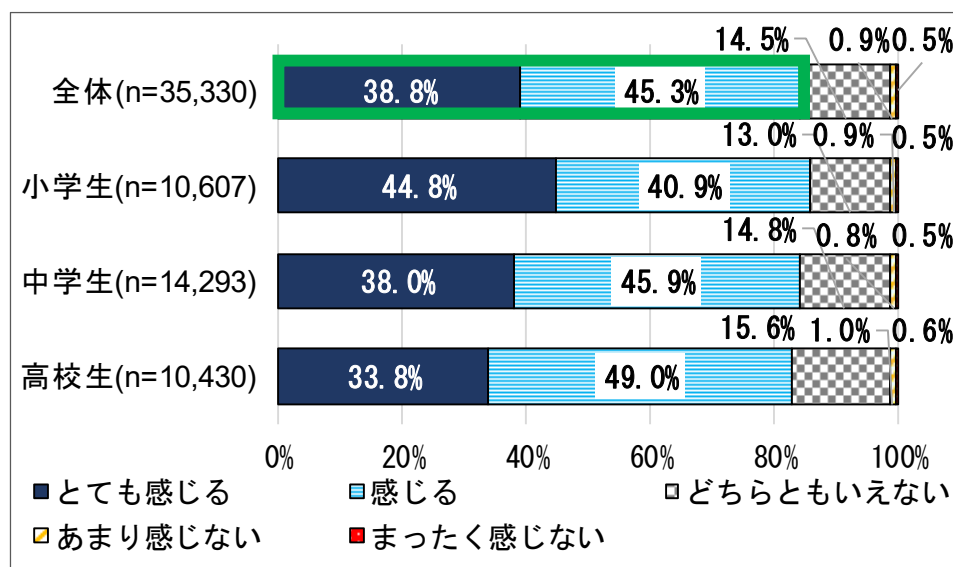
- ①家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ②学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ③暴力…大人から暴力を加えられた経験等に関する記述内容
- ④暴言…大人から暴言を言われた経験等に関する記述内容
- ⑤不平等…大人からの扱いに他者と差を感じる等、不平等を感じる経験等に関する記述内容
- ⑥非救助…大人からの救助・援助を得られなかった経験等に関する記述内容
- ⑦意見の無視、押しつけ…回答者自身の意見の無視、もしくは大人から意見を押し付けられた経験等に関する記述内容
- ⑧理不尽…大人から理不尽な扱いを受けた経験等に関する記述内容
- ⑨大人への不信感…大人への不信感に関する記述内容
- ⑩怒られる、怒鳴られる…大人から怒られた経験、怒鳴られた経験等に関する記述内容
- ⑪精神的問題…大人と接する中で感じる精神的ストレスや自身の精神問題等に関する記述内容

(3) 子どもの最善の利益の感じ方

問 あなたは、まわりの大人が、あなたにとって良いことは何かを考えて行動してくれていると感じますか？

- **「子どもの最善の利益」が守られていると感じる児童・生徒：約 84%**

図 子どもの最善の利益の感じ方



クロス集計の特徴的な結果

- 学年が上がるにつれて子どもの最善の利益が守られていると感じると回答した割合は比較的低くなる。

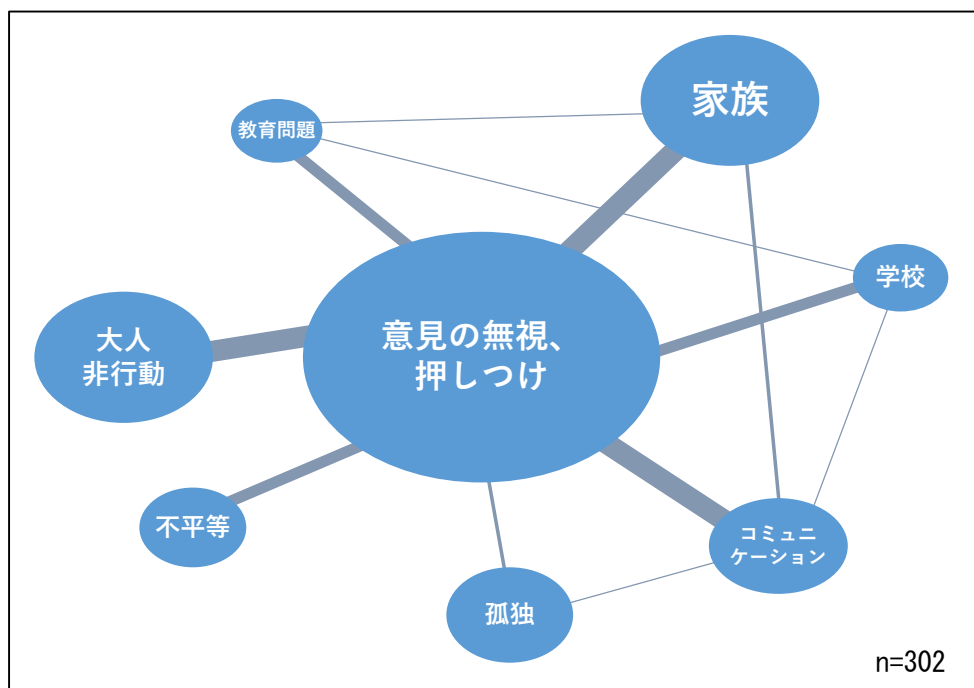
● 自由記述の具体的回答

～子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由～

権利が守られていると「感じない」と回答した 494 人のうち、理由について回答した人数 302 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
話を聞いてくれないから。	● コミュニケーション ● 意見の無視、押しつけ	高校 1 年生	その他	4
意見が通らない	● 意見の無視、押しつけ	高校 2 年生	その他	4
自分の夢を危険だやめろと否定された	● 意見の無視、押しつけ ● 大人非行動	小学 6 年生	男	2
父親の理不尽	● 家族 ● 意見の無視、押しつけ	小学 6 年生	男	3
子供のお手本になるはずの大人の態度 や言葉遣いをみると感じない	● 大人非行動	中学 1 年生	女	5

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由～



カテゴリの設定・分類

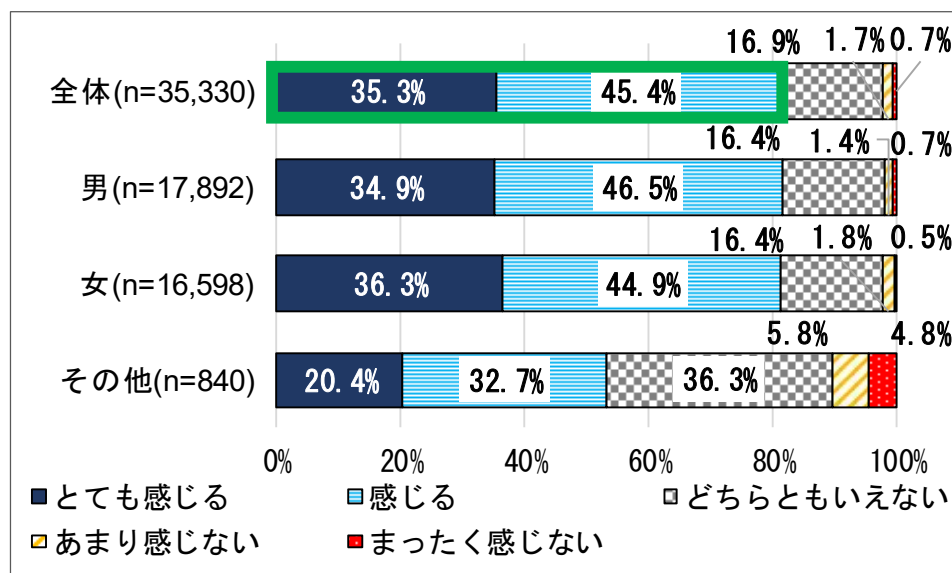
- ①家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ②学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ③コミュニケーション…コミュニケーション不足等に関する記述内容
- ④教育問題…進学や昨今の教育問題、教育体制等に関する記述内容
- ⑤孤独…回答者自身の孤独だと感じた経験に関する記述内容
- ⑥不平等…不平等な扱いを受けた経験や不公平を感じた経験等に関する記述内容
- ⑦意見の無視、押しつけ…意見の無視、もしくは大人から意見を押し付けられた経験等に関する記述内容
- ⑧大人非行動…周囲の大人が行動していない、もしくは模範的でない行動を行っている等の記述内容

(4) 子どもの意見の尊重の感じ方

問 あなたは、まわりの大人があなたの意見をきいてくれていると感じますか？

- **「子どもの意見の尊重」が守られていると感じる児童・生徒：約 81%**

図 こどもの意見の尊重の感じ方



クロス集計の特徴的な結果

- 性別「その他」の児童・生徒は、意見の尊重を感じているという回答割合が比較的低い。

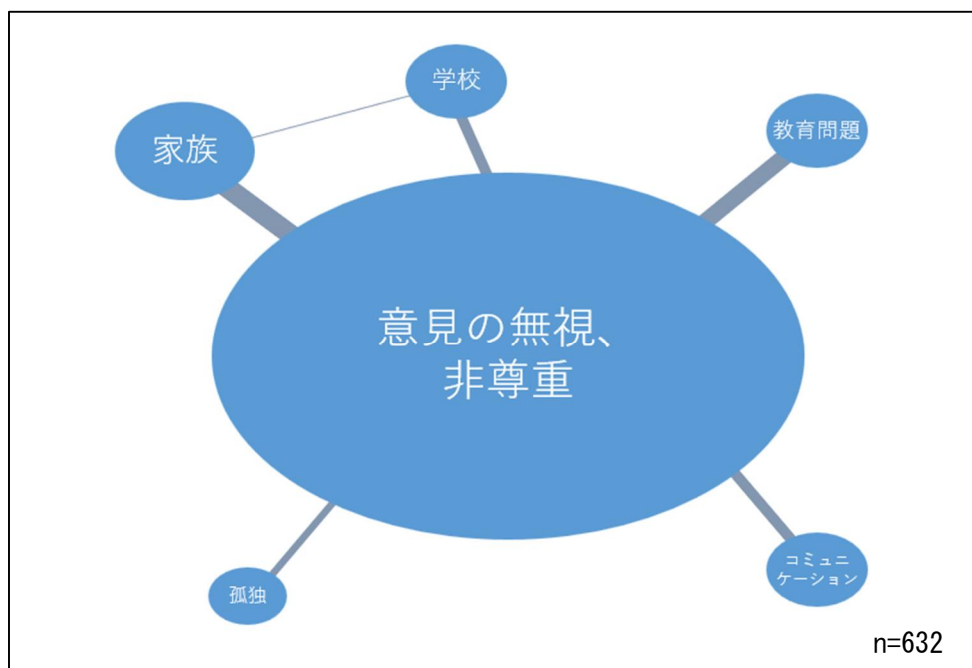
● 自由記述の具体的回答

～子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由～

権利が守られていると「感じない」と回答した 856 人のうち、理由について回答した人数 632 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
先生が間違えてしまったときに指摘したら怒鳴られたという話を友達から聞いたこと	● 学校 ● 意見の無視、非尊重	高校 2 年生	その他	7
女だが男の格好がしたい。親は許してくれない。	● 家族 ● 意見の無視、非尊重	高校 3 年生	女	4
子供の意見を聞かずに勝手に部活動を地域クラブにしようとしていること	● 意見の無視、非尊重 ● 教育問題	中学 2 年生	女	3
あっそのちな感じで流されるから大人を信用することができない。	● 意見の無視、非尊重 ● 孤独	中学 2 年生	女	3
大人の意見を優先しているから	● 意見の無視、非尊重	中学 2 年生	女	4

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由～



カテゴリの設定・分類

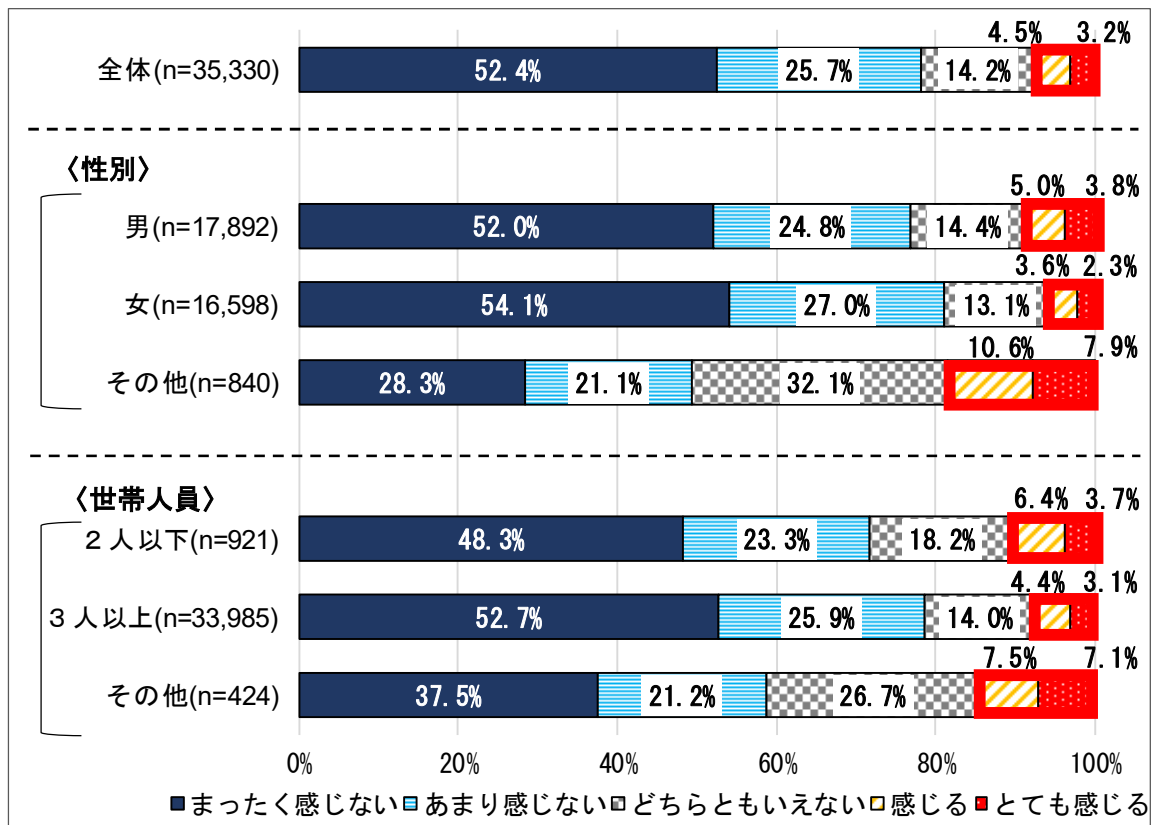
- ①意見の無視、非尊重…意見の無視、尊重されていない経験等に関する記述内容
- ②家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ③教育問題…進学や昨今の教育問題、教育体制等に関する記述内容
- ④コミュニケーション…コミュニケーション不足等に関する記述内容
- ⑤学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑥孤独…回答者自身の孤独だと感じた経験に関する記述内容

(5) 差別的な扱いの感じ方

問 あなたは、まわりからあなた自身の見た目や性別、家のことなどで嫌なことを言われたり、嫌なことをされていると感じますか？

- **「差別的な扱いを受けている」と感じる児童・生徒：約 7.7%**

図 差別的な扱いの感じ方

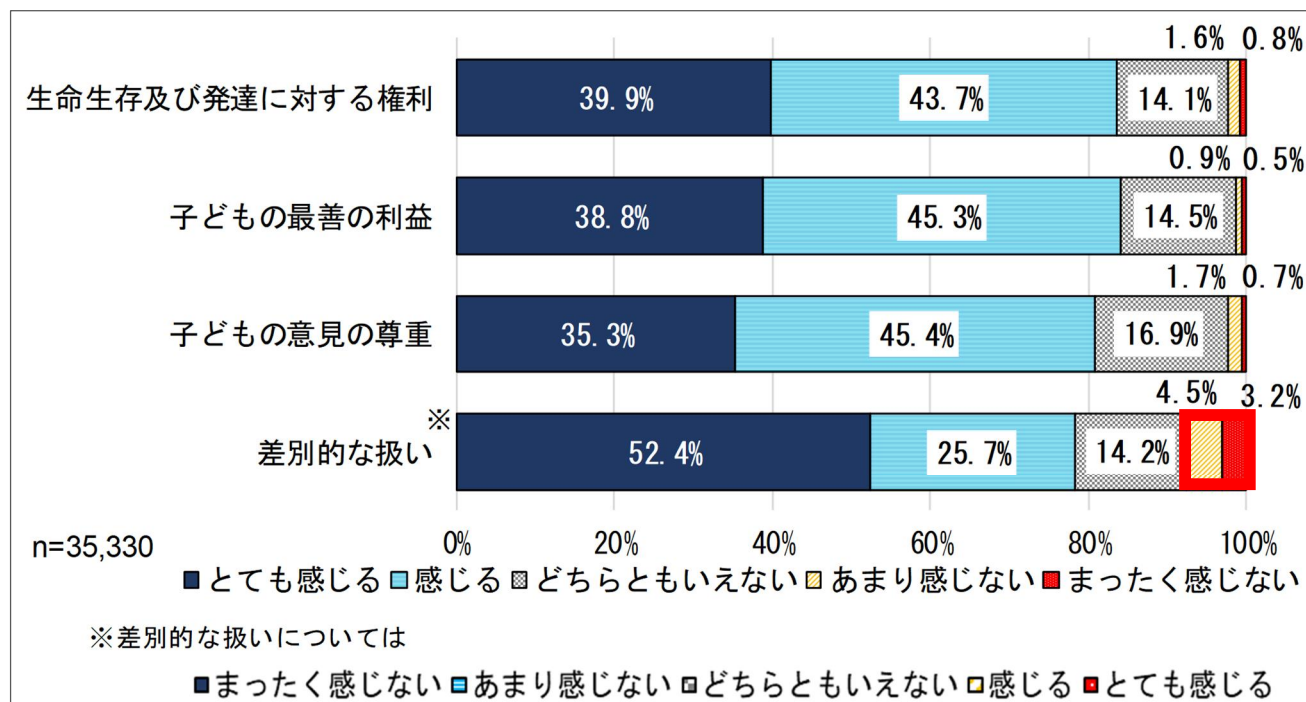


クロス集計の特徴的な結果

- 性別「その他」は、差別的な扱いを感じる」と回答した割合は約 18%と、他の属性と比べて高い。
- 男女で比べると、差別的な扱いを感じる」と回答した割合は「男」の方が高い。
- 世帯人員「2人以下」「その他」は、差別的な扱いを感じる」と回答した割合は比較的高い。

- 「子どもの権利条約のいわゆる4つの原則」のうち、権利が守られていないと感じる児童・生徒の割合は、「差別的な扱い（差別的な扱い）」が最も高い。

図 こどもの権利の4つの原則の感じ方



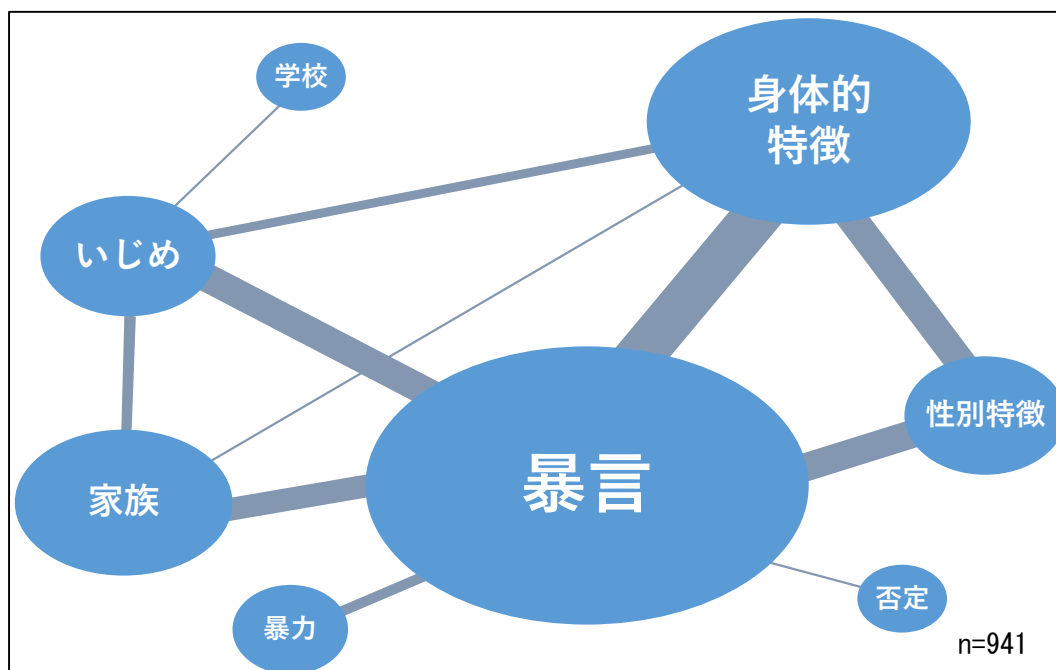
● 自由記述の具体的回答

～差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由～

差別的な扱いを受けていると感じると回答した 2,691 人のうち、理由について回答した人数 941 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
女の子だから、のようなことを言われたとき	● 性別特徴 ● 暴言	小学 6 年生	その他	4
容姿に関する悪口を言われている時	● 身体的特徴 ● 暴言	中学 3 年生	男	4
肌が黒いと言われた時	● 身体的特徴 ● 暴言	高校 3 年生	女	4
親が容姿をバカにしてくる	● 家族 ● 暴言	中学 2 年生	女	4
自分の嫌なあだ名で呼ばれる	● 暴言	小学 6 年生	男	3

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由～



カテゴリの設定・分類

- ① 暴言…暴言を言われた経験等に関する記述内容
- ② 身体的特徴…身体的特徴に関する記述内容
- ③ 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ④ いじめ…一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じている経験等に関する記述内容
- ⑤ 性別特徴…性自認や性別的な特徴に関する記述内容
- ⑥ 暴力…暴力を加えられた経験等に関する記述内容
- ⑦ 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑧ 否定…意見や考え方、存在等を否定された経験等に関する記述内容

(6) 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（複数選択式 3 つまで）

- 「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した児童・生徒が最も多く、約 48%

図 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（複数選択）

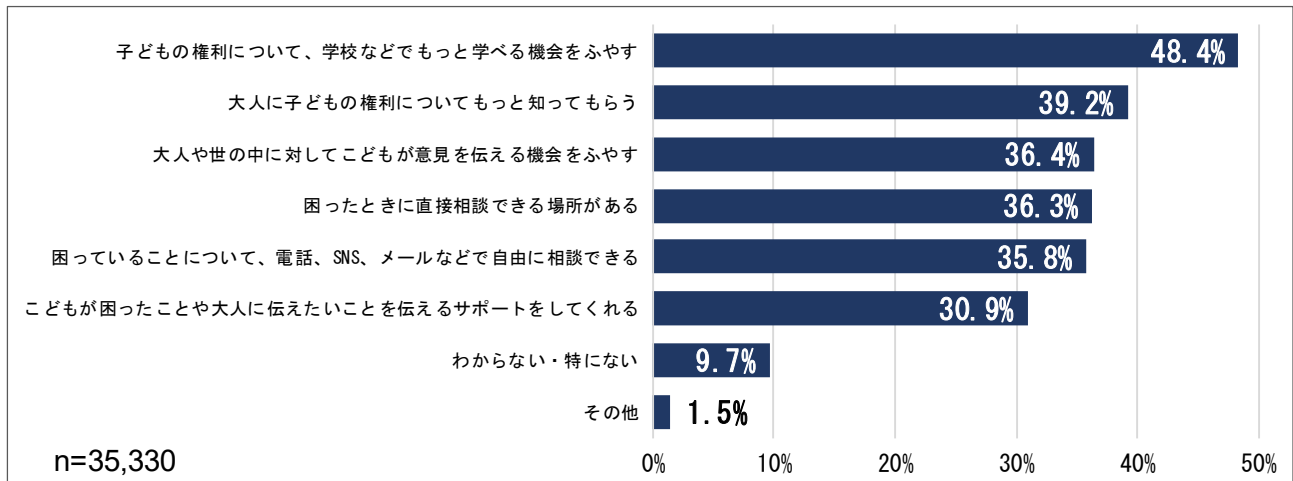
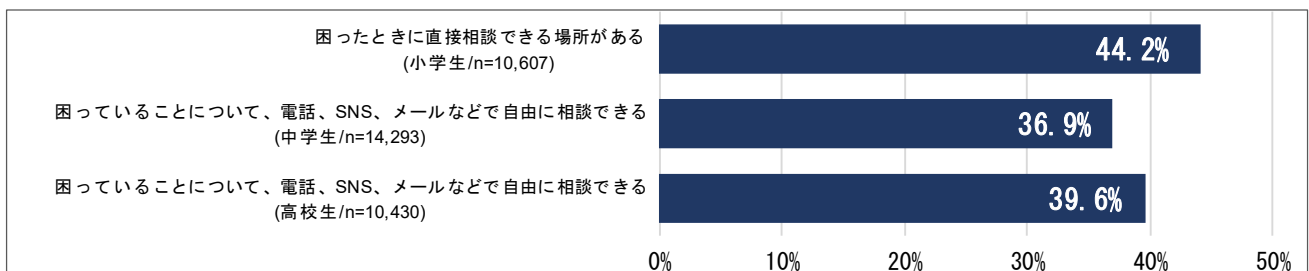


図 学年別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（複数選択・一部抜粋）



クロス集計の特徴的な結果

- 小学生は「困ったときに直接相談できる場所がある」を選択する割合が全体に比べて高い。(約 44%)
- 中高生は「困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる」を選択する割合が全体に比べて高い。(中学生約 37%、高校生：約 40%)

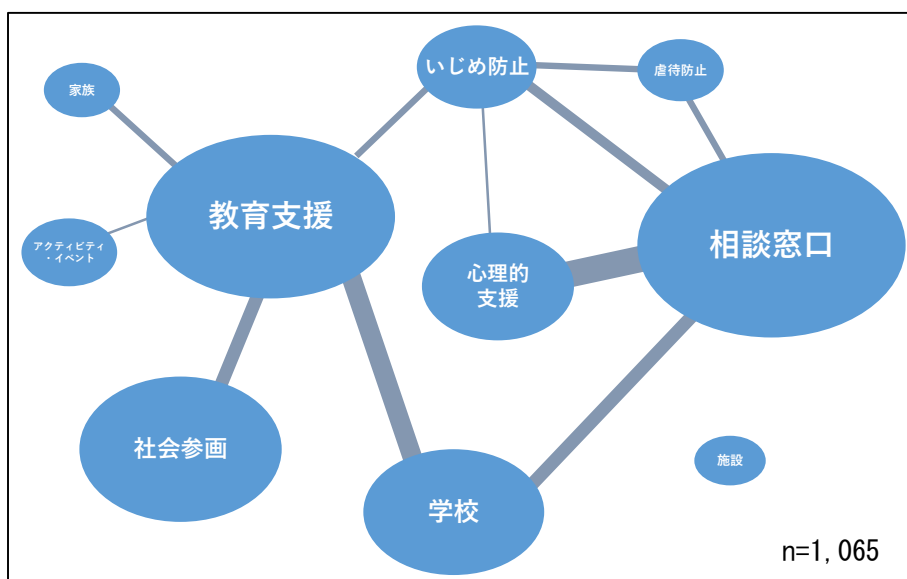
● 自由記述の具体的回答

～子どもの権利を守るためにあると良い仕組み～

その他あると良いと思う仕組みについて回答した人数 1,065 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
子供が親へ伝えたいことの仲介をしてもらえるサービス。（養護教諭の先生などが）	● 相談窓口 ● 心理的支援	小学6年生	女	4
強制的にカウンセラーの人とみんなが話せるようにしたほうが良いと思う。 なぜなら言いたいことがあっても、なかなか言い出せない人がたくさんいると思うから。	● 相談窓口 ● 心理的支援	中学2年生	男	5
授業参観の日に子どもの権利について学習する。	● 学校 ● 教育支援	小学6年生	女	4
男女関係なく公平に学校生活。学習したい	● 学校 ● 教育支援	小学6年生	女	4
政治に関わる人に、子どもの意見を伝える機会。	● 社会参画	小学6年生	男	4

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～こどもの権利を守るためにあると良い仕組み～



カテゴリの設定・分類

- ①相談窓口…こどもが相談できるサービスや場所等に関する記述内容
- ②教育支援…こどもの権利についての教育支援に関する記述内容
- ③社会参画…こどもの社会参画に関する記述内容
- ④学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑤心理的支援…ストレス等への心理的な支援に関する記述内容
- ⑥いじめ防止…いじめ防止の活動・取り組み等に関する記述内容
- ⑦イベント・アクティビティ…イベントやアクティビティに関する記述内容
- ⑧虐待防止…虐待防止の活動に関する記述内容
- ⑨家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ⑩施設…こどもが利用できる公共施設に関する記述内容

(7) 将来の希望（複数選択式 5 つまで）

- 将来は「好きなことをしてすごしている」と回答した児童・生徒が最も多く、約 63%

図 将来の希望（複数選択）

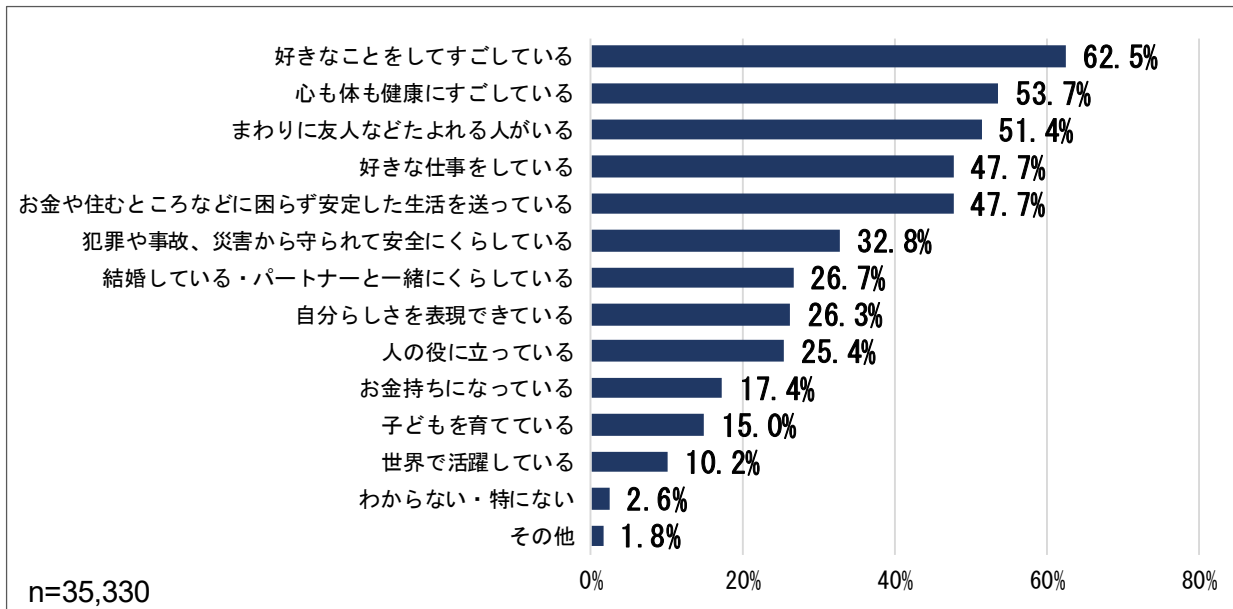
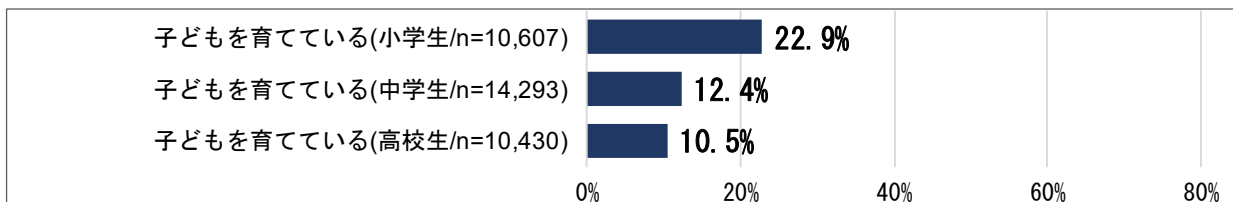


図 学年別 将来の希望（「子どもを育てている」を選択した割合を抜粋）



クロス集計の特徴的な結果

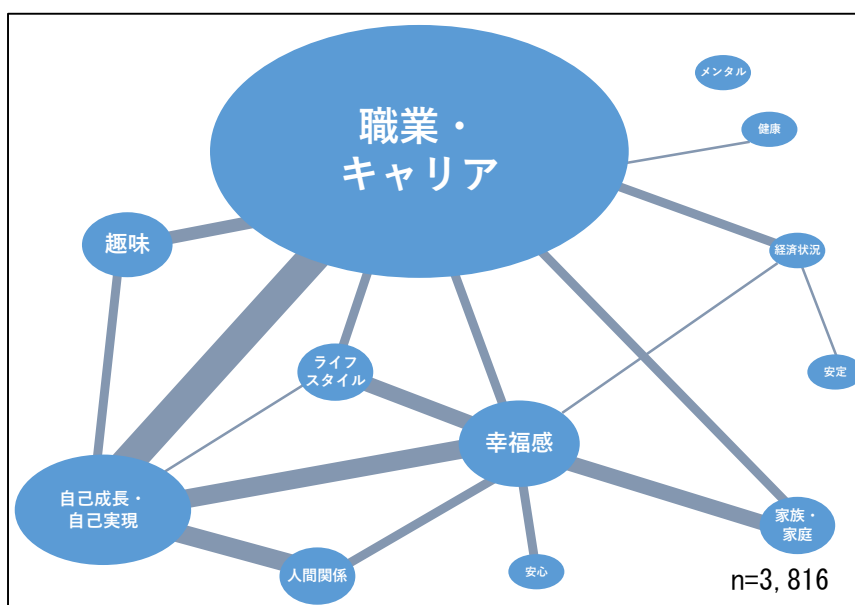
- 学年が上がるにつれて「子どもを育てている」状態にいたいと思う人の割合が低くなる。
(小学生約 23%、中学生約 12%、高校生約 11%)

● 自由記述の具体的回答
～将来の希望～

その他に将来なっていたいものについて回答した人数 3,816 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
野球選手	● 職業・キャリア	小学6年生	男	4
人を喜ばせる仕事をしたい	● 職業・キャリア ● 自己成長・自己実現	中学2年生	女	5
農業界に革命を起こす。	● 職業・キャリア ● 自己成長・自己実現	高校2年生	男	4
自分のなりたいこと、やりたいことをちゃんとやっている	● 自己成長・自己実現	小学6年生	女	5
夢を叶える	● 自己成長・自己実現	中学1年生	女	4

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～将来の希望～



カテゴリの設定・分類

- ①職業・キャリア…回答者自身の将来就きたい職業・キャリアに関する記述内容
- ②自己成長・自己実現…回答者自身が将来ありたい姿に関する記述内容
- ③幸福感…幸せに過ごすことに関する記述内容
- ④趣味…趣味に励むことに関する記述内容
- ⑤ライフスタイル…理想のライフスタイルに関する記述内容
- ⑥家族・家庭…両親や兄弟等、家族や家庭に関する記述内容
- ⑦人間関係…将来どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ⑧経済状況…将来どのような経済状況を望んでいるかに関する記述内容
- ⑨安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ⑩健康…健康に過ごすことに関する記述内容
- ⑪安定…安定に過ごすことに関する記述内容
- ⑫メンタル…ストレス等メンタル面に関する記述内容

(8) 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（複数選択式 5 つまで）

- 「家や学校で安心して過ごせる」と回答した児童・生徒が最も多く、約 50%

図 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（複数選択）

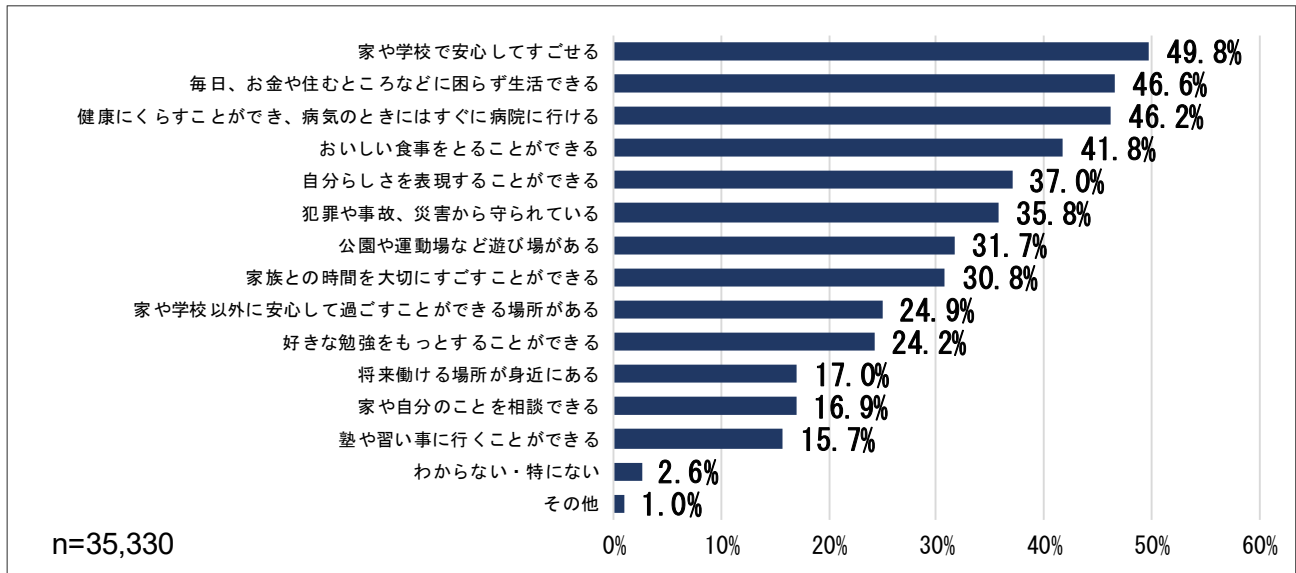
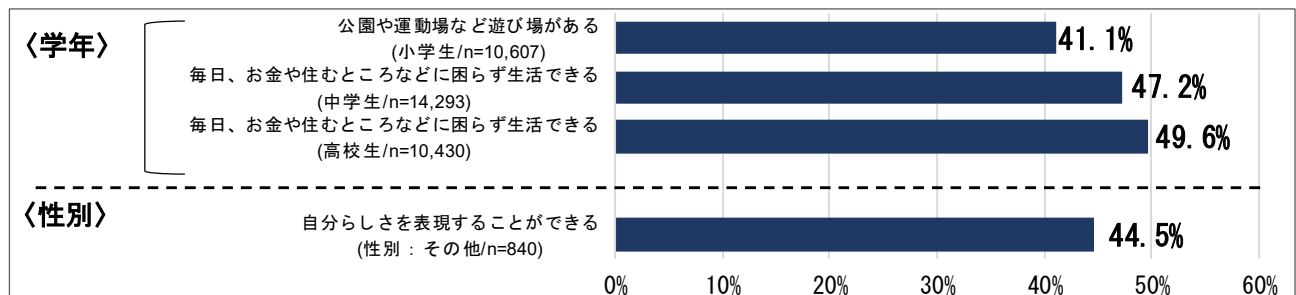


図 学年別および性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（複数選択・一部抜粋）



クロス集計の特徴的な結果

- **小学生**は「公園や運動場など遊び場がある」を選択する割合が全体に比べて高い。(約 41%)
- **中高生**は「毎日、お金や住むところに困らず生活できる」を選択する割合が全体に比べて高い。
(中学生約 47%、高校生約 50%)
- **性別「その他」**と回答した児童・生徒は「自分らしさを表現することができる」を選択する割合が全体に比べて高い。(約 45%)

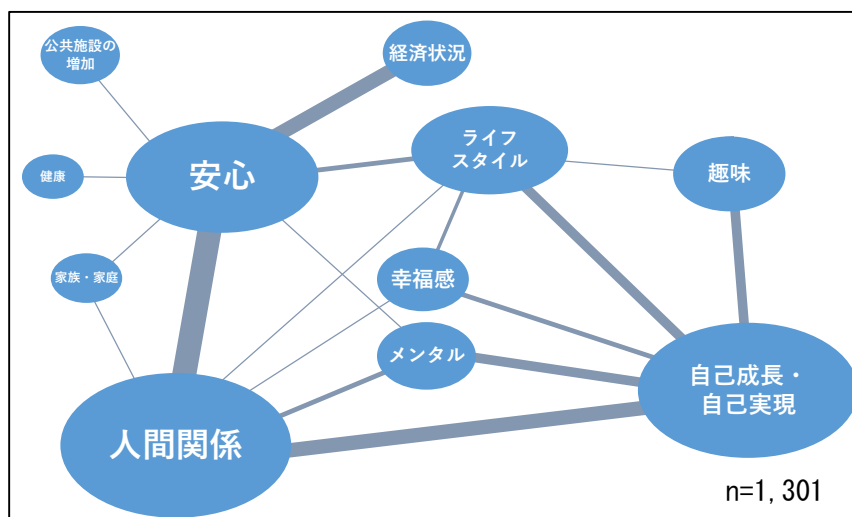
● 自由記述の具体的回答

～安心して自分らしく暮らすために必要なこと～

その他に自分らしく暮らすために必要なことについて回答した人数 1,301 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
みんなを大事にする	● 人間関係 ● 安心	小学 5 年生	女	3
他人をリスペクトする	● 人間関係	中学 2 年生	男	3
お金などに困らず生活できる	● 経済状況 ● 安心	小学 5 年生	女	4
好きなものが見つかって好きなことをできる。	● 自己成長・自己実現 ● 趣味	小学 6 年生	女	4
人と違うことを怖がらない	● 自己成長・自己実現	高校 1 年生	女	6

図 カテゴリ間関連度の模式図 ～安心して自分らしく暮らすために必要なこと～



カテゴリの設定・分類

- ①人間関係…どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ②自己成長・自己実現…回答者自身がやりたい姿に関する記述内容
- ③安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ④ライフスタイル…理想のライフスタイルに関する記述内容
- ⑤趣味…趣味に励むことに関する記述内容
- ⑥メンタル…ストレス等メンタル面に関する記述内容
- ⑦経済状況…どのような経済状況を望んでいるかに関する記述内容
- ⑧幸福感…幸せに過ごすことに関する記述内容
- ⑨公共施設の増加…公園等公共施設を増やす要望に関する記述内容
- ⑩家族・家庭…両親や兄弟等、家族や家庭に関する記述内容
- ⑪健康…健康に過ごすことに関する記述内容

(9) 何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと

● 自由記述の具体的回答

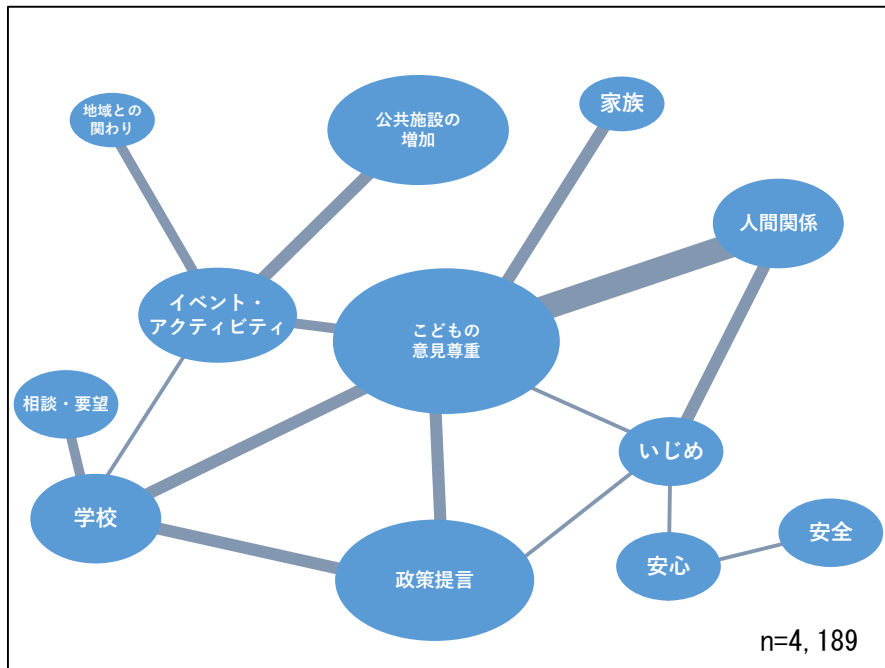
～何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと～

何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいことについて回答した人数 4,189 人

記述内容（原文を引用）	主なカテゴリ	学年	性別	世帯人員
自分の意見を押し付けずに、もっと話を聞いてほしい。	● こどもの意見尊重 ● 人間関係	小学5年生	女	5
大人と子どもが平等な社会にしたい	● こどもの意見尊重 ● 人間関係	小学5年生	男	4
子供の意見も少し社会に貢献したい	● こどもの意見尊重 ● 政策提言	小学6年生	男	3
税金の授業をしてください	● 学校 ● 政策提言	中学2年生	男	5
子供向けの社会保障や支援がもっと必要だと思う	● こどもの意見尊重 ● 政策提言	中学3年生	男	3
公立高校の設備（トイレ、エアコン等々）を整えて欲しいです	● 学校 ● 公共施設の増加	高校2年生	女	3
学校に行けない子が安心できるところで授業などを受けさせてくれる場所。	● 学校 ● 安心	小学6年生	男	4
公園を増やしてほしい	● 公共施設の増加	小学6年生	男	3
無料の塾が欲しい	● 公共施設の増加	高校2年生	女	4
道路をきれいに整備してほしい	● 公共施設の増加	中学2年生	男	4
優しいおとなになりたい	● 家族 ● こどもの意見尊重	中学1年生	男	5
親がいなくても普通の暮らしができる環境が欲しいです	● 家族 ● 地域との関わり	高校3年生	男	3
運動会で親孝行がないのでやりたい	● イベント・アクティビティ ● 家族	小学6年生	女	6
学校外での課外授業を増やす {学校へ行くことへの楽しみが増えるのではと考える}	● 学校 ● イベント・アクティビティ	中学2年生	男	3
SDGsのことをボランティアとして活動する。	● イベント・アクティビティ ● 地域との関わり	小学5年生	男	4
命をかけてでも子どものことを守ってほしい	● 安心 ● 安全	高校3年生	その他	6
虐待やいじめなどがない県にしてほしいです。	● いじめ ● 安全	小学6年生	女	3
なんでも大人に相談できるわけじゃない相談員がいます。でも相談したい事があるのに気軽に相談に行けないです。	● 相談・要望	中学2年生	女	4
学校の設備が悪いです、なんとかしてください。	● 学校 ● 相談・要望	高校3年生	男	3
匿名で相談できる掲示板	● 相談・要望	小学6年生	女	3

図 カテゴリ間関連度の模式図

～何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと～



カテゴリの設定・分類

- ①こどもの意見尊重…こどもの意見尊重の要望等に関する記述内容
- ②政策提言…具体的な政策提案に関する記述内容
- ③公共施設の増加…公園など公共施設を増やす要望に関する記述内容
- ④イベント・アクティビティ…イベントやアクティビティに関する記述内容
- ⑤学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑥人間関係…どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ⑦相談・要望…こどもが相談できるサービス等に関する記述内容
- ⑧安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ⑨いじめ…一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じている経験等に関する記述内容
- ⑩安全…安全に過ごすことに関する記述内容
- ⑪地域とのかかわり…回答者自身の身近な地域に関する記述内容
- ⑫家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容

3章 集計結果

アンケートの集計結果を以下に示す。9/16（24時）時点での回答総数は35,330で、チラシ配布数に占める回答数の割合（目安の回答率）は約71%であった。

表 学校区分別ごとの回答率

学校区分別		回答数	チラシ配布数	目安回答率	回答学校数	対象校数	回答学校率	
小学校		10,607	13,680	77.5%	80	80	100.0%	
中高計		24,723	36,220	68.3%	75	75	100.0%	
		中学校（公）	13,402	18,910	70.9%	49	49	100.0%
		中学校（私）	705	810	87.0%	2	2	100.0%
		高校（公）	7,127	9,920	71.8%	16	16	100.0%
		高校（私）	3,489	6,580	53.0%	8	8	100.0%
合計		35,330	49,900	70.8%	155	155	100.0%	

【権利が守られていないと感じている層について】

本調査目的の「こどもの意見を幅広く聴取する」ことに加え、今後のこども施策を検討するにあたって、権利を守られていないと感じる児童・生徒の意見から窺える課題に着目することが有効である。本章では、権利を守られていないと感じる層に着目した集計も行った。

【権利が守られていないと感じている層の定義】

子どもの権利条約のいわゆる4つの原則「①生命生存及び発達に対する権利、②子どもの最善の利益、③子どもの意見の尊重、④差別の禁止」について、どれか1つでも、権利を守られていると「あまり感じない」、「まったく感じない」と回答した層を分析の対象とした。（差別的な扱いについては、「とても感じる」「感じる」と回答した層）

【集計にあたっての留意事項】

◆n数：集計対象とした回答サンプル数。

※複数の回答を用いたクロス集計の場合、サンプル数が小さくなり、回答の信頼性が低下する点に留意する必要がある（例：男女別集計の場合、サンプル数が男女に分割される）。

※回答条件に従っていない回答は、回答条件に沿う内容のみ抽出するようクリーニング処理を行った。

（回答条件に従っていない回答は、複数選択式設問の項目「わからない・特になし」と、他の具体的な項目を同時に選択しているものを指す。クリーニング操作では具体的な項目のみを有効な回答として抽出した。そのため、すべての設問でn数は同一である。）

◆%：nに対する回答の割合。

※調査結果の比率は、その設問の回答者数を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出している。四捨五入の関係で、合計が100%にならない場合がある。

※複数選択形式の場合、集計結果の合計は100%を超過する点に留意する必要がある。

3. 1 単純集計

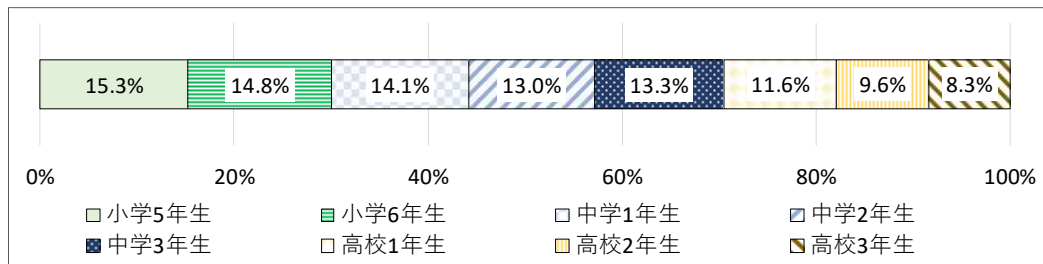
(1) 個人属性

個人属性（学年・性別・世帯人員）別の回答者数を以下に示す。

a. 学年

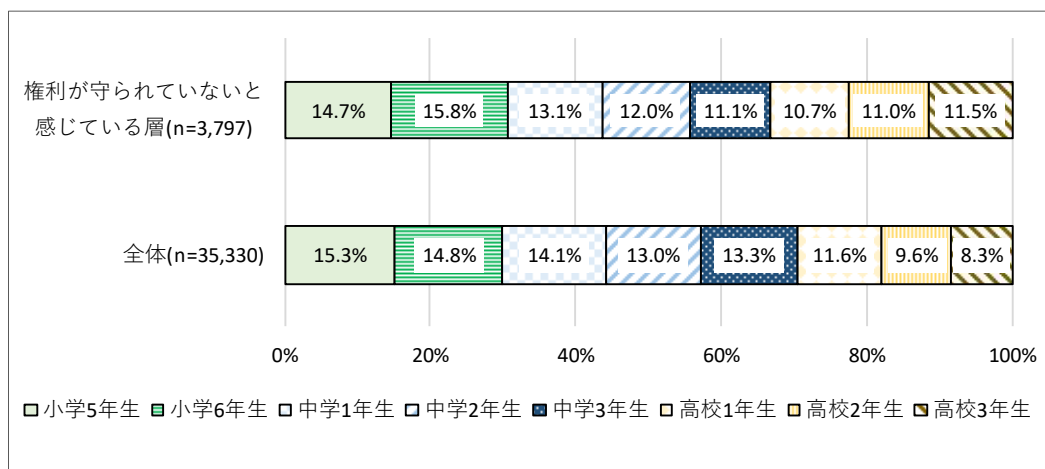
回答者総数のうち、小学生が 10,607 人（約 30%）、中学生が 14,293 人（約 41%）、高校生が 10,430 人（約 30%）であった。

図 学年別の回答者数



権利が守られていないと感じている層と全体で、学年別の構成比を比較すると、権利が守られていないと感じている「小学6年生」「高校2年生」「高校3年生」の構成比は全体よりやや大きかった。

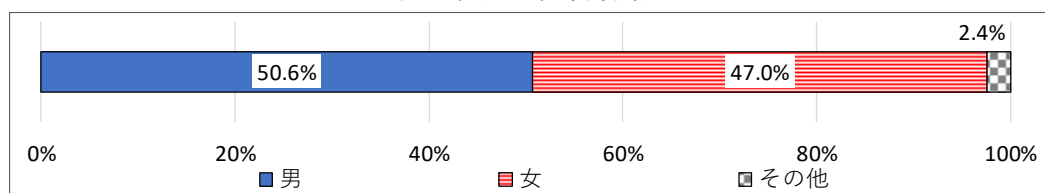
図 学年別回答者数



b. 性別

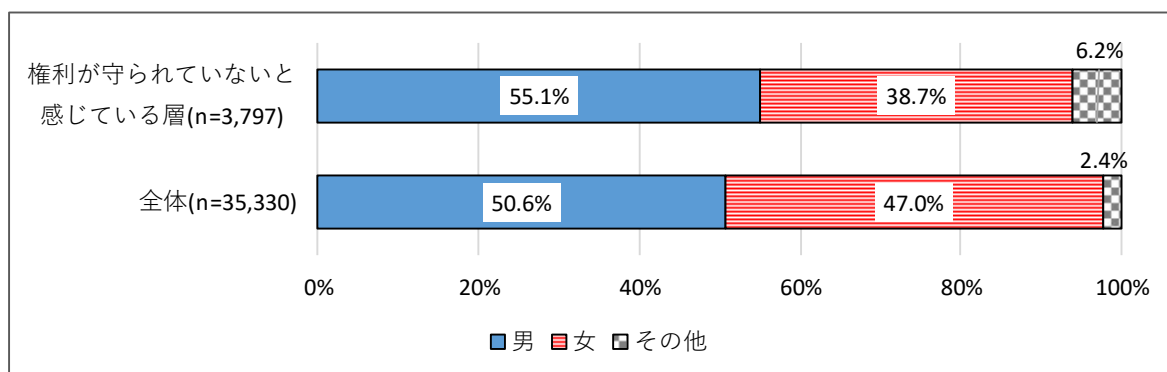
回答者総数のうち、男が 17,892 人（約 51%）、女が 16,598 人（約 47%）、その他が 840 人（約 2%）であった。

図 性別の回答者数



権利が守られていないと感じている層と全体で、性別の構成比を比較すると、権利を守られていないと感じている「男」「その他」の構成比は全体よりやや大きかった。

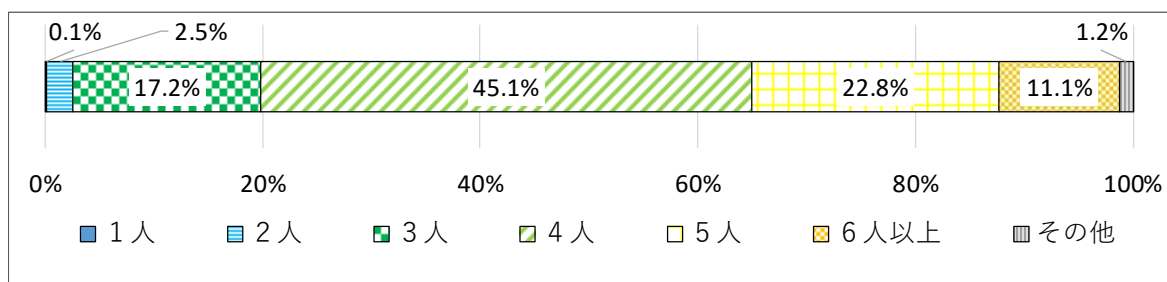
図 性別回答者数



c. 世帯人員

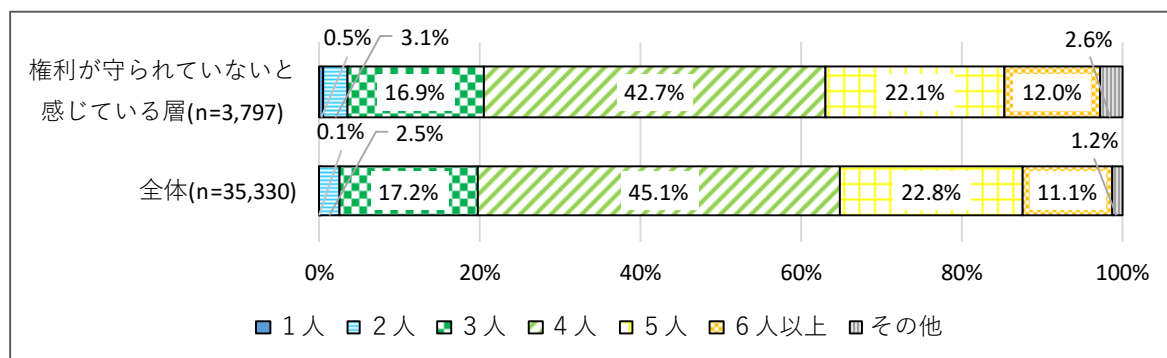
世帯人員 1 人は 50 人（約 0.1%）、世帯人員 2 人は 871 人（約 3%）、世帯人員 3 人は 6,079 人（約 17%）、世帯人員 4 人は 15,937 人（約 45%）、世帯人員 5 人は 8,049 人（約 23%）、世帯人員 6 人以上は 3,920 人（約 11%）、その他は 424 人（約 1%）であった。

図 世帯人員別の回答者数



権利が守られていないと感じている層と全体で、世帯人員別の構成比を比較すると、権利を守られていないと感じている世帯人員「1 人」「2 人」「6 人以上」「その他」の構成比は全体よりやや大きかった。

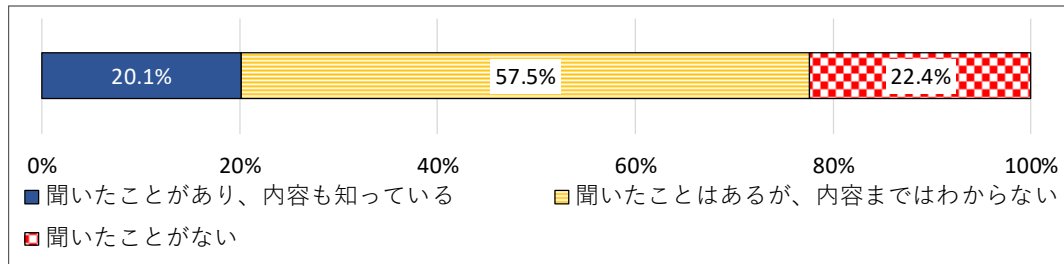
図 世帯人員別回答者数



（２）子どもの権利の認知度

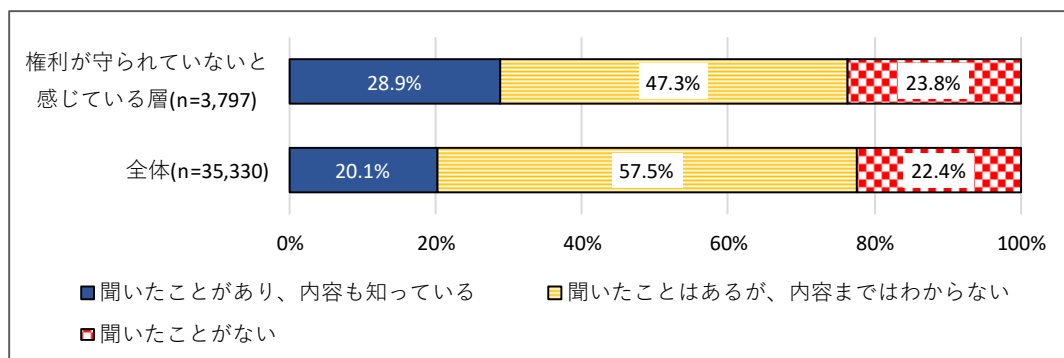
問 2.1「あなたは子どもの権利について知っていますか？」について、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した人数は 7,118 人（約 20%）、「聞いたことはあるが、内容まではわからない」と回答した人数は 20,310 人（約 58%）、「聞いたことがない」と回答した人数は 7,902 人（約 22%）であった。

図 子どもの権利の認知度



権利が守られていないと感じている層と全体で、権利の認知度別の構成比を比較すると、権利が守られていないと感じている層は、子どもの権利について「聞いたことがあり、内容も知っている」「聞いたことがない」の構成比は全体より大きかった。

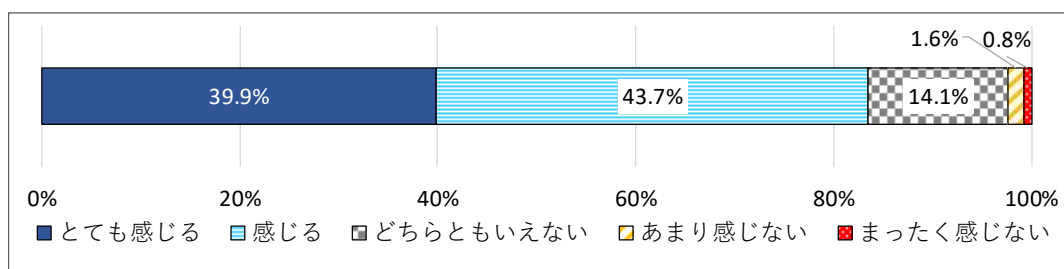
図 子どもの権利の認知度



（３）生命生存及び発達に対する権利の感じ方

問 2.2「あなたは、まわりの大人があなたの心も体も大事にしてくれていると感じますか？」について、「とても感じる」「感じる」と回答した人数は合計で 29,520 人（約 84%）、「どちらともいえない」と回答した人数は 4,973 人（約 14%）、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した人数は合計で 837 人（約 2%）であった。

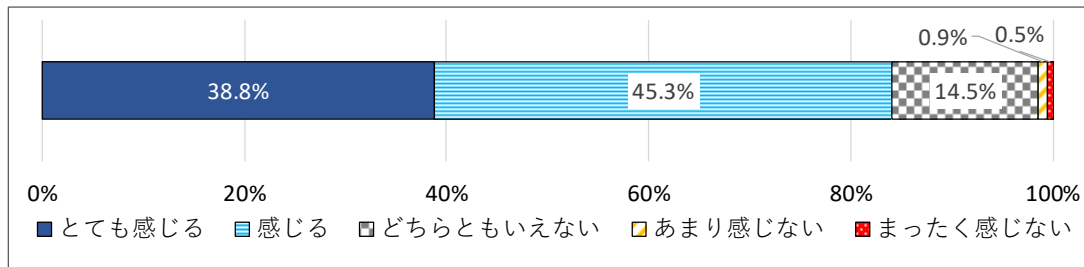
図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方



（４）子どもの最善の利益の感じ方

問 2.4「あなたは、まわりの大人が、あなたにとって良いことは何かを考えて行動してくれていると感じますか？」について、「とても感じる」「感じる」と回答した人数は合計で 29,715 人（約 84%）、「どちらともいえない」と回答した人数は 5,121 人（約 14%）、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した人数は合計で 494 人（約 1%）であった。

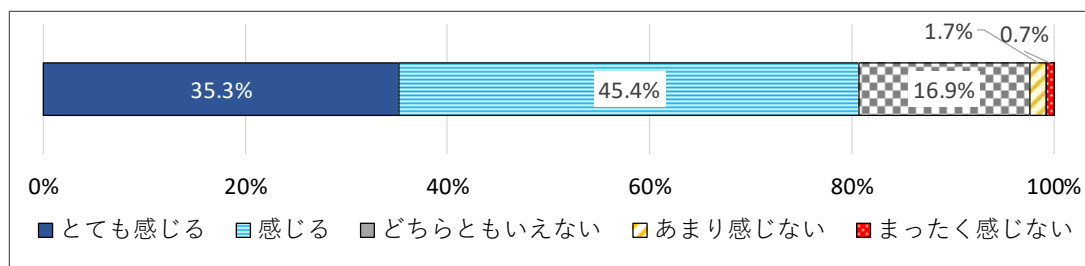
図 子どもの最善の利益の感じ方



（５）子どもの意見の尊重の感じ方

問 2.6「あなたは、まわりの大人があなたの意見をきいてくれていると感じますか？」について、「とても感じる」「感じる」と回答した人数は合計で 28,508 人（約 81%）、「どちらともいえない」と回答した人数は 5,966 人（約 17%）、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した人数は合計で 856 人（約 2%）であった。

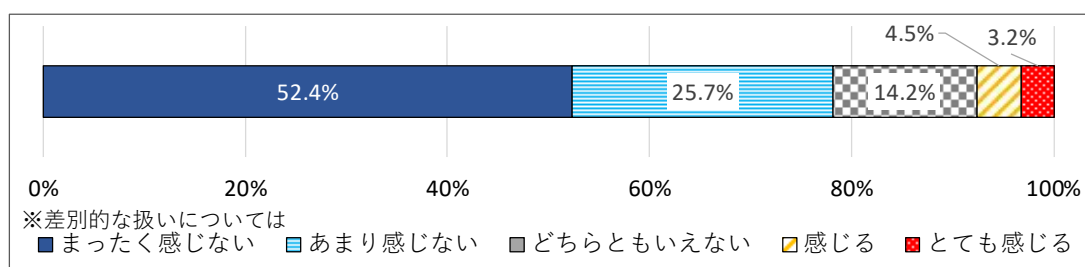
図 子どもの意見の尊重の感じ方



（６）差別的な扱いの感じ方

問 2.8「あなたは、まわりからあなた自身の見た目や性別、家のことなどで嫌なことを言われたり、嫌なことをされていると感じますか？」について、「とても感じる」「感じる」と回答した人数は合計で 2,696 人（約 8%）、「どちらともいえない」と回答した人数は 5,025 人（約 14%）、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した人数は合計で 27,609 人（約 78%）であった。なお、本問は逆転項目（他の質問項目とは測定の向きが逆になっている）であるため、結果確認の際には留意が必要である。

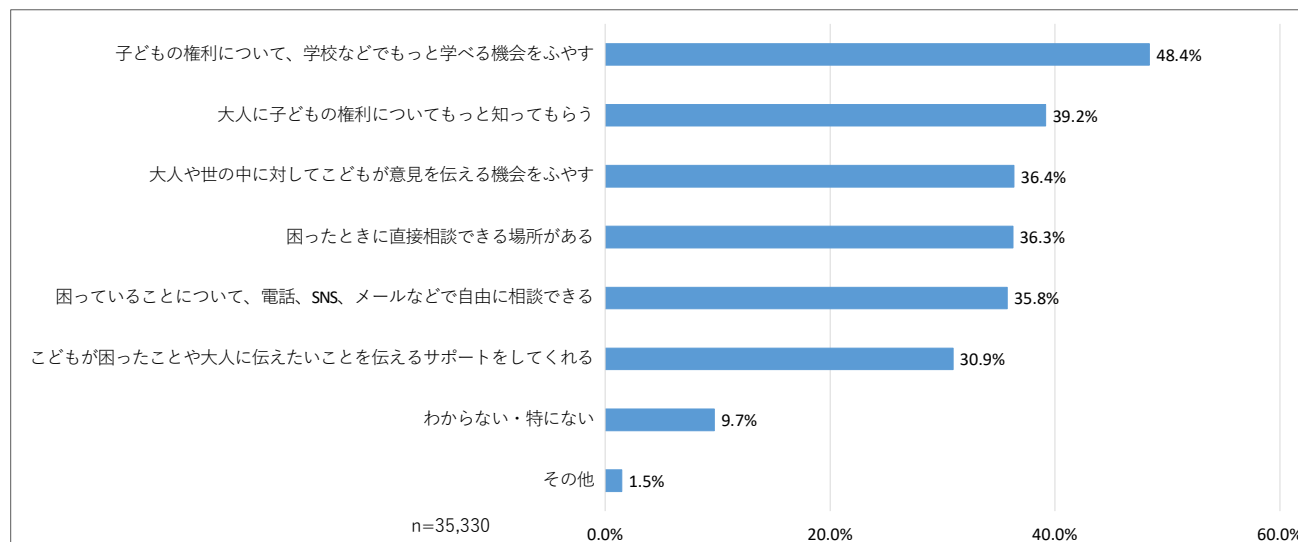
図 差別的な扱いの感じ方（※逆転項目）



（７）子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

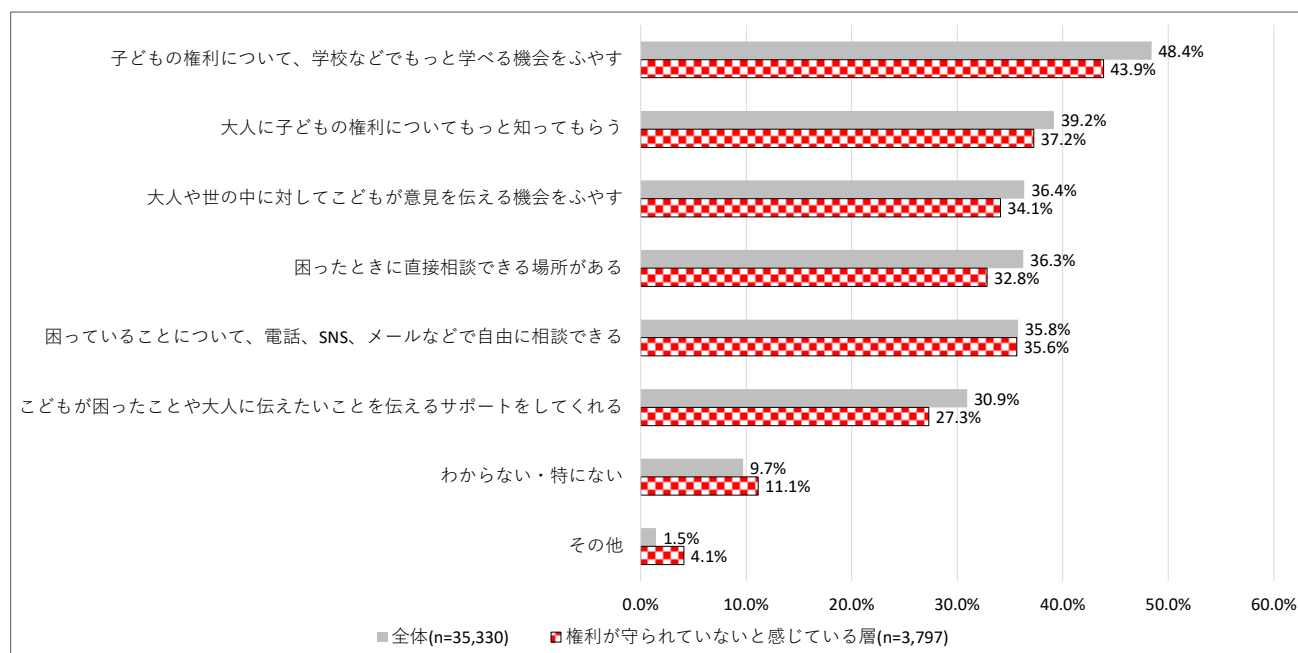
問３「子どもの権利を守るためにはどんな仕組みがあると良いと思いますか？」について、「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した人数が 17,100 人（約 48%）であり、最多であった。「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらおう」と回答した人数は 13,838 人（約 39%）であった。

図 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



権利が守られていないと感じている層と全体で、子どもの権利を守るためにあると良い仕組みの選択割合を比較すると、権利が守られていないと感じている層の「わからない・特にない」「その他」を除き、すべての選択肢で全体の選択割合を下回った。

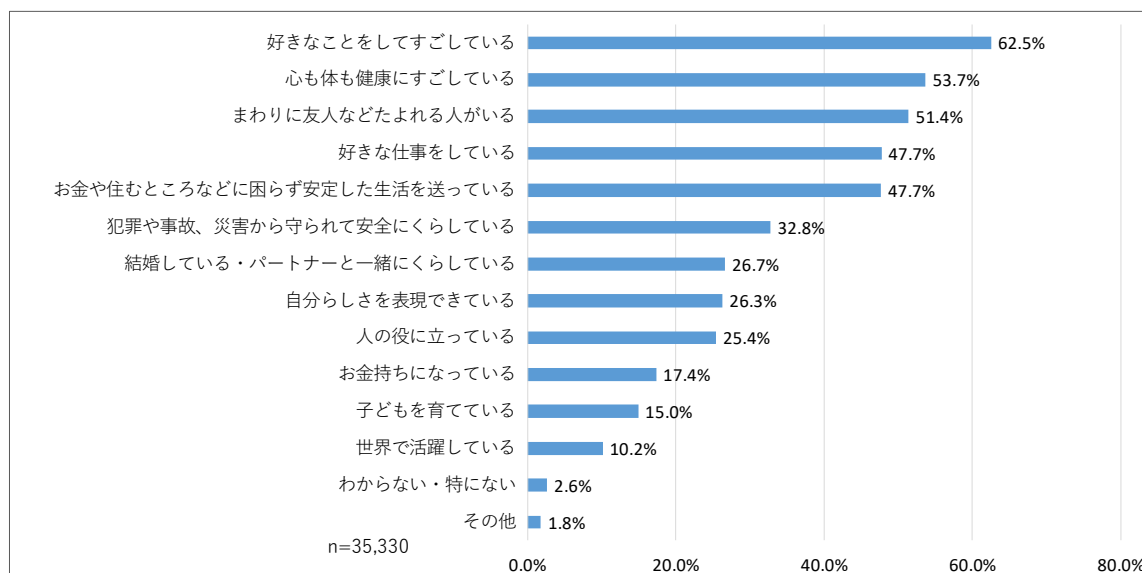
図 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



（８）将来の希望

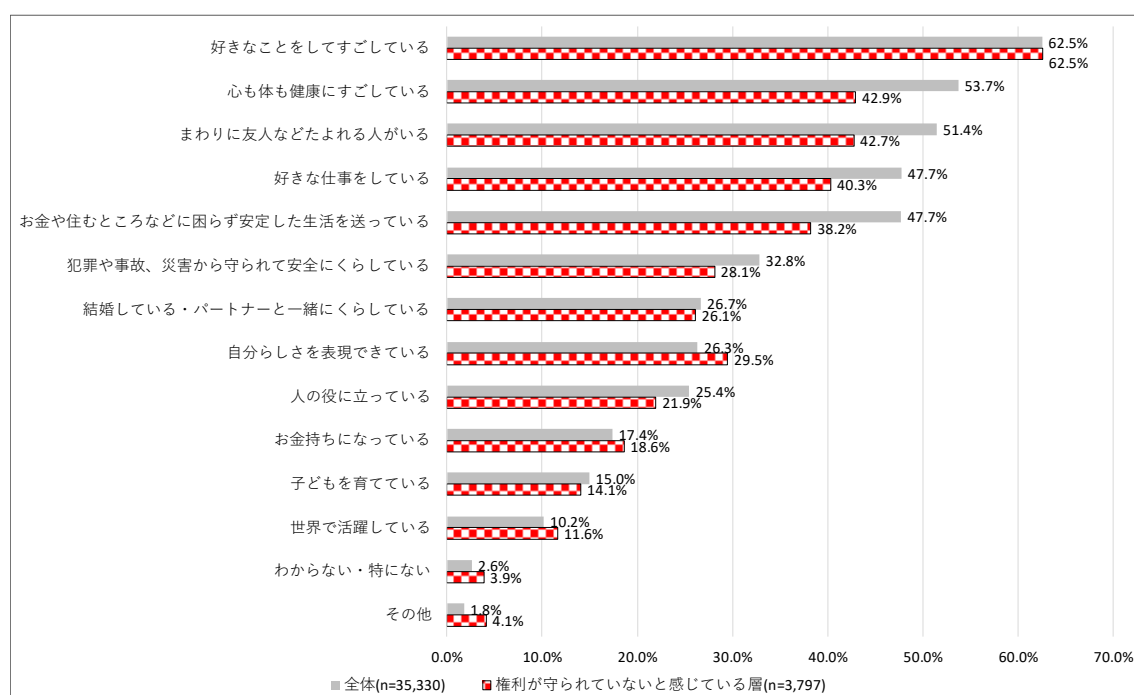
問４「あなたは将来どうなっていきたいと思いますか？」について、「好きなことをしてすごしている」と回答した人数が 22,088 人（約 63%）であり、最多であった。２番目に多かった回答は「心も体も健康にすごしている」であり、回答した人数が 18,978 人（約 54%）、３番目に多かった回答は「まわりに友人などたよれる人がいる」であり、回答した人数が 18,172 人（約 51%）であった。

図 将来の希望



権利が守られていないと感じている層と全体で、将来の希望の選択割合を比較すると、権利が守られていないと感じている層の「自分らしさを表現できている」「お金持ちになっている」「世界で活躍している」が、「わからない・特にな」「その他」を除き、全体の選択割合を上回った。

図 将来の希望

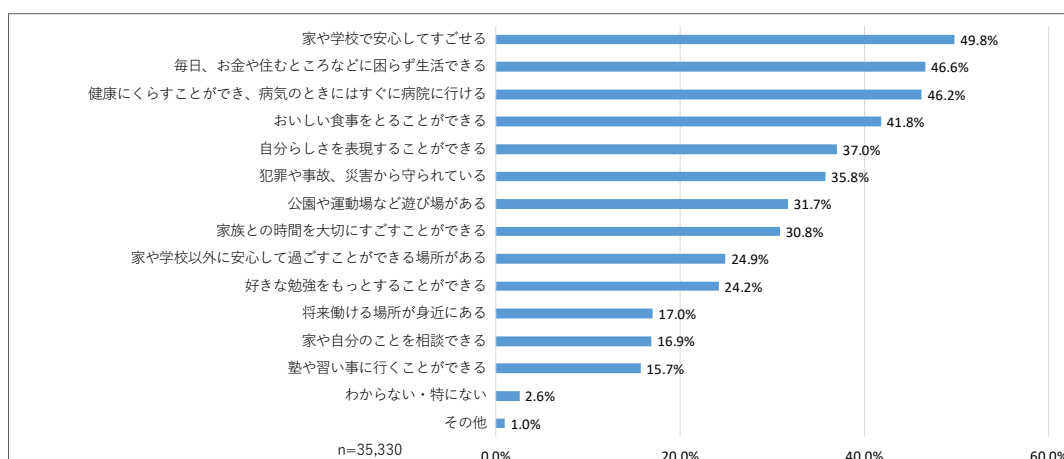


（９）安心して自分らしく暮らすために必要なこと

問 5「あなたが安心して自分らしく暮らすためにはどんなことが必要だと思いますか？」に対し、「家や学校で安心してすごせる」と回答した人数が 17,588 人（約 50%）であり、最多であった。

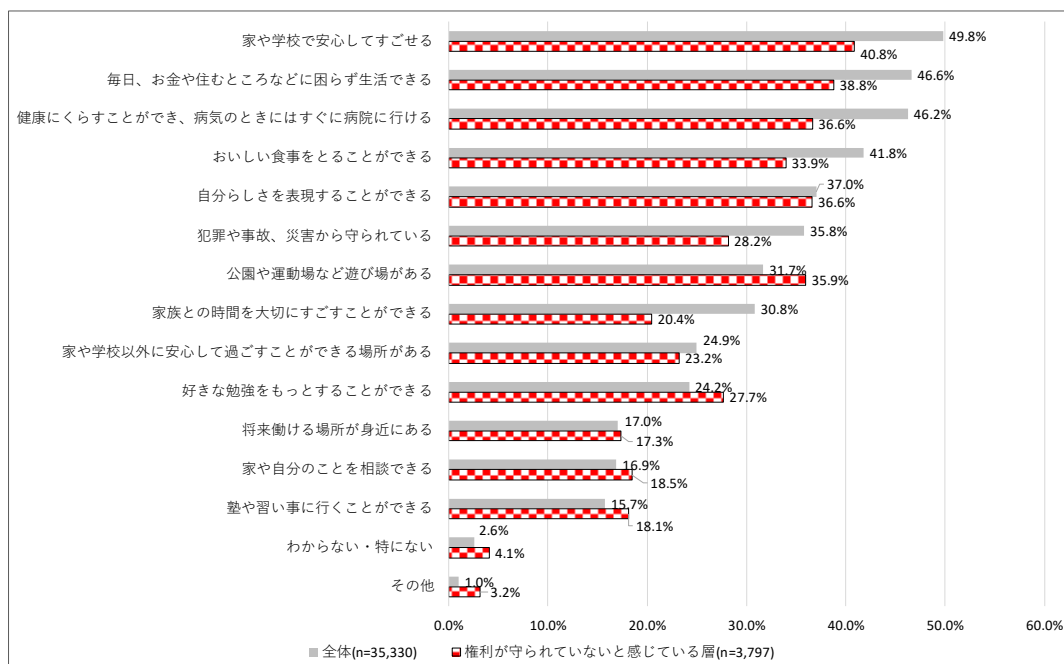
2 番目に多かった回答は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」であり、回答した人数が 16,459 人（約 47%）、3 番目に多かった回答が「健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院に行ける」であり、回答した人数が 16,338 人（約 46%）であった。

図 安心して自分らしく暮らすために必要なこと



権利が守られていないと感じている層と全体で、安心して自分らしく暮らすために必要なことを選択割合を比較すると、権利が守られていないと感じている層の「公園や運動場など遊び場がある」「好きな勉強をもっとすることができる」「将来働ける場所が身近にある」「家や自分のことを相談できる」「塾や習い事に行くことができる」が、「わからない・特にない」「その他」を除き、全体の選択割合を上回った。

図 安心して自分らしく暮らすために必要なこと



3. 2 クロス集計

(1) 子どもの権利の認知度

a. 学年別集計

「聞いたことがない」と回答した割合は、全学年ともに 10～30%程度であった。また、学年をまとめて学校区分（小学生、中学生、高校生）別で集計した。その結果、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は、小学生で最も高かった。

図 学年別 子どもの権利の認知度

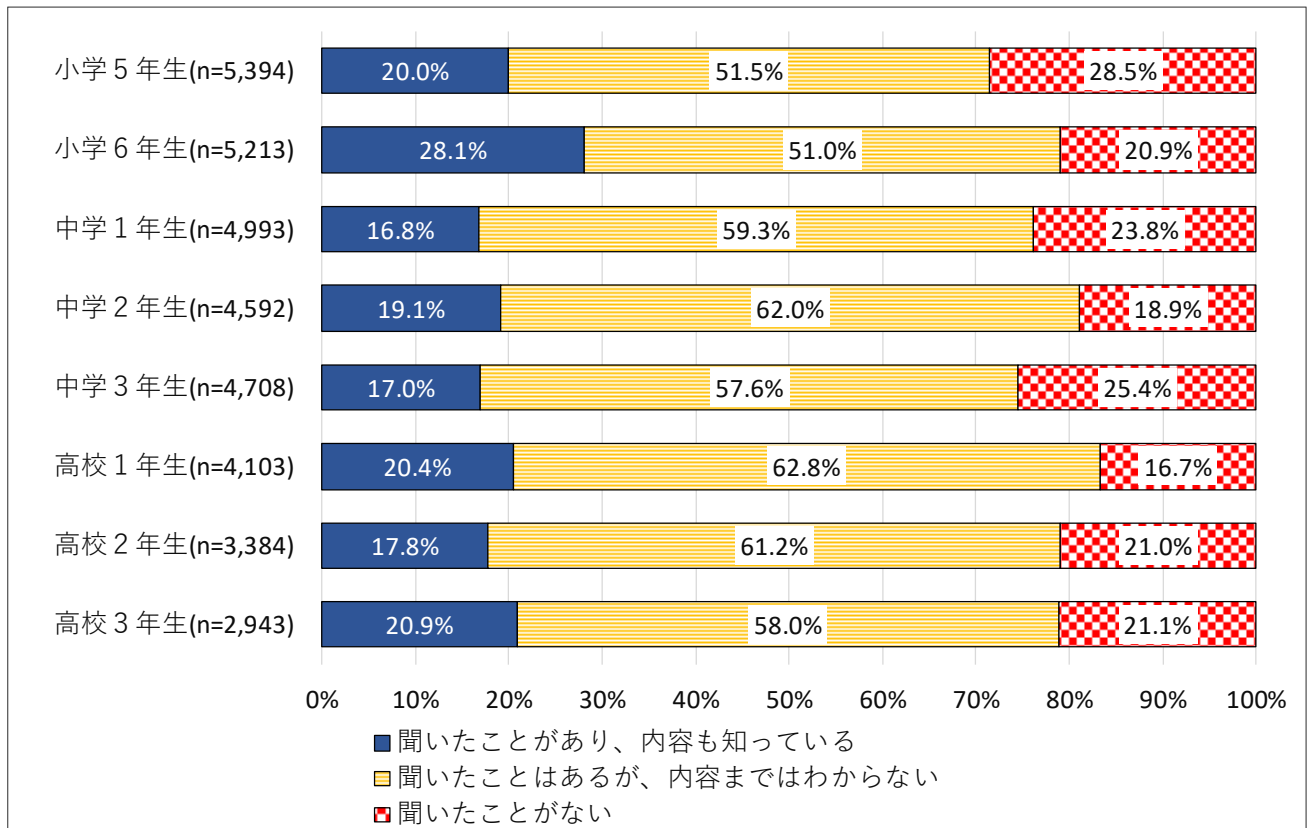
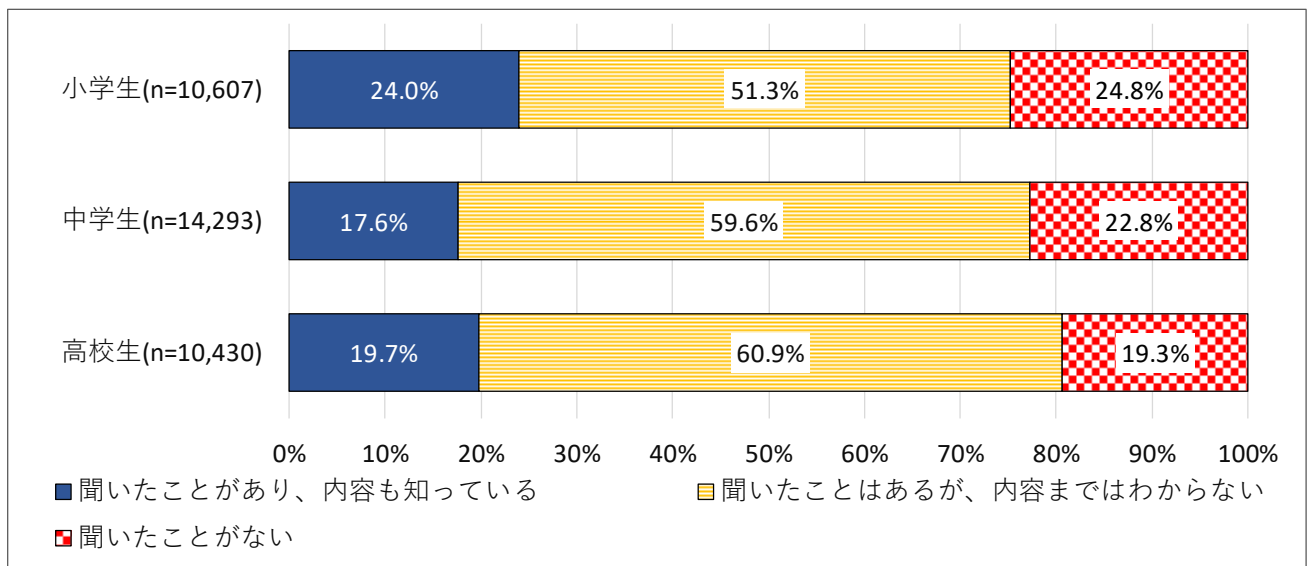


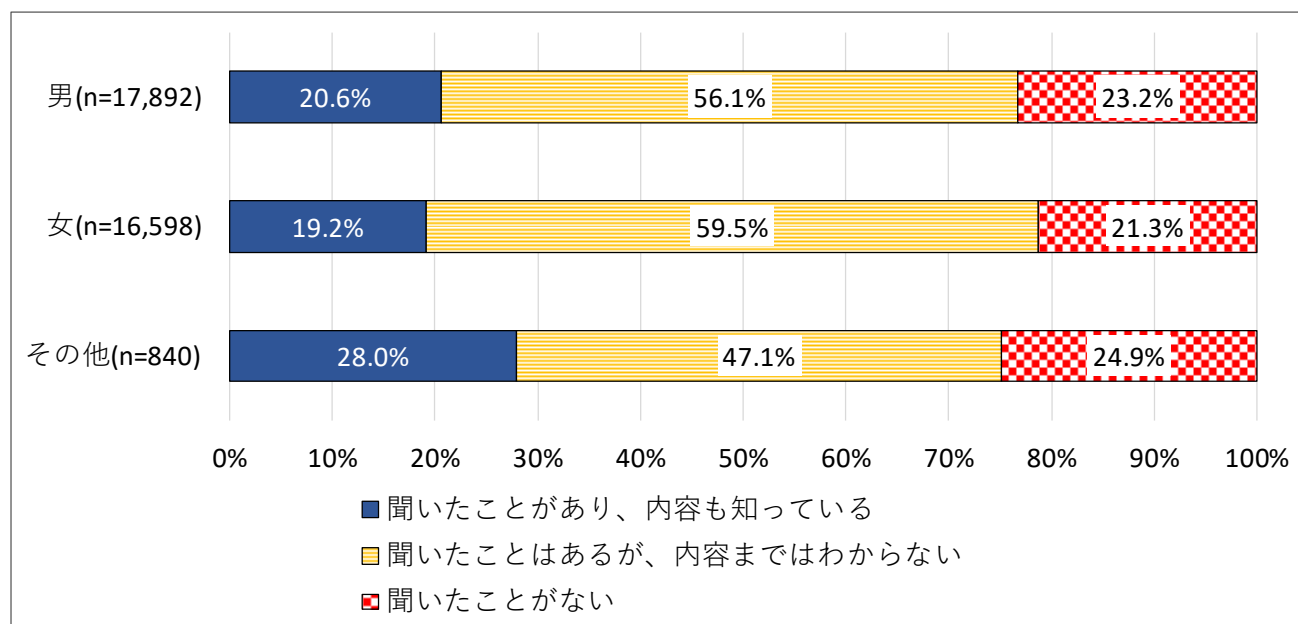
図 学校区分別 子どもの権利の認知度



b. 性別集計

男女別で比較すると、「男」が「聞いたことがあり、内容も知っている」を選択する割合が高い一方、「聞いたことがない」を選択した割合も高かった。「その他」は、「男」よりその傾向が顕著であった。

図 性別 子どもの権利の認知度



c. 世帯人員別集計

「聞いたことがある、内容も知っている」と回答した割合は、概ね世帯人員が少ないほど高かった。「聞いたことがない」と回答する割合は、世帯人員が「1人」「6人以上」「その他」で高かった。また、世帯人員をまとめて世帯人員区分（2人以下、3人以上、その他）別で集計した。

図 世帯人員別 子どもの権利の認知度

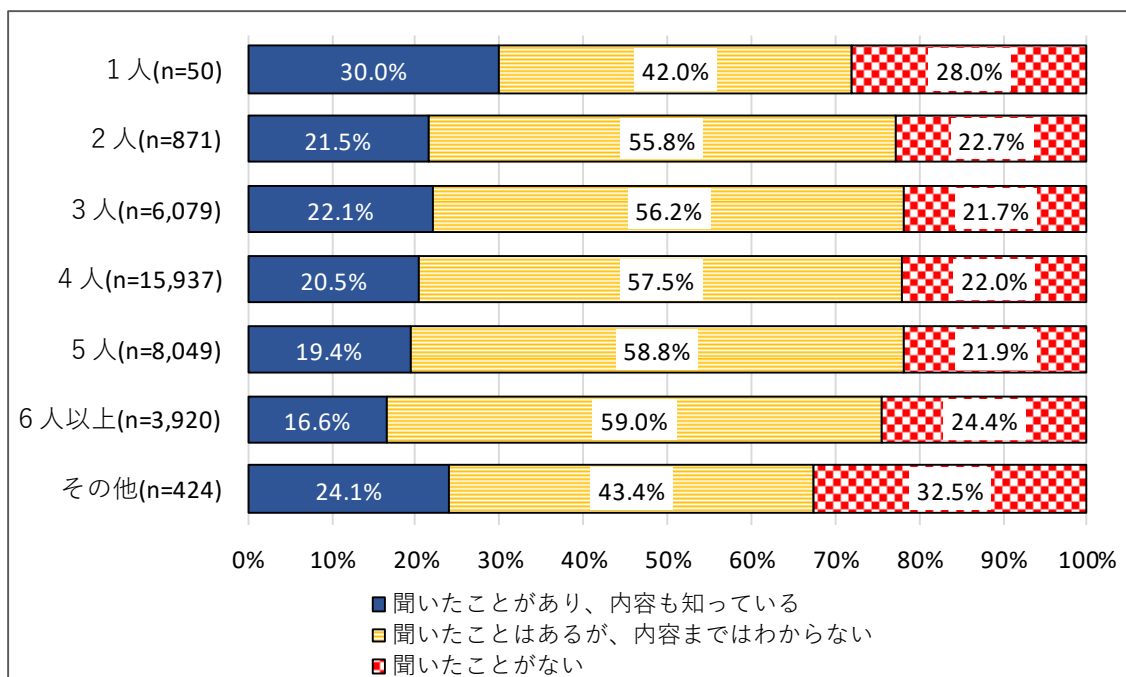
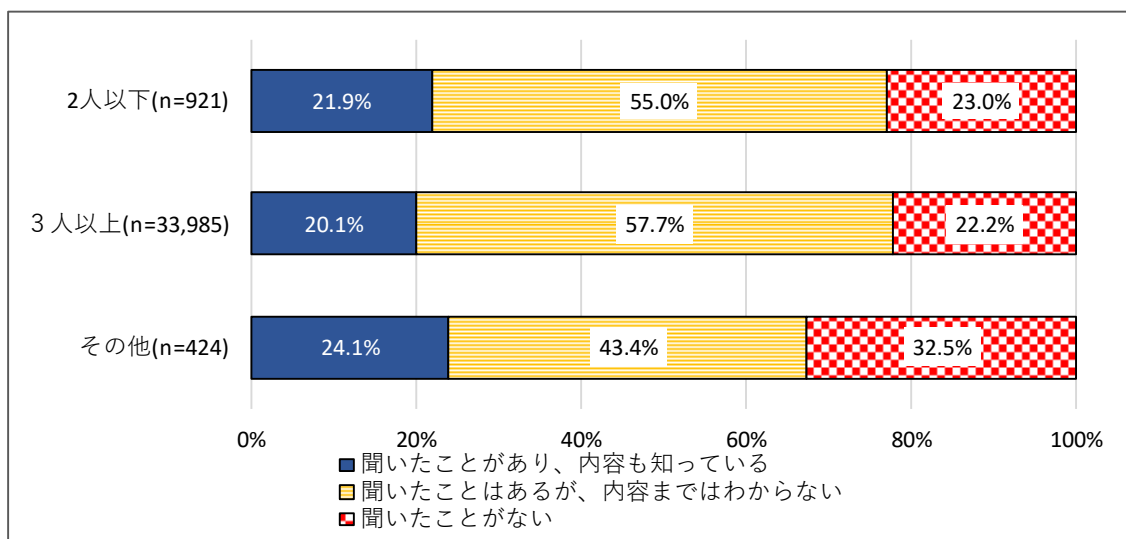


図 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度



d. 学校区分別性別集計

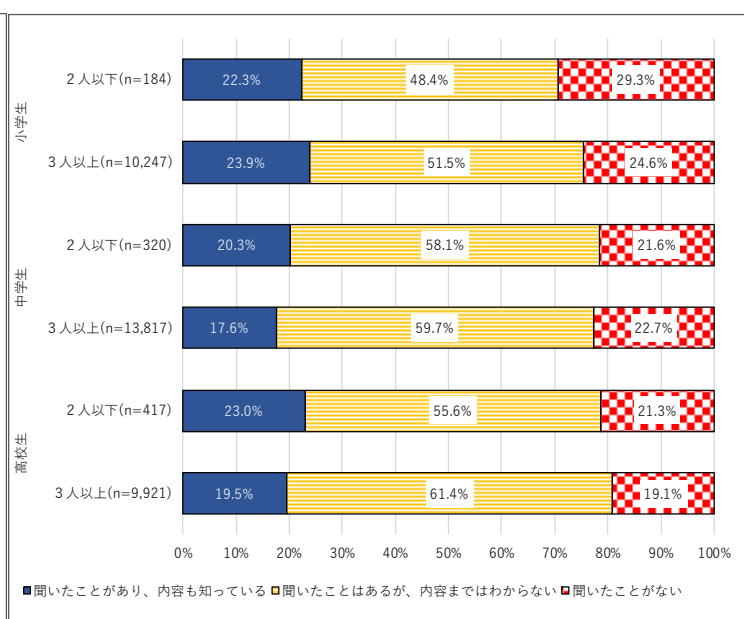
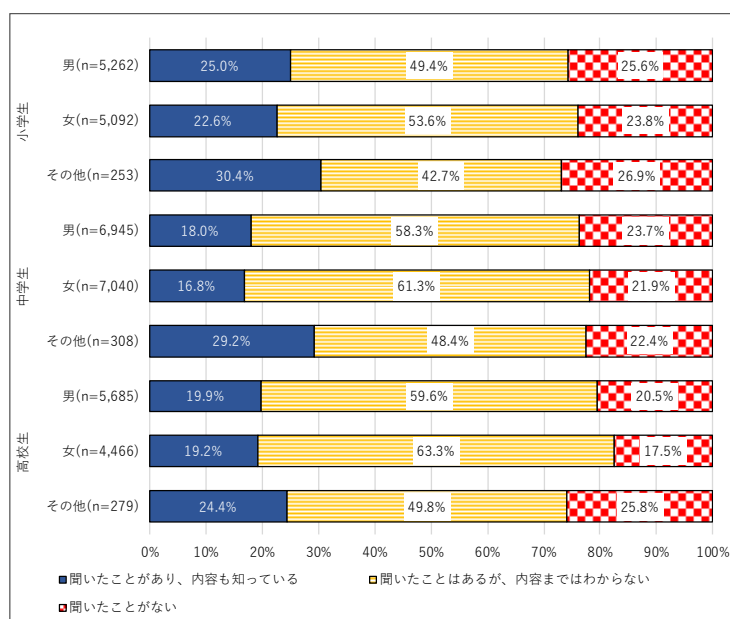
「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は、「その他」を選択した「小学生」「中学生」で高かった。「聞いたことがない」と回答した割合は、性別に依らず学年が上がるにつれ小さくなった。

e. 学校区分別世帯人員区分別集計

学年があがるにつれて「聞いたことがない」と回答した割合が小さくなる一方で、「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した割合は、小学生が最も高かった。

図 学校区分別 性別 子どもの権利の認知度

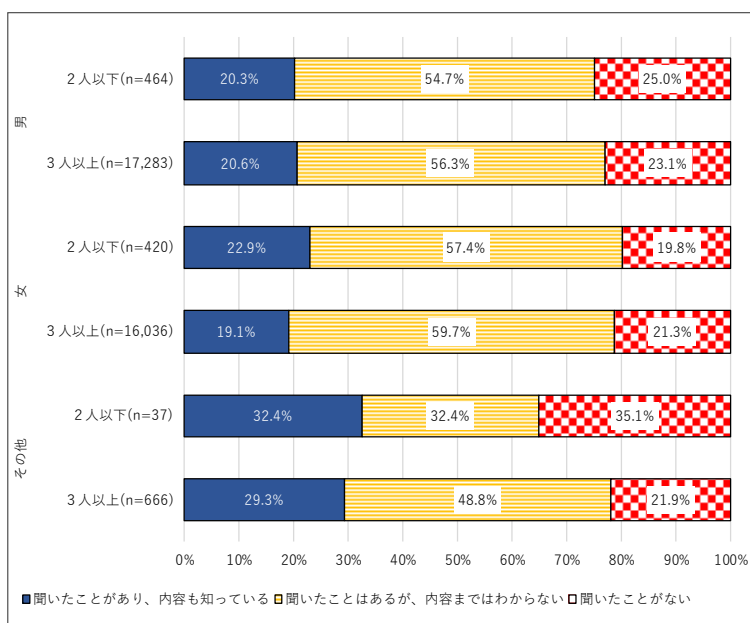
図 学校区分別 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度



f. 性別世帯人員区分別集計

「その他」かつ世帯人員区分「2人以下」は「聞いたことがない」と回答した割合が高かった。

図 性別 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度



(2) 生命生存及び発達に対する権利の感じ方

a. 学年別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、すべての学年で 80%を超えていた。そのうち、「とても感じる」と回答した割合は、概ね学年が上がるにつれて小さくなった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、全学年ともに 2～3%程度で学年による差異は見られなかった。

図 学年別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方

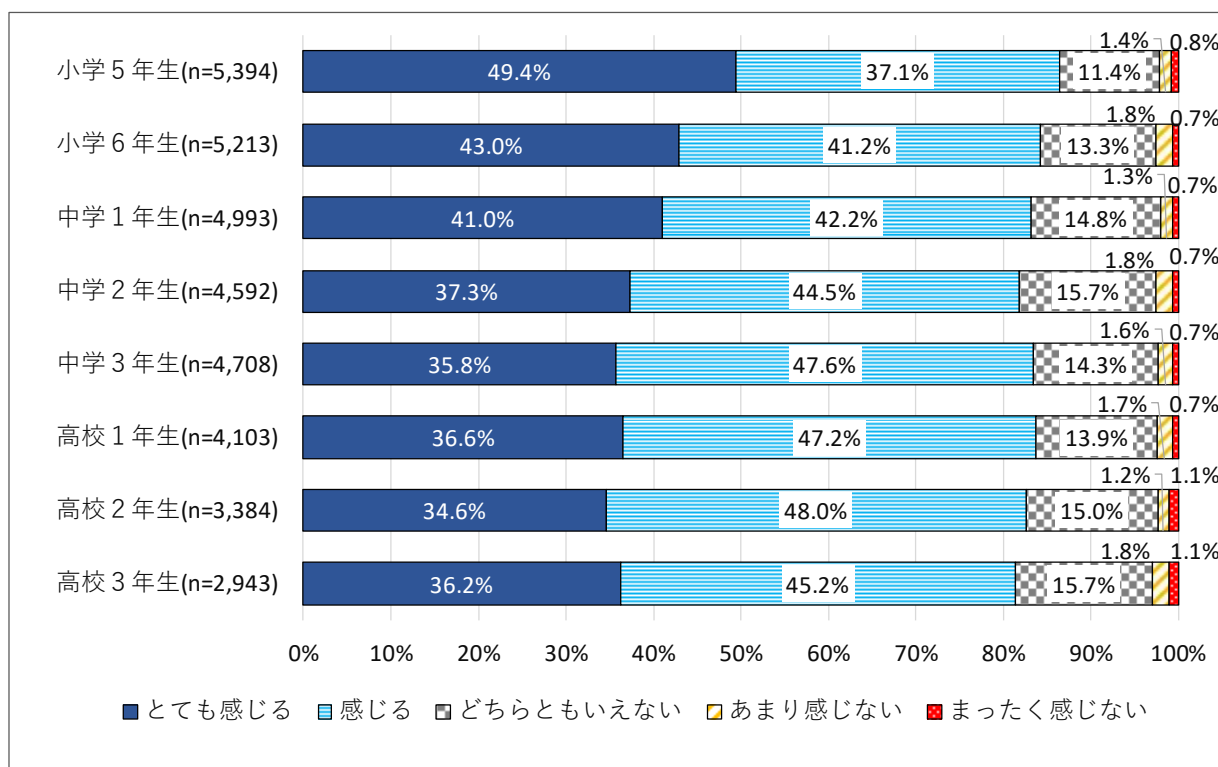
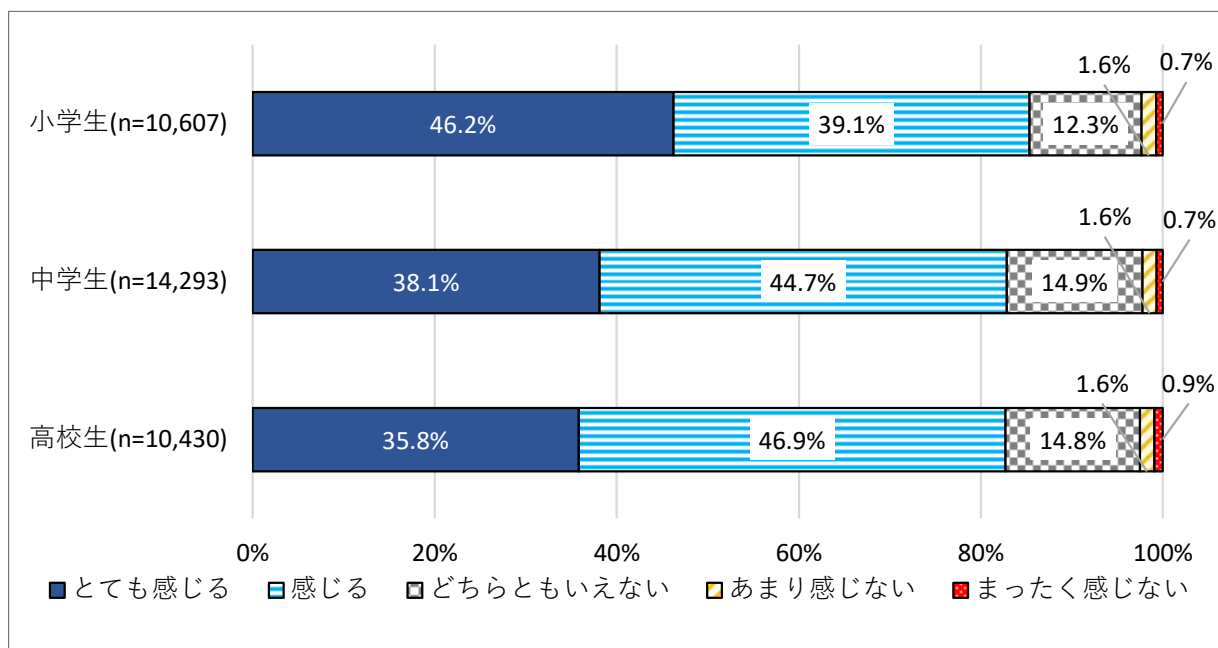


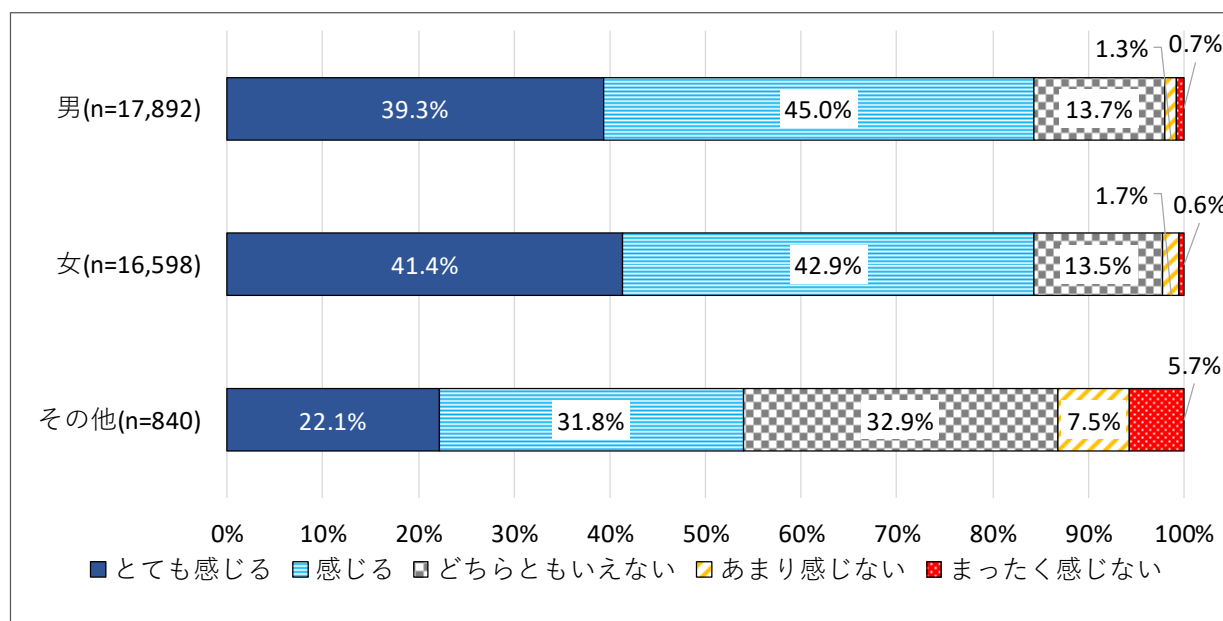
図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方



b. 性別集計

男女別で見ると、「とても感じる」「感じる」の回答割合はともに同程度で 80%を超えた。そのうち「女」の方が「とても感じる」と回答した割合が高かった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は男女ともに約 2%であり、「女」がやや高かった。「その他」は、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は 50%強にとどまり、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は約 13%であった。

図 性別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方



c. 世帯人員別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、世帯人員「3人」以上で80%を超える一方、「2人」は80%弱、「1人」「その他」では60%強程度であった。そのうち、「とても感じる」と回答した割合は、概ね世帯人員が多くなるにつれ高くなった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、世帯人員「2人」以上で2~3%程度に対し、「1人」「その他」は約10%であった。

図 世帯人員別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方

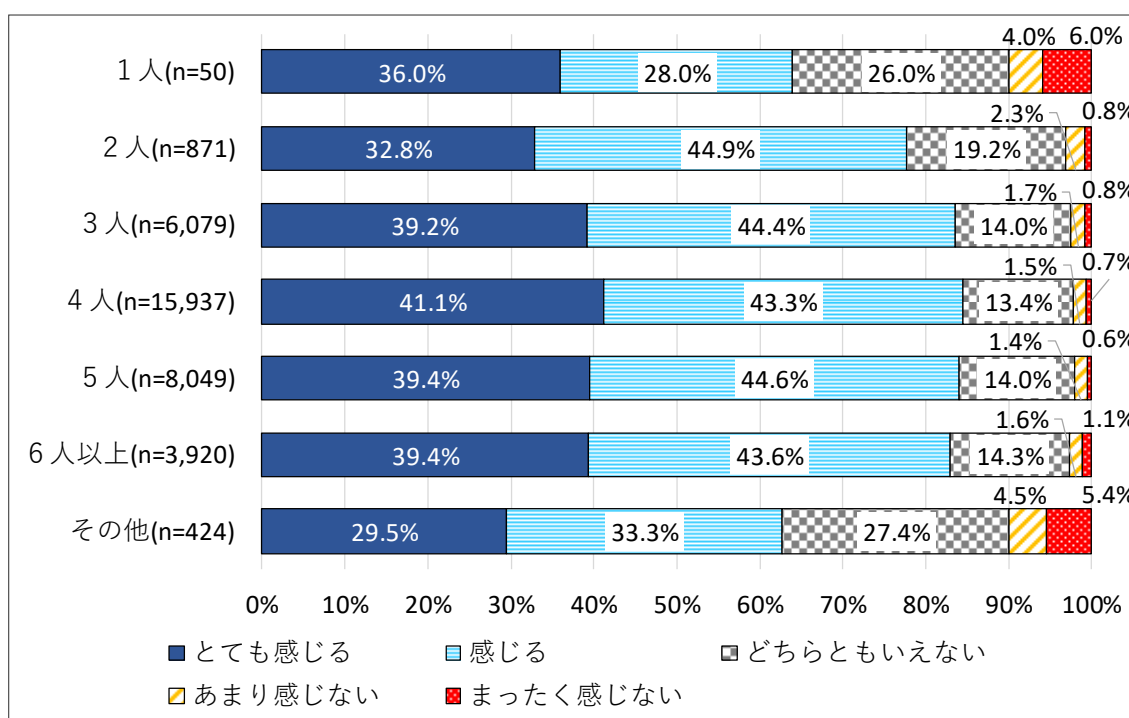
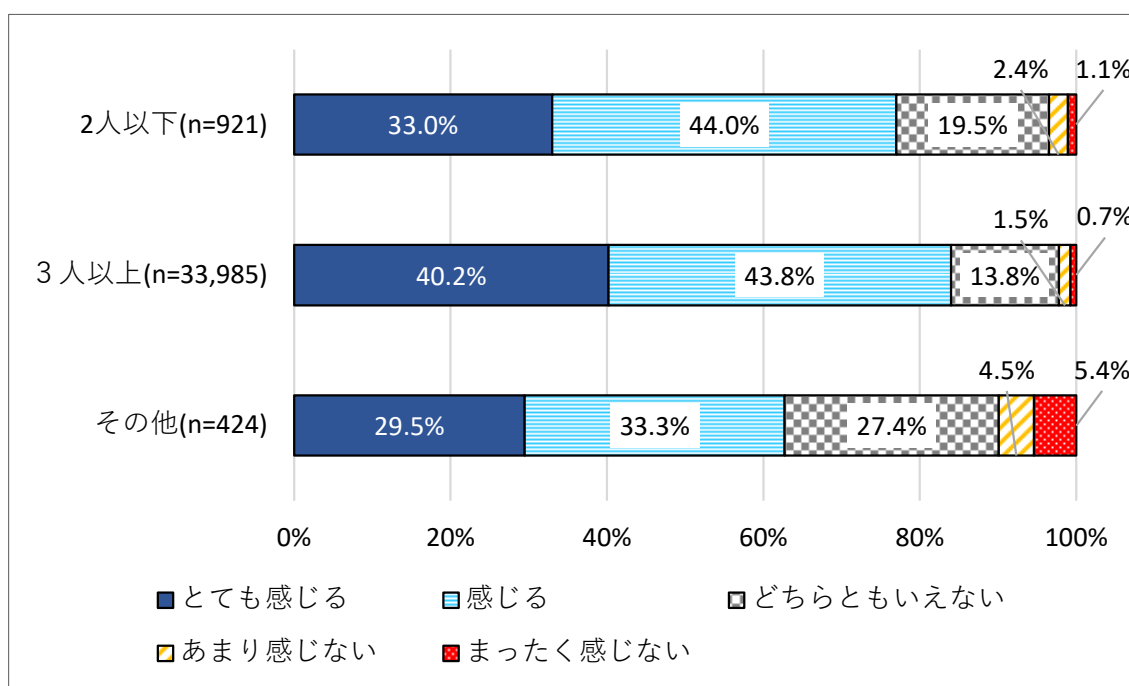


図 世帯人員区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方



d. 学校区分別性別集計

e. 学校区分別世帯人員区分別集計

図 学校区分別 性別 生存及び発達に対する権利の感じ方

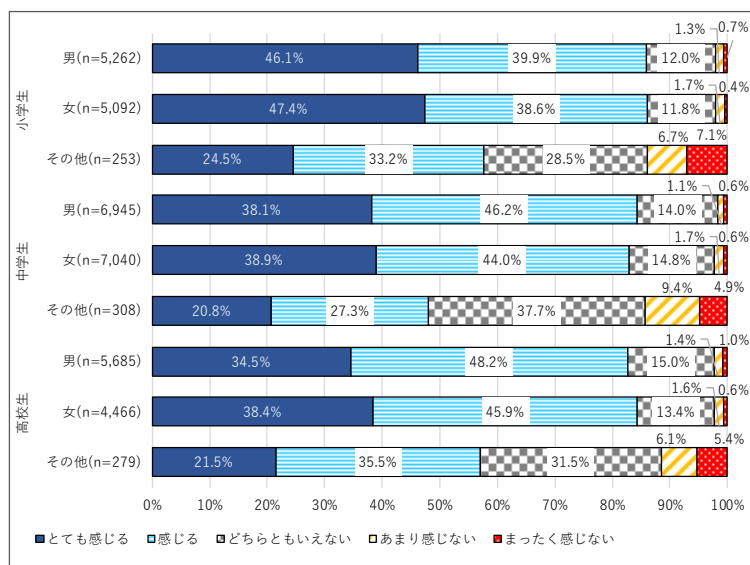
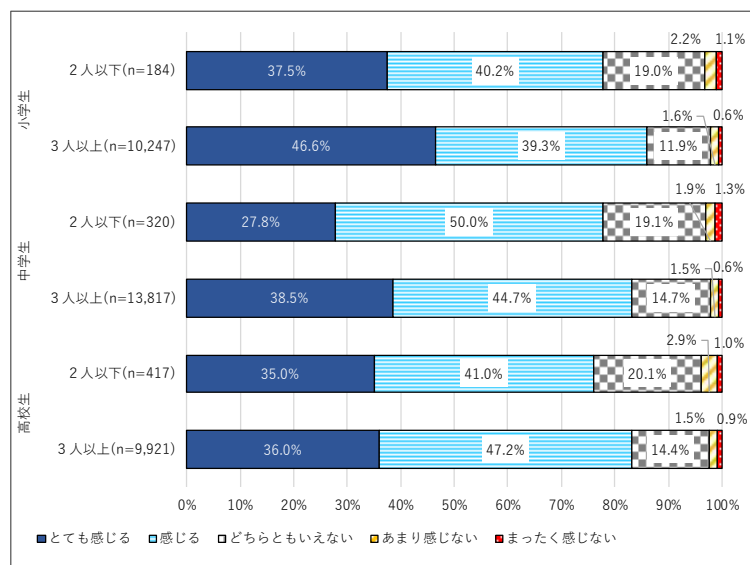
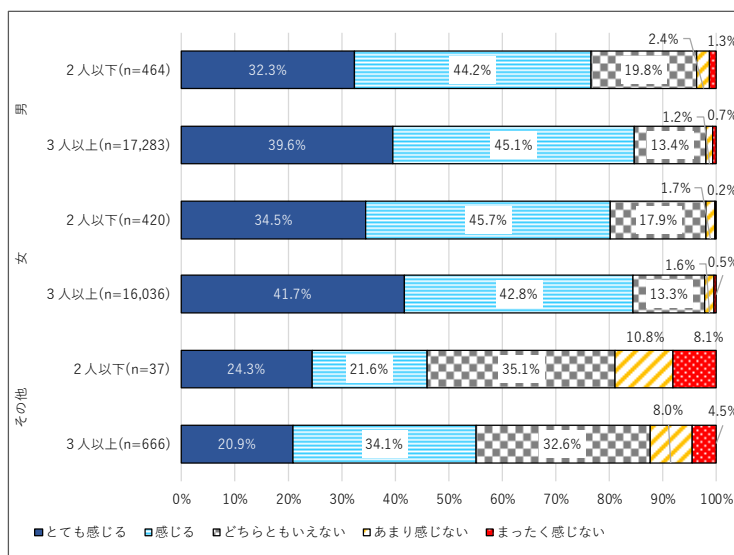


図 学校区分別 世帯人員区分別 生存及び発達に対する権利の感じ方



f. 性別世帯人員区分別集計

図 性別 世帯人員区分別 生存及び発達に対する権利の感じ方



(3) 子どもの最善の利益の感じ方

a. 学年別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、すべての学年で 80%を超えていた。そのうち、「とても感じる」と回答した割合は、概ね学年が上がるにつれて小さくなった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、全学年ともに 1~2%程度で学年による差異は見られなかった。

図 学年別 子どもの最善の利益の感じ方

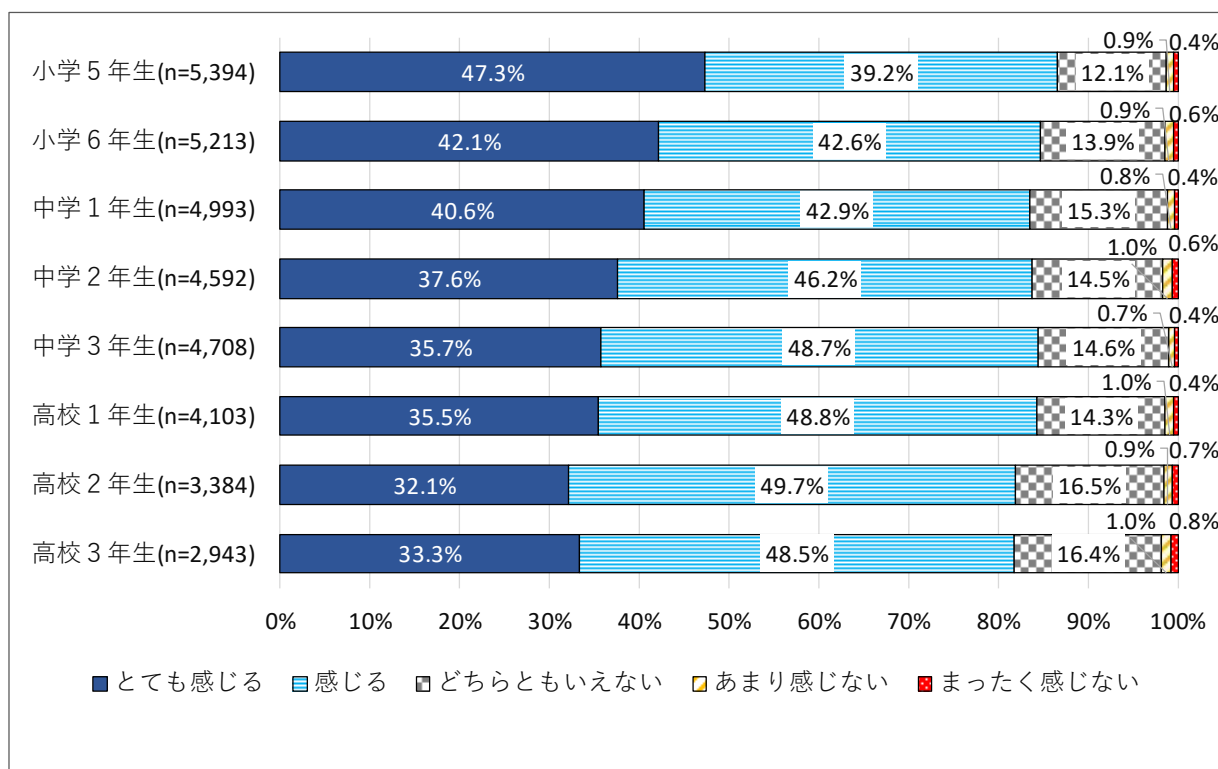
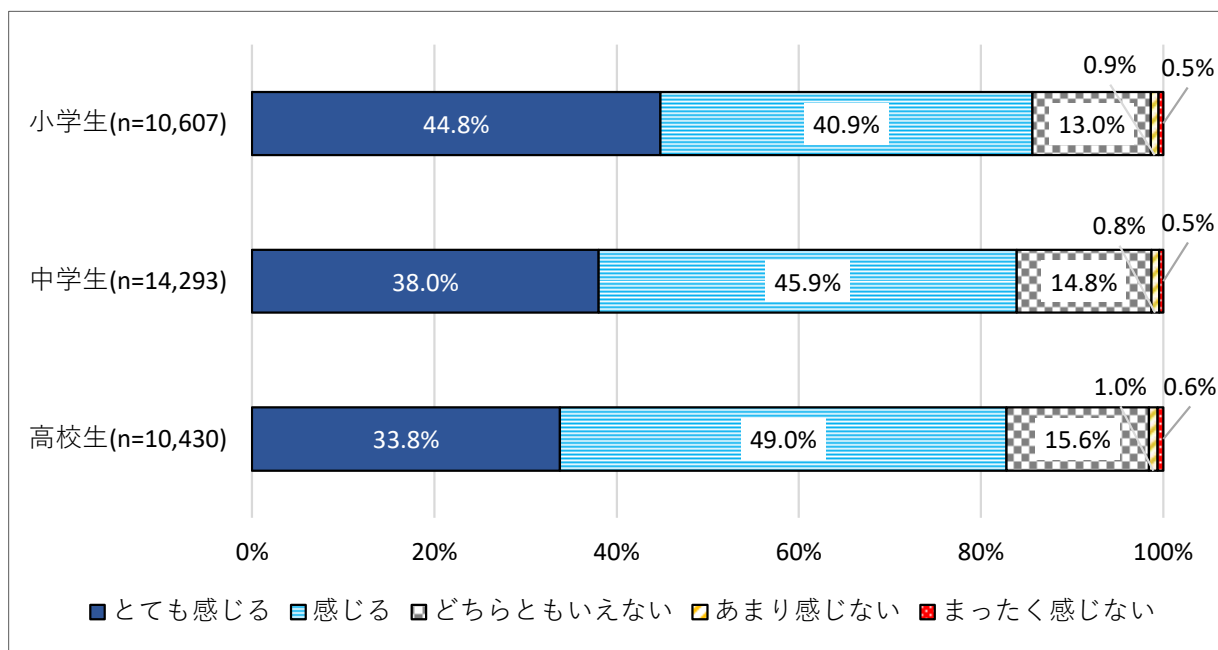


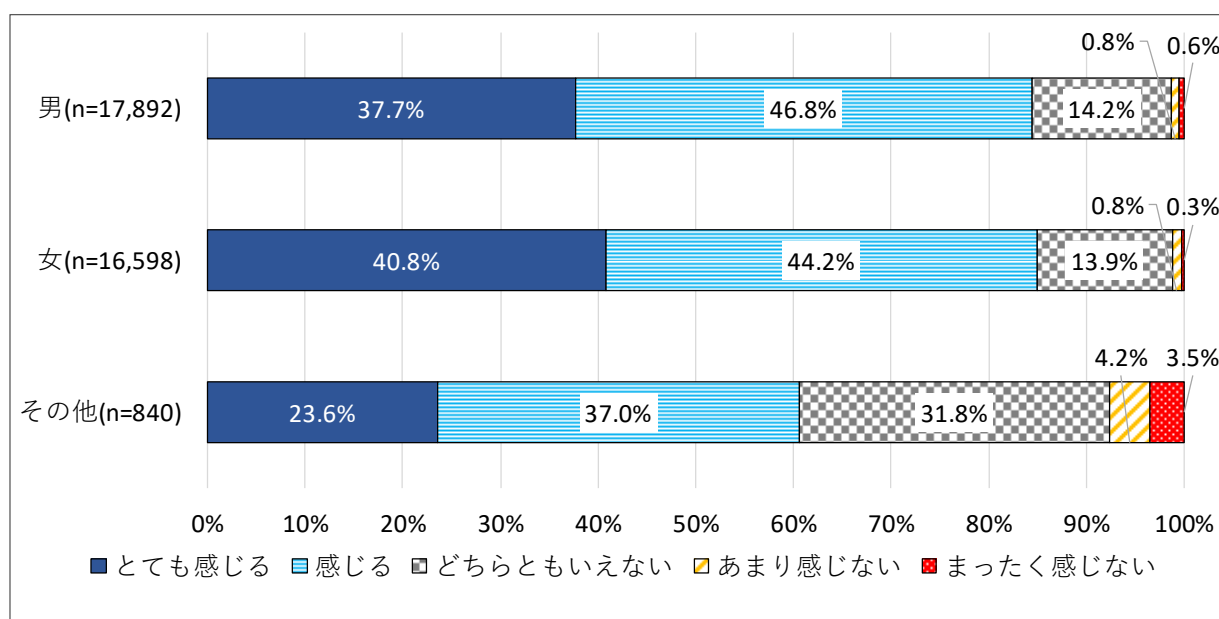
図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方



b. 性別集計

男女別で見ると、「とても感じる」「感じる」の回答割合はともに同程度で 80%を超えた。そのうち「女」の方が「とても感じる」と回答した割合が高かった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は男女ともに約 1%であり、「男」がやや高かった。「その他」は、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は 60%程度にとどまり、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は約 8%であった。

図 性別 子どもの最善の利益の感じ方



c. 世帯人員別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、世帯人員「3人」以上で80%を超える一方、「2人」は80%弱、「1人」「その他」では60%強程度であった。そのうち、「とても感じる」と回答した割合は、概ね世帯人員が多くなるにつれ高くなった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、世帯人員「2人」以上で1~1.5%程度に対し、「1人」は約8.0%、「その他」は約6%であった。

図 世帯人員別 子どもの最善の利益の感じ方

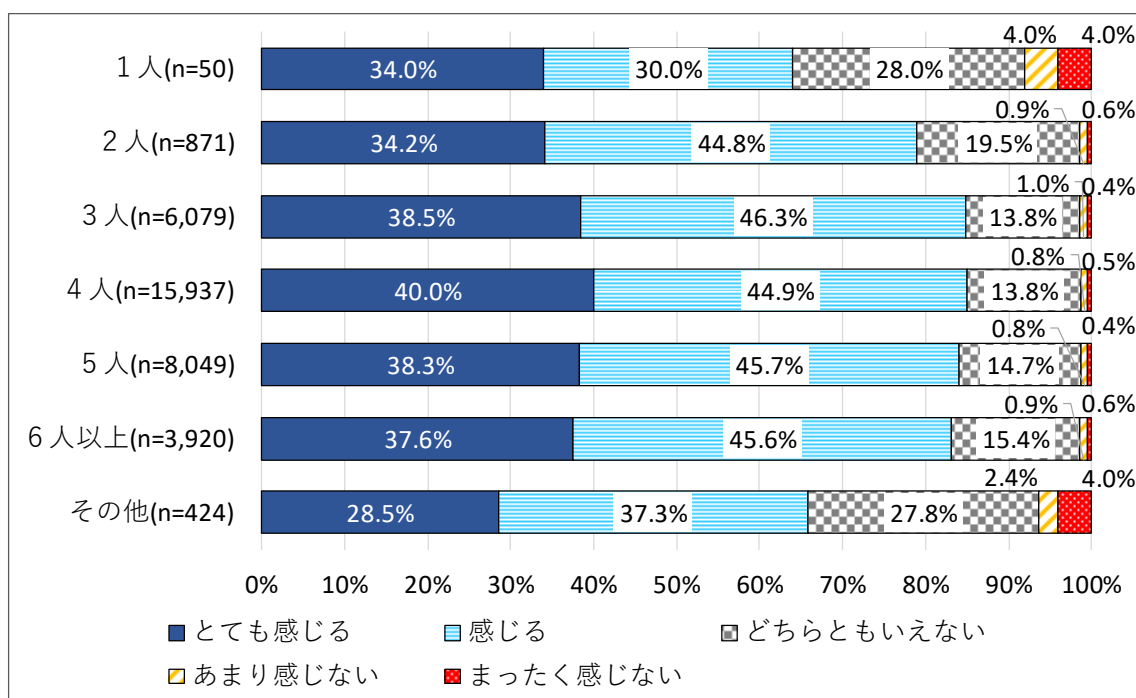
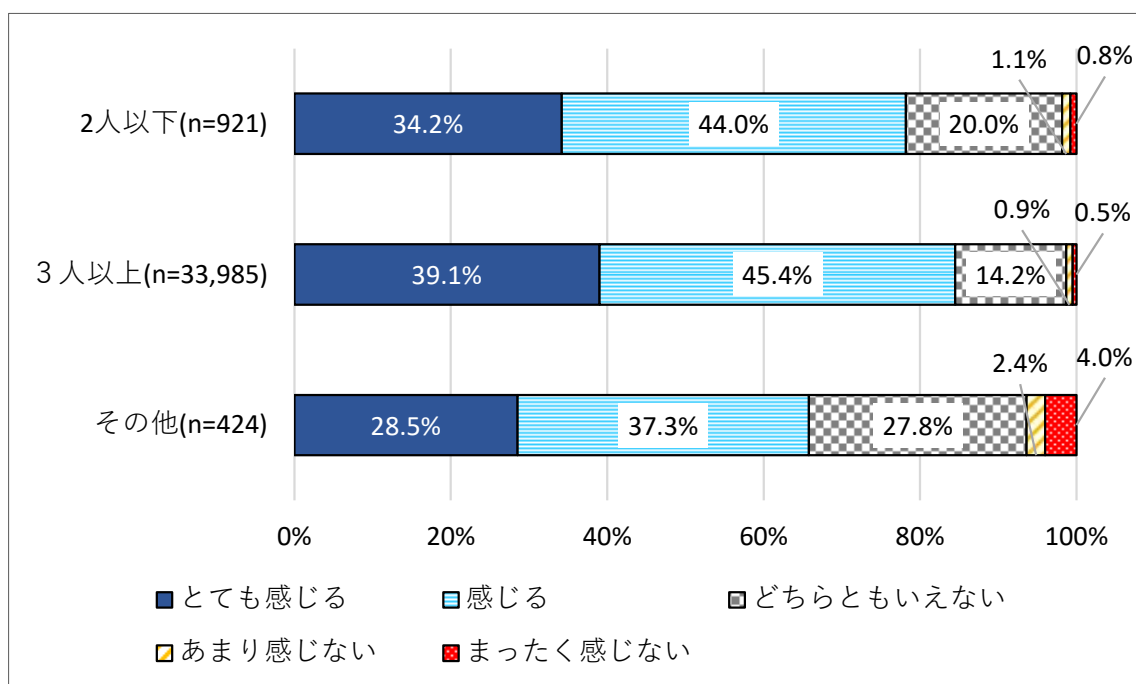
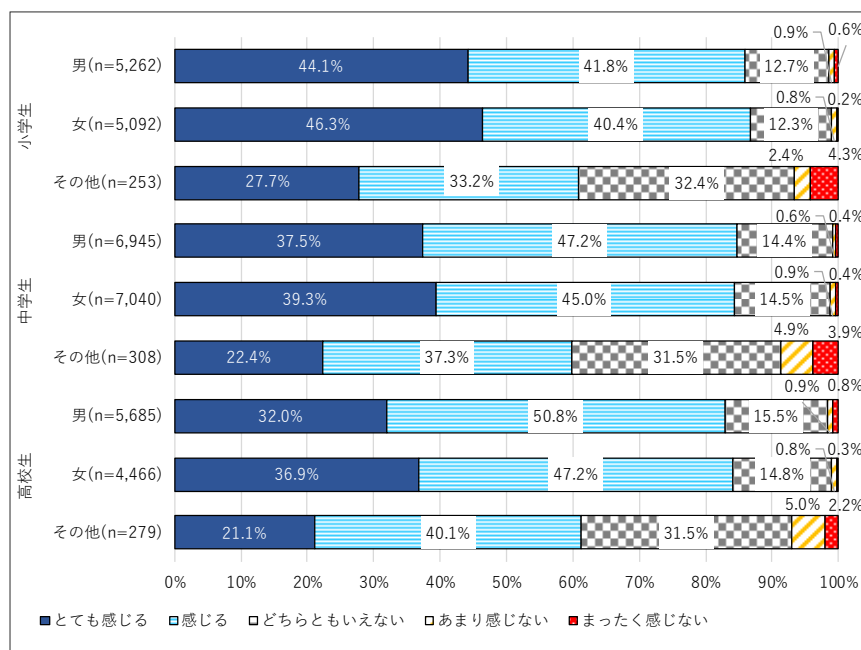


図 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方



d. 学校区分別性別集計

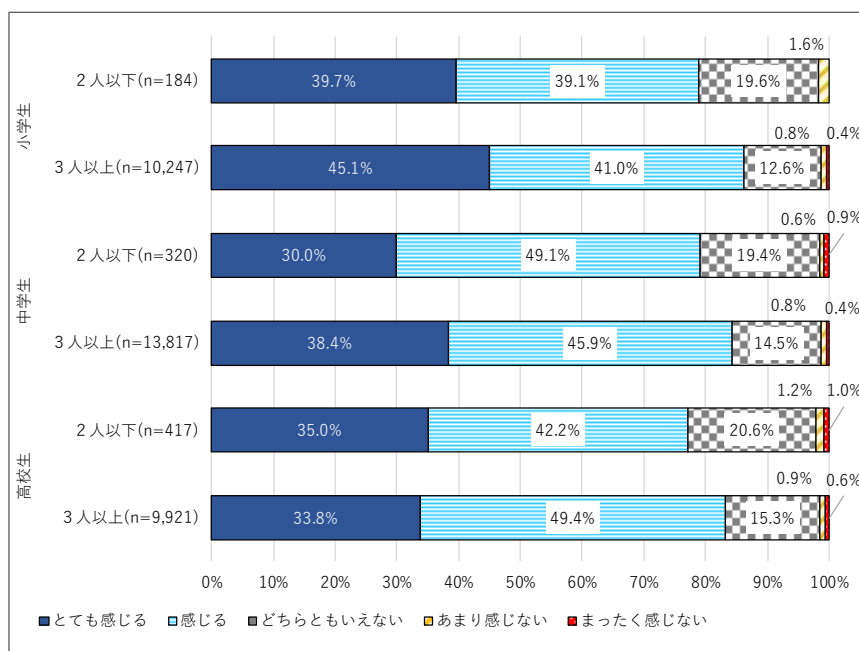
図 学校区分別 性別 子どもの最善の利益の感じ方



e. 学校区分別世帯人員区分別集計

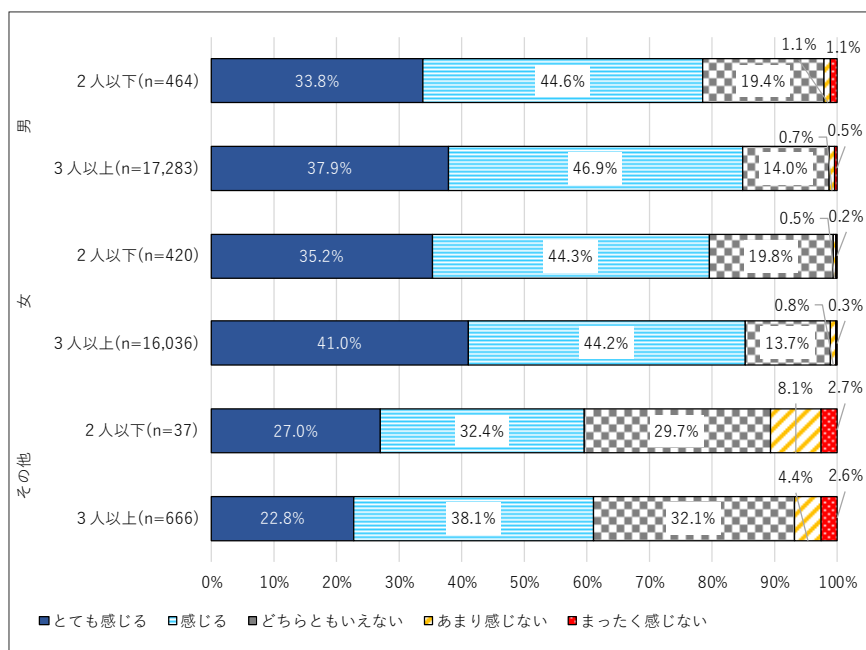
概ね学年が上がるにつれて、「とても感じる」と回答する割合は小さくなり、「感じる」と回答した割合が大きくなった。

図 学校区分別 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方



f. 性別世帯人員区分別集計

図 性別 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方



(4) 子どもの意見の尊重の感じ方

a. 学年別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、すべての学年で 80%程度である。そのうち、「とても感じる」と回答した割合は、概ね学年が上がるにつれて小さくなった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、全学年ともに 2~3%程度で学年による差異は見られなかった。

図 学年別 子どもの意見の尊重の感じ方

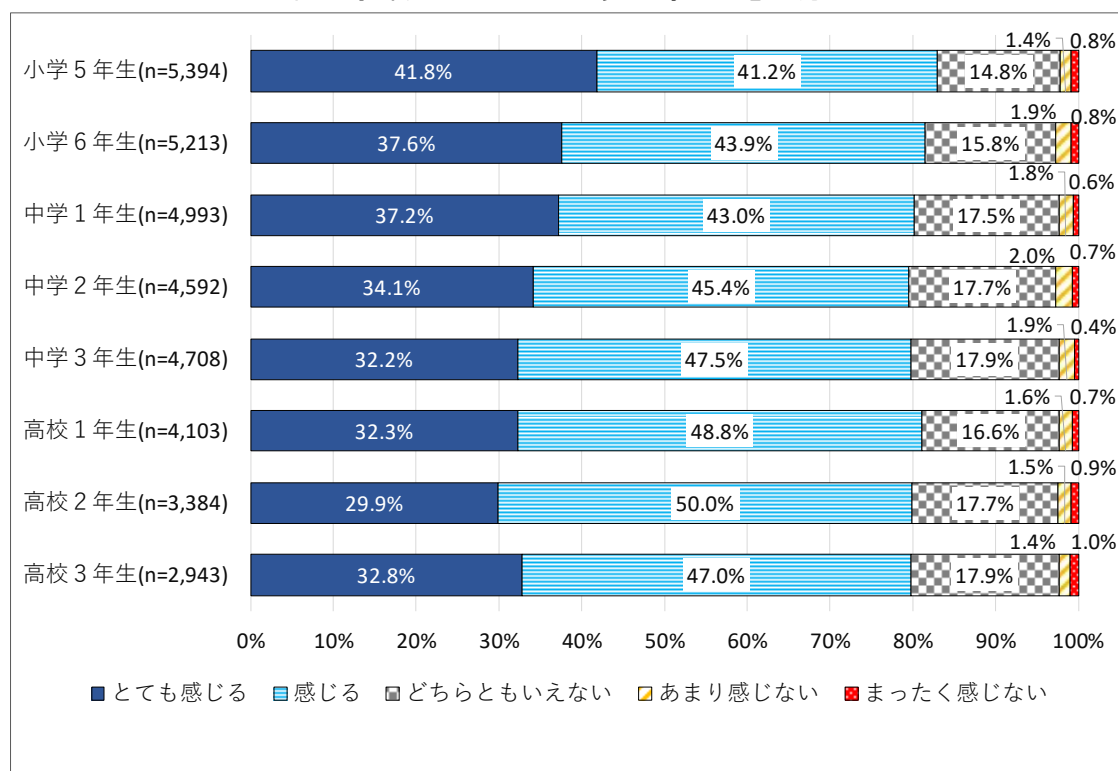
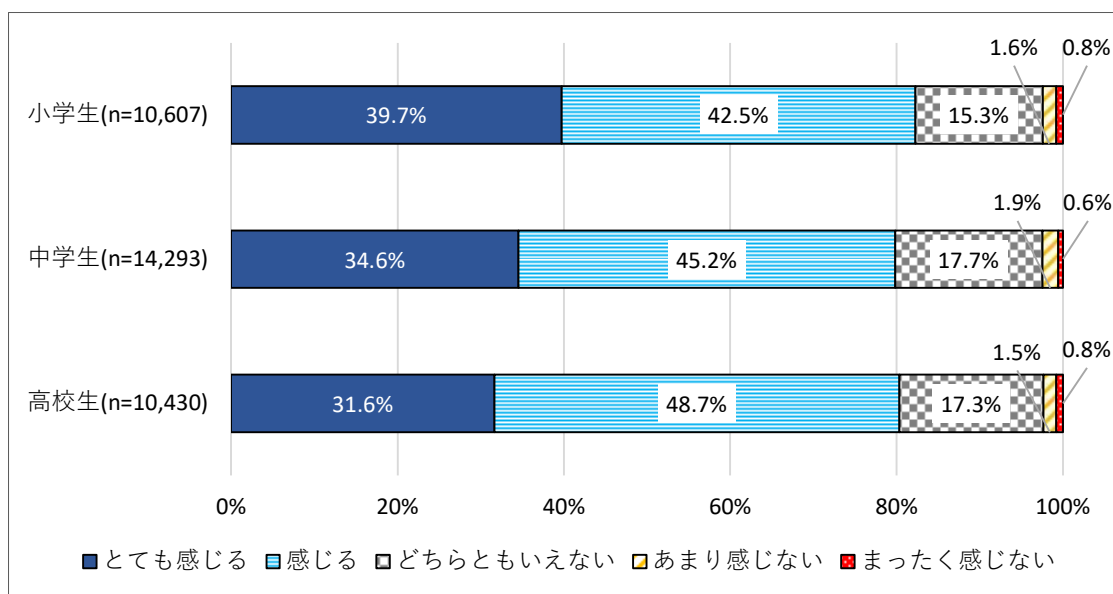


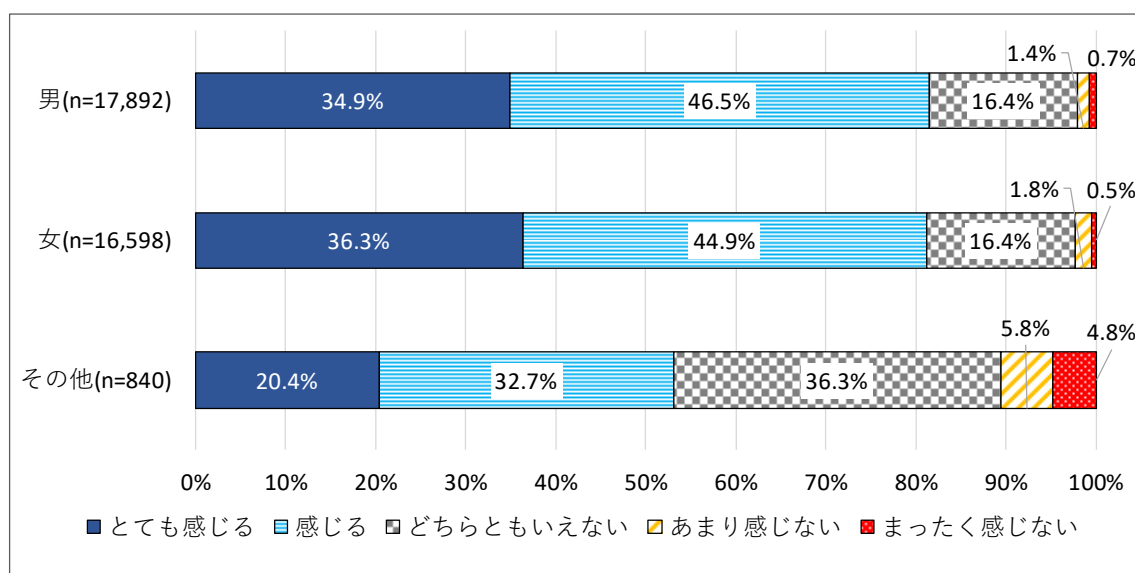
図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方



b. 性別集計

男女別で見ると、「とても感じる」「感じる」の回答割合はともに同程度で 80%を超えた。そのうち「女」の方が「とても感じる」と回答した割合が高かった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は男女ともに約 2%であり、「男」がやや高かった。「その他」は、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は 60%程度にとどまり、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は約 11%であった。

図 性別 子どもの意見の尊重の感じ方



c. 世帯人員別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、世帯人員「3人」以上で80%を超える一方、「2人」は80%弱、「1人」「その他」では60%強程度であった。「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は、世帯人員「2人」以上で2~3%程度に対し、「1人」「その他」は8%程度であった。

図 世帯人員別 子どもの意見の尊重の感じ方

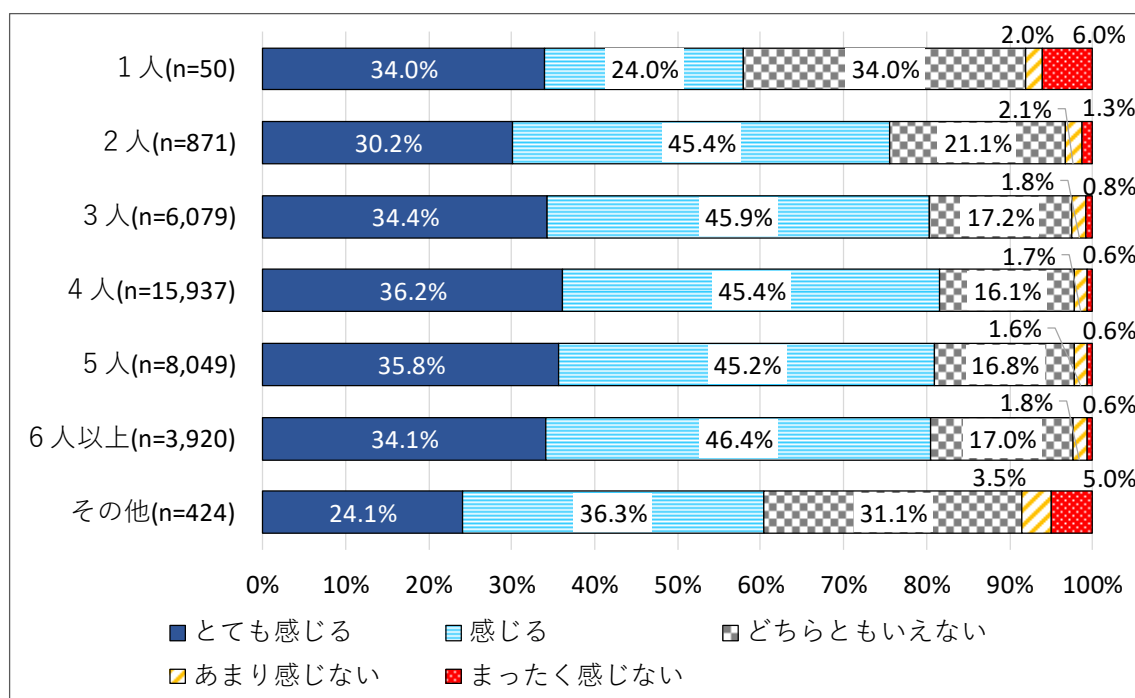
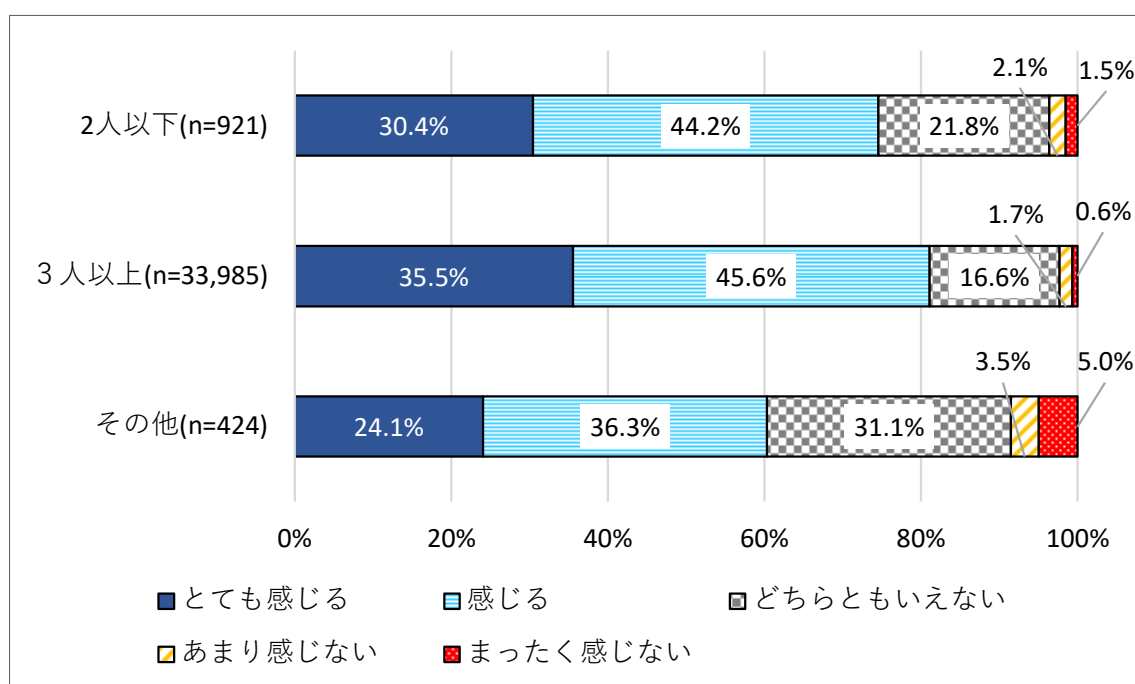
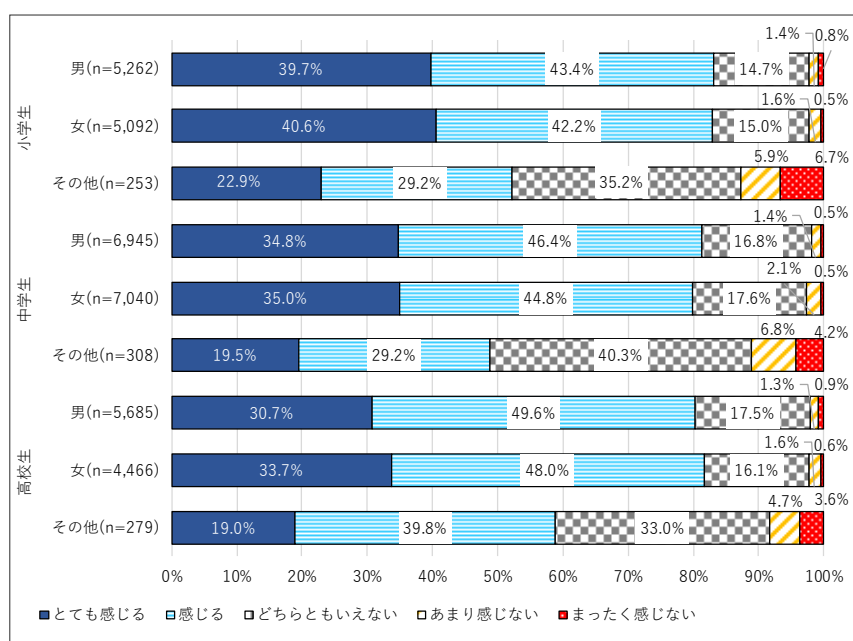


図 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方



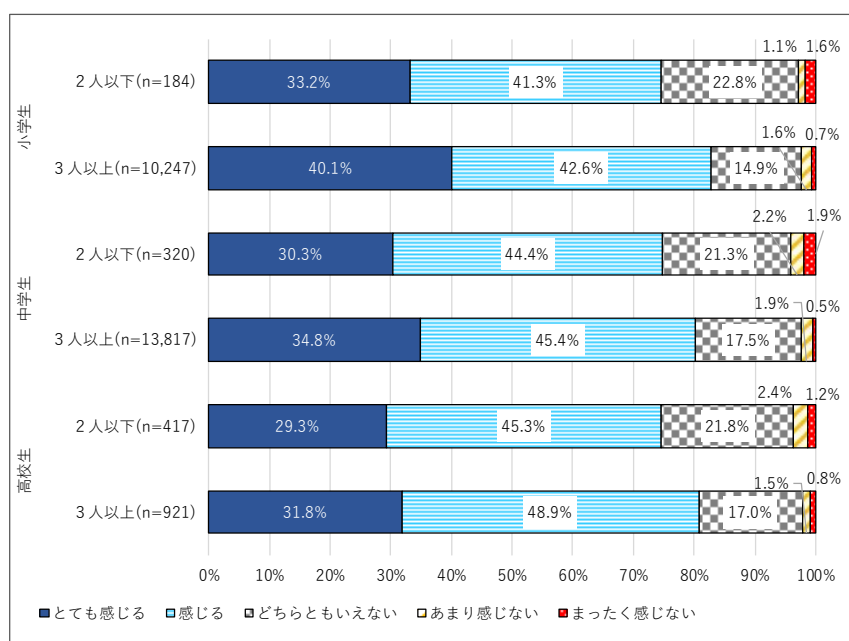
d. 学校区分別性別集計

図 学校区分別 性別 子どもの意見の尊重の感じ方



e. 学校区分別世帯人員区分別集計

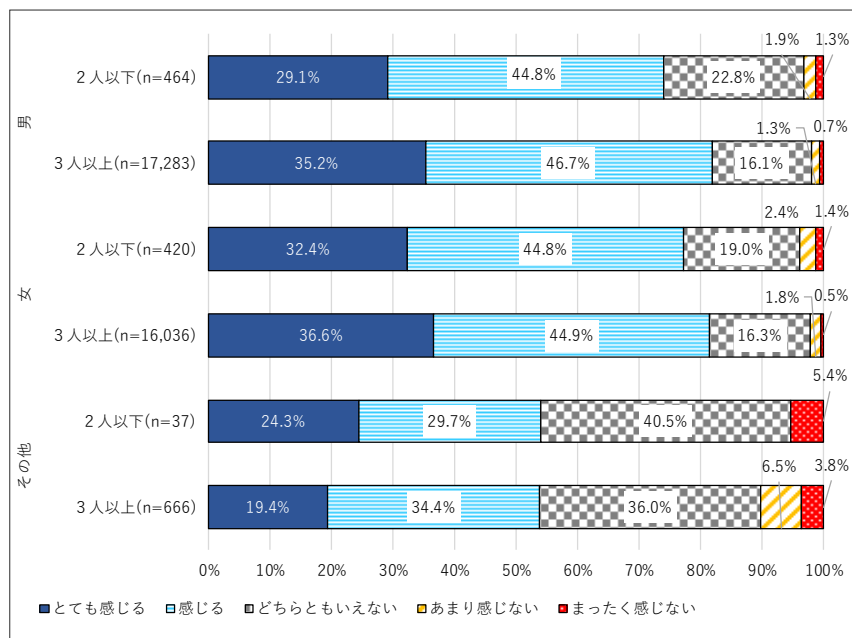
図 学校区分別 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方



f. 性別世帯人員区分別集計

「その他」は「男」「女」と比較して、「とても感じる」「感じる」と回答した割合が小さかった。

図 性別 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方



(5) 差別的な扱いの感じ方

a. 学年別集計

「まったく感じない」「あまり感じない」と回答した割合は、全ての学年で 80% 前後であった。

また、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は、全学年ともに 5% 以上あり、中でも「高校 3 年生」は 10% を上回った。

図 学年別 差別的な扱いの感じ方

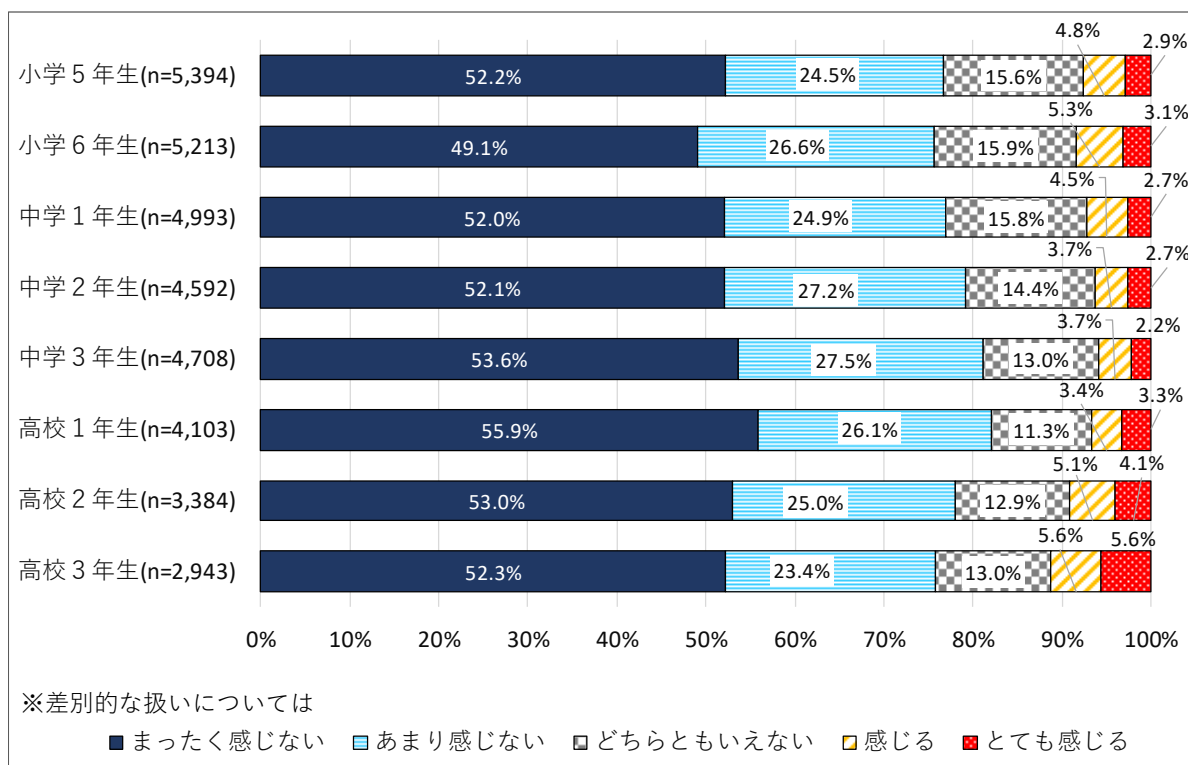
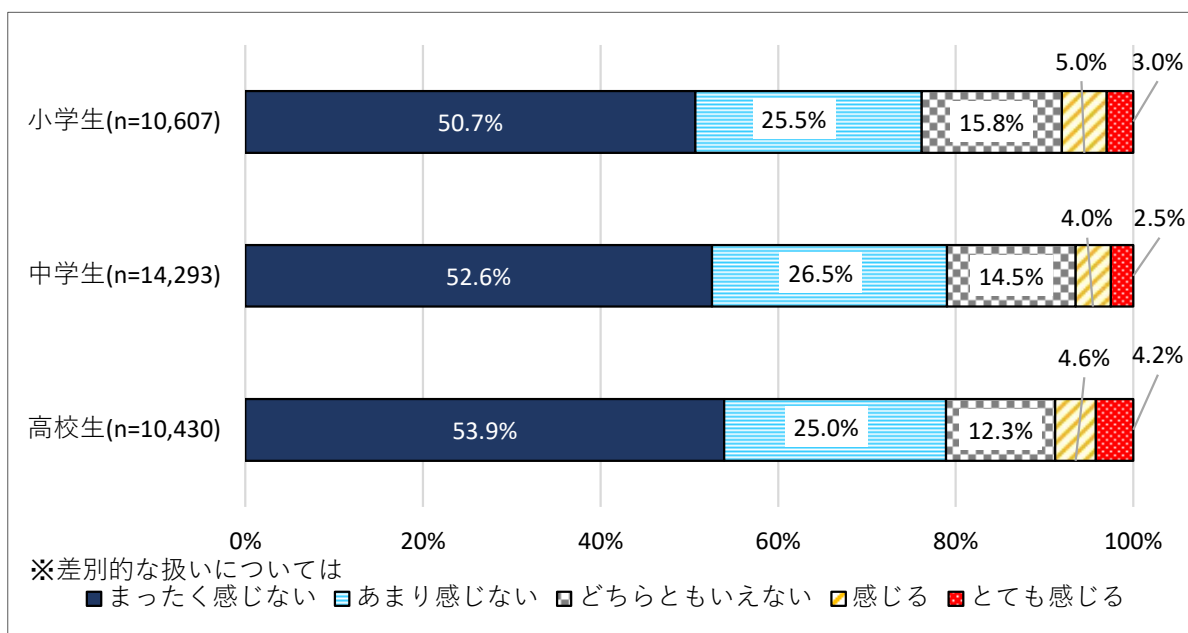


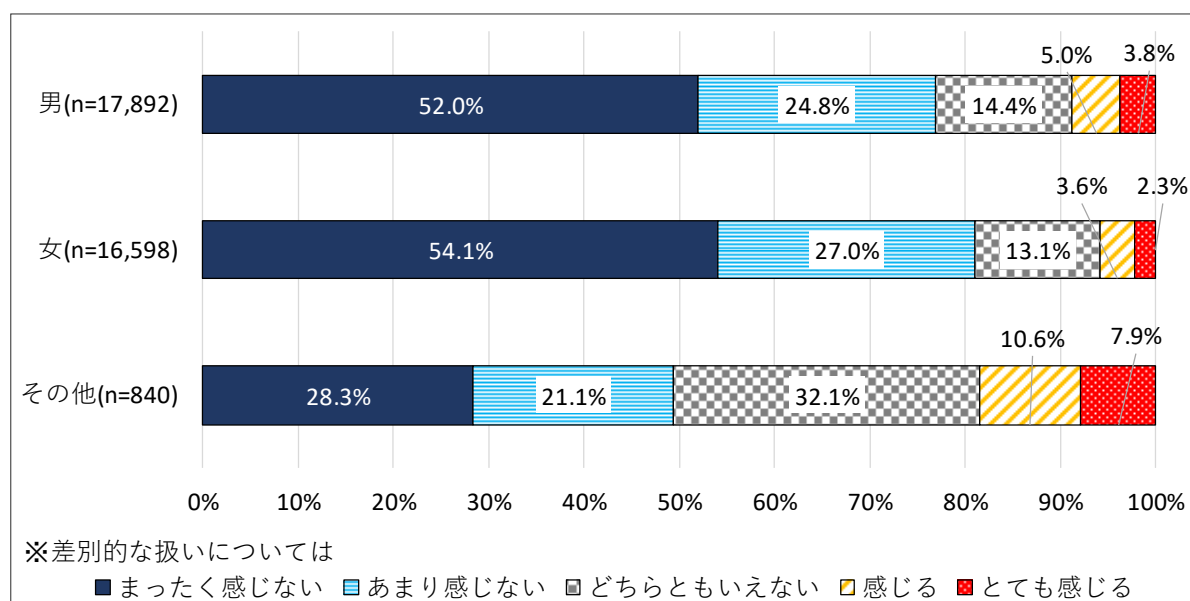
図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方



b. 性別集計

男女別で見ると、「まったく感じない」「あまり感じない」の回答割合は「男」が約77%、「女」が約81%であった。そのうち「女」の方が「まったく感じない」と回答した割合が高かった。「感じる」「とても感じる」と回答した割合は「男」が約9%「女」が約6%であり、「男」が高かった。「その他」は、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した割合は50%を下回り、「とても感じる」「感じる」と回答した割合は約18%であった。

図 性別 差別的な扱いの感じ方



c. 世帯人員別集計

「まったく感じない」「あまり感じない」と回答した割合は、世帯人員に依らず 80%を下回った。中でも、世帯人員「1 人」は 50%を、「その他」は 60%を下回った。「感じる」「とても感じる」と回答した割合は、世帯人員「2 人」以上で 7~9%程度に対し、「1 人」は約 28%、「その他」は約 15%であった。

図 世帯人員別 差別的な扱いの感じ方

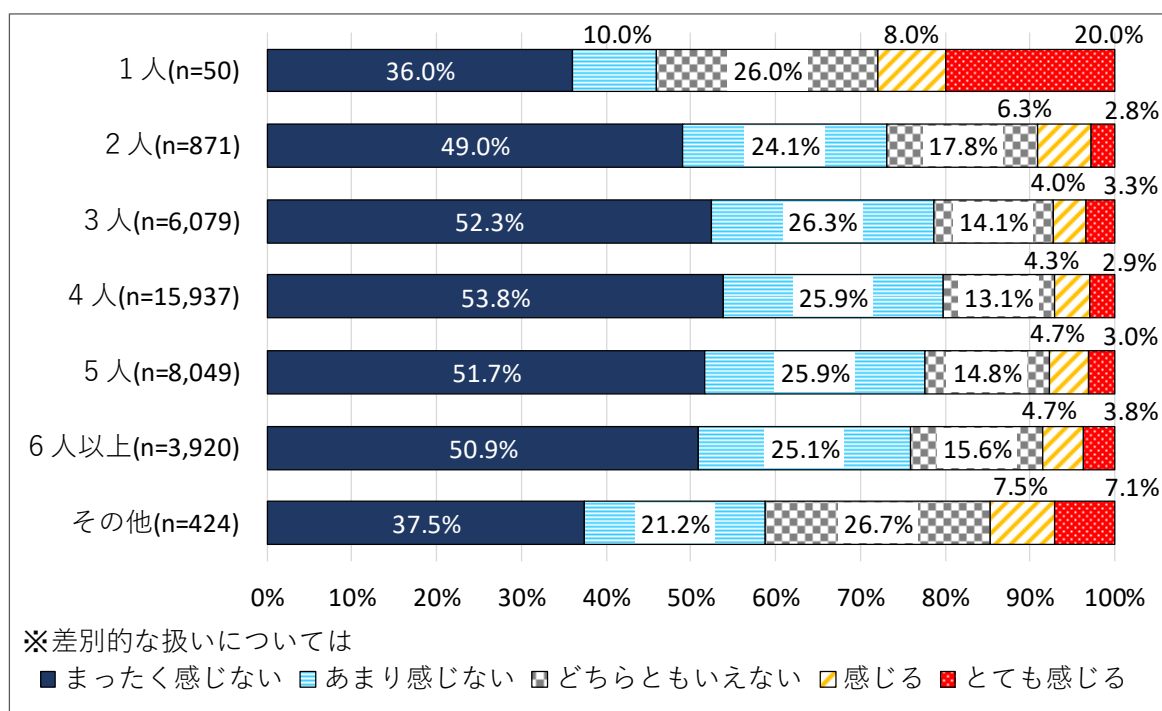
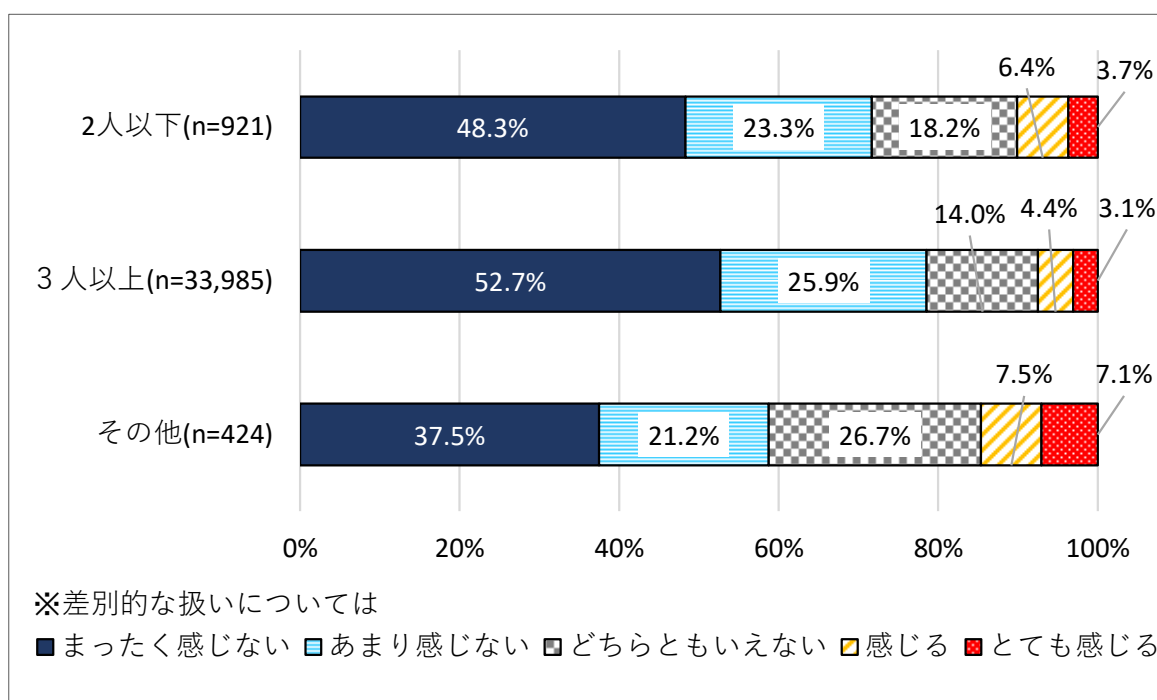
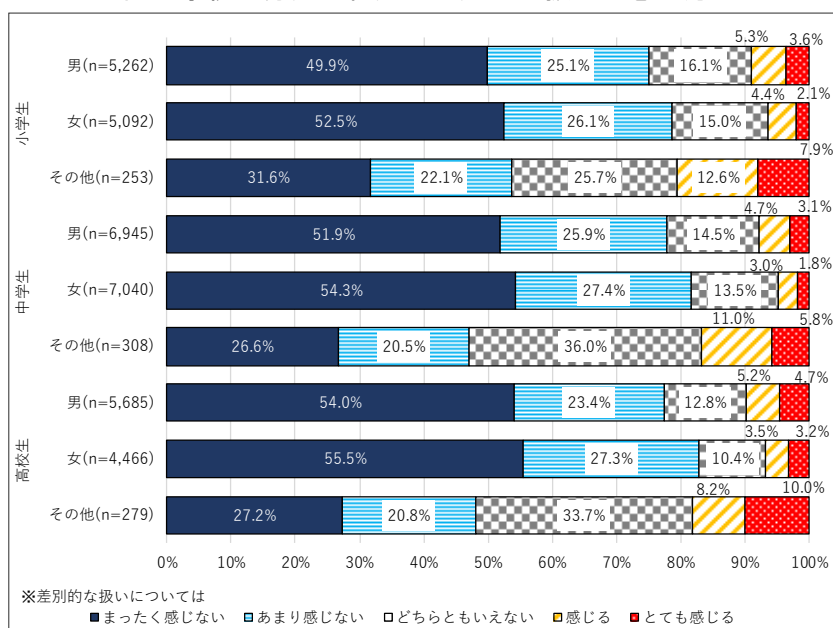


図 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方



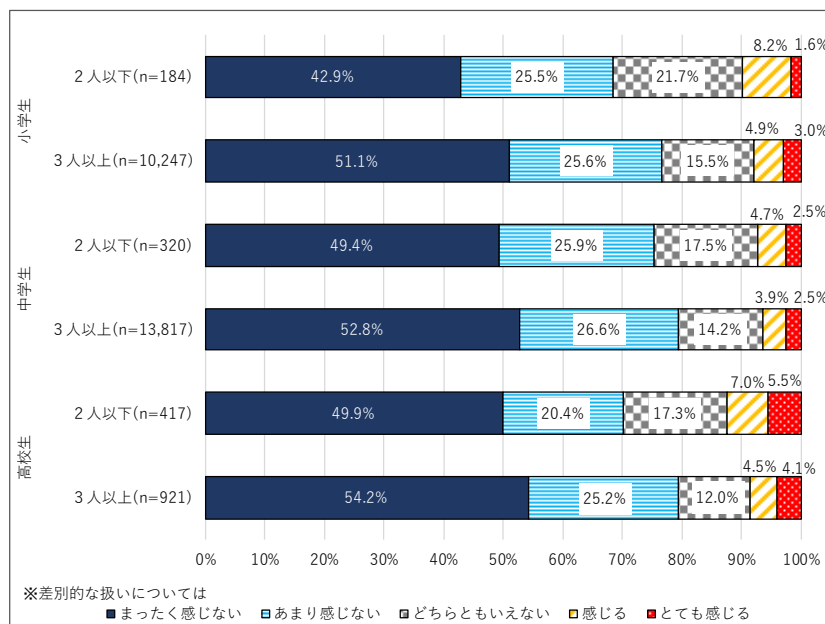
d. 学校区分別性別集計

図 学校区分別 性別 差別的な扱いの感じ方



e. 学校区分別世帯人員区分別集計

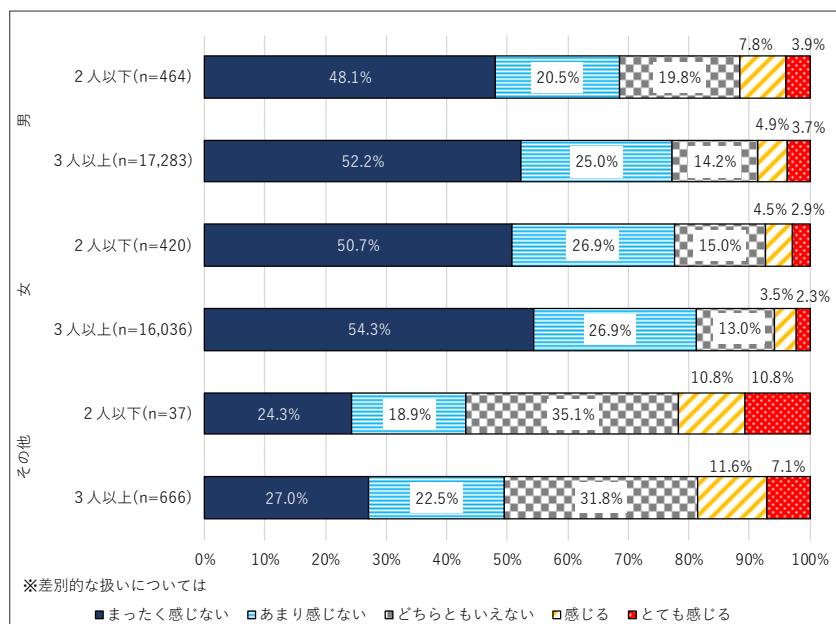
図 学校区分別 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方



f. 性別世帯人員区分別集計

「その他」は「男」「女」と比較して、「まったく感じない」「あまり感じない」と回答した割合が小さかった。

図 性別 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方



（６）子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

a. 学校区分別集計

権利を守るために必要な仕組みとして、全学年で「子どもの権利について学校などでもっと学べる機会をふやす」を求める割合が最も高く、45%を上回った。そのほか、低学年は「困ったときに直接相談できる場所がある」の回答割合が高く、高学年は、「困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる」の回答割合が高かった。

図 学校区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（小学生）

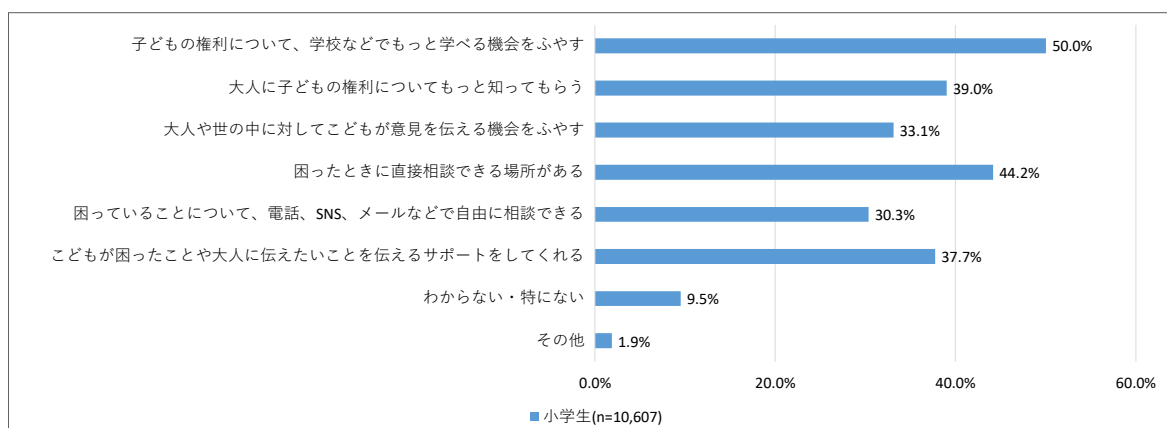


図 学校区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（中学生）

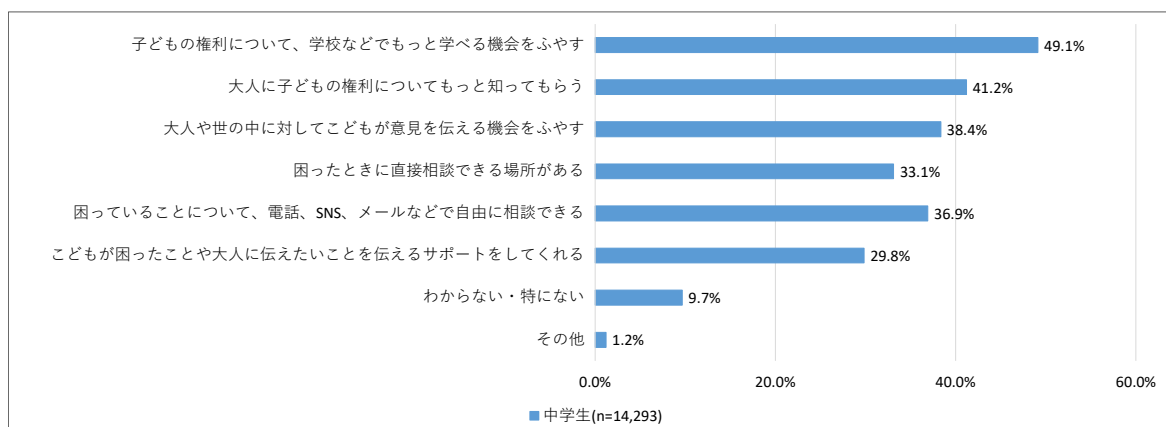
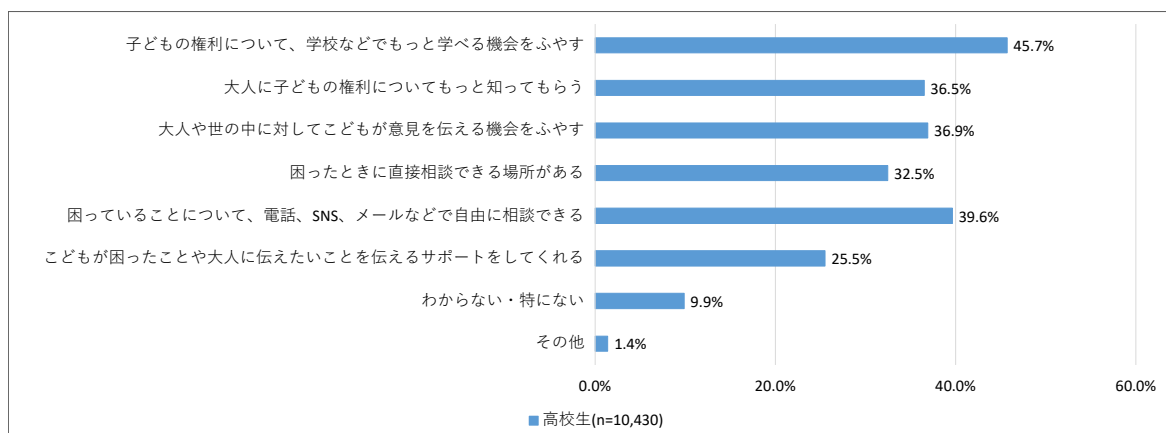


図 学校区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（高校生）



b. 性別集計

すべての性別で「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が最も高く、「男」が約 51%、「女」が約 46%、「その他」が約 38%であった。次点で、すべての性別で「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」の回答割合が高く、「男」が約 37%、「女」が約 42%、「その他」が約 37%であった。

図 性別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（男）

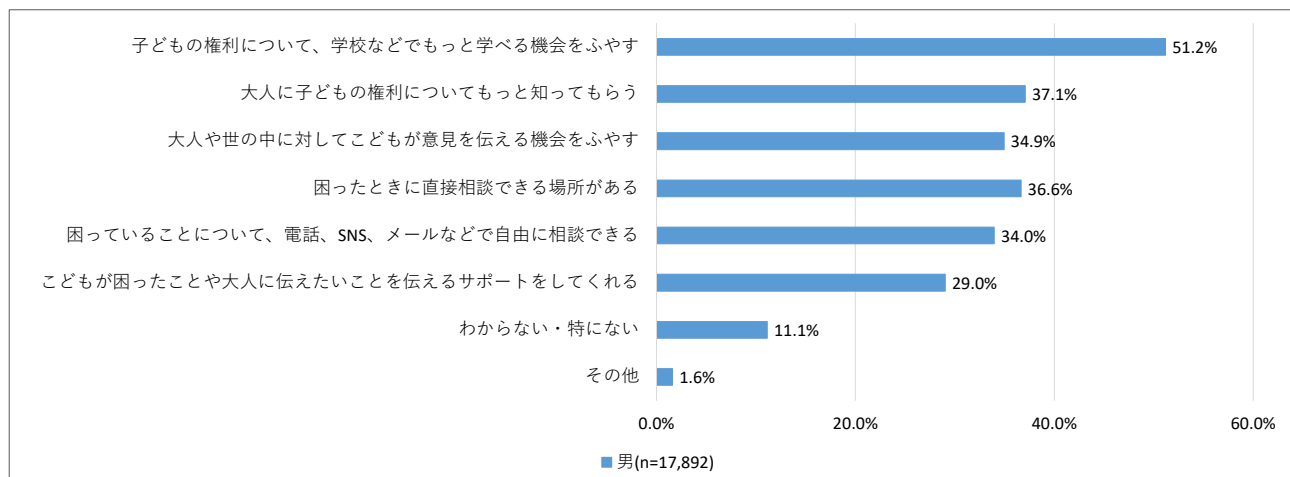


図 性別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（女）

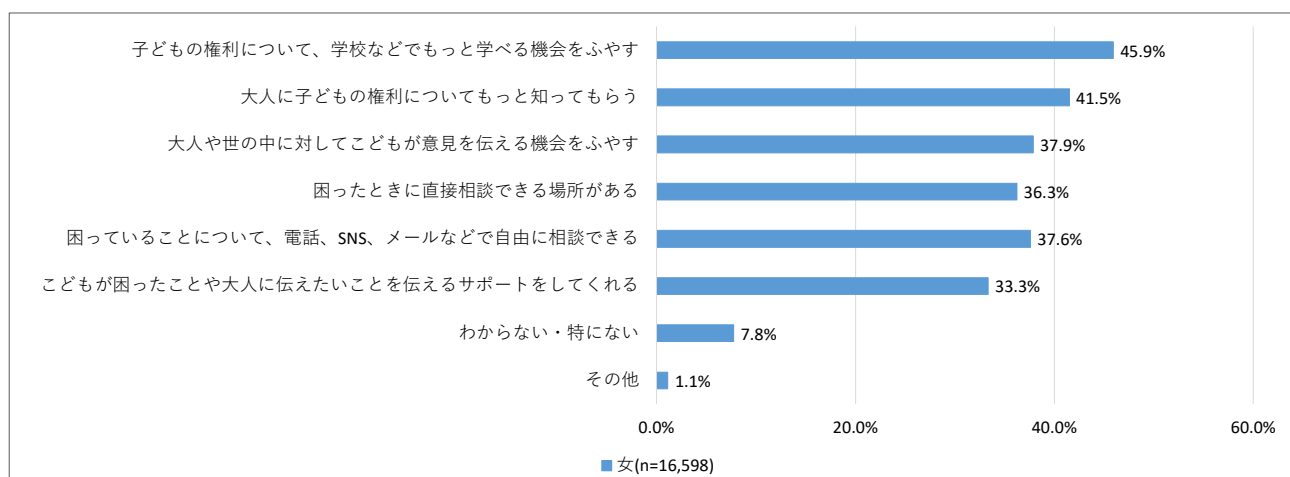
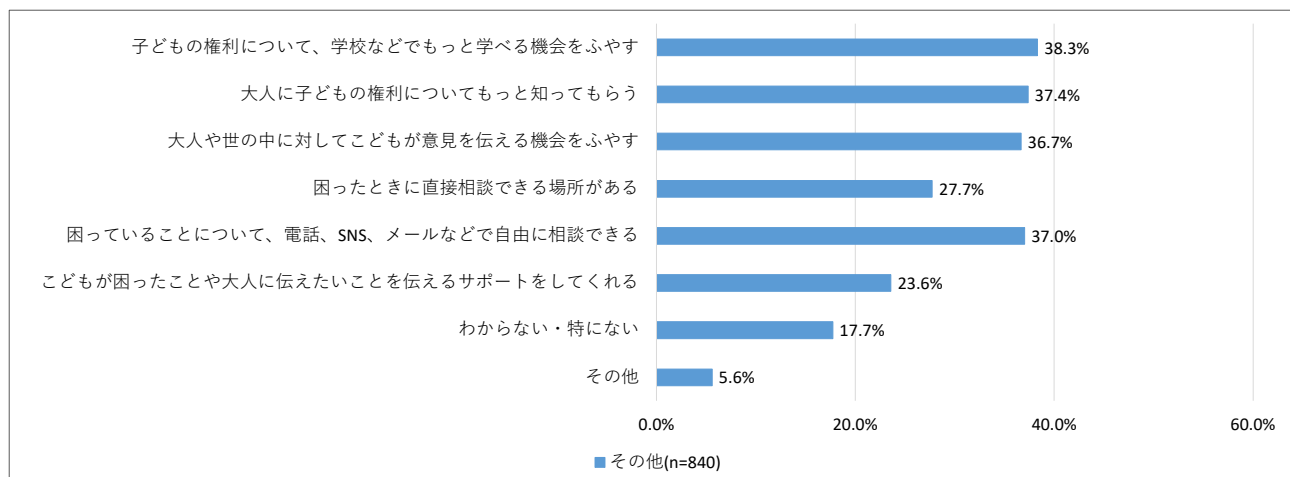


図 性別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（その他）



c. 世帯人員区分別集計

すべての世帯人員区分で、「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が最も高かった。「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」が次いで回答割合が高かった。

図 世帯人員区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（2人以下）

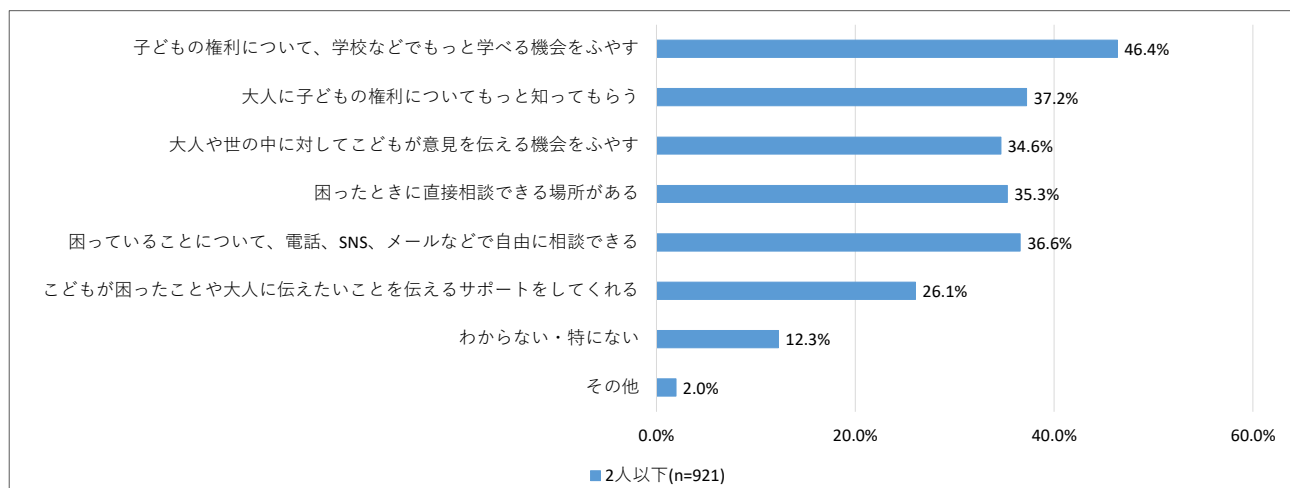


図 世帯人員区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（3人以上）

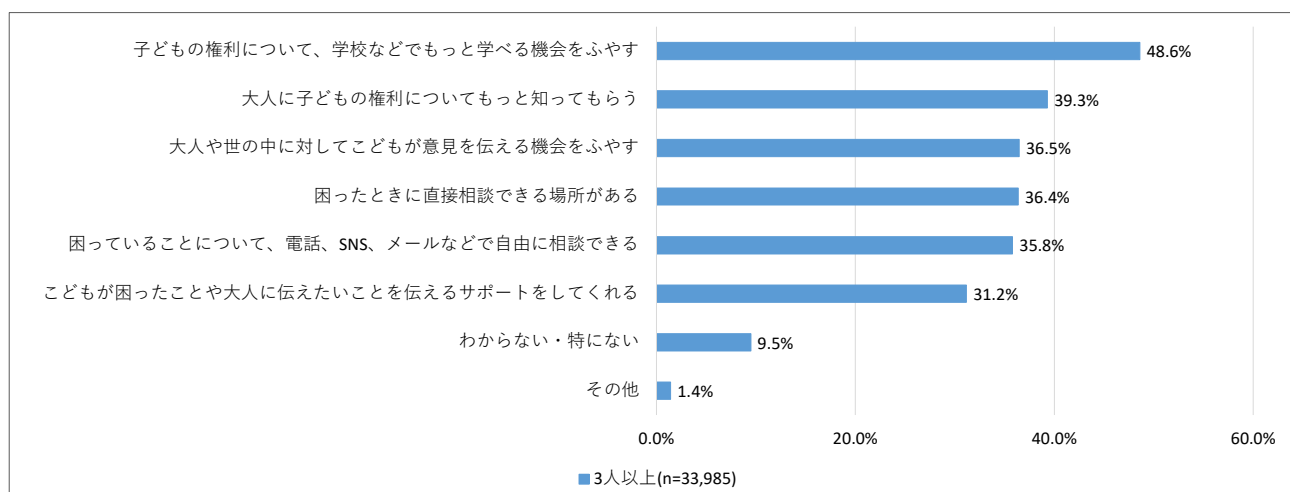
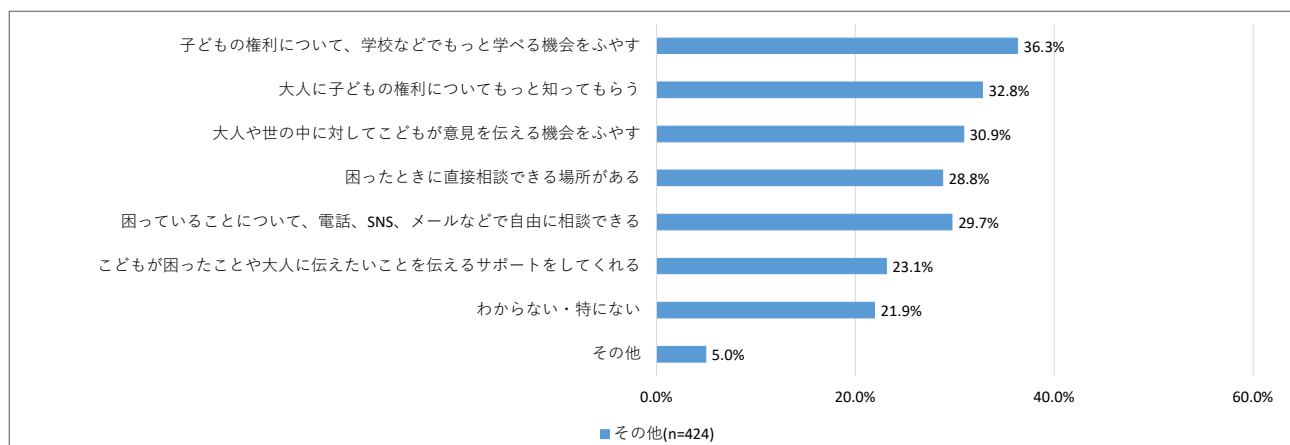


図 世帯人員区分別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（その他）



d. 子どもの権利の認知度別集計

すべての権利の認知度帯で、「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす。」と回答した割合が高かった。権利の認知度が下がるにつれて、具体的な項目の回答を避け「わからない・特にない」を選択する割合が高かった。

図 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(聞いたことがあり、内容も知っている)

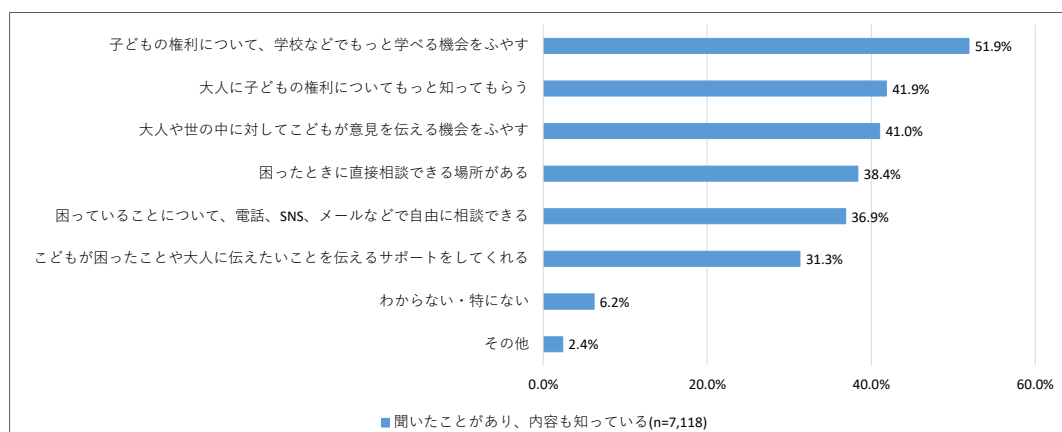


図 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(聞いたことはあるが、内容まではわからない)

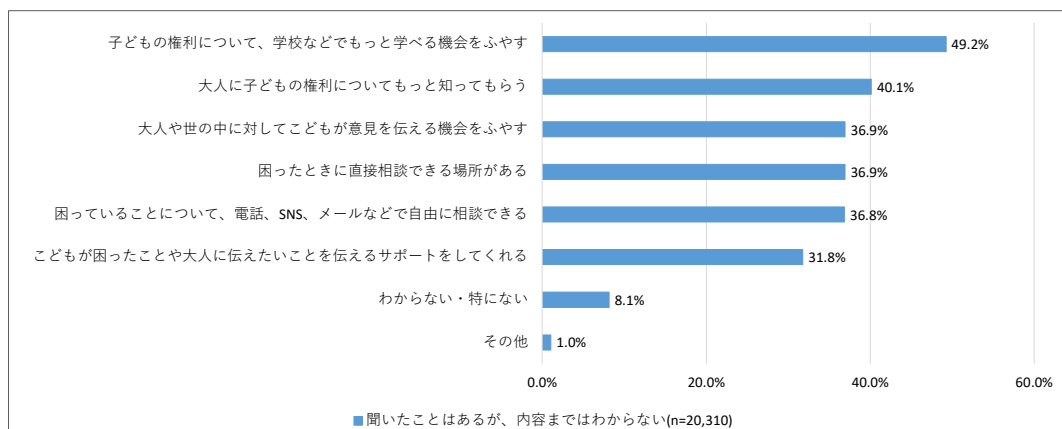
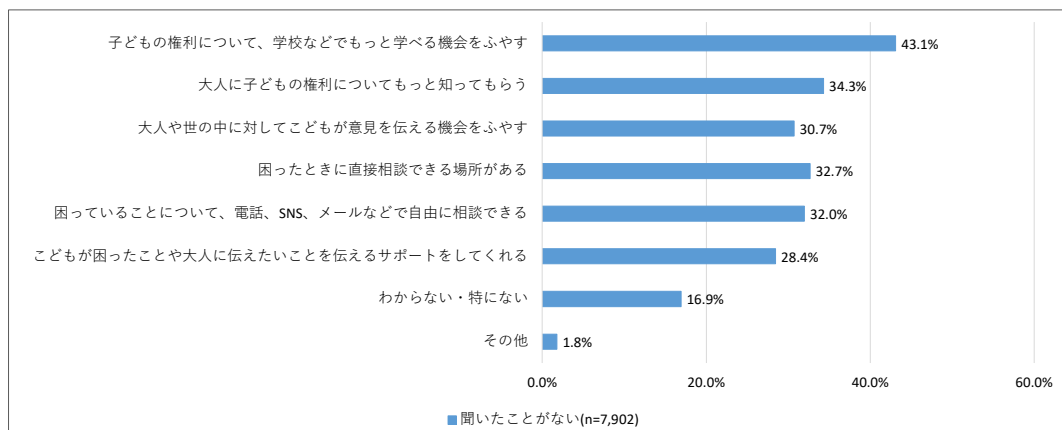


図 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み (聞いたことがない)



e. 学校区分別子どもの権利の認知度別集計

子どもの権利について「聞いたことがない」と回答した層に注目すると、全学年で「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が高かった。小学生は「困ったときに相談できる場所がある」が、中学生は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」が、高校生は「困っていることについて電話、SNS、メールなどで自由に相談できる」の回答割合が次いで高かった。

表 学校区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	小学生			中学生			高校生			計
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	1,374	2,800	1,131	1,341	4,260	1,424	981	2,939	850	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	1,087	2,153	898	1,127	3,568	1,196	765	2,426	618	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	994	1,789	729	1,092	3,292	1,099	835	2,416	600	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	1,132	2,499	1,053	853	2,925	959	747	2,071	569	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	849	1,657	712	956	3,205	1,117	819	2,619	697	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートしてくれる	949	2,117	936	739	2,635	891	541	1,699	421	10,928
わからない・特になし	151	414	444	164	705	518	125	532	375	3,428
その他	79	76	44	43	84	47	47	52	49	521
合計	2,542	5,437	2,628	2,519	8,518	3,256	2,057	6,355	2,018	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(小学生・聞いたことがない)

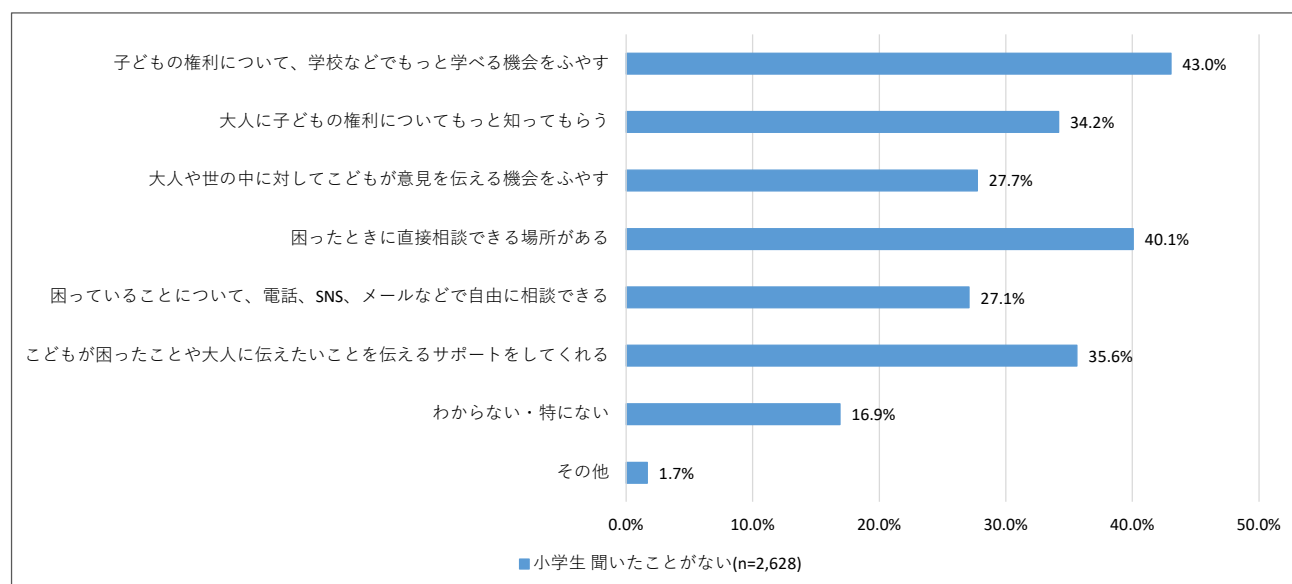


図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(中学生・聞いたことがない)

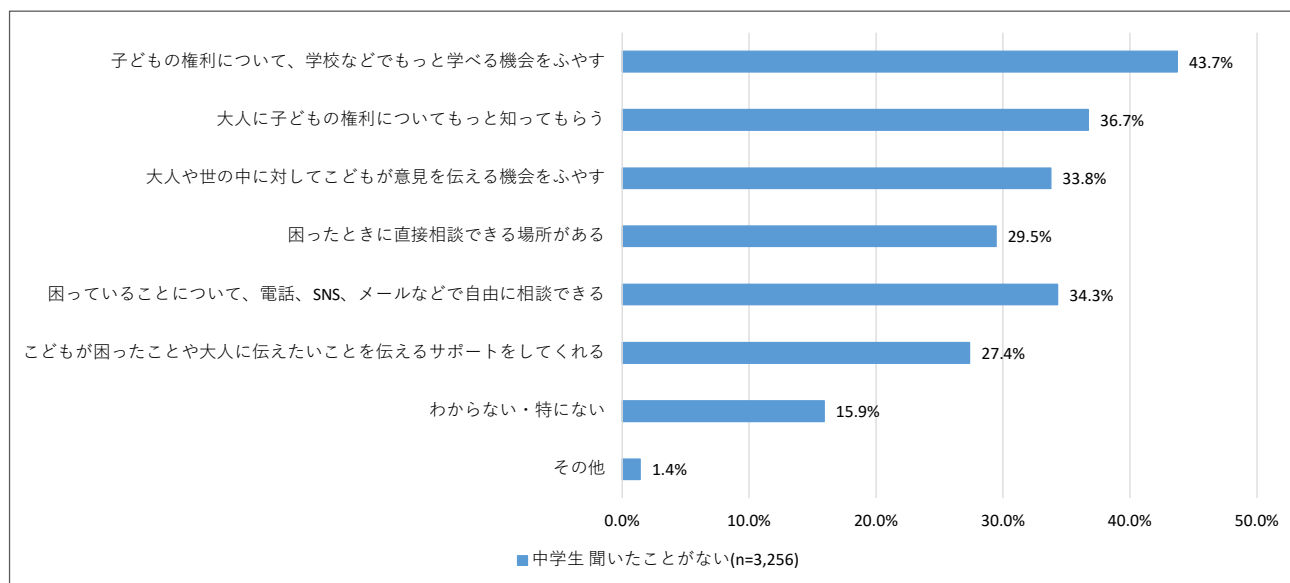
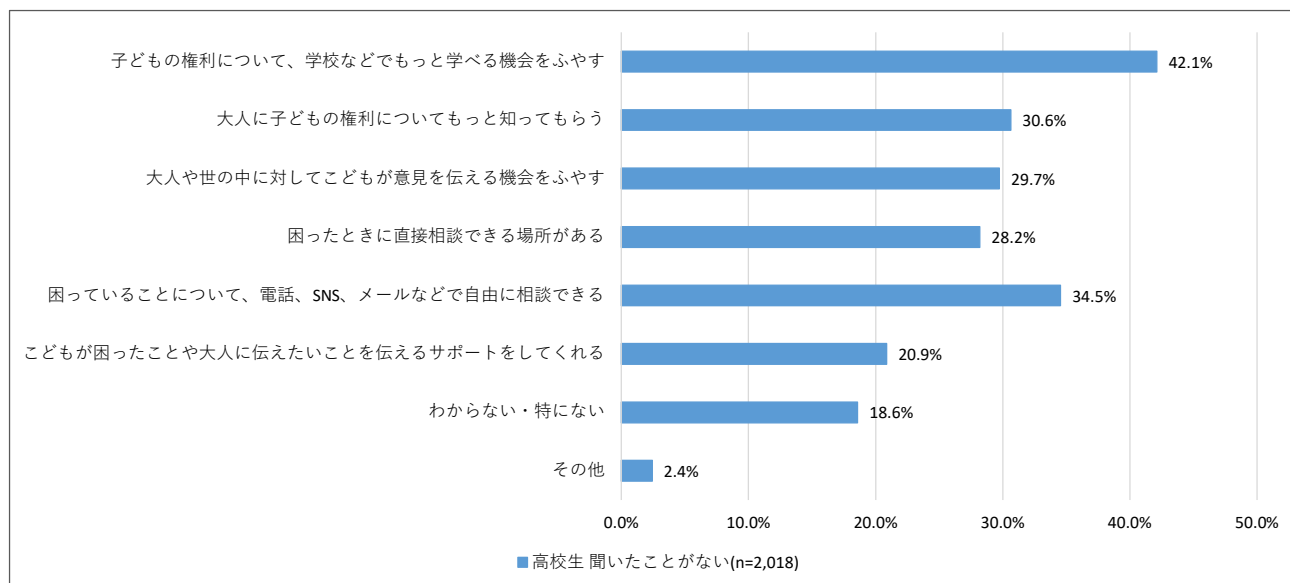


図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(高校生・聞いたことがない)



f. 世帯人員区分別子どもの権利の認知度別集計

子どもの権利について「聞いたことがない」と回答した層に注目すると、全ての世帯人員区分で「子どもの権利について学校などで学べる機会をふやす」と回答した割合が高かった。

表 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	2人以下			3人以上			その他			計
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	92	246	89	3,564	9,684	3,271	40	69	45	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	81	186	76	2,861	7,896	2,599	37	65	37	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	77	176	66	2,812	7,253	2,331	32	68	31	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	73	193	59	2,630	7,237	2,494	29	65	28	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	76	190	71	2,512	7,234	2,422	36	57	33	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートしてくれる	56	135	49	2,144	6,274	2,172	29	42	27	10,928
わからない・特になし	18	47	48	406	1,570	1,246	16	34	43	3,428
その他	2	7	9	156	201	125	11	4	6	521
合計	202	507	212	6,814	19,619	7,552	102	184	138	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(2人以下・聞いたことがない)

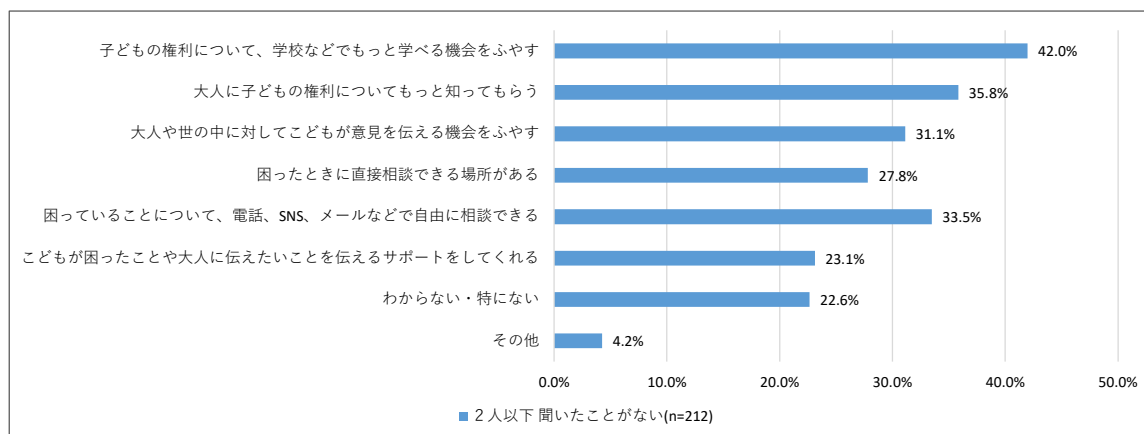
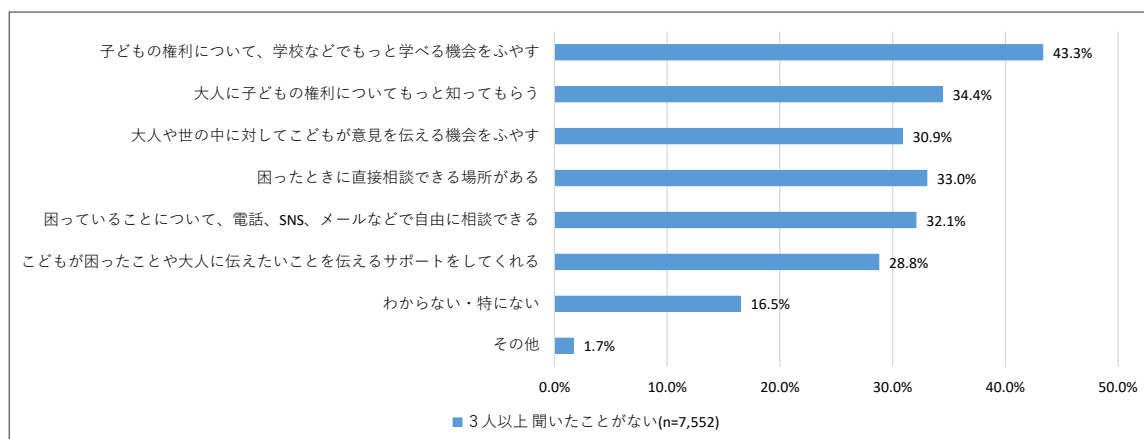


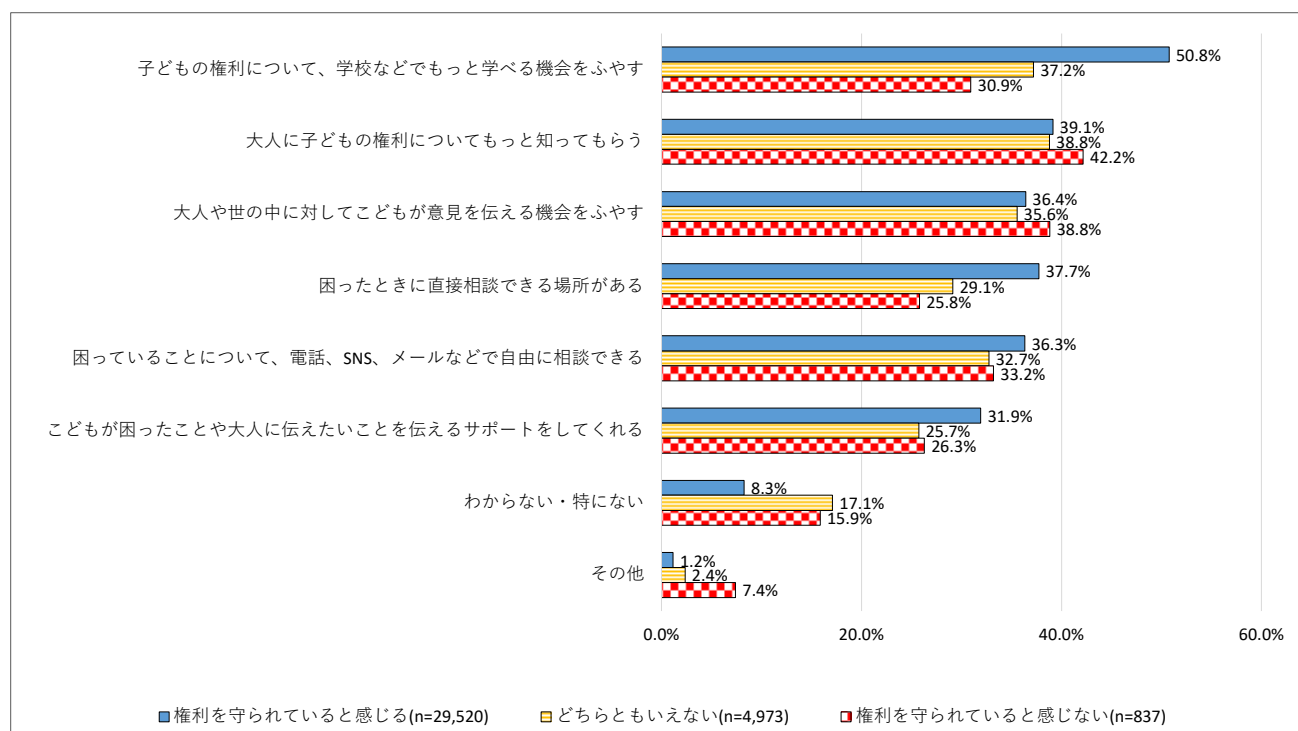
図 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(3人以上・聞いたことがない)



g. 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

権利の感じ方別では、権利を守られていると感じる群（「とても感じる」「感じる」と回答した児童・生徒）は「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす。」を選択した割合が最も高く、どちらともいえない群（「どちらともいえない」と回答した児童・生徒）、権利を守られていると感じない群（「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒）は、「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう。」を選択した割合が最も高かった。

図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



h. 学校区分別生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

生存及び発達に対する権利について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、すべての学年で「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」と回答した割合が最も高かった。

表 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	4,743	487	75	6,074	836	115	4,174	527	69	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	3,546	492	100	4,854	888	149	3,156	549	104	13,838
大人や世の中に対してこどもが意見を伝える機会をふやす	2,989	432	91	4,525	813	145	3,239	523	89	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	4,124	480	80	4,094	571	72	2,925	398	64	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	2,734	401	83	4,454	711	113	3,537	516	82	12,631
こどもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	3,526	399	77	3,643	545	77	2,259	336	66	10,928
わからない・特になし	746	223	40	1,007	338	42	691	290	51	3,428
その他	134	43	22	115	38	21	93	36	19	521
合計	9,054	1,304	249	11,839	2,130	324	8,627	1,539	264	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(小学生・権利を守られていると感じない)

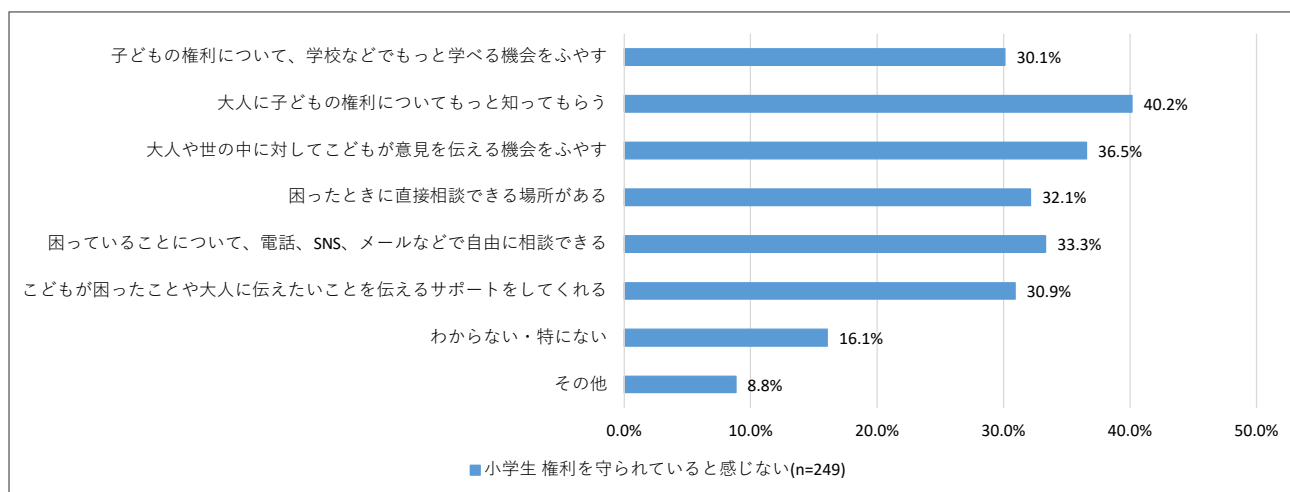


図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(中学生・権利を守られていると感じない)

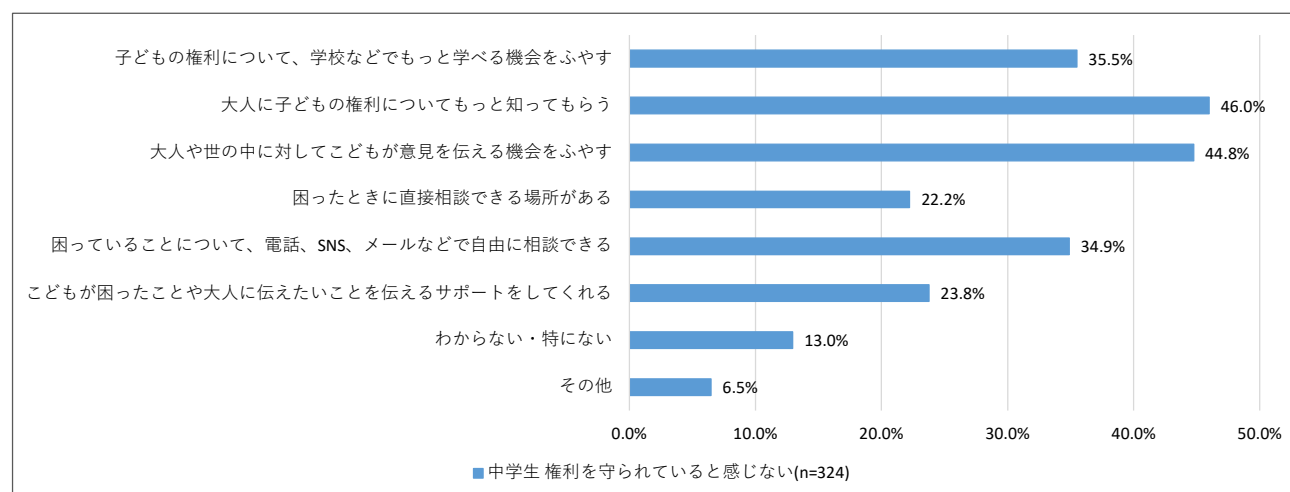
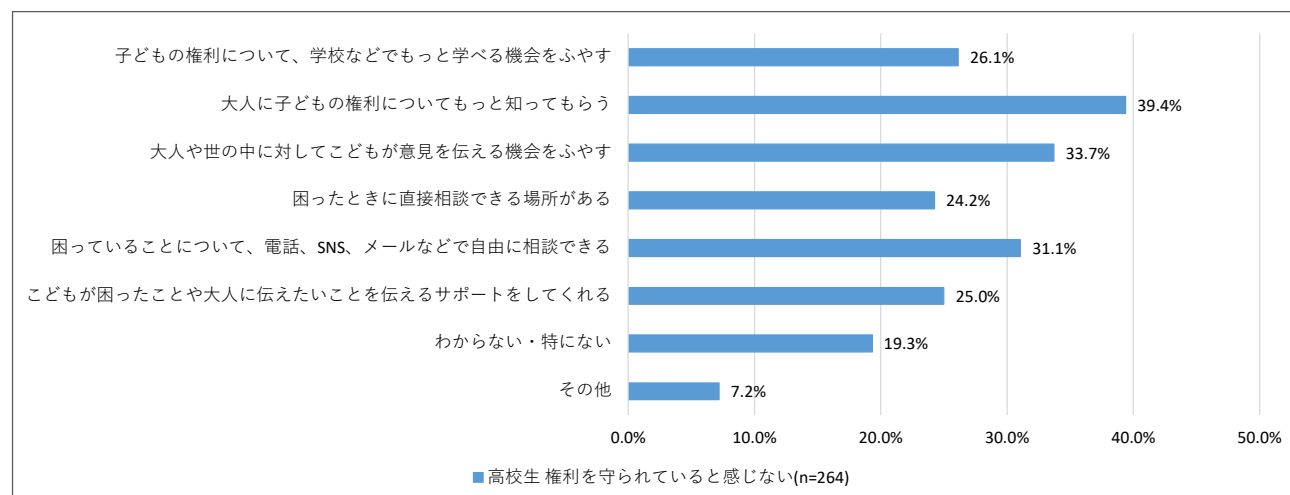


図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(高校生・権利を守られていると感じない)



i. 世帯人員区分別生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

生命生存及び発達に対する権利について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもら」「困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる」が、「3人以上」は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもら」と回答した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 生存及び発達に対する権利の感じ方別
子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	361	55	11	14,515	1,769	235	115	26	13	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもら	273	56	14	11,201	1,832	323	82	41	16	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	249	59	11	10,416	1,676	304	88	33	10	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	260	55	10	10,796	1,366	199	87	28	7	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	264	59	14	10,386	1,535	247	75	34	17	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートしてくれる	192	39	9	9,163	1,222	205	73	19	6	10,928
わからない・特にな	68	44	1	2,328	770	124	48	37	8	3,428
その他	10	7	1	322	108	52	10	2	9	521
合計	709	180	32	28,545	4,677	763	266	116	42	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 生存及び発達に対する権利の感じ方別
子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(2人以下・権利を守られていると感じない)

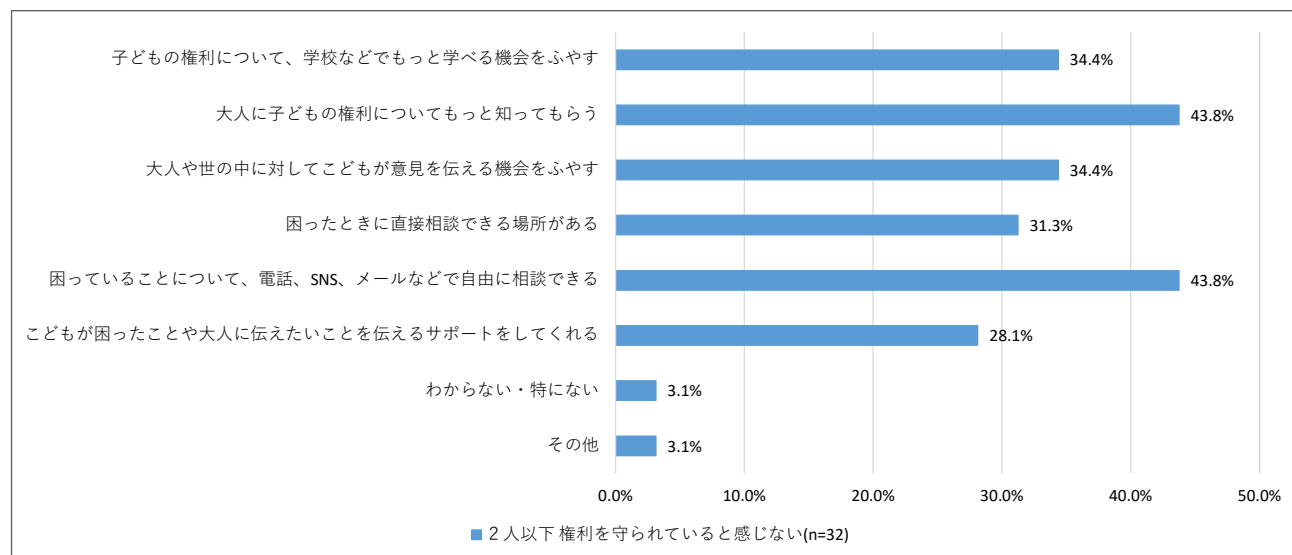
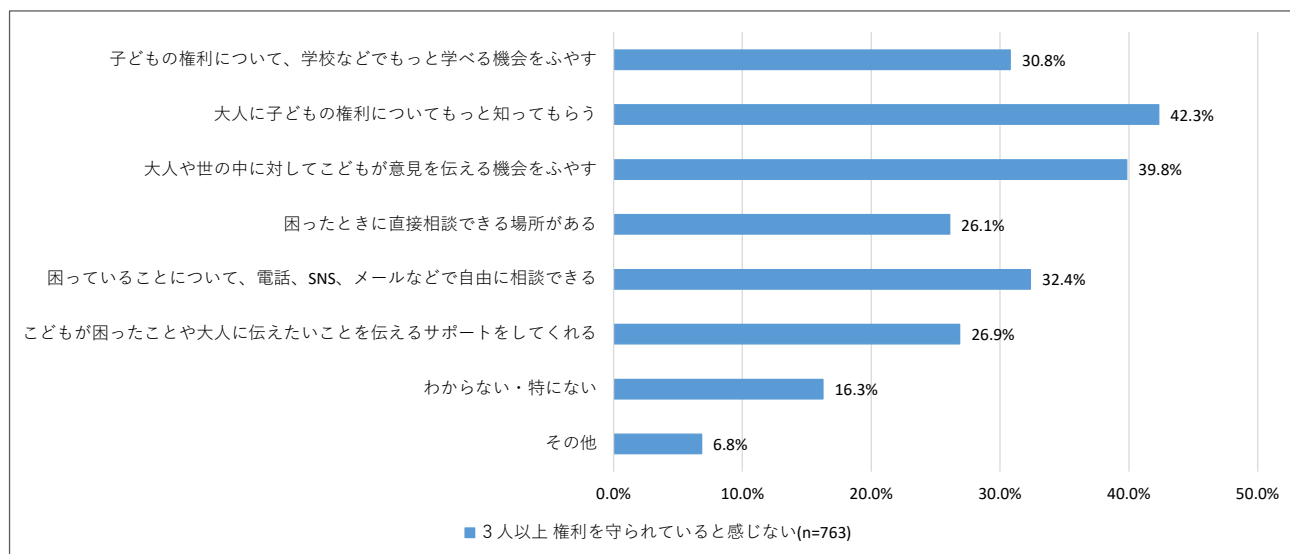


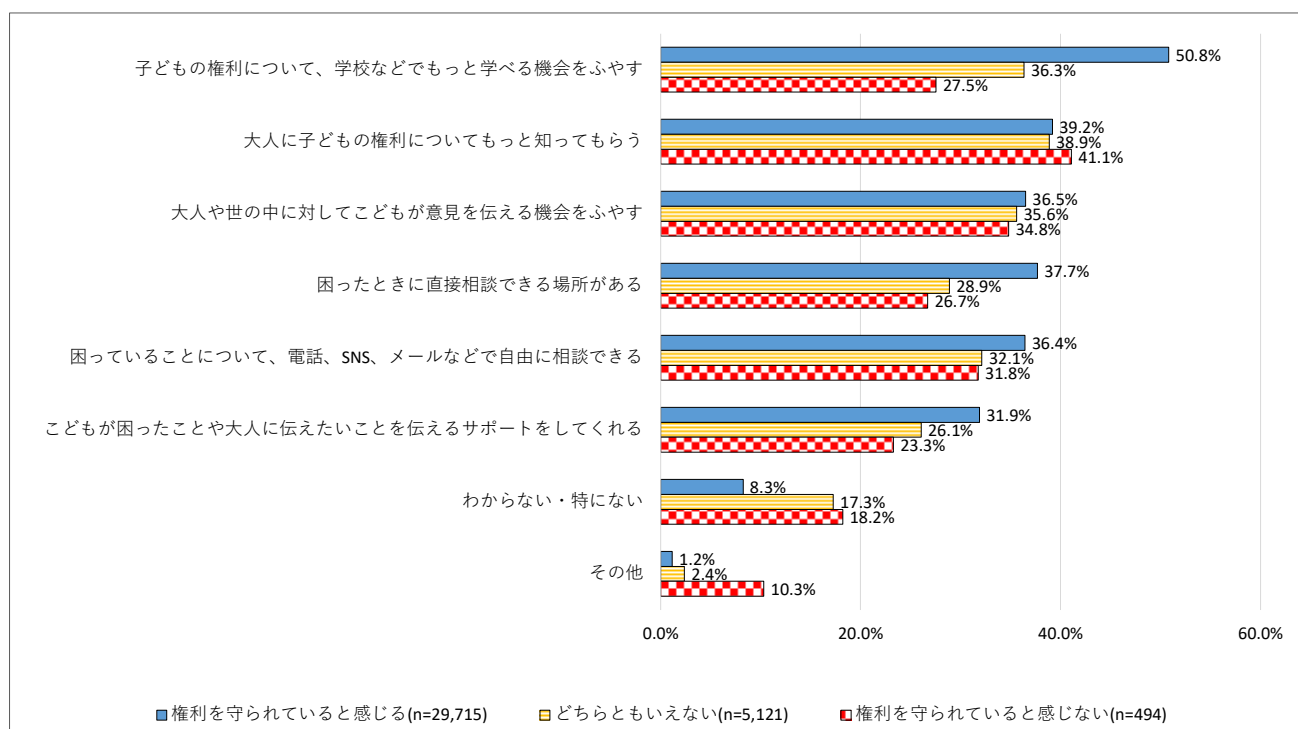
図 世帯人員区分別 生存及び発達に対する権利の感じ方別
 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
 (3人以上・権利を守られていると感じない)



j. 子どもの最善の利益の感じ方別集計

権利の感じ方別では、権利を守られていると感じる群(「とても感じる」「感じる」と回答した児童・生徒)は「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」を選択した割合が最も高く、どちらともいえない群(「どちらともいえない」と回答した児童・生徒)権利を守られていると感じない群(「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒)は、「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」を選択した割合が最も高かった。

図 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



k. 学校区分別子どもの最善の利益の感じ方別集計

子どもの最善の利益の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、全学年で「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」と回答した割合が最も高かった。

表 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	4,766	504	35	6,129	838	58	4,208	519	43	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	3,575	507	56	4,919	882	90	3,151	601	57	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	3,024	438	50	4,584	831	68	3,243	554	54	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	4,122	512	50	4,136	563	38	2,939	404	44	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	2,747	427	44	4,530	687	61	3,551	532	52	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	3,534	430	38	3,673	542	50	2,271	363	27	10,928
わからない・特になし	745	238	26	1,026	332	29	682	315	35	3,428
その他	140	42	17	114	39	21	94	41	13	521
合計	9,086	1,376	145	11,993	2,115	185	8,636	1,630	164	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(小学生・権利を守られていると感じない)

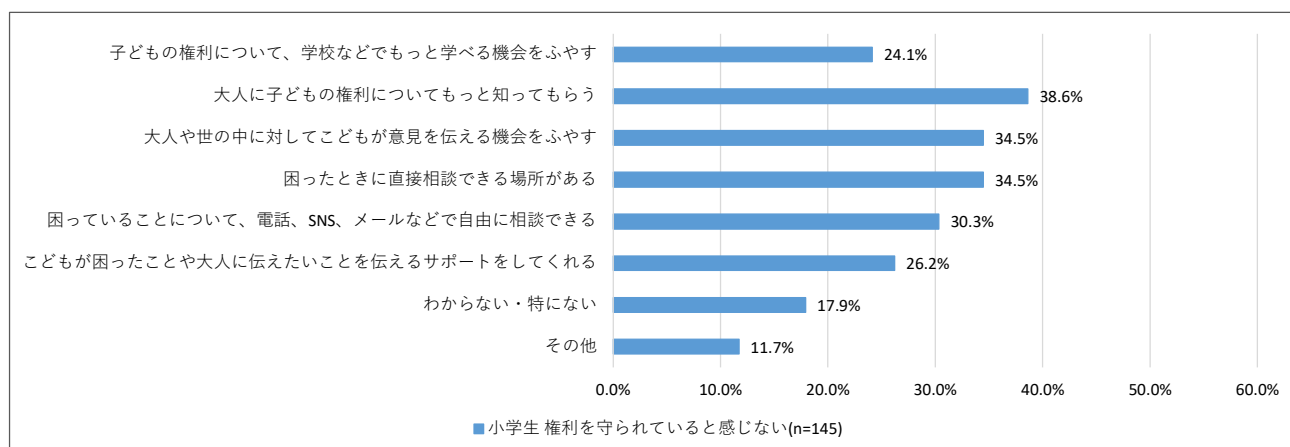


図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(中学生・権利を守られていると感じない)

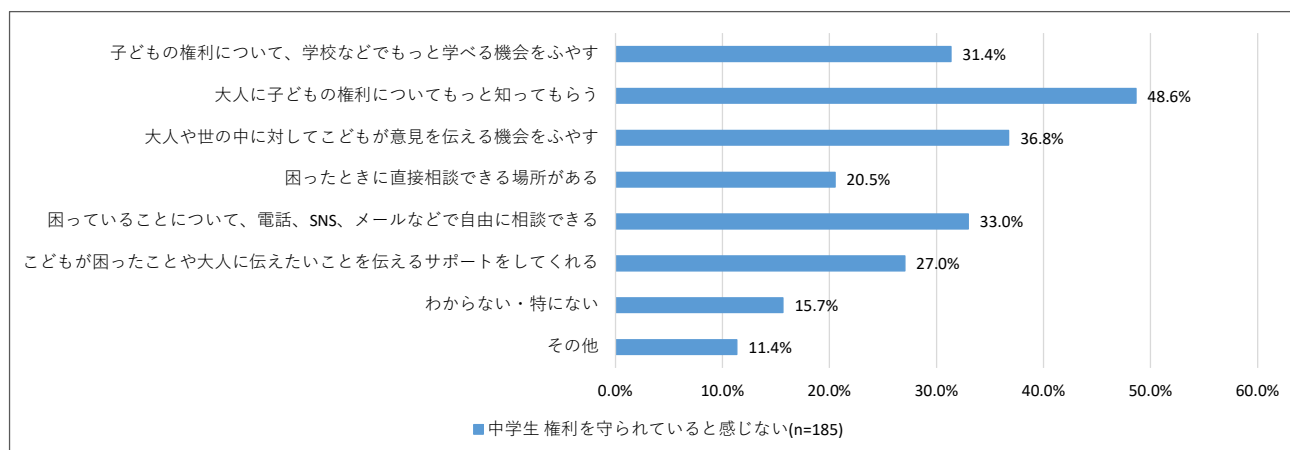
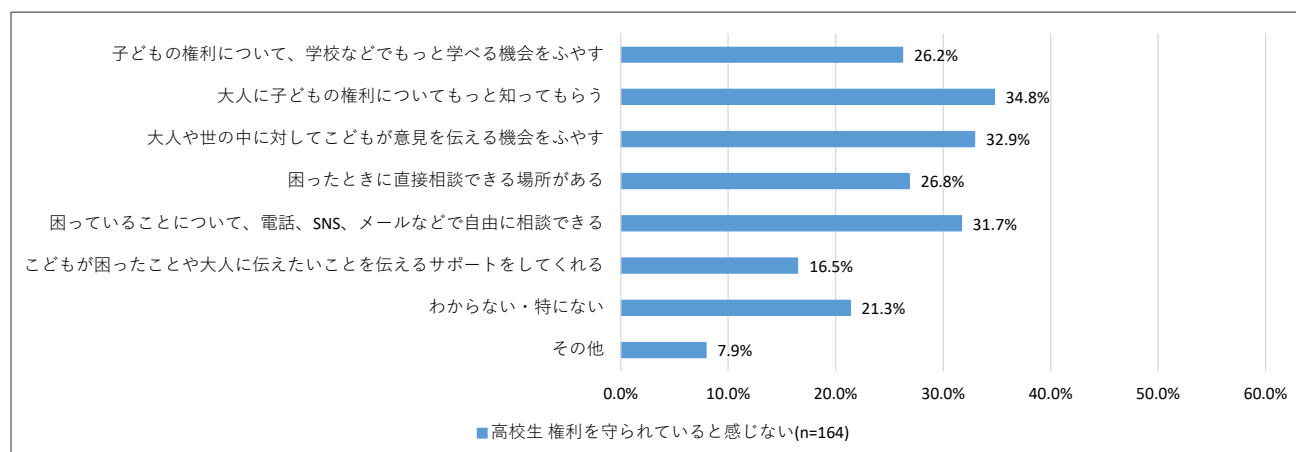


図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(高校生・権利を守られていると感じない)



1. 世帯人員区分別子どもの最善の利益の感じ方別集計

子どもの最善の利益の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」は「困ったときに直接相談できる場所がある」が、世帯人員区分「3人以上」は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」と回答した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	366	57	4	14,622	1,768	129	115	36	3	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	277	59	7	11,276	1,893	187	92	38	9	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	256	57	6	10,505	1,733	158	90	33	8	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	258	59	8	10,852	1,390	119	87	30	5	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	271	59	7	10,470	1,556	142	87	31	8	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	198	39	3	9,205	1,275	110	75	21	2	10,928
わからない・特になし	68	45	0	2,337	801	84	48	39	6	3,428
その他	11	5	2	327	114	41	10	3	8	521
合計	720	184	17	28,716	4,819	450	279	118	27	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(2人以下・権利を守られていると感じない)

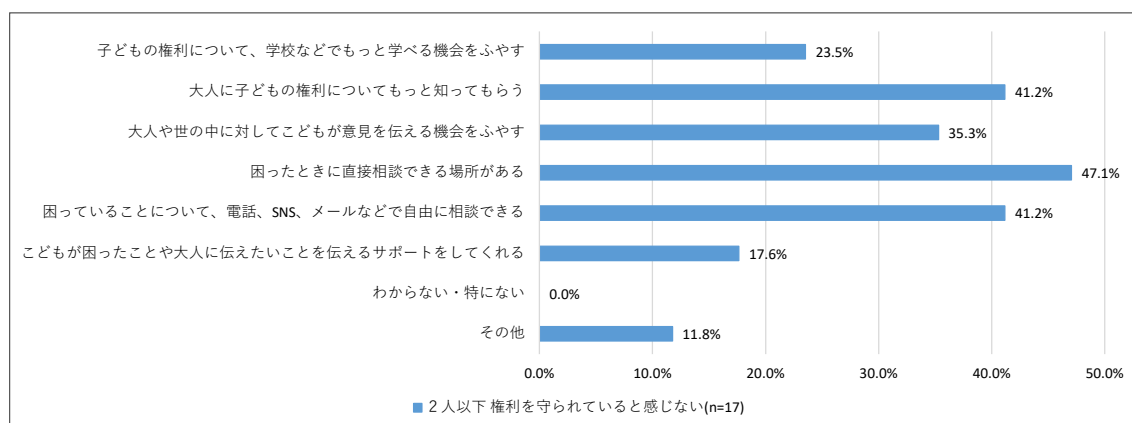
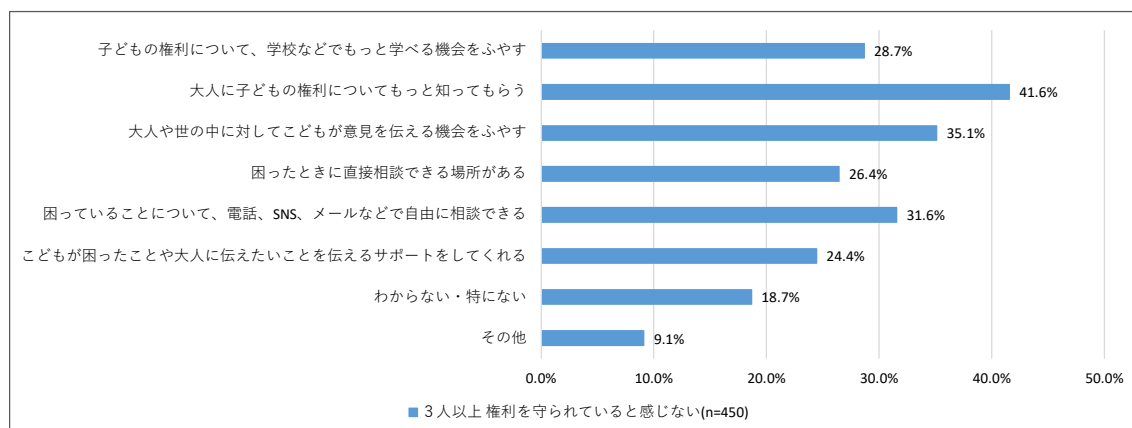


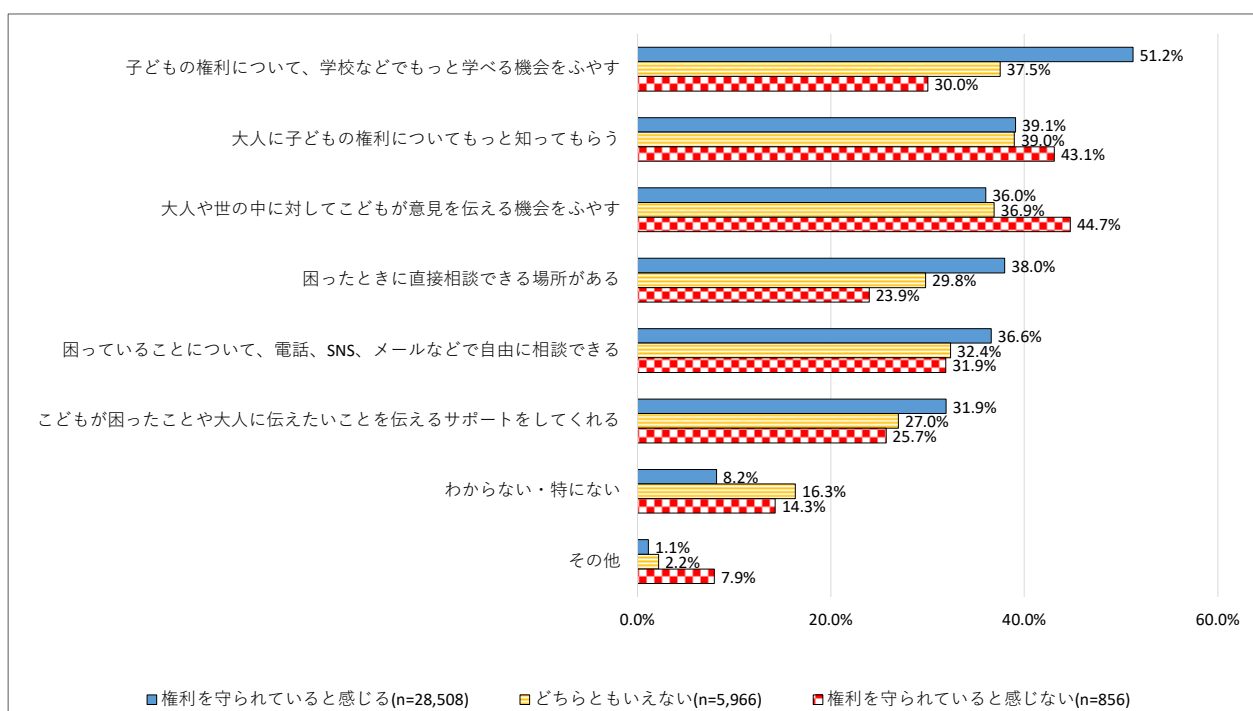
図 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(3人以上・権利を守られていると感じない)



m. 子どもの意見の尊重の感じ方別集計

権利の感じ方別では、権利を守られていると感じる群（「とても感じる」「感じる」と回答した児童・生徒）は「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」を選択した割合が、どちらともいえない群（「どちらともいえない」と回答した児童・生徒）は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」を選択した割合が、権利を守られていると感じない群（「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒）は「大人や世の中に対して意見を伝える機会をふやす」を選択した割合が最も高かった。

図 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



n. 学校区分別子どもの意見の尊重の感じ方別集計

子どもの意見の尊重について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、小学生、高校生は「大人や世の中に対してこどもが意見を伝える機会をふやす」が、「中学生」は「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」と回答した割合が最も高かった。

表 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていると感じない	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	4,595	627	83	5,900	1,013	112	4,110	598	62	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	3,433	601	104	4,654	1,068	169	3,058	655	96	13,838
大人や世の中に対してこどもが意見を伝える機会をふやす	2,856	551	105	4,304	1,011	168	3,103	638	110	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	4,000	610	74	3,987	672	78	2,838	496	53	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	2,635	503	80	4,323	843	112	3,468	586	81	12,631
こどもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	3,384	550	68	3,519	651	95	2,196	408	57	10,928
わからない・特になし	716	257	36	952	388	47	664	329	39	3,428
その他	133	43	23	104	45	25	87	41	20	521
合計	8,724	1,624	259	11,407	2,533	353	8,377	1,809	244	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(小学生・権利を守られていると感じない)

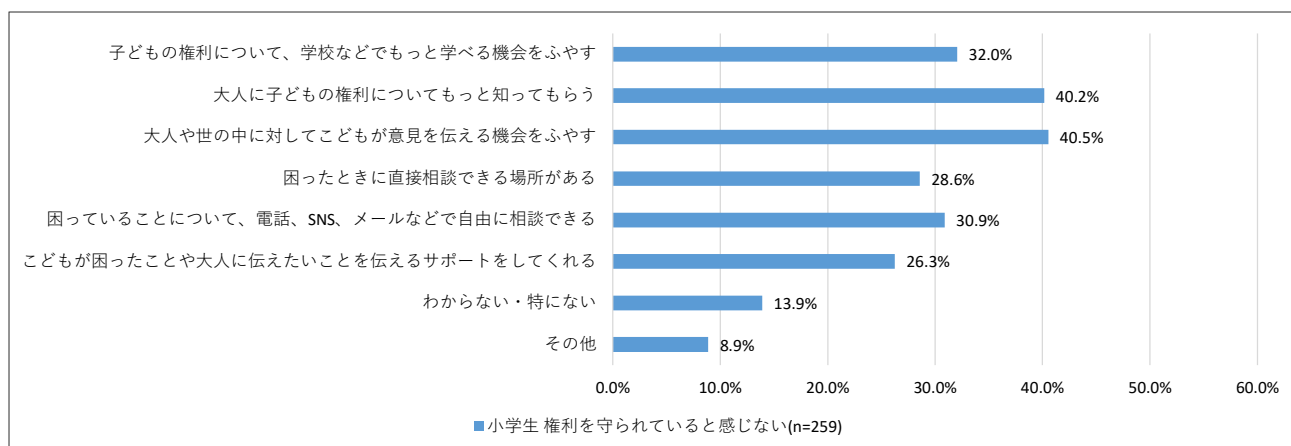


図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(中学生・権利を守られていると感じない)

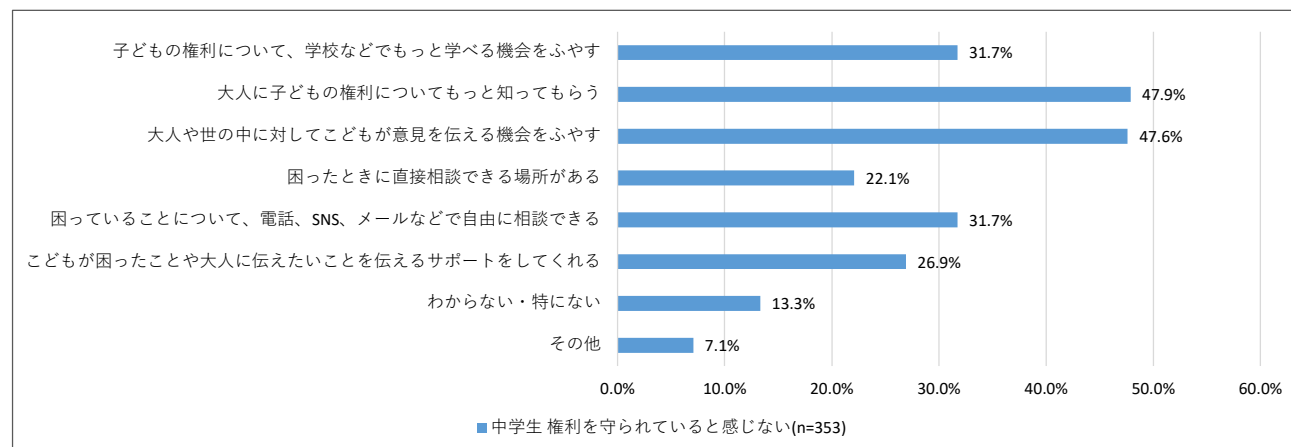
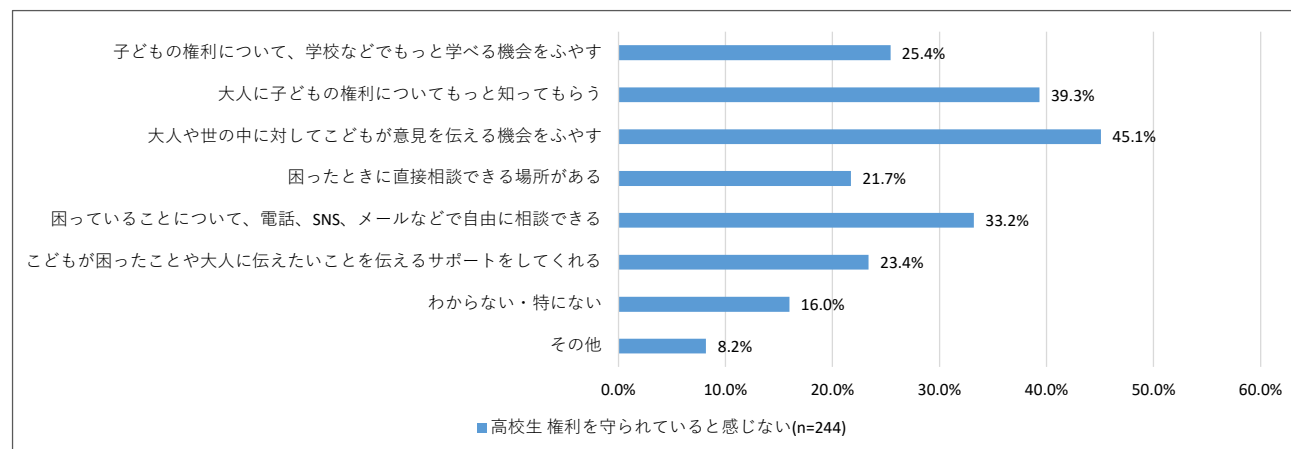


図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(高校生・権利を守られていると感じない)



o. 世帯人員区分別子どもの意見の尊重の感じ方別集計

子どもの意見の尊重について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」「3人以上」は「大人や世の中に対してこどもが意見を伝える機会をふやす」と回答した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	353	67	7	14,144	2,135	240	108	36	10	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	274	57	12	10,784	2,228	344	87	39	13	13,838
大人や世の中に対してこどもが意見を伝える機会をふやす	243	57	19	9,940	2,101	355	80	42	9	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	253	61	11	10,484	1,688	189	88	29	5	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	253	72	12	10,101	1,819	248	72	41	13	12,631
こどもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	189	46	5	8,838	1,542	210	72	21	5	10,928
わからない・特にな	65	46	2	2,223	888	111	44	40	9	3,428
その他	9	6	3	307	119	56	8	4	9	521
合計	687	201	33	27,565	5,633	787	256	132	36	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(2人以下・権利を守られていると感じない)

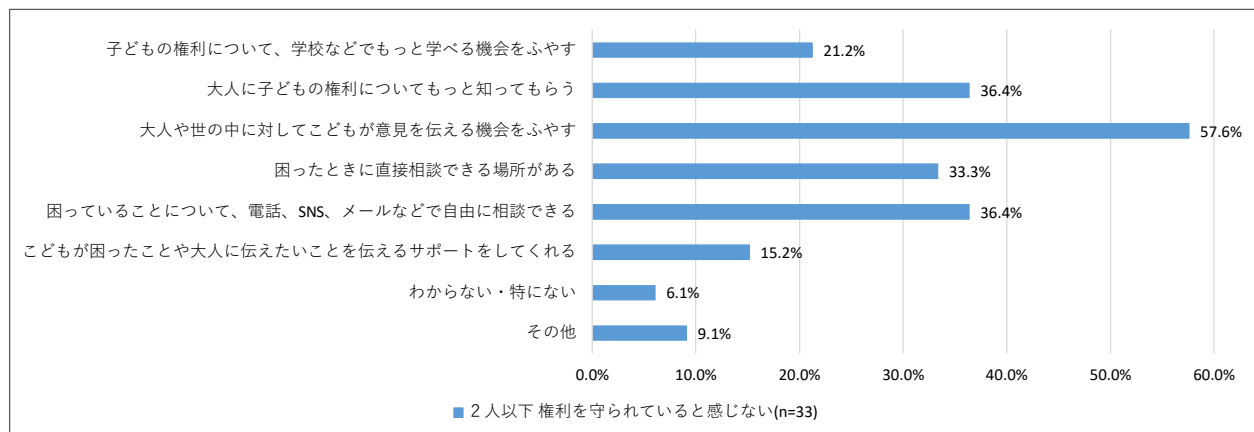
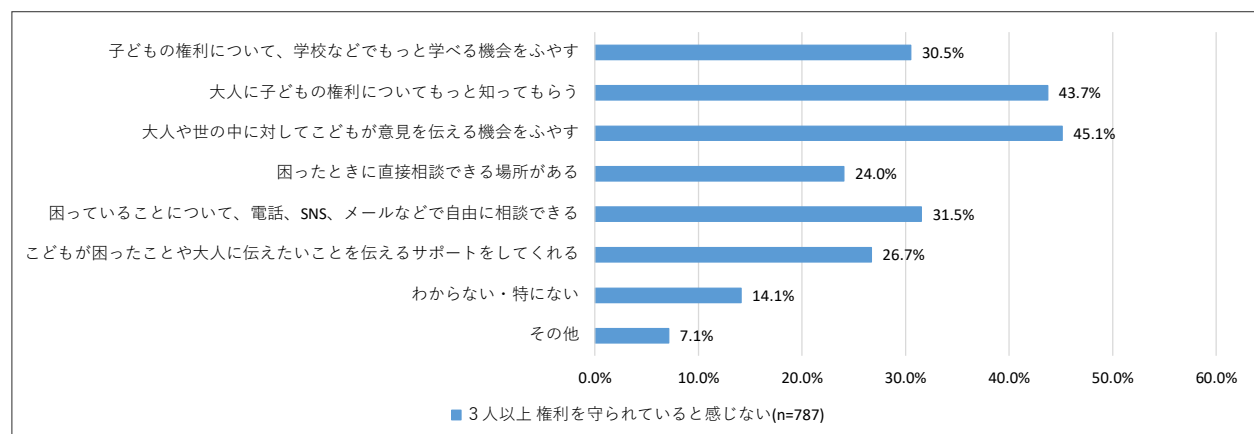


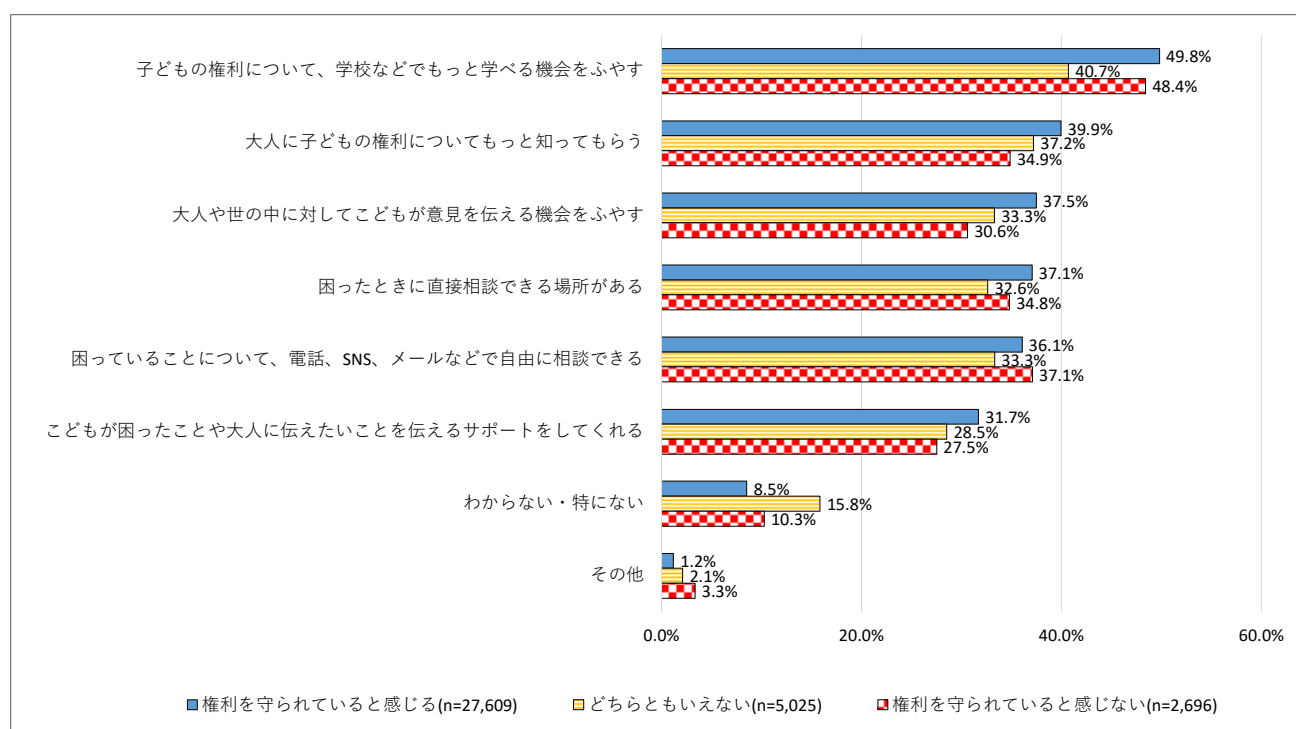
図 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(3人以上・権利を守られていると感じない)



p. 差別的な扱いの感じ方別集計

権利の感じ方別では、すべての群で「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が最も高かった。権利を守られていると感じる群（「まったく感じない」「あまり感じない」と回答した児童・生徒）、どちらともいえない群（「どちらともいえない」と回答した児童・生徒）は、「大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう」の項目が次いで高かった。権利を守られていないと感じる群（「とても感じる」「感じる」と回答した児童・生徒）は「困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる。」の項目が次いで高かった。

図 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



q. 学校区分別差別的な扱いの感じ方別集計

差別の禁止について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、学校区分に依らず、「子どもの権利について学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が最も高かった。

表 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	4,199	708	398	5,700	885	440	3,851	452	467	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	3,196	630	312	4,726	803	362	3,106	437	266	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	2,731	541	240	4,399	755	329	3,218	377	256	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	3,668	676	340	3,825	616	296	2,738	347	302	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	2,406	516	296	4,192	748	338	3,359	410	366	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる	3,116	585	301	3,436	574	255	2,201	274	186	10,928
わからない・特になし	708	225	76	979	298	110	668	273	91	3,428
その他	117	40	42	123	31	20	85	35	28	521
合計	8,081	1,675	851	11,297	2,066	930	8,231	1,284	915	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(小学生・権利を守られていると感じない)

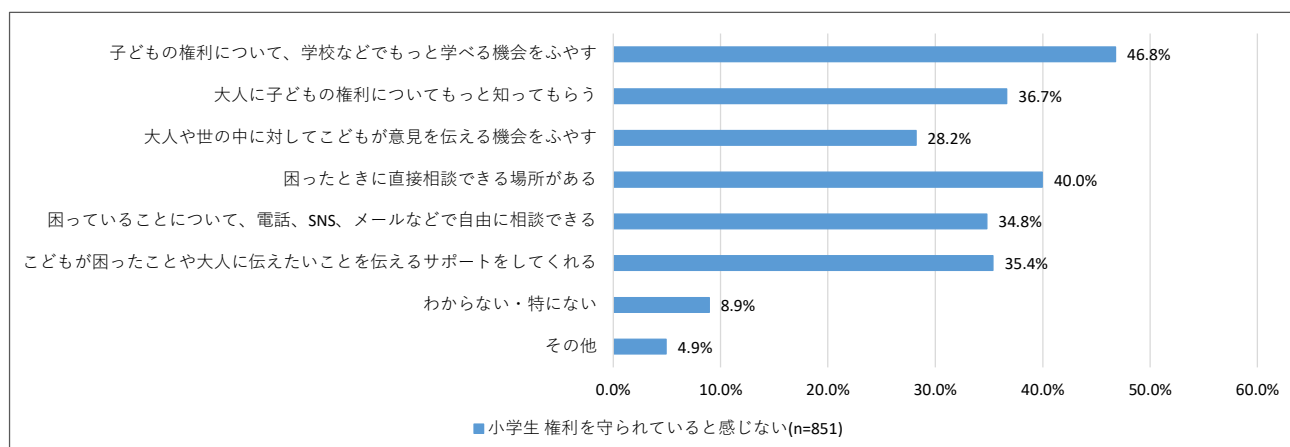


図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(中学生・権利を守られていると感じない)

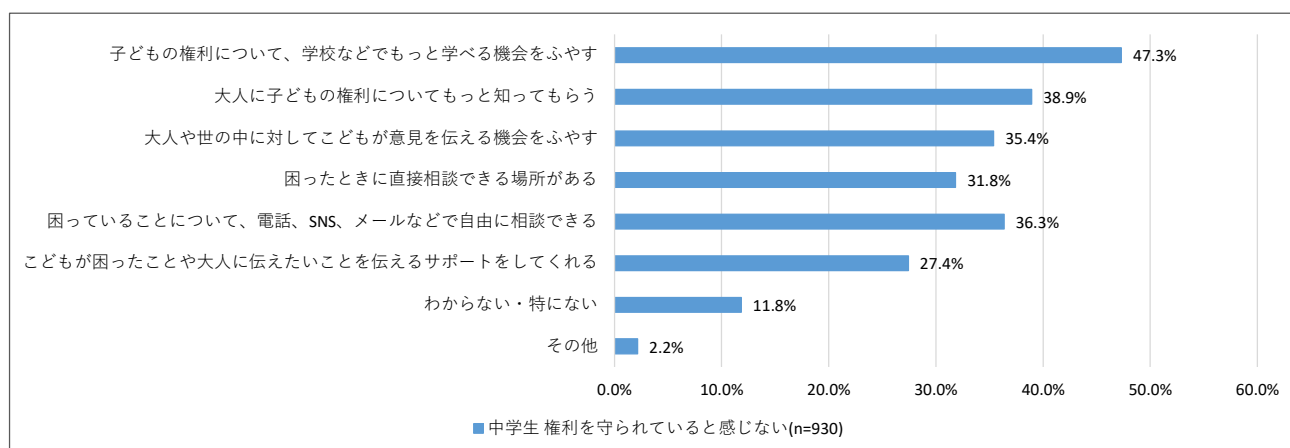
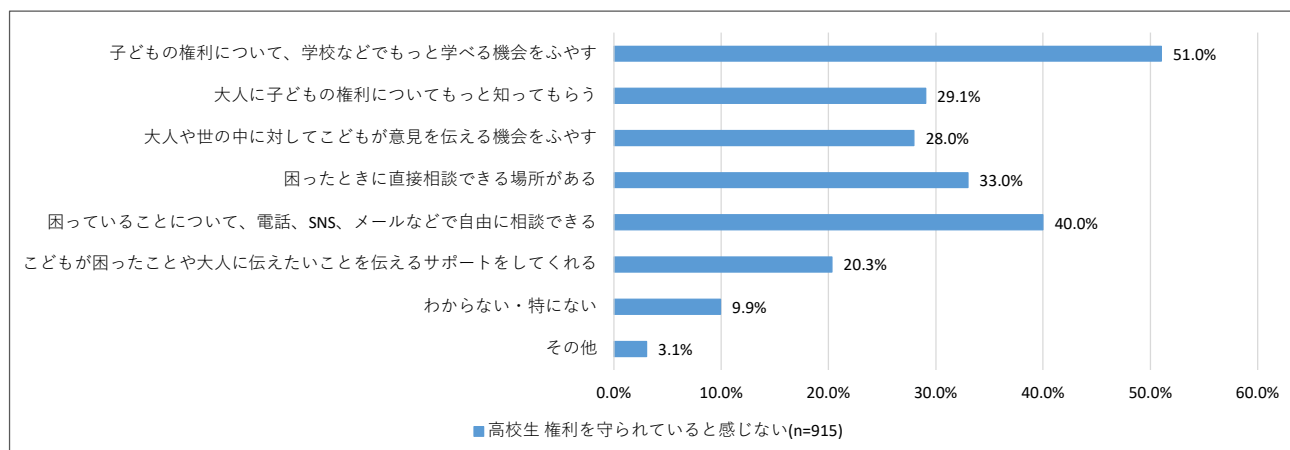


図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(高校生・権利を守られていると感じない)



r. 世帯人員区分別差別的な扱いの感じ方別集計

差別的禁止について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」「3人以上」は「子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす」と回答した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす	325	66	36	13,326	1,944	1,249	99	35	20	17,100
大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう	270	46	27	10,675	1,791	890	83	33	23	13,838
大人や世の中に対して子どもが意見を伝える機会をふやす	235	51	33	10,039	1,584	773	74	38	19	12,846
困ったときに直接相談できる場所がある	241	50	34	9,909	1,561	891	81	28	13	12,808
困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる	258	45	34	9,621	1,599	948	78	30	18	12,631
子どもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートしてくれる	182	35	23	8,503	1,377	710	68	21	9	10,928
わからない・特にな	61	41	11	2,249	719	254	45	36	12	3,428
その他	12	5	1	305	97	80	8	4	9	521
合計	660	168	93	26,700	4,744	2,541	249	113	62	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(2人以下・権利を守られていないと感じない)

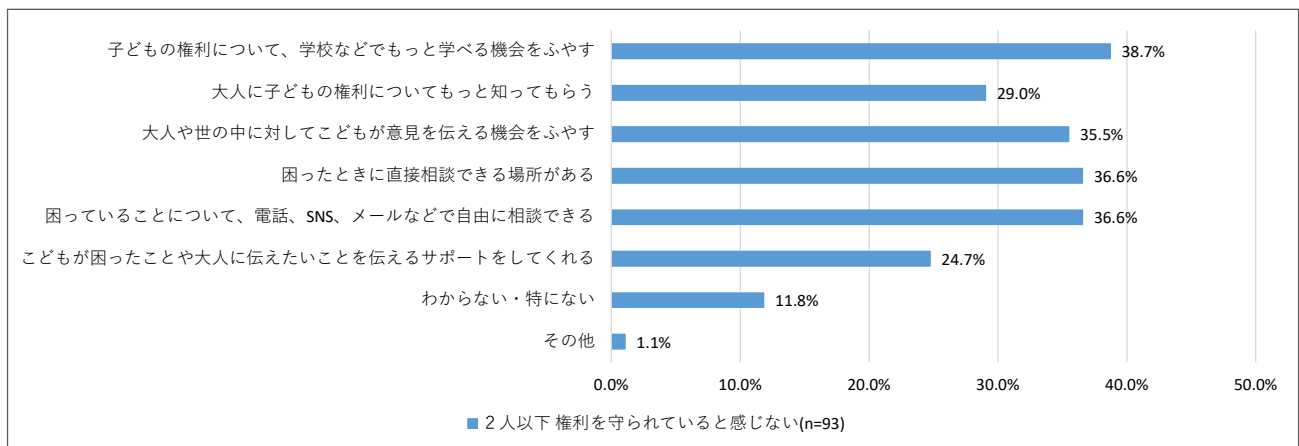
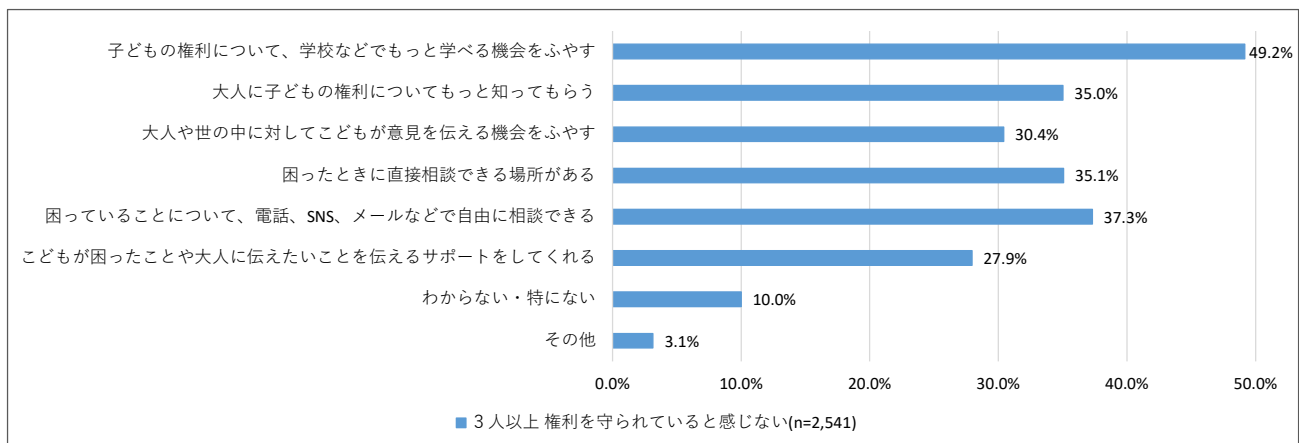


図 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み
(3人以上・権利を守られていないと感じない)



(7) 将来の希望

a. 学校区分別集計

「小学生」を除き「好きなことをしてすごしている」と回答した割合が最も高かった。「小学生」では「心も体も健康にすごしている」の回答割合が最も高かった。

図 学校区分別 将来の希望（小学生）

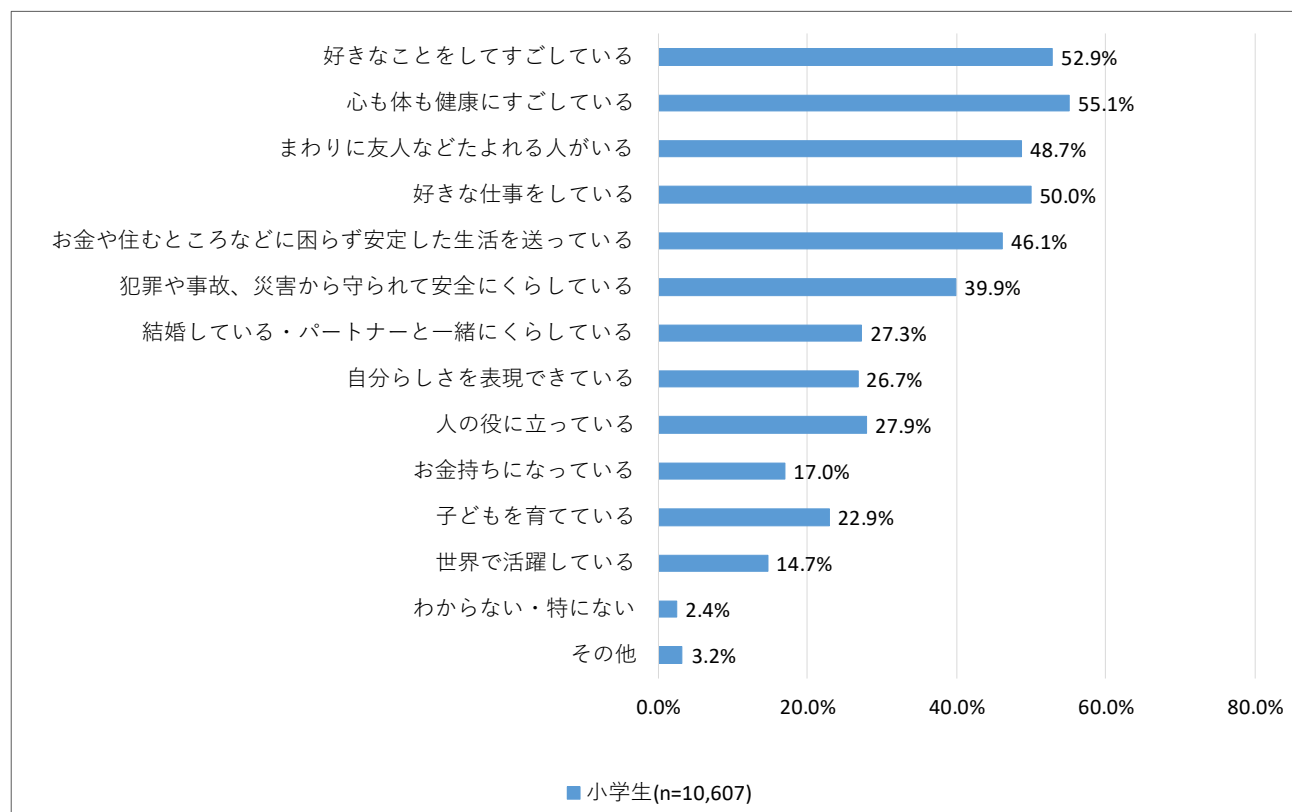


図 学校区分別 将来の希望（中学生）

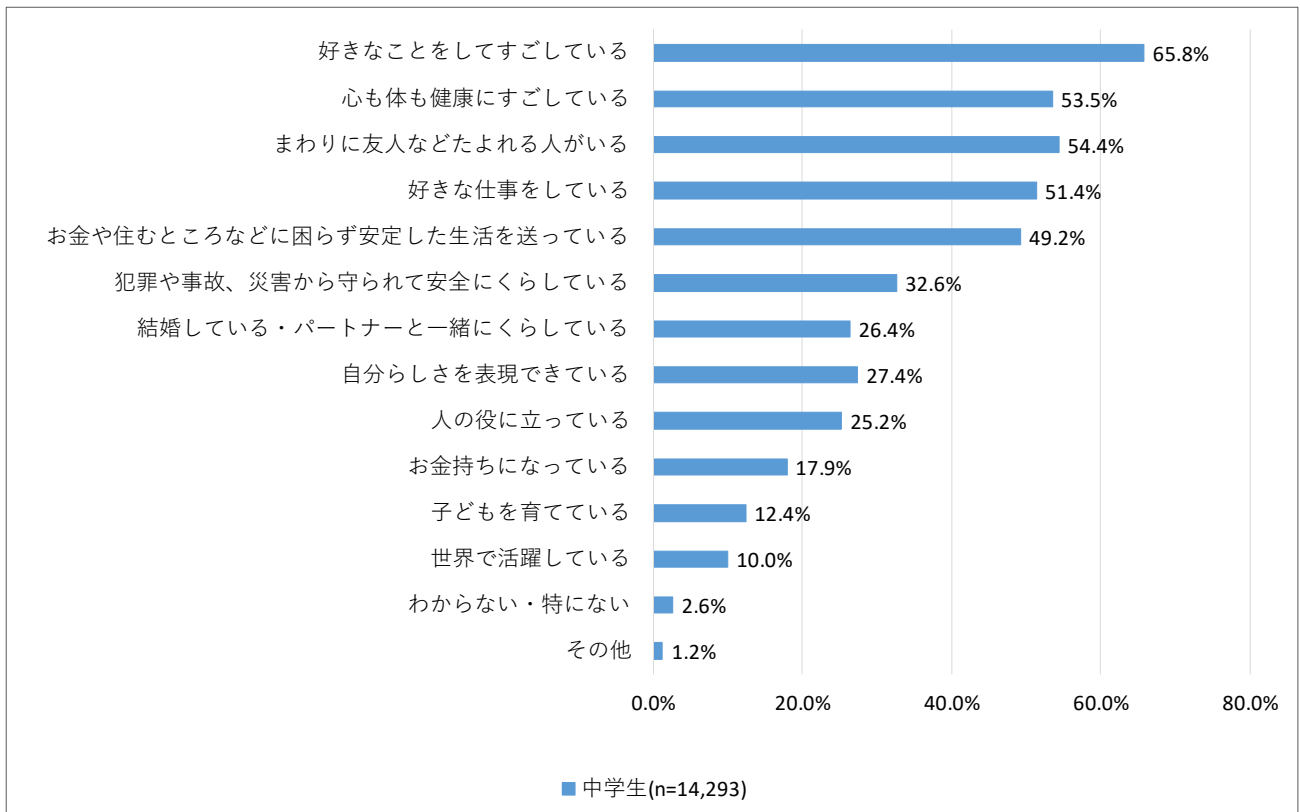
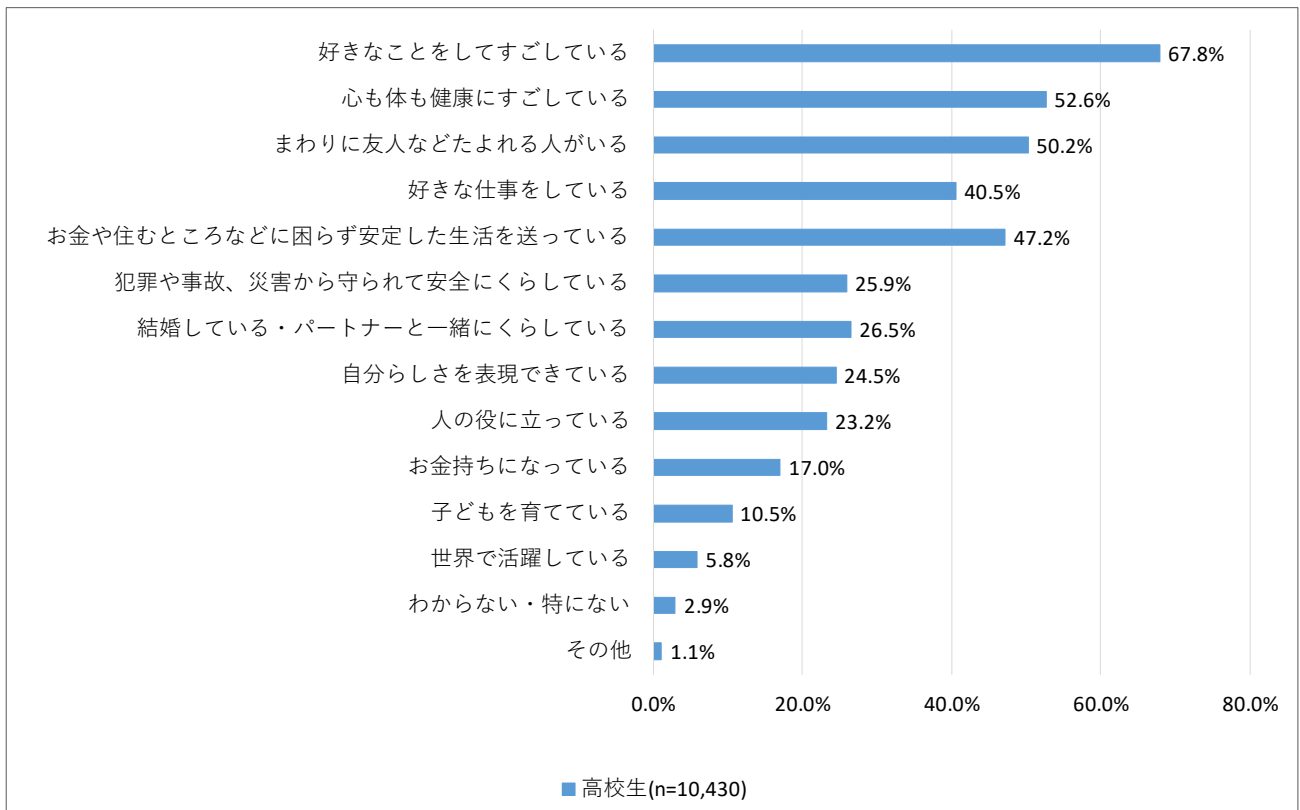


図 学校区分別 将来の希望（高校生）



b. 性別集計

すべての性別で「好きなことをしてすごしている」と回答した割合が最も高く、「男」が約 65%、「女」が約 60%、「その他」が約 65%であった。他に、「まわりに友人などたよれる人がいる」や「心も体も健康にすごしている」の項目は「男」と「女」で高い回答率であった。「女」「その他」は「好きな仕事をしている」の回答割合も高かった。「その他」は上記の項目に加え、「自分らしさを表現することができる」の回答割合が「男」「女」と比較し高く、約 37%であった。

図 性別 将来の希望（男）

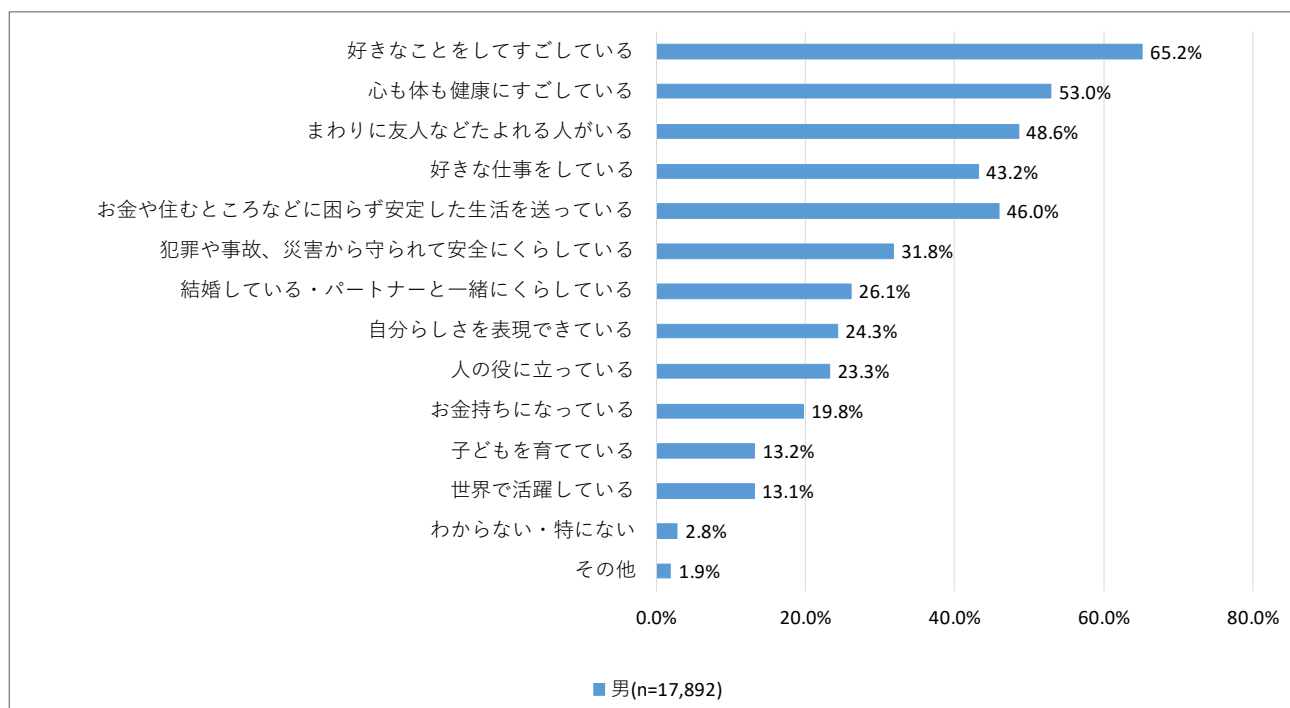


図 性別 将来の希望（女）

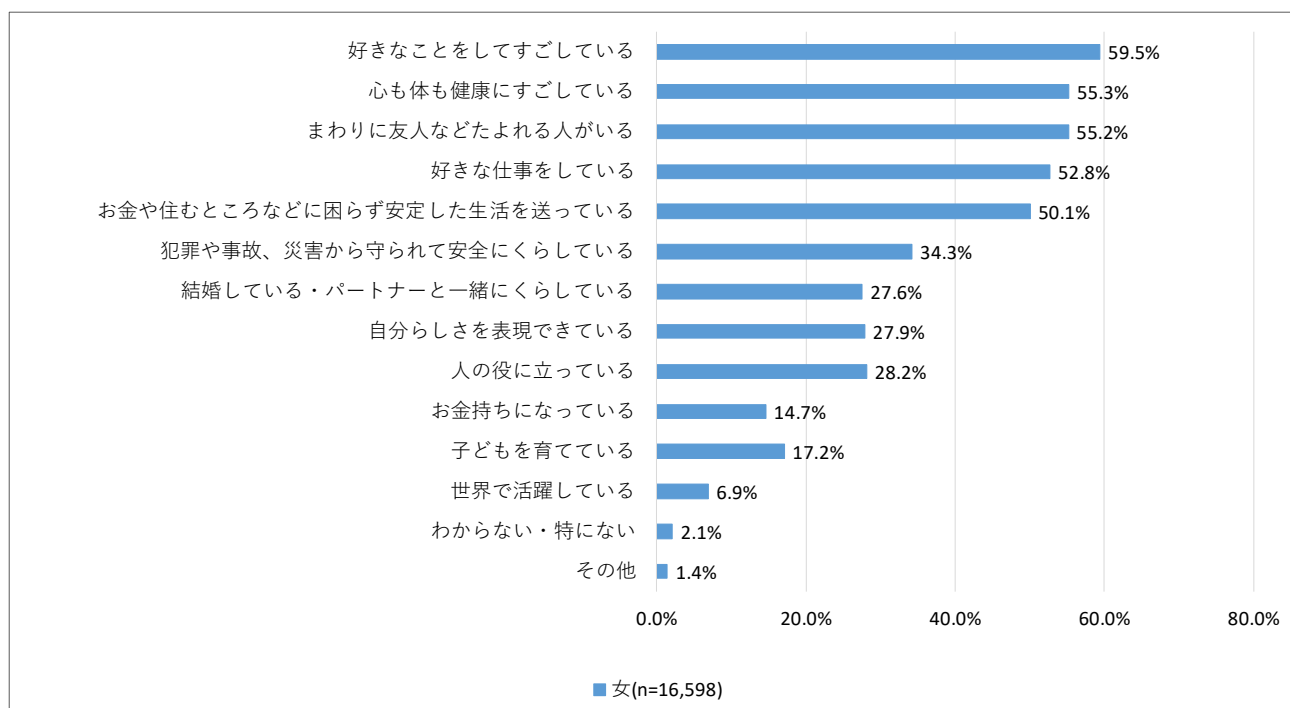
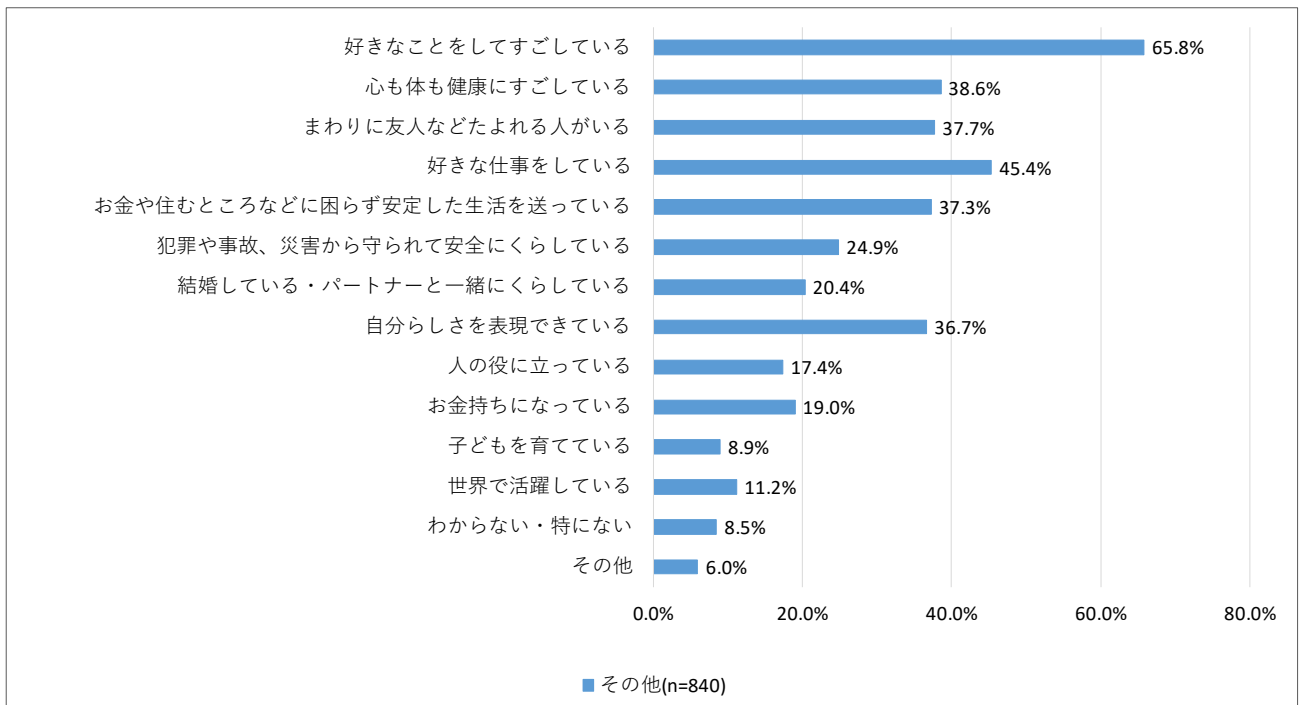


図 性別 将来の希望（その他）



c. 世帯人員区分別集計

すべての世帯人員区分で、「好きなことをして過ごしている」と回答した割合が最も高く、「その他」を除き 60%を上回った。世帯人員区分「2 人以下」「3 人以上」は、「心も体も健康に過ごしている」が、世帯人員区分「その他」は「好きな仕事をしている」が次いで高かった。

図 世帯人員区分別 将来の希望（2 人以下）

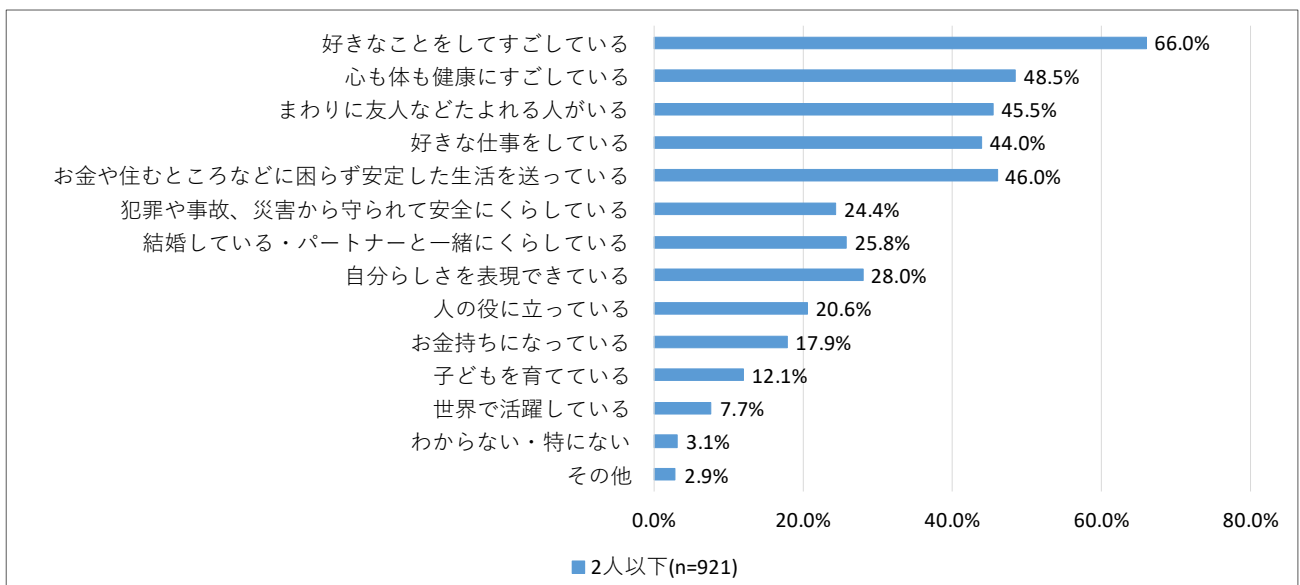


図 世帯人員区分別 将来の希望（３人以上）

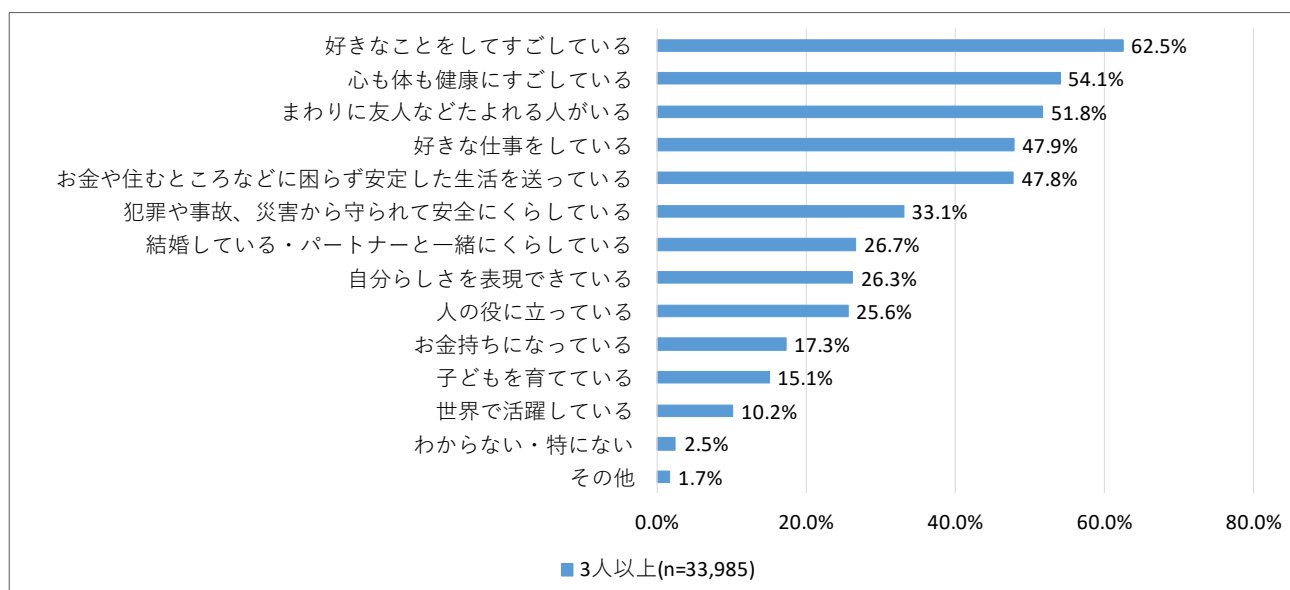
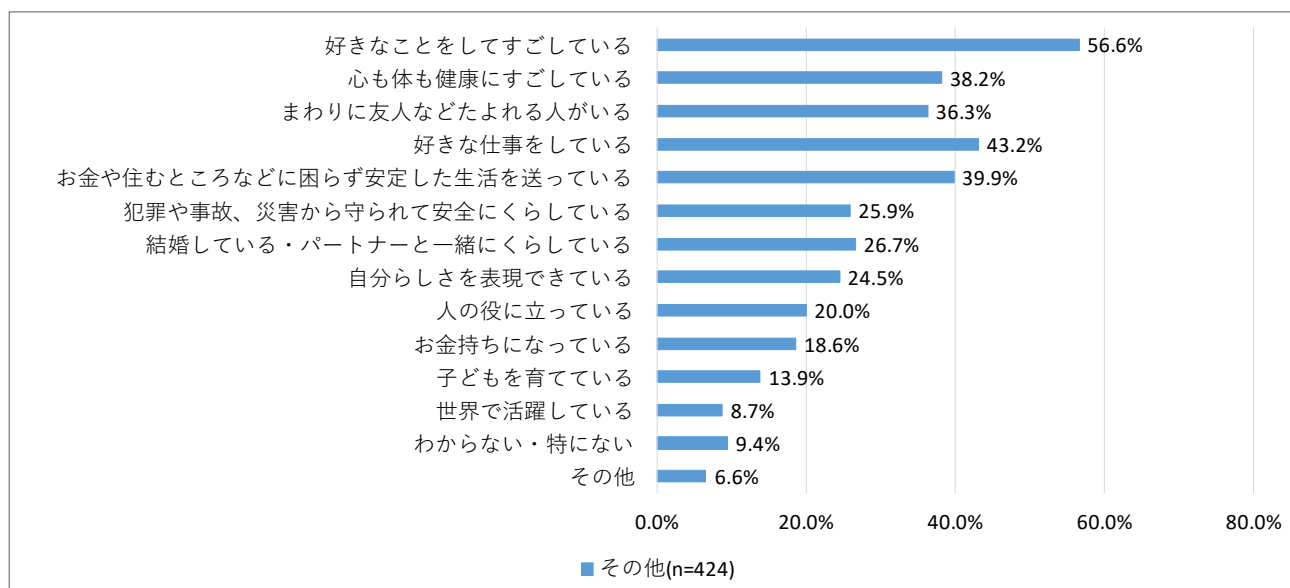


図 世帯人員区分別 将来の希望（その他）



(8) 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

a. 学校区分別集計

小学生は「健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院に行ける」が、中学生は「家や学校で安心してすごせる」が、高校生は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」が最も回答割合が高かった。

図 学校区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（小学生）

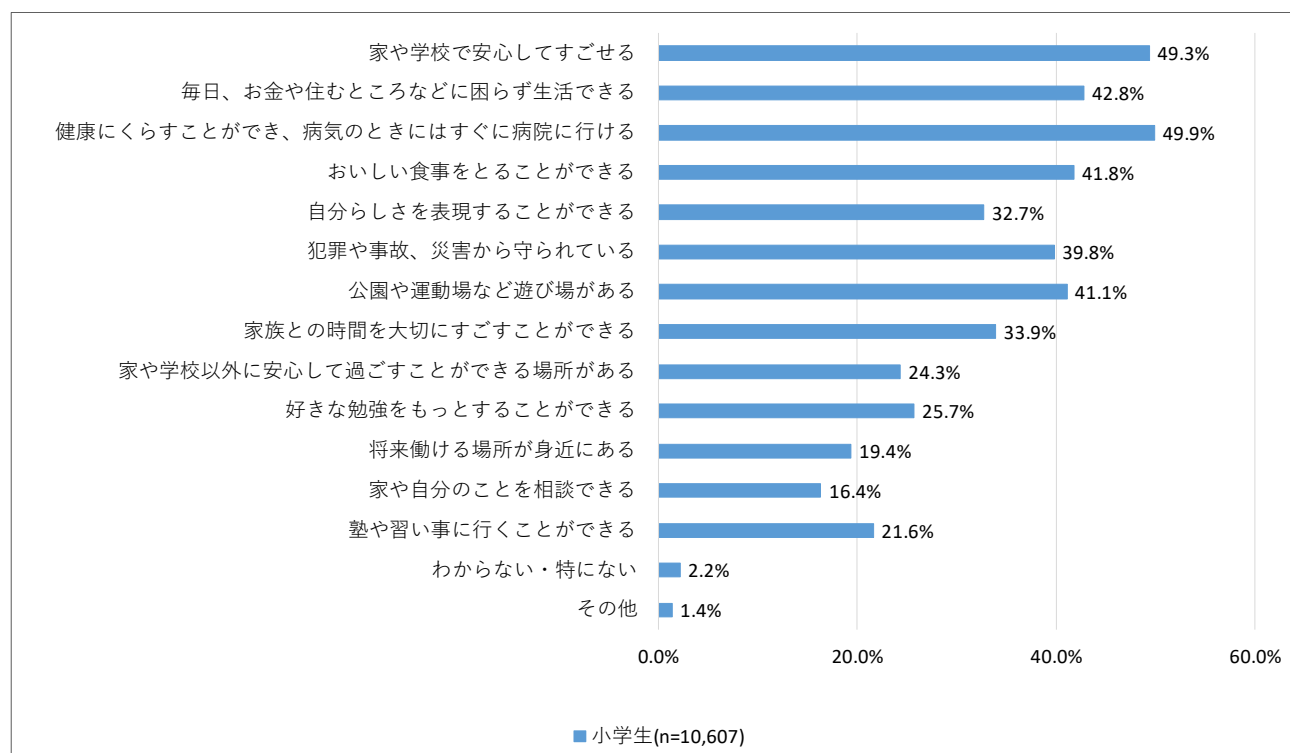


図 学校区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（中学生）

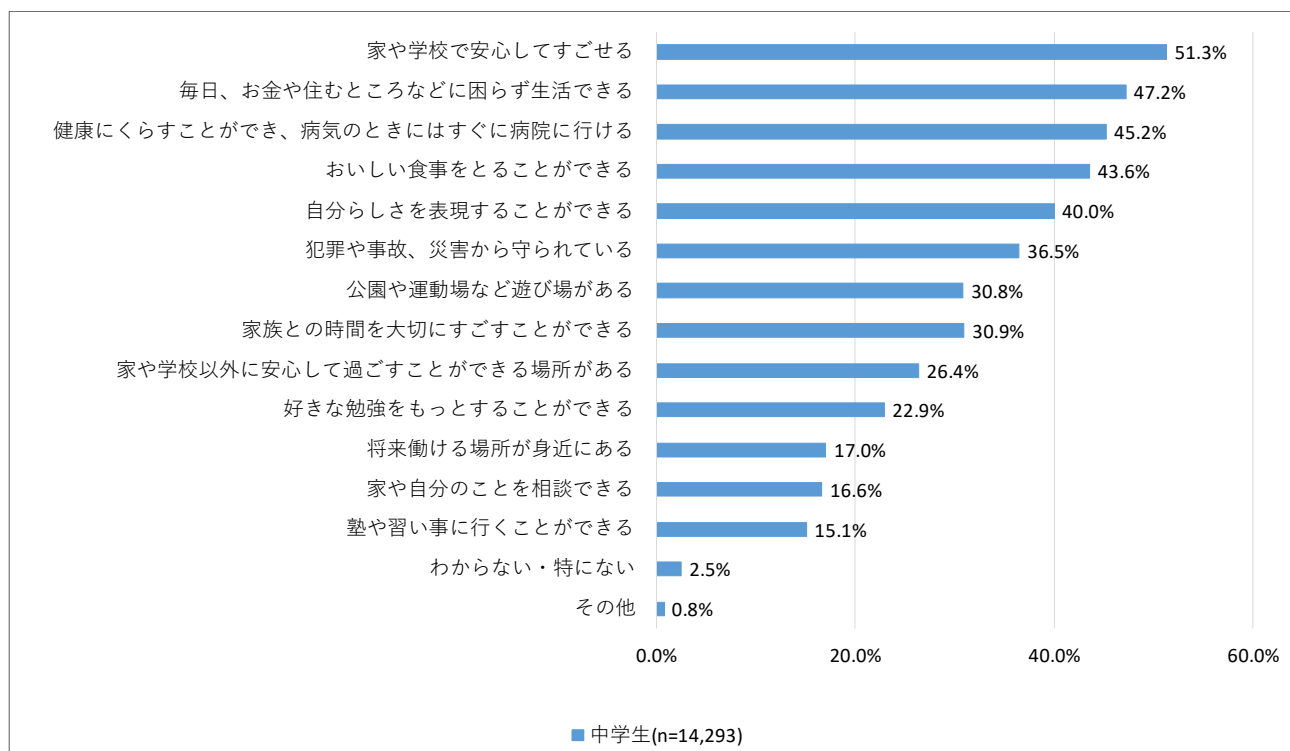
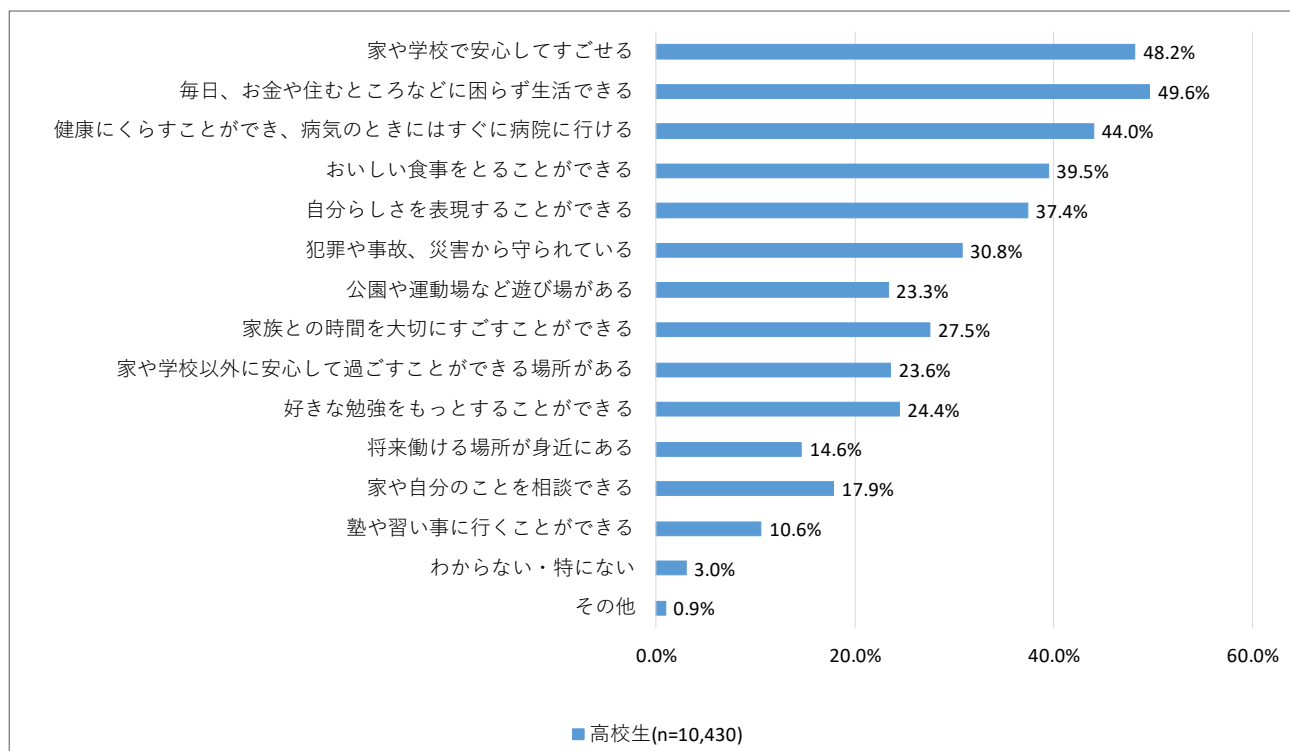


図 学校区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（高校生）



b. 性別集計

男女間では、「家や学校で安心してすごせる」の回答割合が最も高く、「男」が約 47%、「女」が約 53%であった。次いで、「健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院にける」「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」の回答割合が高かった。「その他」は上記の項目に加え、「自分らしさを表現することができる」の回答割合も高く、約 45%であった。

図 性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（男）

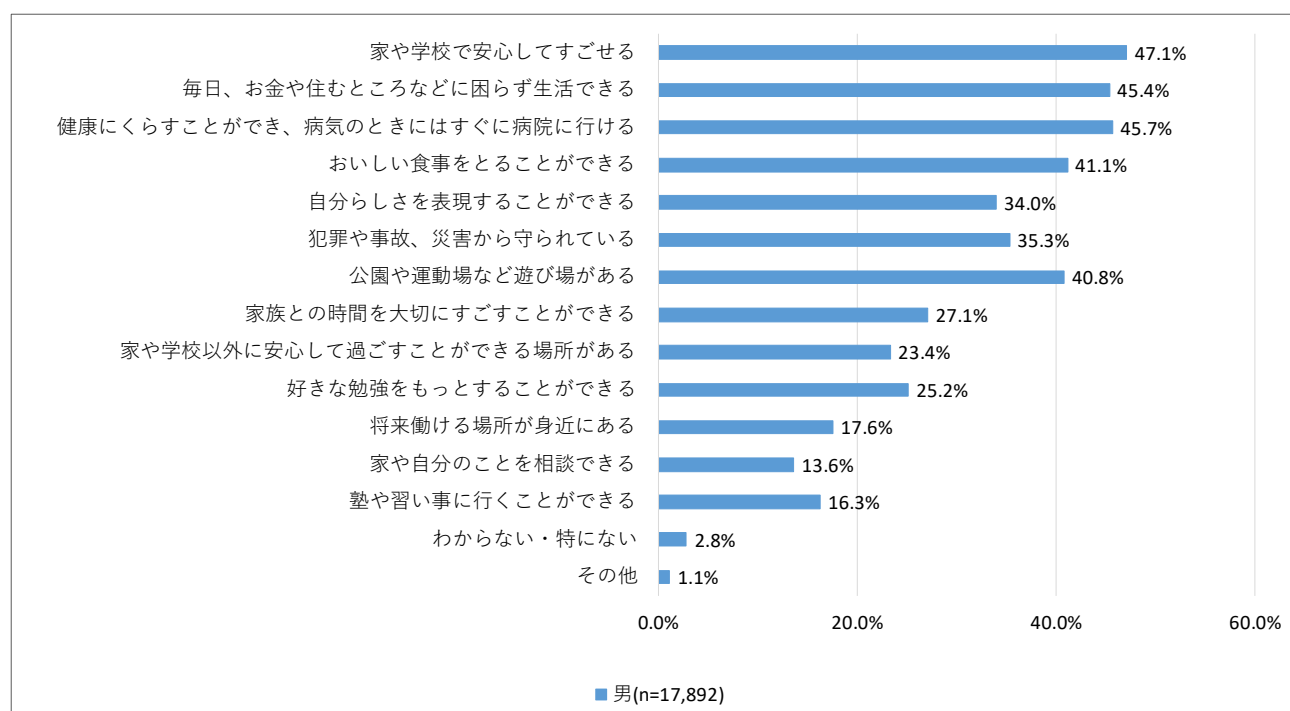


図 性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（女）

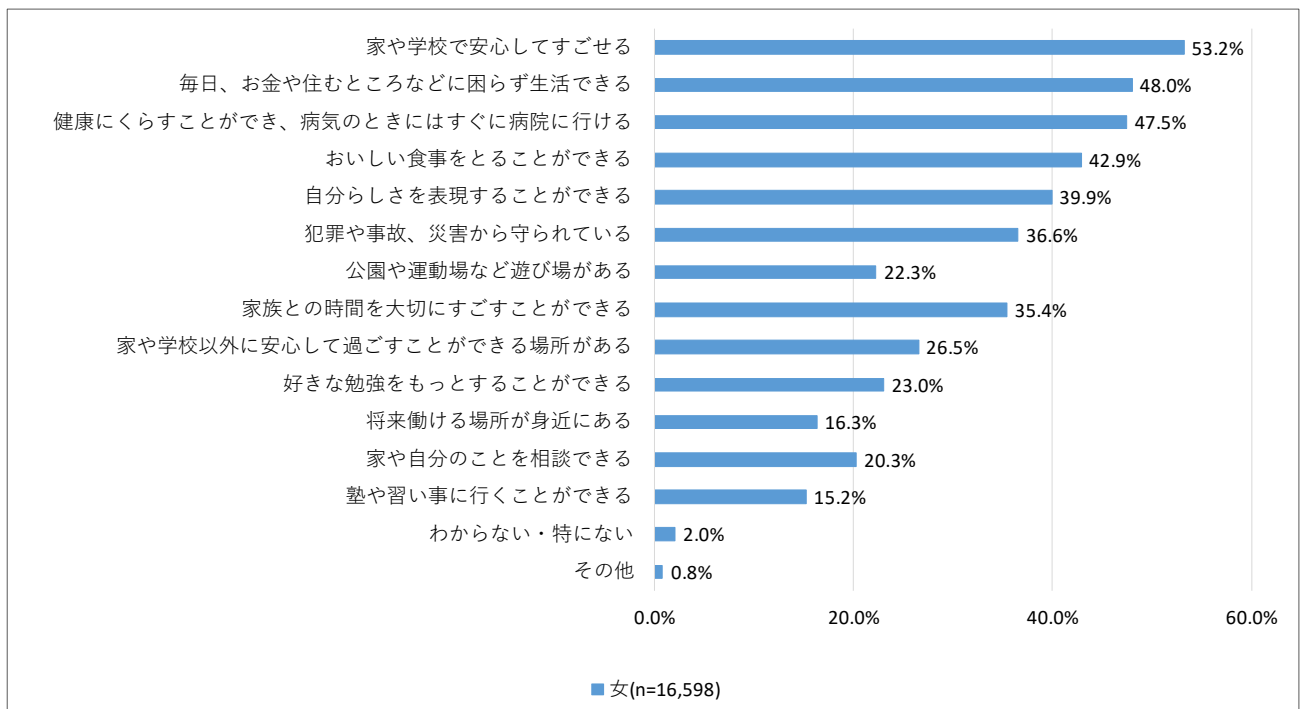
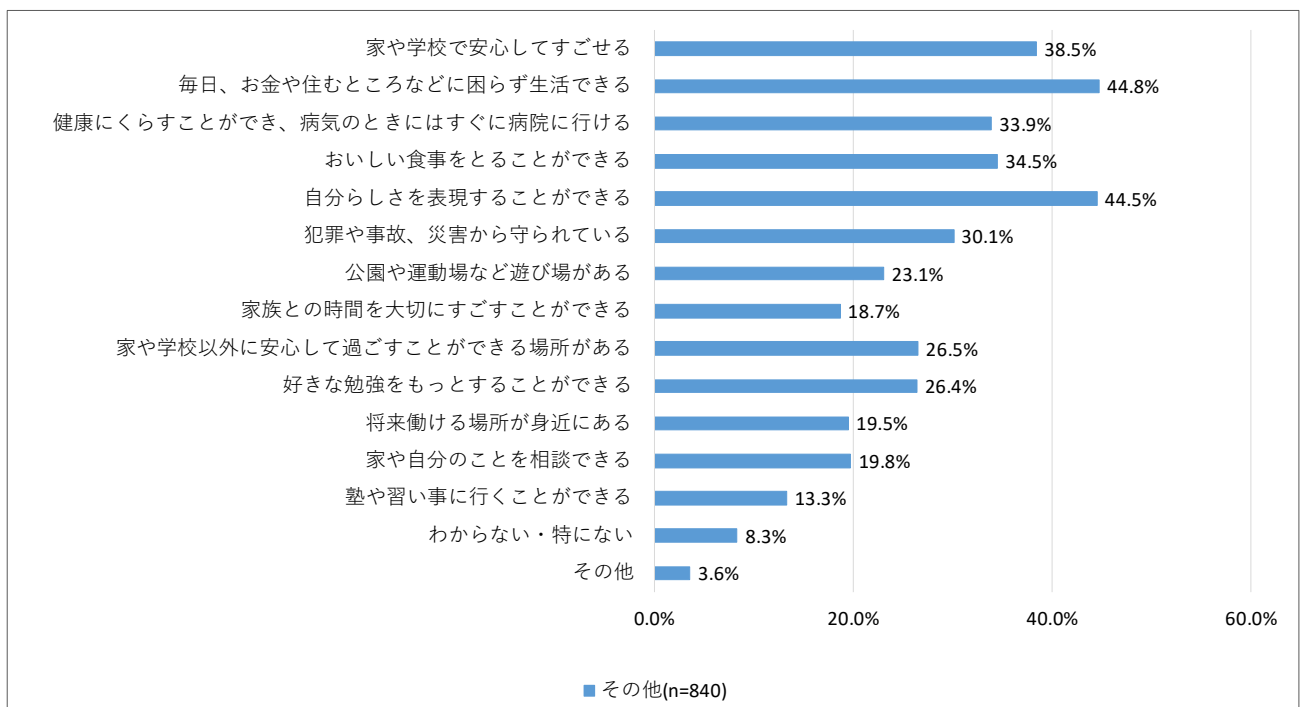


図 性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（その他）



c. 世帯人員区分別集計

世帯人員区分「3人以上」は「家や学校で安心してすごせる」と回答した割合が最も高く、「2人以下」「その他」は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」が最も高かった。

図 世帯人員区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（2人以下）

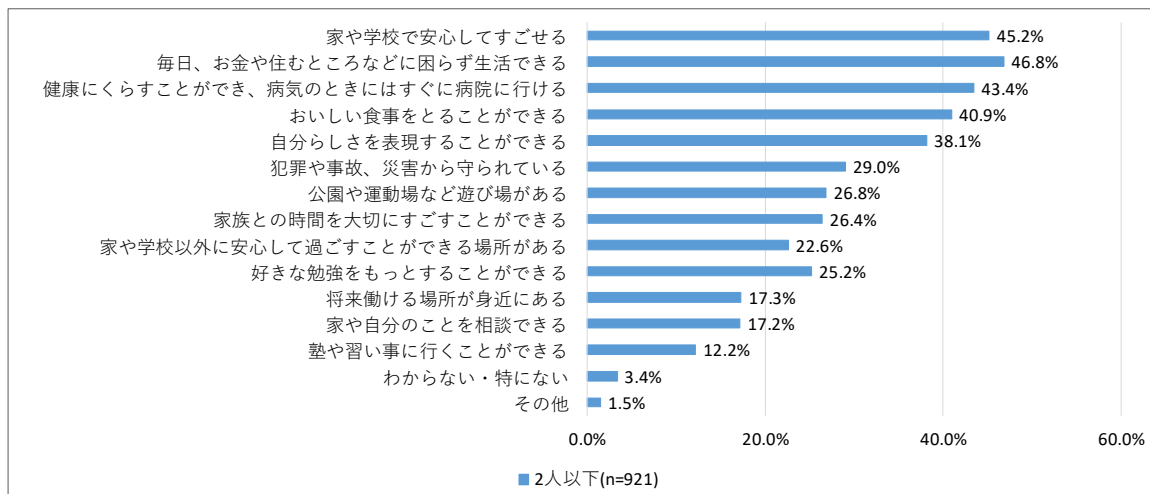


図 世帯人員区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（3人以上）

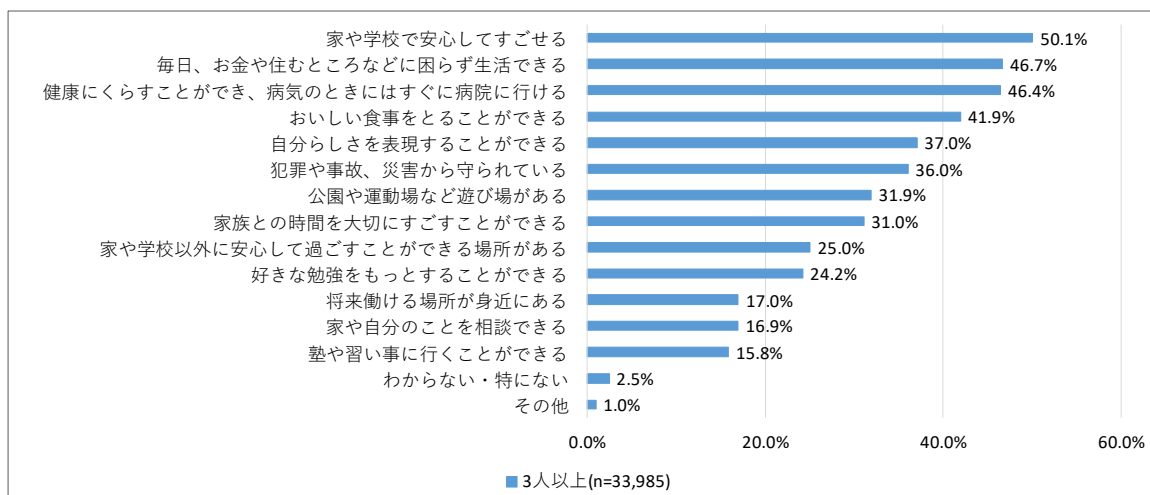
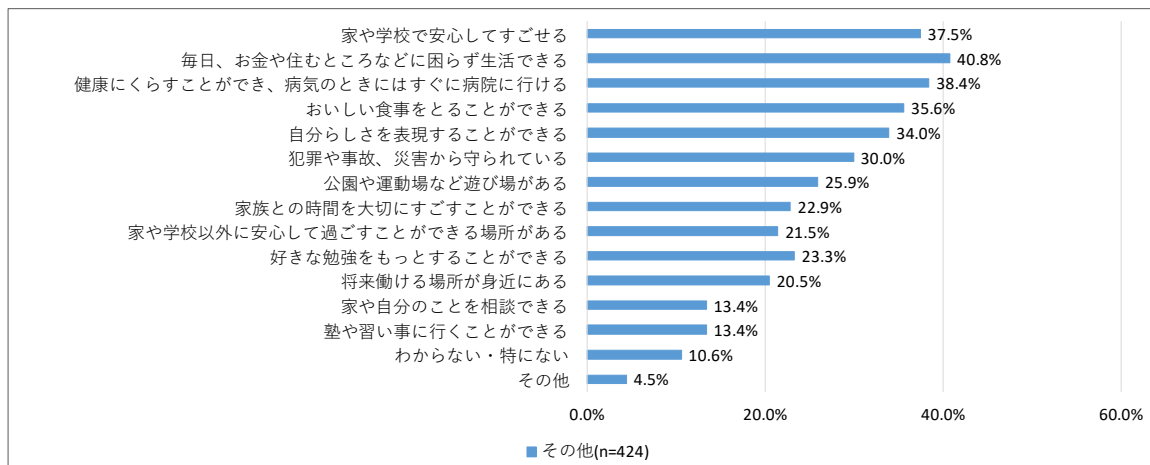


図 世帯人員区分別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（その他）



d. 子どもの権利の認知度別集計

権利の認知度「聞いたことがあり、内容も知っている」と回答した児童・生徒は、「健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院に行ける」の回答割合が約 47%で最も高い。「聞いたことはあるが、内容まではわからない」「聞いたことがない」と回答した者は「家や学校で安心してすごせる」と回答した割合がそれぞれ約 52%、約 47%であり、最も高かった。

図 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(聞いたことがあり、内容も知っている)

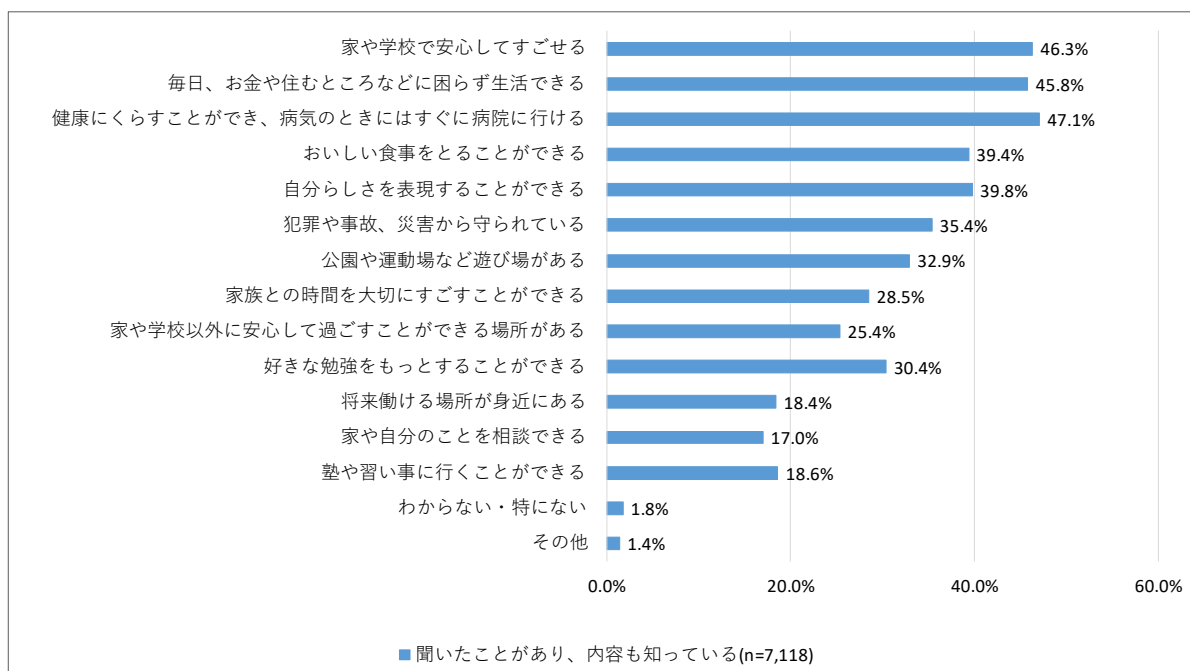


図 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(聞いたことはあるが、内容まではわからない)

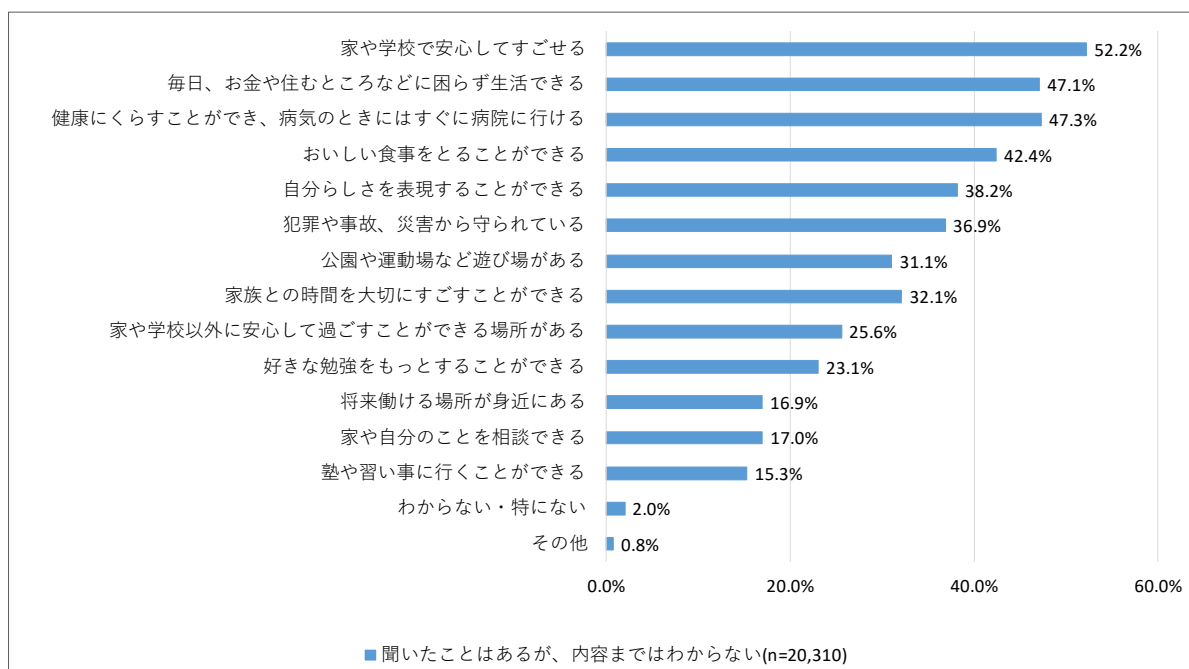
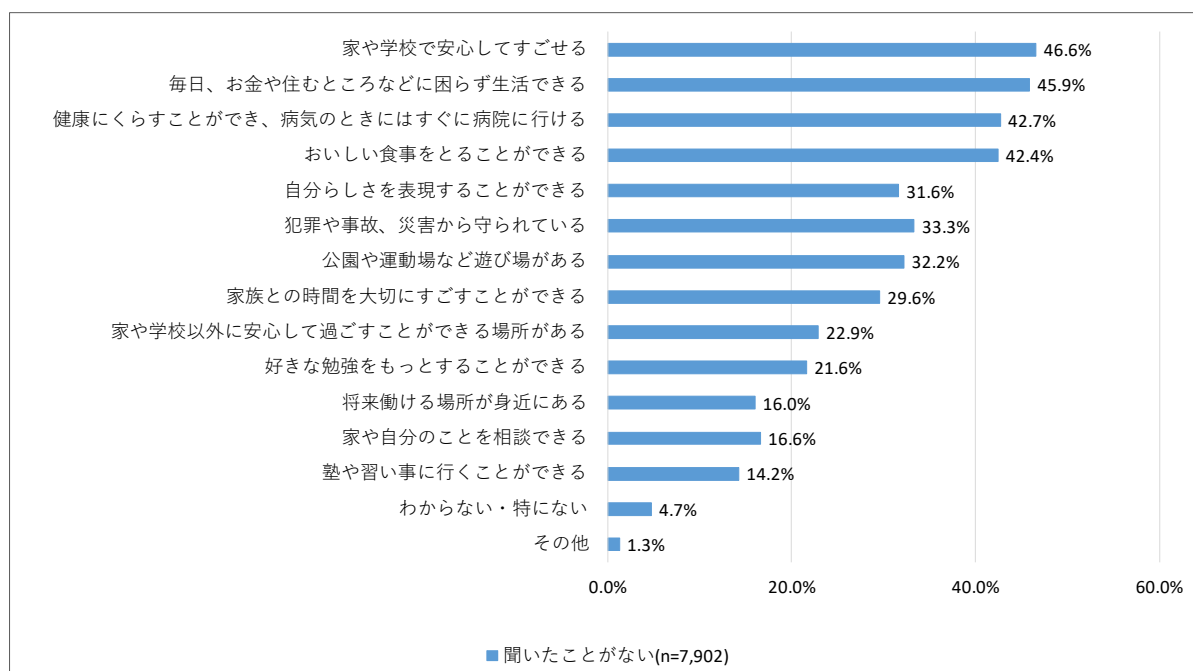


図 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（聞いたことがない）



e. 学校区分別子どもの権利の認知度別集計

子どもの権利について「聞いたことがない」層に注目すると、小学生、中学生は「家や学校で安心してすごせる」が、高校生は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」と回答した割合が最も高かった。

表 学校区分別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	小学生			中学生			高校生			計
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	
家や学校で安心してすごせる	1,186	2,796	1,252	1,180	4,560	1,590	931	3,255	838	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	1,083	2,338	1,117	1,206	3,992	1,545	973	3,242	963	16,459
健康にくらすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	1,285	2,791	1,215	1,130	3,958	1,373	935	2,865	786	16,338
おいしい食事をとることができる	1,005	2,284	1,141	1,061	3,719	1,445	737	2,610	768	14,770
自分らしさを表現することができる	908	1,837	727	1,104	3,479	1,129	818	2,435	643	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	1,023	2,216	981	892	3,212	1,110	603	2,062	543	12,642
公園や運動場など遊び場がある	1,020	2,225	1,111	781	2,626	1,001	542	1,456	435	11,197
家族との時間を大切にすごすことができる	799	1,909	890	719	2,769	935	510	1,848	512	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	644	1,326	611	683	2,299	786	478	1,568	412	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	790	1,366	570	730	1,861	685	642	1,456	452	8,552
将来働ける場所が身近にある	507	1,059	488	497	1,441	498	307	941	278	6,016
家や自分のことを相談できる	408	894	433	456	1,391	530	345	1,168	349	5,974
塾や習い事に行くことができる	617	1,215	462	430	1,265	462	278	626	199	5,554
わからない・特になし	42	84	109	43	184	135	44	140	131	912
その他	49	63	40	28	51	32	24	46	29	362
回答者数	2,542	5,437	2,628	2,519	8,518	3,256	2,057	6,355	2,018	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(小学生・聞いたことがない)

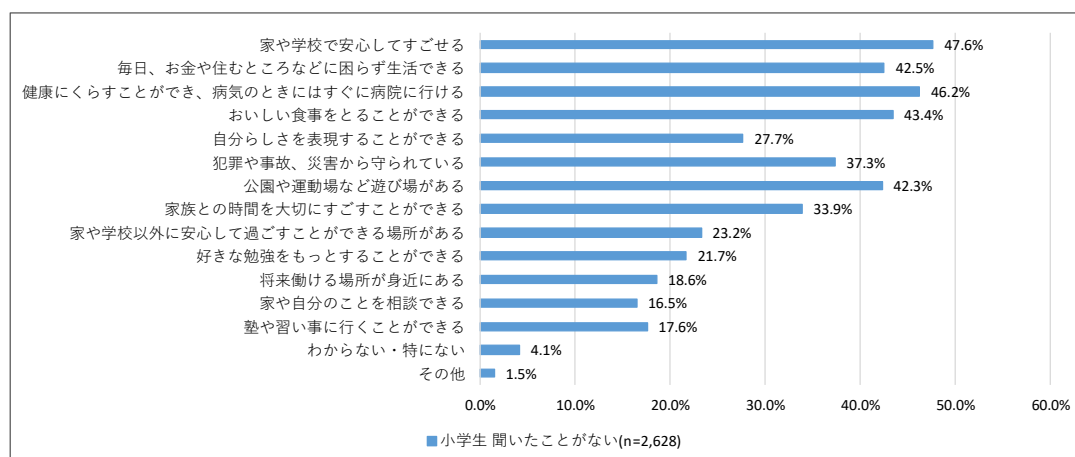


図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(中学生・聞いたことがない)

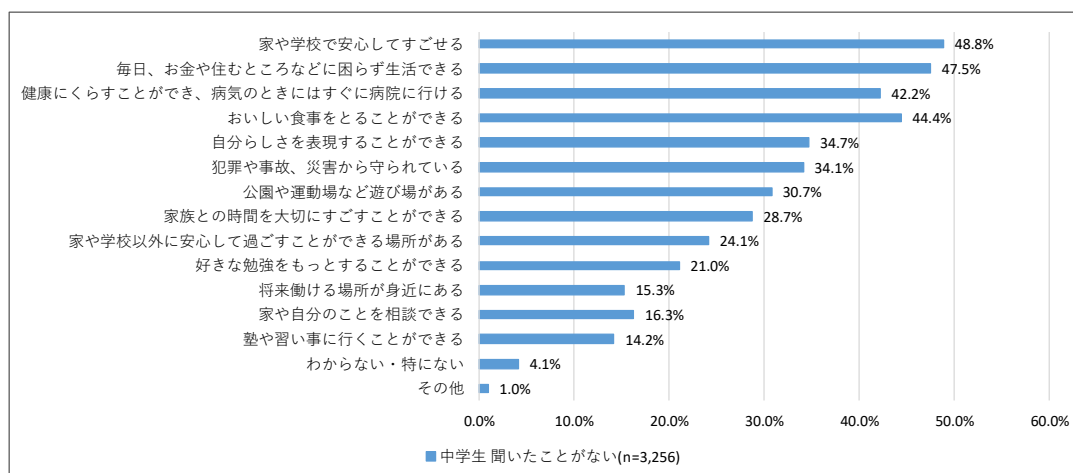
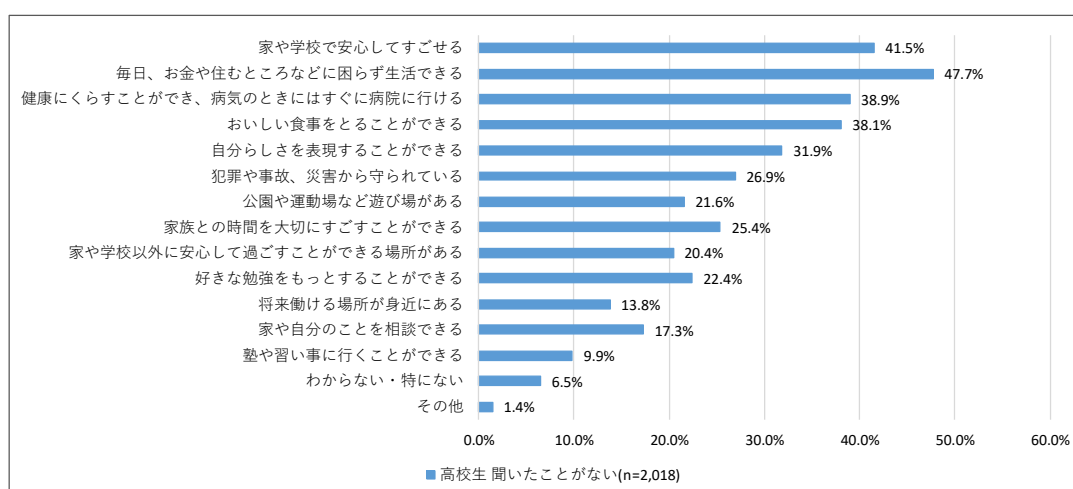


図 学校区分別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(高校生・聞いたことがない)



f. 世帯人員区別子どもの権利の認知度別集計

子どもの権利について「聞いたことがない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」は、「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」が、世帯人員区分「3人以上」は「家や学校で安心してすごせる」の回答割合が最も高かった。

表 世帯人員区別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	2人以下			3人以上			その他			計
	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	聞いたことがあり、内容も知っている	聞いたことがあるが、内容まではわからない	聞いたことがない	
家や学校で安心してすごせる	79	252	85	3,179	10,279	3,555	39	80	40	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	83	247	101	3,137	9,242	3,476	42	83	48	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	76	236	88	3,231	9,302	3,242	43	76	44	16,338
おいしい食事をとることができる	71	216	90	2,702	8,332	3,208	30	65	56	14,770
自分らしさを表現することができる	86	192	73	2,706	7,489	2,390	38	70	36	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	56	154	57	2,434	7,274	2,540	28	62	37	12,642
公園や運動場など遊び場がある	57	138	52	2,260	6,123	2,457	26	46	38	11,197
家族との時間を大切に過ごすことができる	44	145	54	1,962	6,330	2,259	22	51	24	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	43	118	47	1,739	5,027	1,742	23	48	20	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	59	119	54	2,068	4,530	1,623	35	34	30	8,552
将来働ける場所が身近にある	36	93	30	1,258	3,301	1,211	17	47	23	6,016
家や自分のことを相談できる	36	81	41	1,156	3,348	1,255	17	24	16	5,974
塾や習い事に行くことができる	35	58	19	1,275	3,018	1,092	15	30	12	5,554
わからない・特にない	5	15	11	114	382	340	10	11	24	912
その他	3	6	5	93	148	88	5	6	8	362
回答者数	202	507	212	6,814	19,619	7,552	102	184	138	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(2人以下・聞いたことがない)

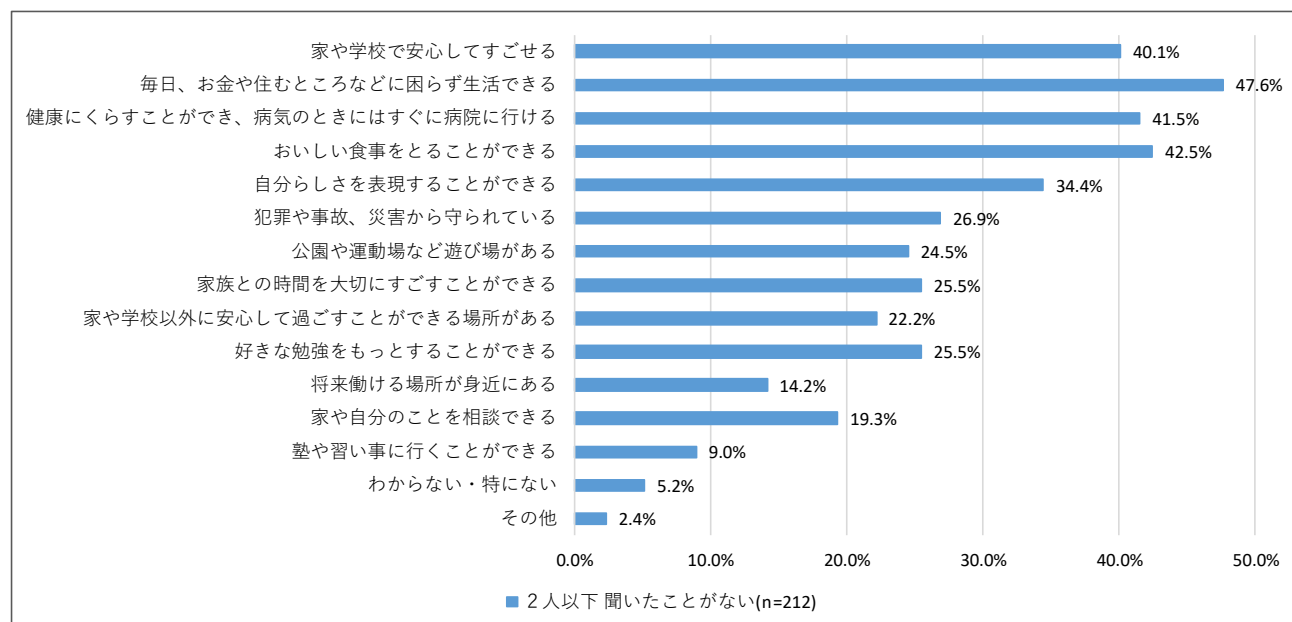
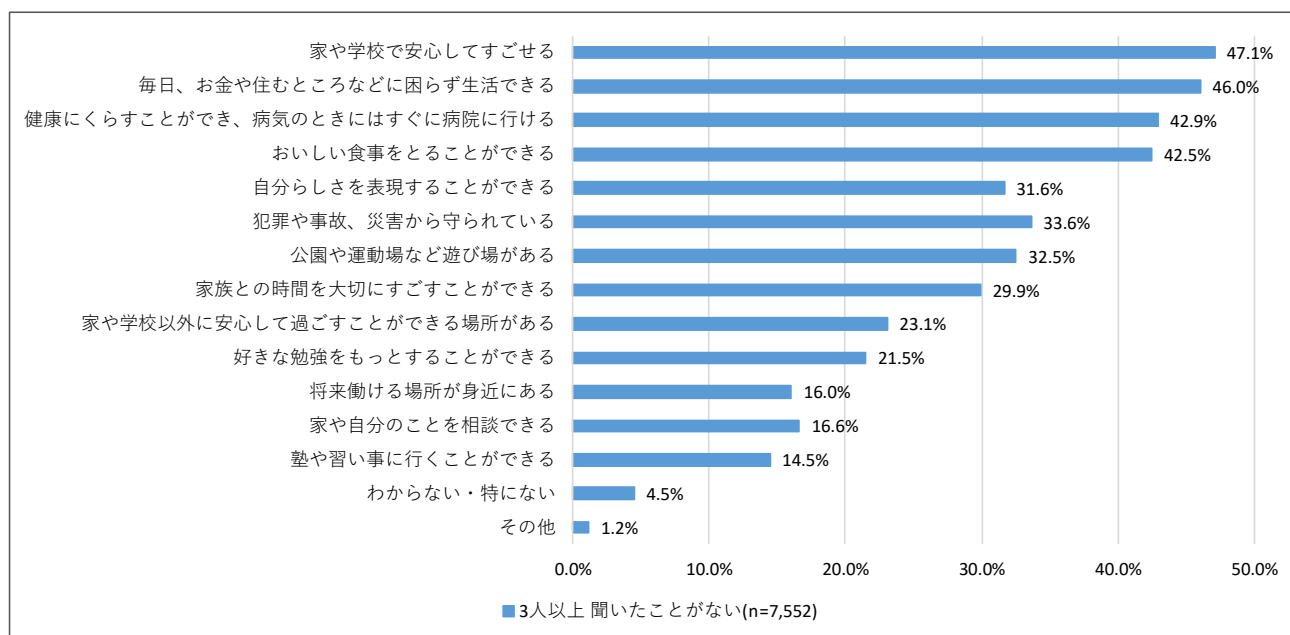


図 世帯人員区分別 子どもの権利の認知度別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(3人以上・聞いたことがない)



g. 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

「とても感じる」「感じる」「あまり感じない」と回答した児童・生徒は「家や学校で安心してすごせる。」を選択した割合が最も高く、「どちらともいえない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒は、「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる。」を選択した割合が最も高かった。

図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(とても感じる)

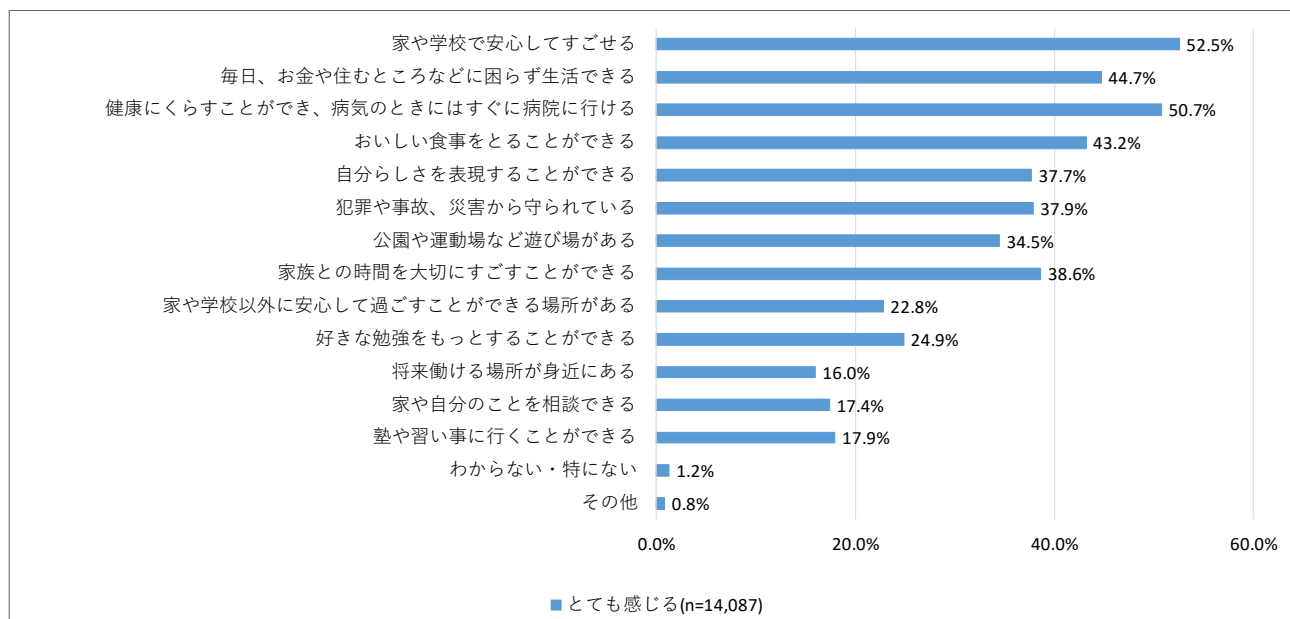


図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(感じる)

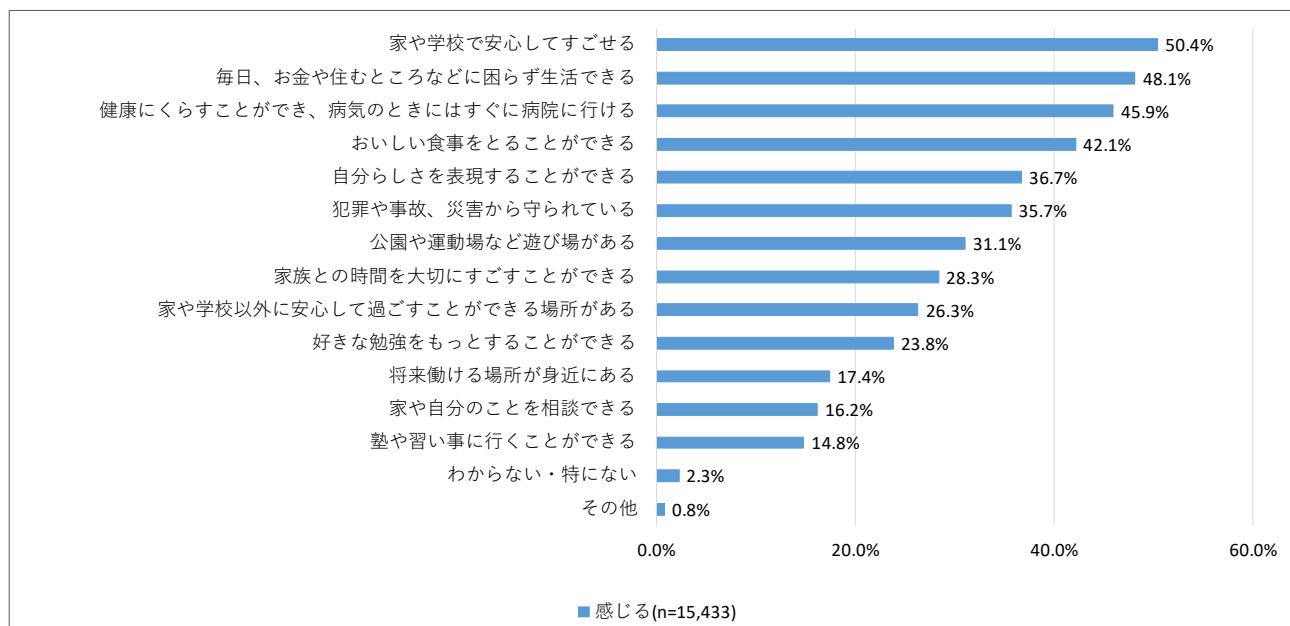


図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(どちらともいえない)

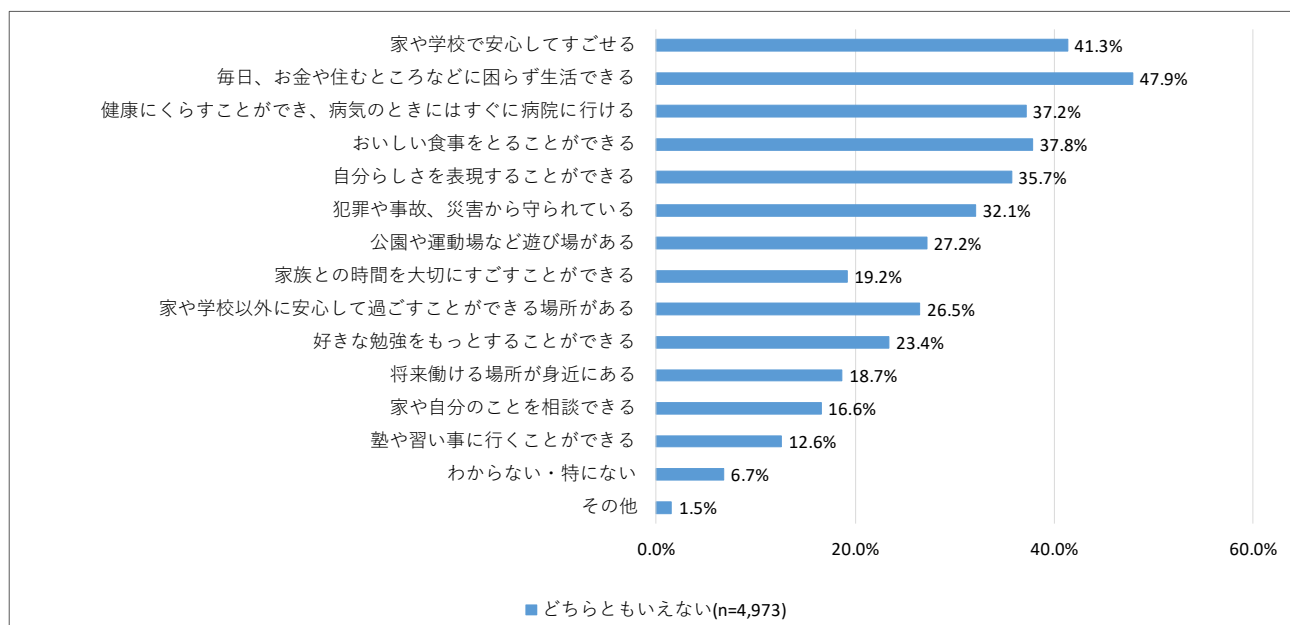


図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(あまり感じない)

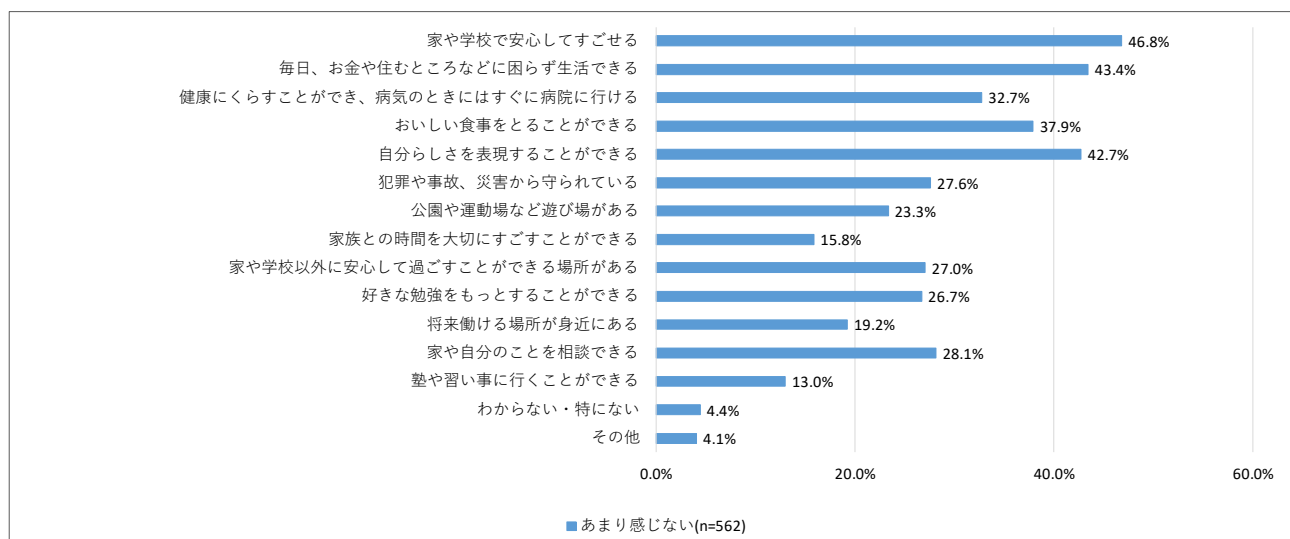
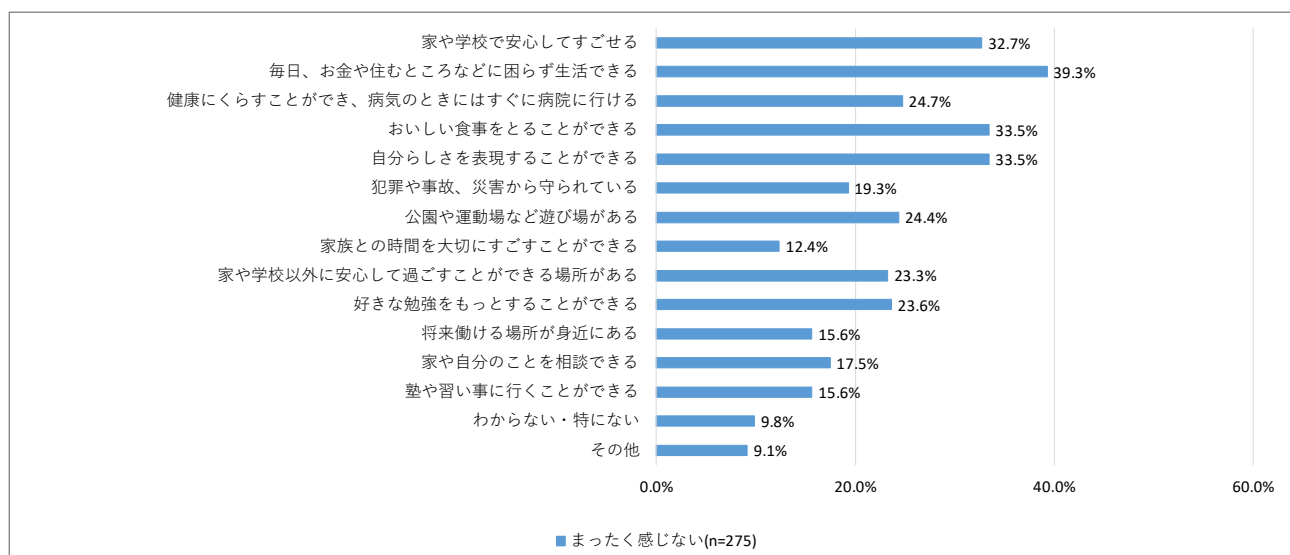


図 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(まったく感じない)



h. 学校区分別生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

生命生存及び発達に対する権利について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、小学生、中学生は「家や学校で安心してすごせる」が、高校生は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」を選択した割合が最も高かった。

表 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	4,624	498	112	6,226	961	143	4,329	597	98	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	3,862	580	96	5,569	1,038	136	4,294	764	120	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	4,665	536	90	5,589	776	96	3,984	536	66	16,338
おいしい食事をとることができる	3,864	475	91	5,269	836	120	3,451	570	94	14,770
自分らしさを表現することができる	2,985	390	97	4,746	834	132	3,241	552	103	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	3,676	481	63	4,410	710	94	2,751	406	51	12,642
公園や運動場など遊び場がある	3,793	489	74	3,774	561	73	2,081	301	51	11,197
家族との時間を大切に過ごすことができる	3,274	284	40	3,971	397	55	2,569	273	28	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	2,179	334	68	3,069	613	86	2,024	372	62	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	2,328	326	72	2,696	501	79	2,149	337	64	8,552
将来働ける場所が身近にある	1,722	290	42	1,962	407	67	1,251	233	42	6,016
家や自分のことを相談できる	1,432	237	66	1,948	348	81	1,564	239	59	5,974
塾や習い事に行くことができる	2,044	208	42	1,861	252	44	907	166	30	5,554
わからない・特にない	140	82	13	211	132	19	174	121	20	912
その他	106	24	22	68	28	15	63	25	11	362
回答者数	9,054	1,304	249	11,839	2,130	324	8,627	1,539	264	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(小学生・権利を守られていると感じない)

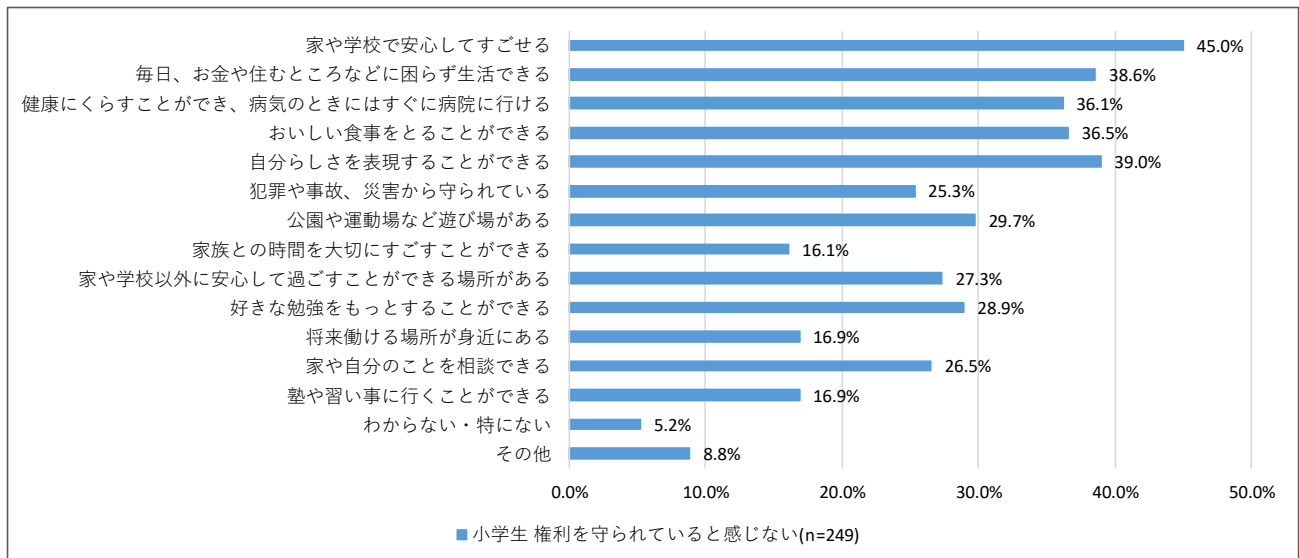


図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(中学生・権利を守られていると感じない)

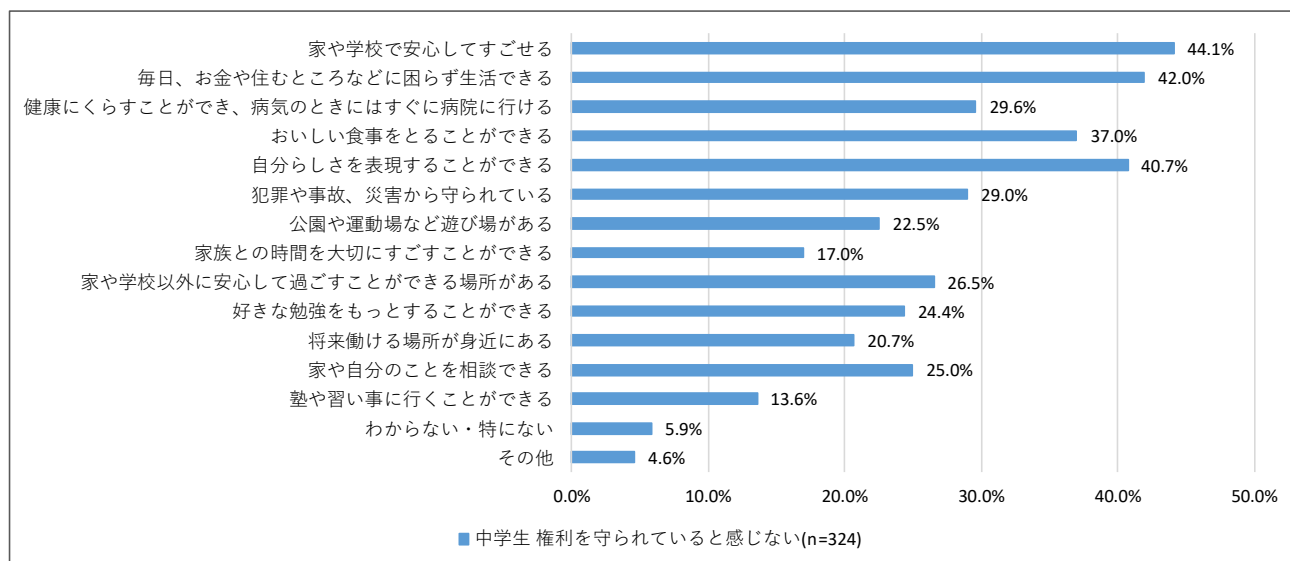
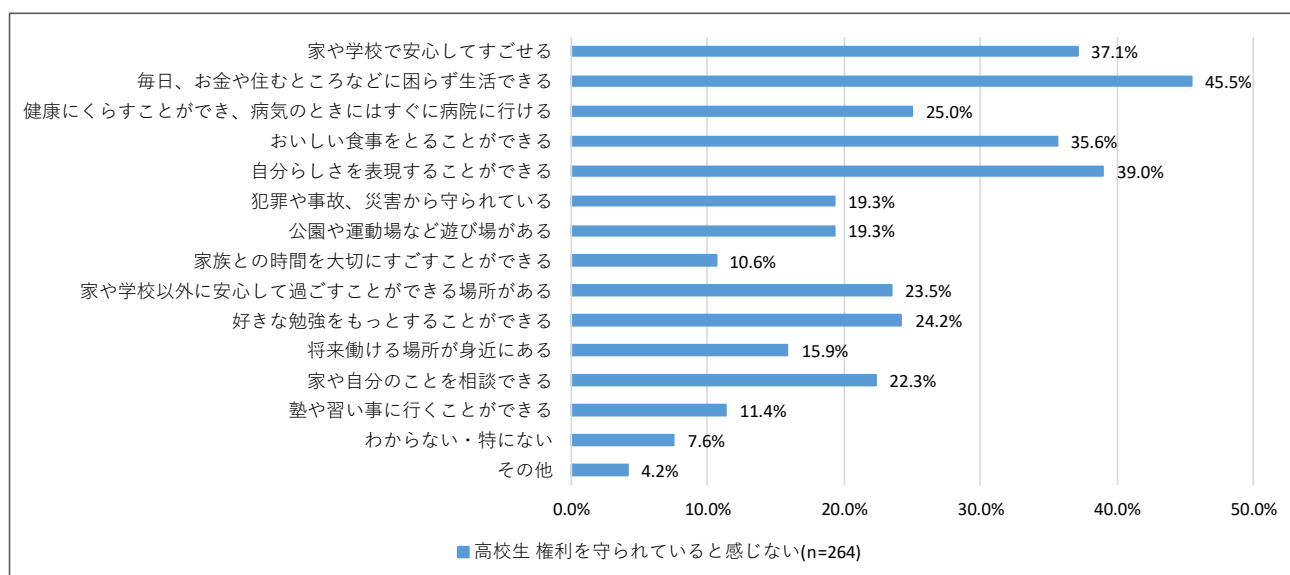


図 学校区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(高校生・権利を守られていると感じない)



i. 世帯人員区分別生命生存及び発達に対する権利の感じ方別集計

生命生存及び発達に対する権利について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」が、世帯人員区分「3人以上」は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別
安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	348	58	10	14,711	1,969	333	120	29	10	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	324	95	12	13,294	2,234	327	107	53	13	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	329	62	9	13,788	1,751	236	121	35	7	16,338
おいしい食事をとることができる	297	74	6	12,187	1,769	286	100	38	13	14,770
自分らしさを表現することができる	272	69	10	10,606	1,668	311	94	39	11	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	220	42	5	10,532	1,521	195	85	34	8	12,642
公園や運動場など遊び場がある	206	33	8	9,375	1,289	176	67	29	14	11,197
家族との時間を大切に過ごすことができる	209	29	5	9,529	906	116	76	19	2	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	161	37	10	7,054	1,258	196	57	24	10	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	176	47	9	6,936	1,090	195	61	27	11	8,552
将来働ける場所が身近にある	121	33	5	4,766	867	137	48	30	9	6,016
家や自分のことを相談できる	126	27	5	4,780	784	195	38	13	6	5,974
塾や習い事に行くことができる	86	17	9	4,687	598	100	39	11	7	5,554
わからない・特になし	15	16	0	485	305	46	25	14	6	912
その他	8	4	2	219	68	42	10	5	4	362
回答者数	709	180	32	28,545	4,677	763	266	116	42	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別

安心して自分らしく暮らすために必要なこと（2人以下・権利を守られていると感じない）

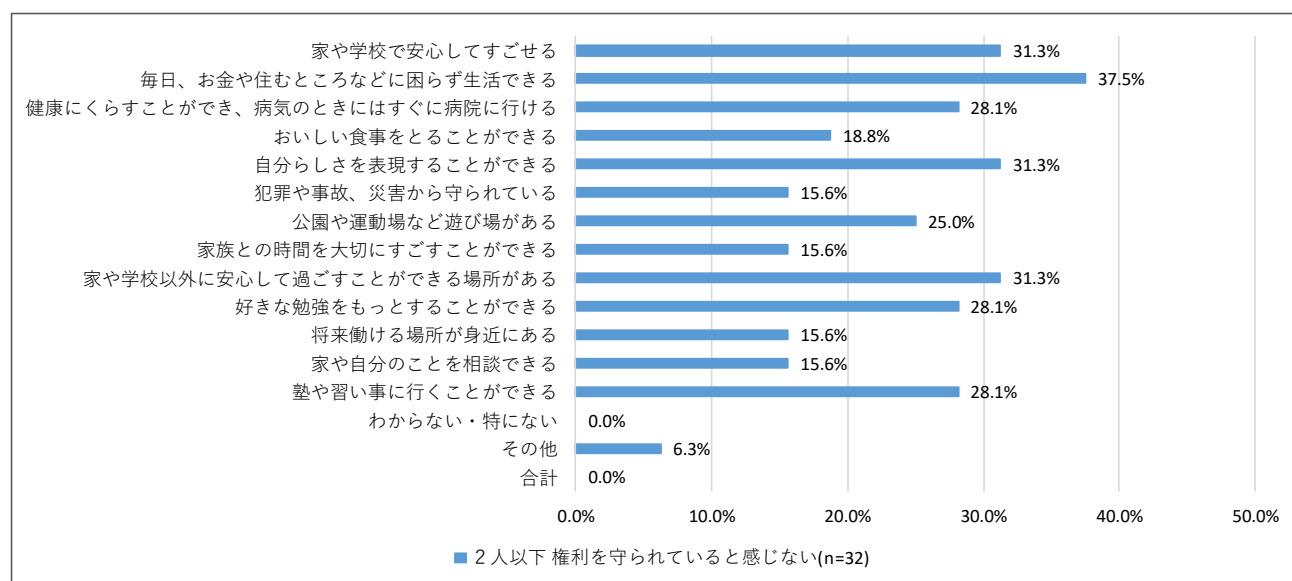
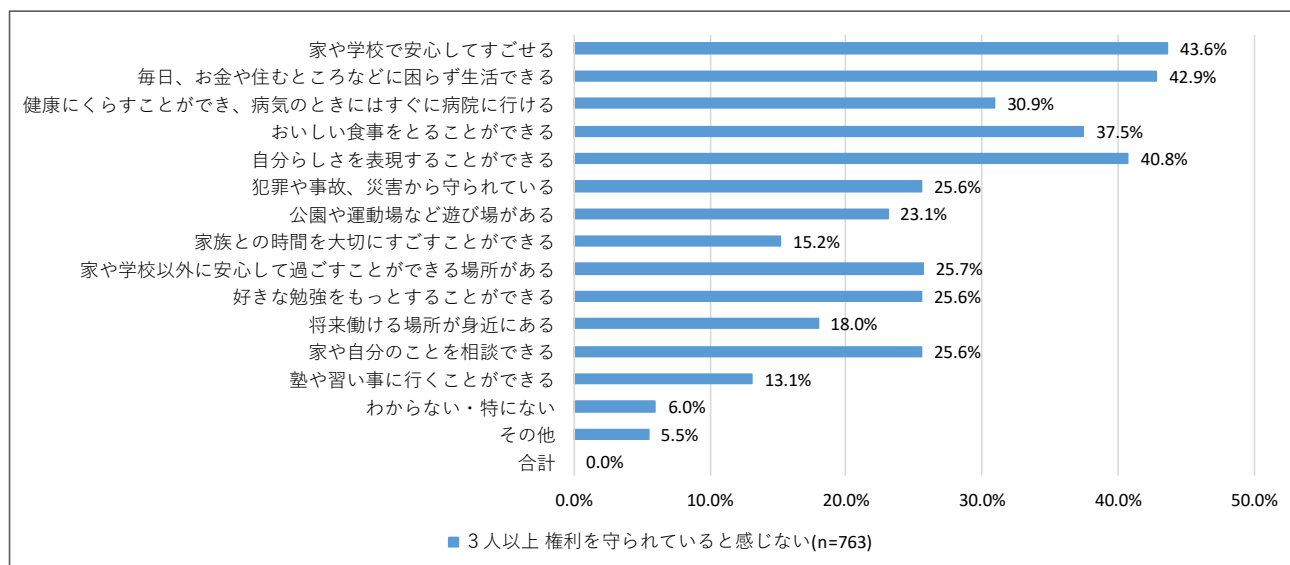


図 世帯人員区分別 生命生存及び発達に対する権利の感じ方別
 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（3人以上・権利を守られていると感じない）



j. 子どもの最善の利益の感じ方別集計

「とても感じる」「感じる」「あまり感じない」と回答した児童・生徒は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高く、「どちらともいえない」と回答した児童・生徒は、「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」を選択した割合が最も高かった。「まったく感じない」と回答した児童・生徒は「家や学校で安心してすごせる」「自分らしさを表現することができる」を選択した割合も高かった。

図 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(とても感じる)

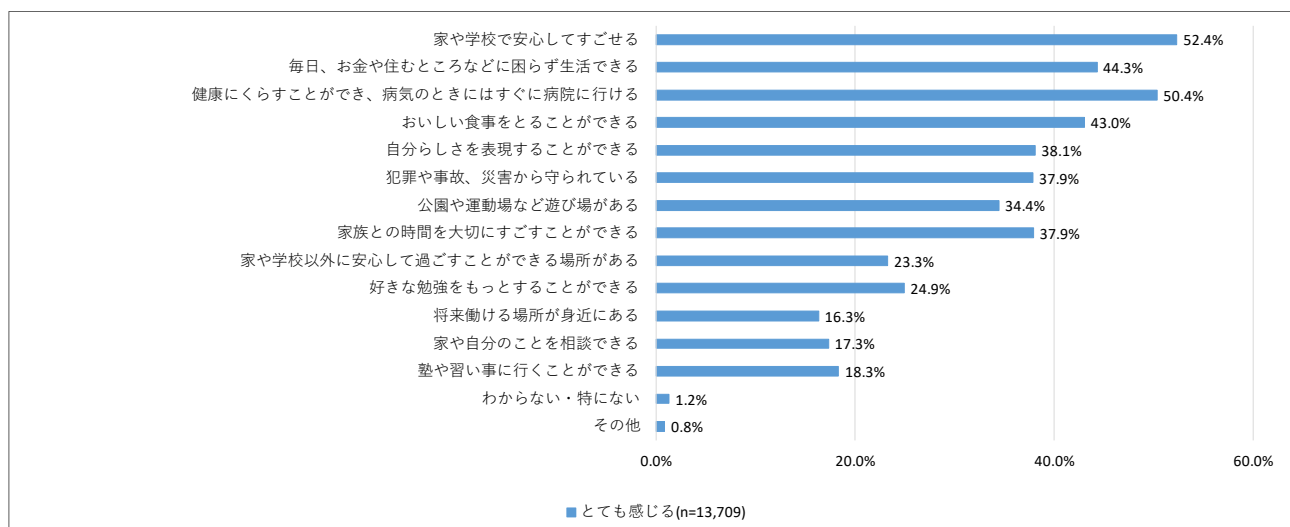


図 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(感じる)

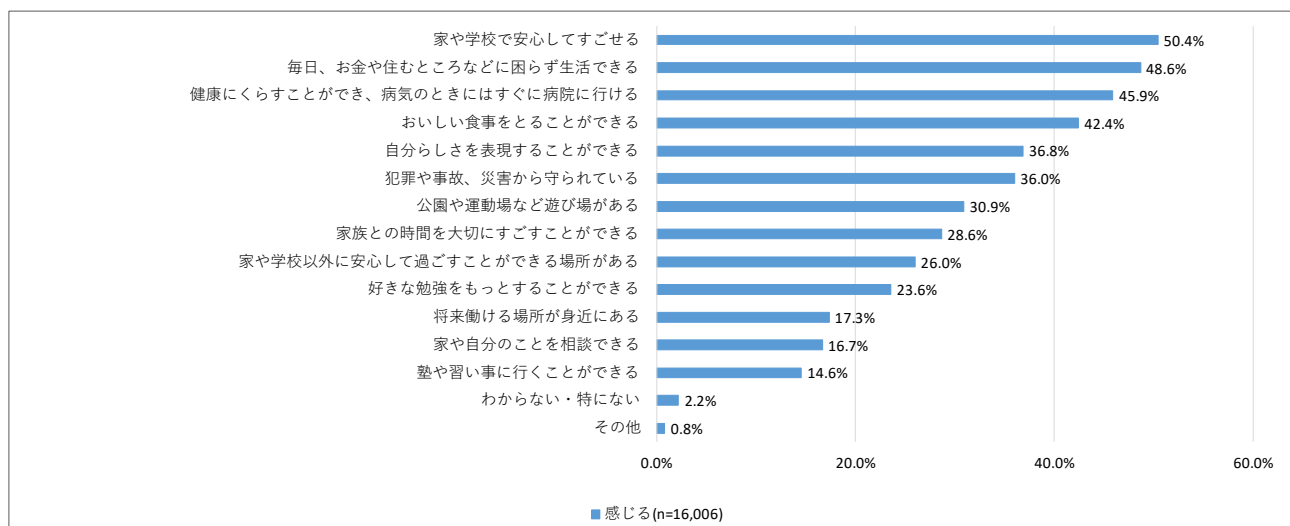


図 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(どちらともいえない)

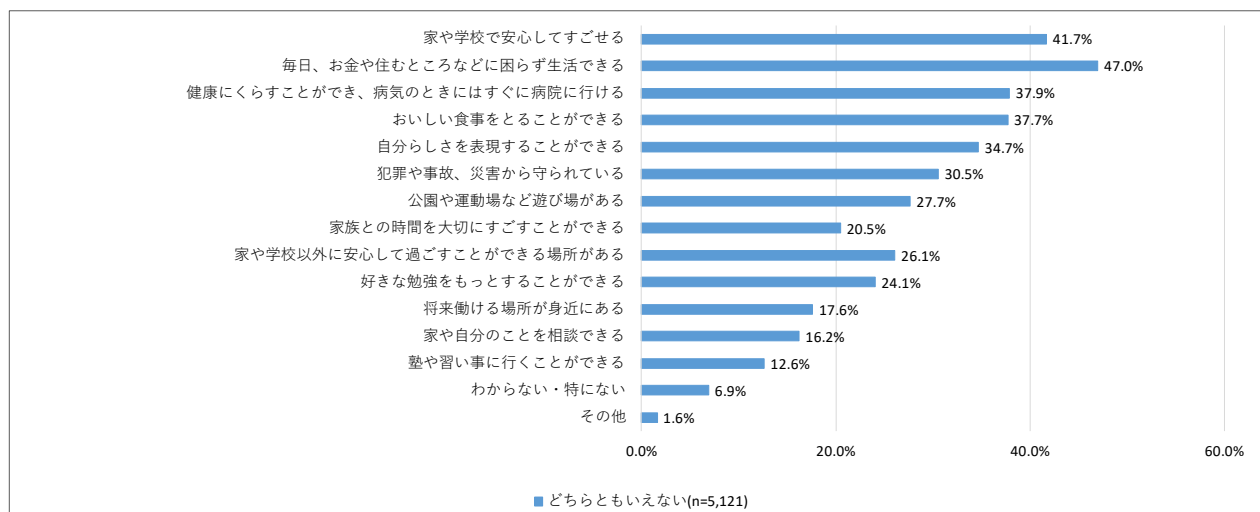


図 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと (あまり感じない)

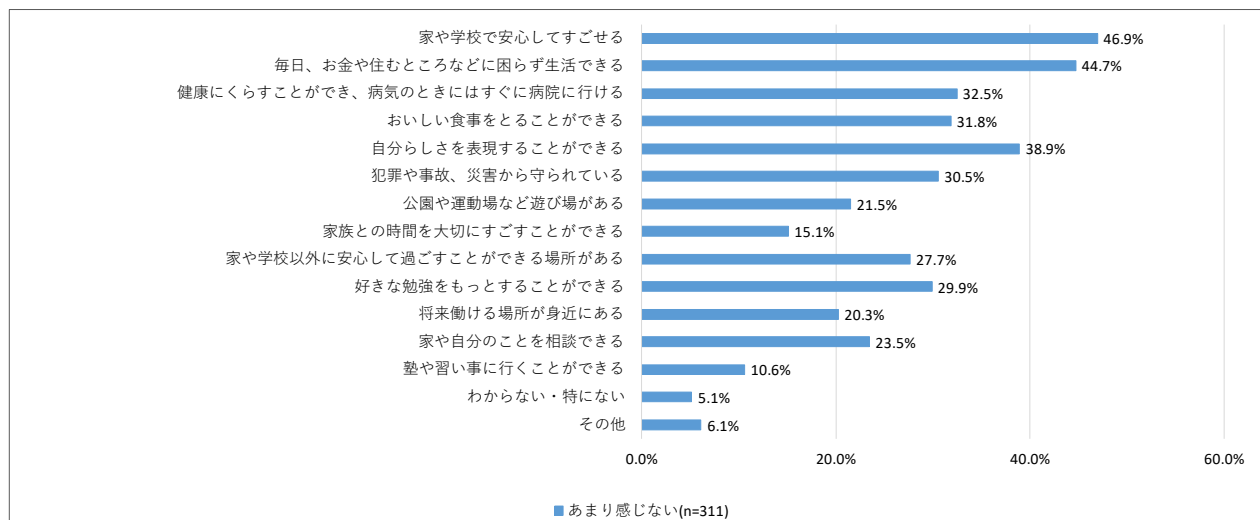
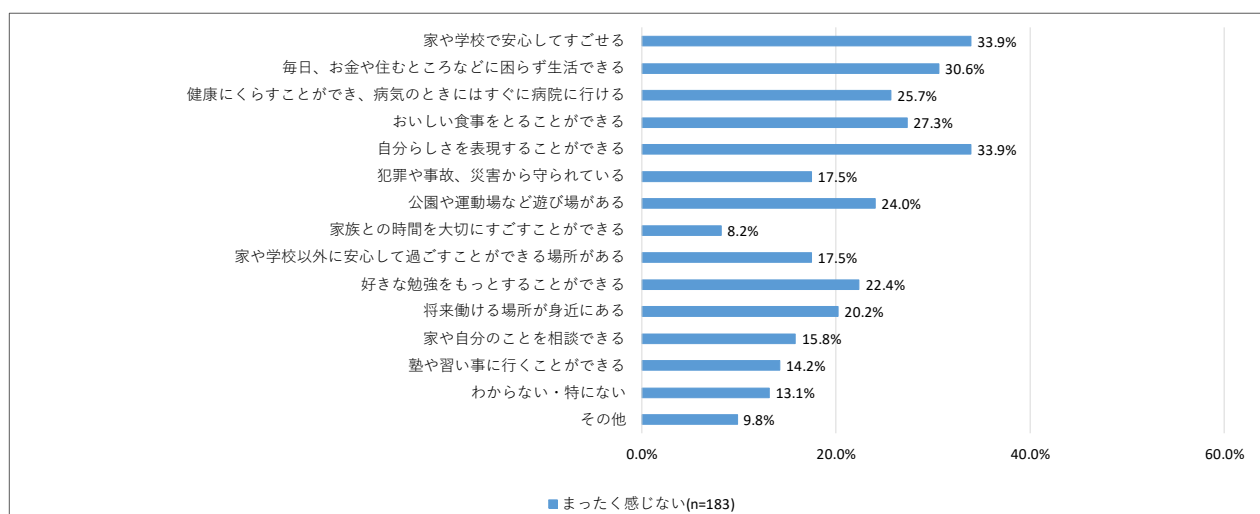


図 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(まったく感じない)



k. 学校区分別子どもの最善の利益の感じ方別集計

表 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じない	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じない	
家や学校で安心してすごせる	4,615	559	60	6,312	938	80	4,317	639	68	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	3,870	617	51	5,663	1,001	79	4,325	788	65	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	4,649	598	44	5,622	784	55	3,979	558	49	16,338
おいしい食事をとることができる	3,867	517	46	5,340	828	57	3,483	586	46	14,770
自分らしさを表現することができる	3,014	410	48	4,841	794	77	3,266	572	58	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	3,704	470	46	4,482	684	48	2,765	410	33	12,642
公園や運動場など遊び場がある	3,795	513	48	3,796	576	36	2,078	328	27	11,197
家族との時間を大切にすごすことができる	3,256	325	17	3,951	448	24	2,574	275	21	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	2,202	340	39	3,116	605	47	2,035	391	32	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	2,324	360	42	2,728	500	48	2,134	372	44	8,552
将来働ける場所が身近にある	1,736	289	29	2,003	388	45	1,274	226	26	6,016
家や自分のことを相談できる	1,443	261	31	1,997	337	43	1,601	233	28	5,974
塾や習い事に行くことができる	2,051	225	18	1,881	255	21	916	167	20	5,554
わからない・特にない	142	81	12	209	140	13	166	134	15	912
その他	106	31	15	71	27	13	65	25	9	362
回答者数	9,086	1,376	145	11,993	2,115	185	8,636	1,630	164	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(小学生・権利を守られていると感じない)

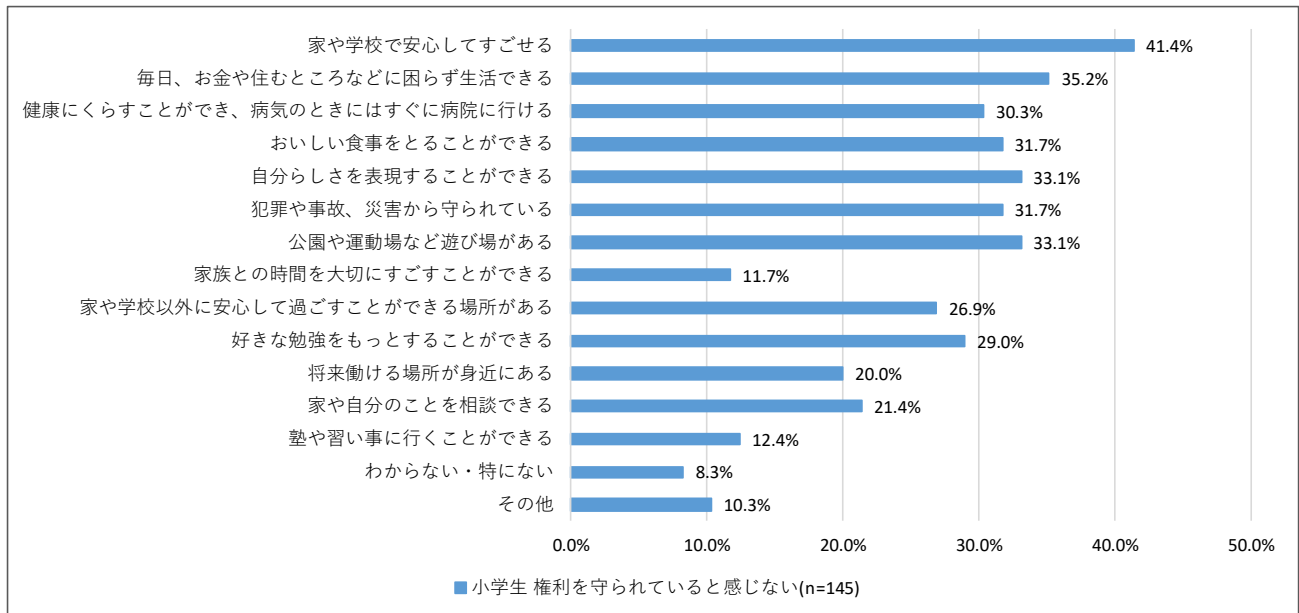


図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(中学生・権利を守られていると感じない)

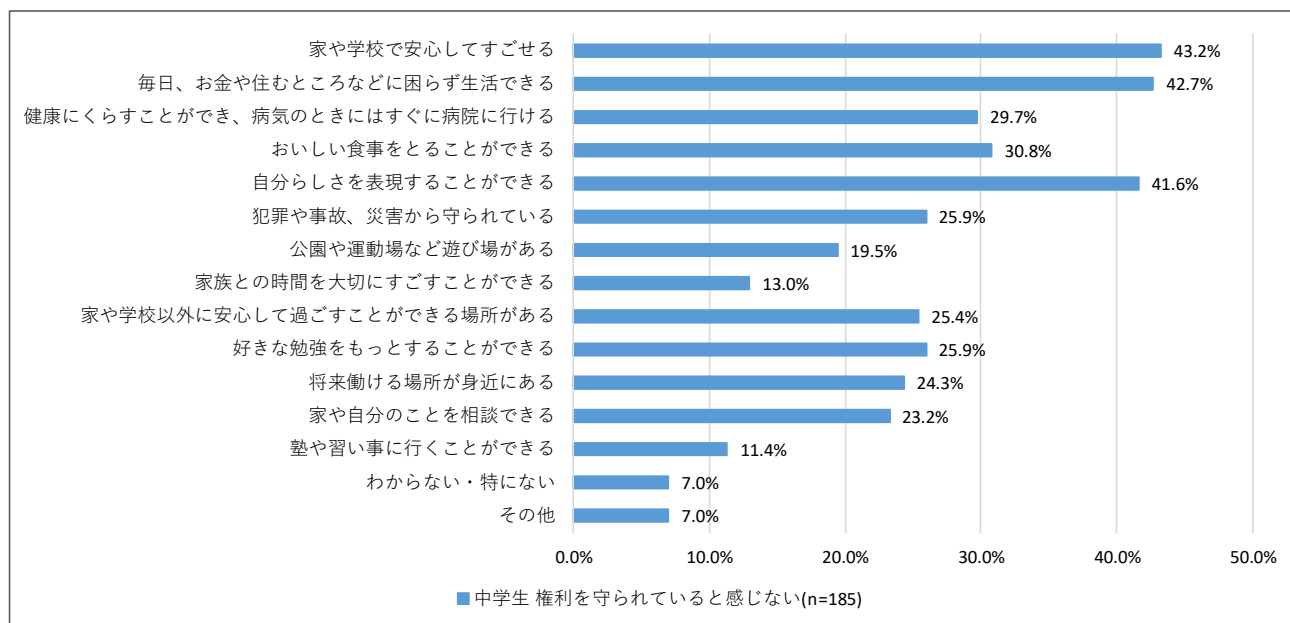
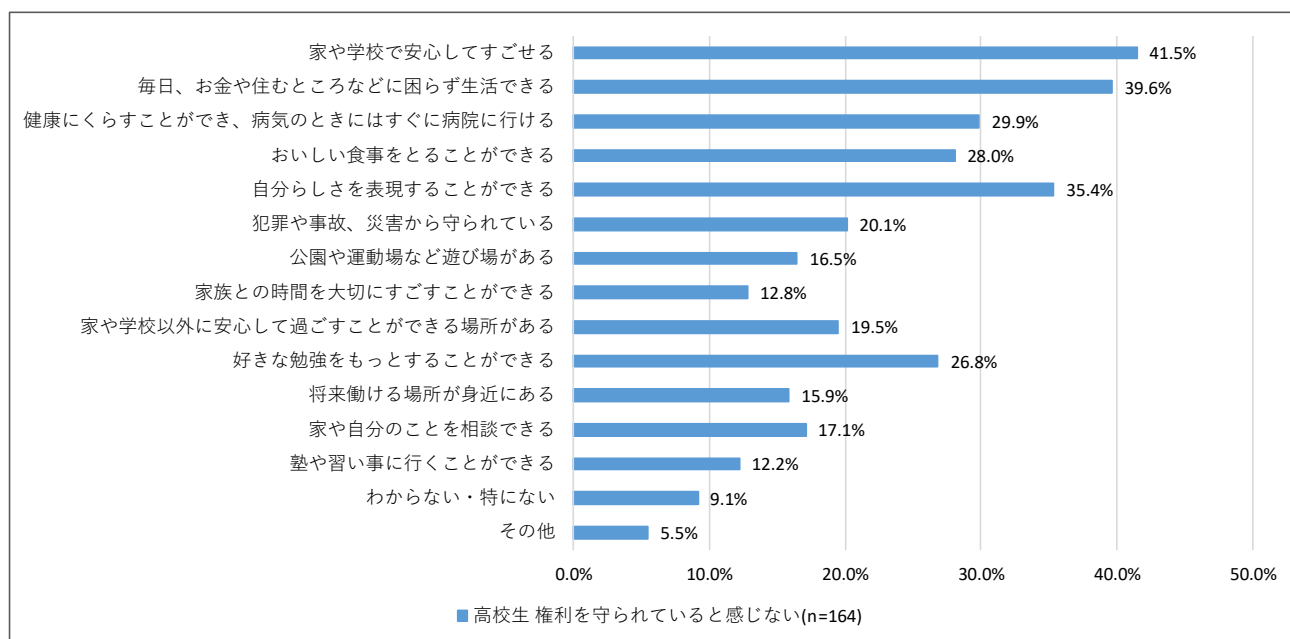


図 学校区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(高校生・権利を守られていると感じない)



1. 世帯人員区分別子どもの最善の利益の感じ方別集計

子どもの最善の利益の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」は「健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院に行ける」、「自分らしさを表現することができる」が、世帯人員区分「3人以上」は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	350	61	5	14,774	2,043	196	120	32	7	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	335	92	4	13,400	2,269	186	123	45	5	16,459
健康にくらすことができ、病気のときはすぐに病院に行ける	329	64	7	13,796	1,844	135	125	32	6	16,338
おいしい食事をとることができる	307	68	2	12,274	1,829	139	109	34	8	14,770
自分らしさを表現することができる	282	62	7	10,736	1,676	173	103	38	3	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	216	49	2	10,645	1,482	121	90	33	4	12,642
公園や運動場など遊び場がある	205	37	5	9,391	1,347	102	73	33	4	11,197
家族との時間を大切にすごすことができる	215	25	3	9,495	998	58	71	25	1	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	167	36	5	7,124	1,276	108	62	24	5	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	177	51	4	6,943	1,153	125	66	28	5	8,552
将来働ける場所が身近にある	126	30	3	4,833	845	92	54	28	5	6,016
家や自分のことを相談できる	132	21	5	4,871	795	93	38	15	4	5,974
塾や習い事に行くことができる	87	20	5	4,722	612	51	39	15	3	5,554
わからない・特になし	13	18	0	479	321	36	25	16	4	912
その他	9	3	2	226	74	29	7	6	6	362
回答者数	720	184	17	28,716	4,819	450	279	118	27	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(2人以下・権利を守られていると感じない)

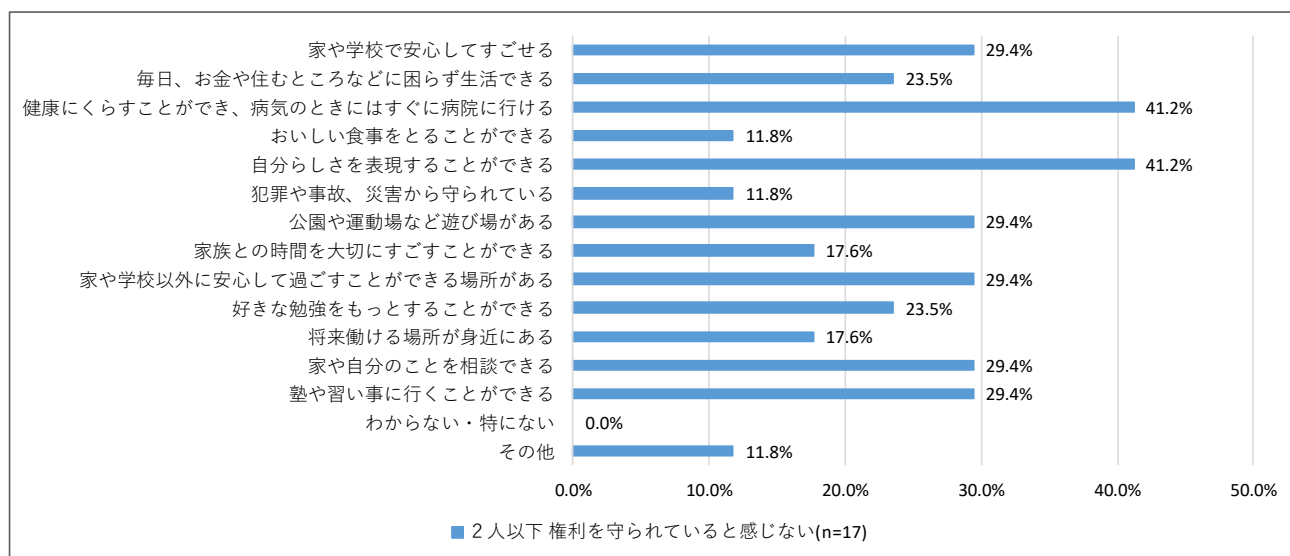
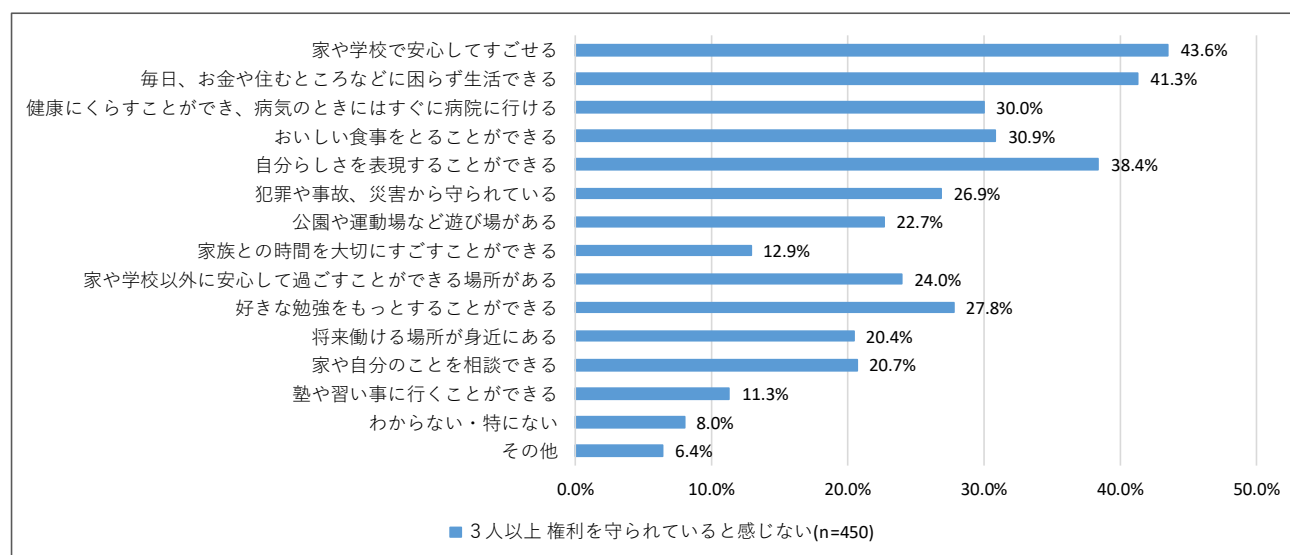


図 世帯人員区分別 子どもの最善の利益の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(3人以上・権利を守られていると感じない)



m. 子どもの意見の尊重の感じ方別集計

「とても感じる」「感じる」と回答した児童・生徒は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高く、「どちらともいえない」「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒は、「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」を選択した割合が最も高かった。

図 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(とても感じる)

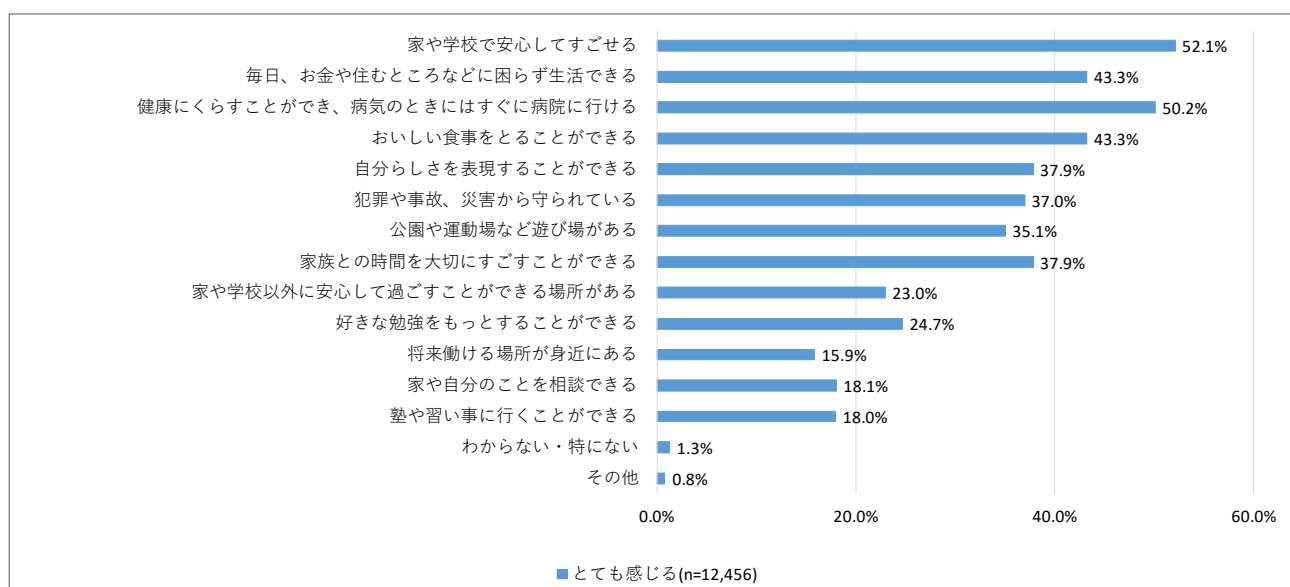


図 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(感じる)

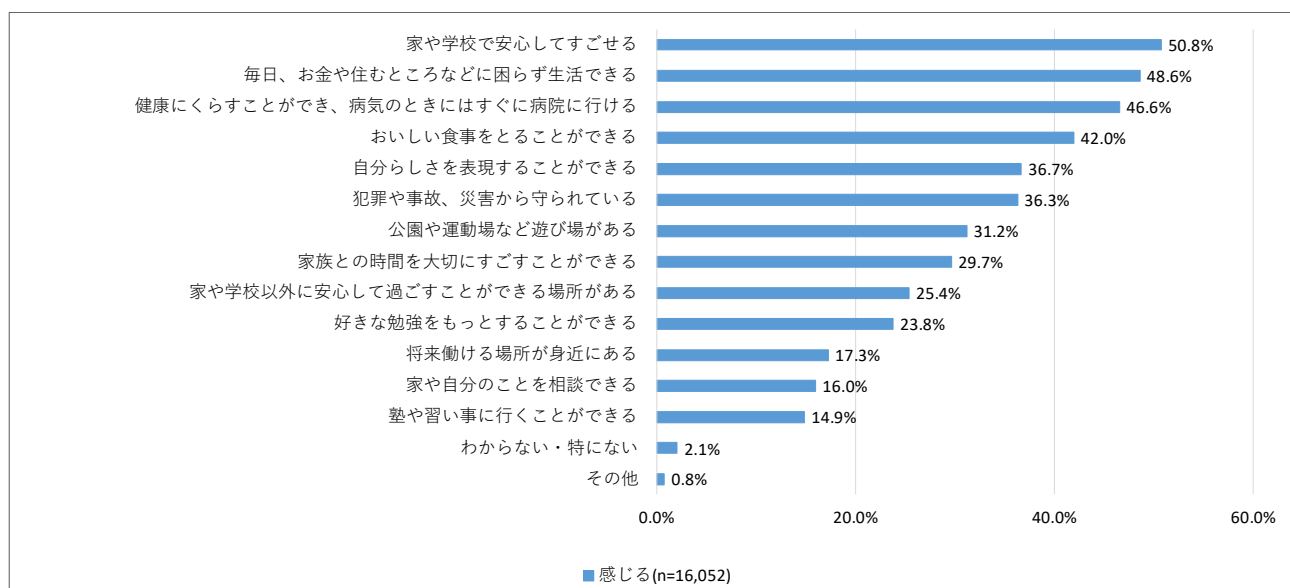


図 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(どちらともいえない)

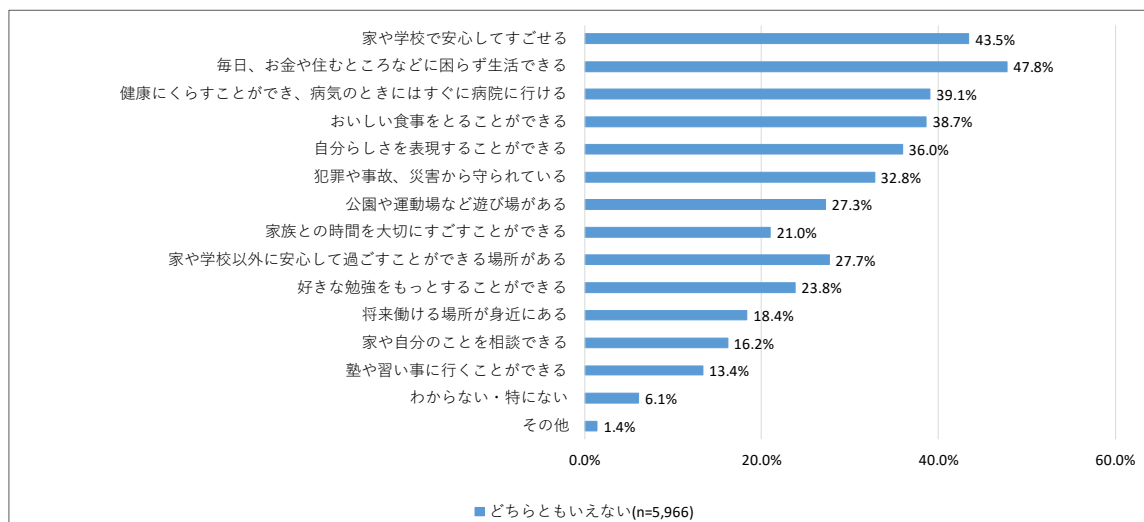


図 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと (あまり感じない)

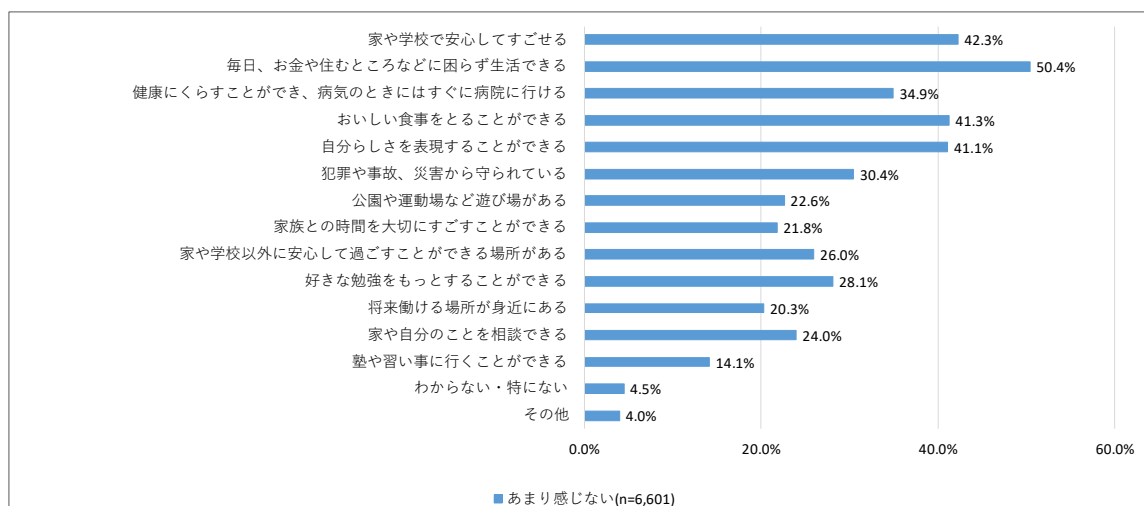
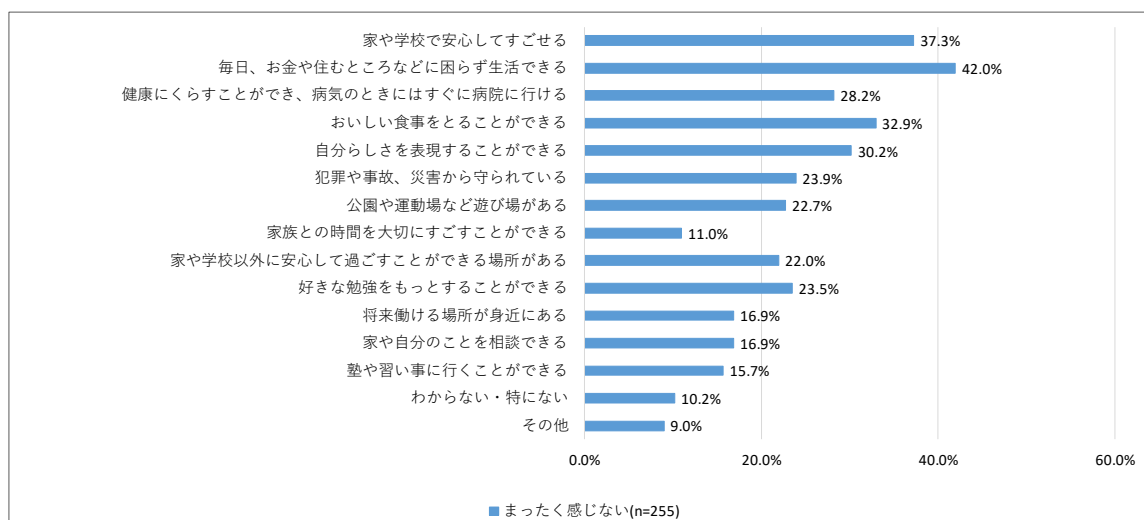


図 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(まったく感じない)



n. 学校区分別子どもの意見の尊重の感じ方別集計

表 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	4,460	677	97	5,997	1,176	157	4,189	740	95	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	3,699	718	121	5,332	1,246	165	4,167	887	124	16,459
健康にくらすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	4,483	716	92	5,384	964	113	3,857	652	77	16,338
おいしい食事をとることができる	3,719	612	99	5,070	1,012	143	3,343	682	90	14,770
自分らしさを表現することができる	2,842	546	84	4,599	965	148	3,170	634	92	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	3,556	583	81	4,229	884	101	2,656	490	62	12,642
公園や運動場など遊び場がある	3,670	613	73	3,659	668	81	2,047	346	40	11,197
家族との時間を大切にすごすることができる	3,139	408	51	3,825	522	76	2,514	324	32	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	2,093	427	61	2,909	767	92	1,943	456	59	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	2,230	416	80	2,586	609	81	2,086	396	68	8,552
将来働ける場所が身近にある	1,653	344	57	1,873	493	70	1,228	260	38	6,016
家や自分のことを相談できる	1,404	280	51	1,886	409	82	1,532	276	54	5,974
塾や習い事に行くことができる	1,977	274	43	1,770	331	56	885	192	26	5,554
わからない・特にない	131	87	17	205	137	20	159	140	16	912
その他	101	32	19	71	25	15	59	27	13	362
回答者数	8,724	1,624	259	11,407	2,533	353	8,377	1,809	244	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(小学生・権利を守られていると感じない)

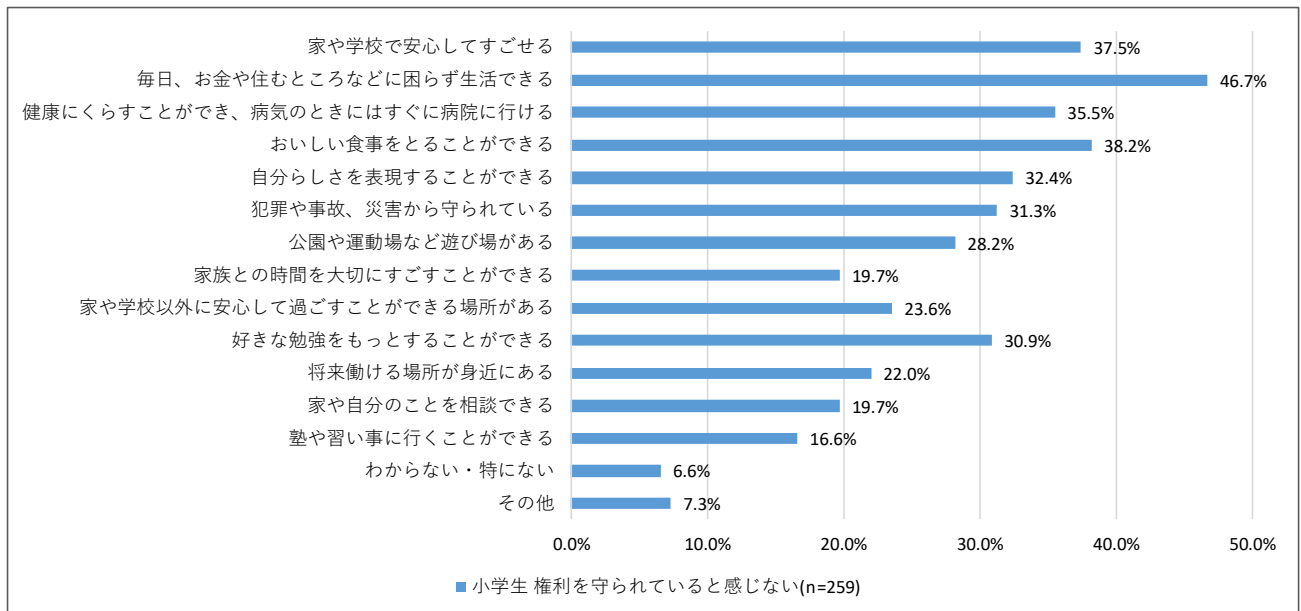


図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(中学生・権利を守られていると感じない)

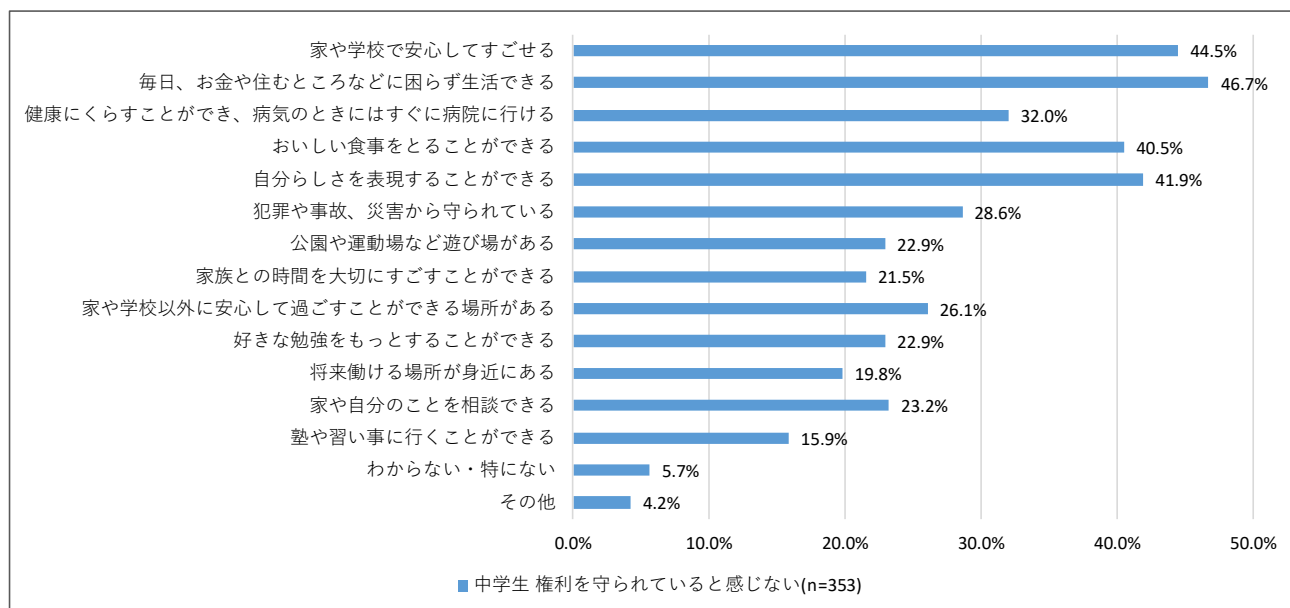
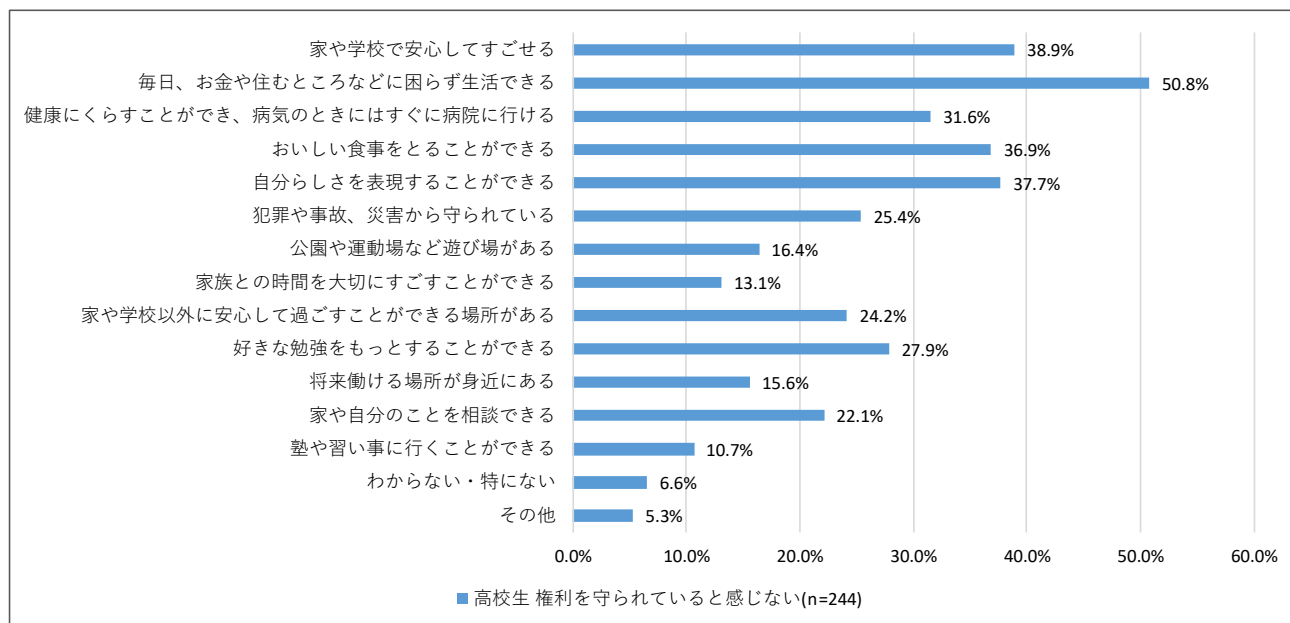


図 学校区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(高校生・権利を守られていると感じない)



o. 世帯人員区分別子どもの意見の尊重の感じ方別集計

子どもの意見の尊重の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」「3人以上」は「毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる」を選択した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	333	71	12	14,201	2,483	329	112	39	8	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	321	93	17	12,770	2,700	385	107	58	8	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	316	71	13	13,296	2,217	262	112	44	7	16,338
おいしい食事をとることができる	286	81	10	11,748	2,183	311	98	42	11	14,770
自分らしさを表現することができる	265	75	11	10,255	2,023	307	91	47	6	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	217	42	8	10,144	1,873	231	80	42	5	12,642
公園や運動場など遊び場がある	198	42	7	9,110	1,552	178	68	33	9	11,197
家族との時間を大切に過ごすことができる	205	30	8	9,203	1,199	149	70	25	2	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	150	50	8	6,737	1,573	198	58	27	6	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	170	51	11	6,673	1,337	211	59	33	7	8,552
将来働ける場所が身近にある	120	35	4	4,585	1,030	155	49	32	6	6,016
家や自分のことを相談できる	121	28	9	4,662	925	172	39	12	6	5,974
塾や習い事に行くことができる	84	21	7	4,515	758	112	33	18	6	5,554
わからない・特にな	13	18	0	460	330	46	22	16	7	912
その他	6	5	3	216	73	40	9	6	4	362
回答者数	687	201	33	27,565	5,633	787	256	132	36	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(2人以下・権利を守られていると感じない)

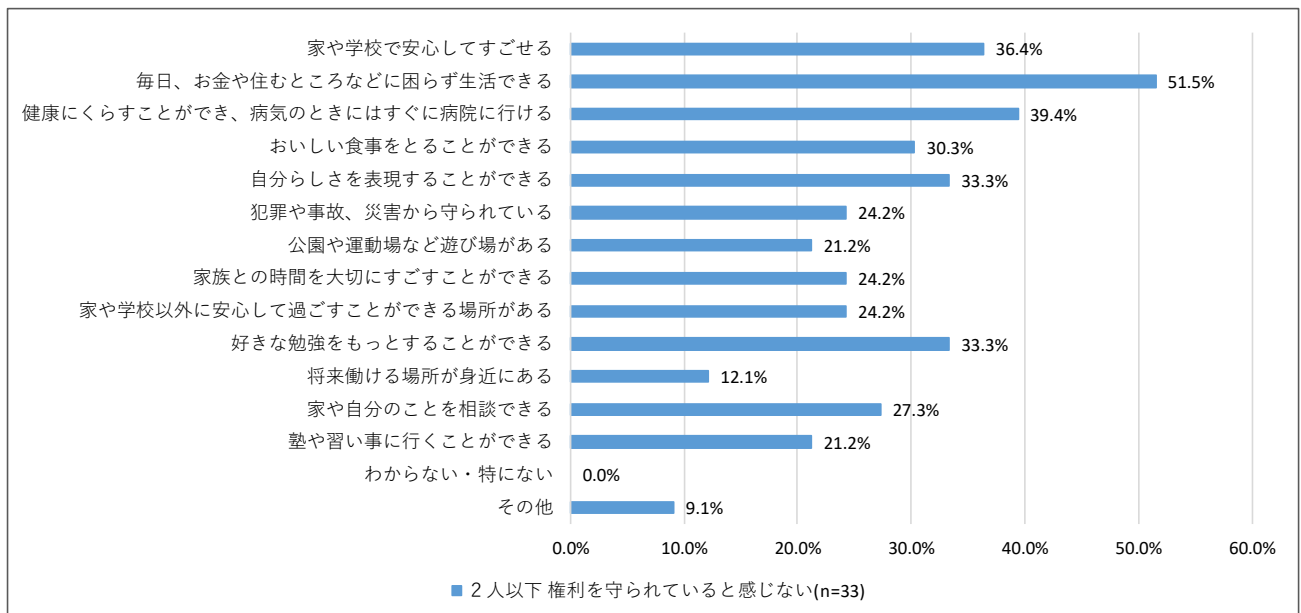
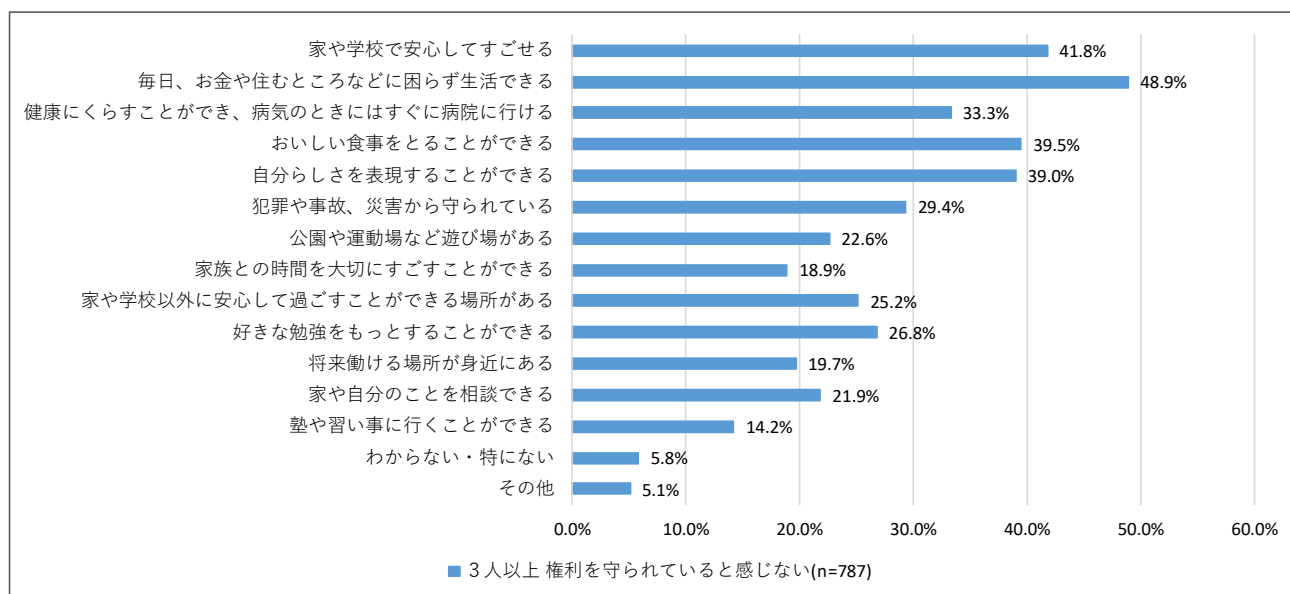


図 世帯人員区分別 子どもの意見の尊重の感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(3人以上・権利を守られていると感じない)



p. 差別的な扱いの感じ方別集計

「とても感じる」と回答した児童・生徒は「公園や運動場など遊び場がある」を選択した割合が最も高かった。「感じる」「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した児童・生徒は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高かった。「どちらともいえない」と回答した児童・生徒は「毎日、お金や住むところに困らず生活できる」と回答した割合が最も高かった。

図 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(とても感じる)

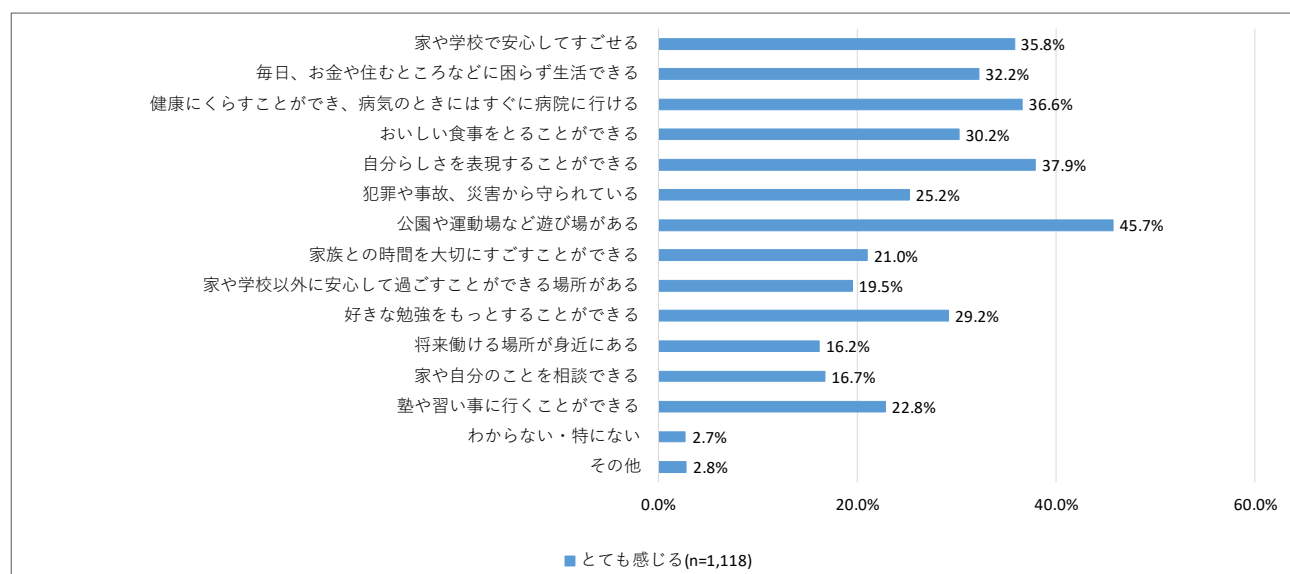


図 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(感じる)

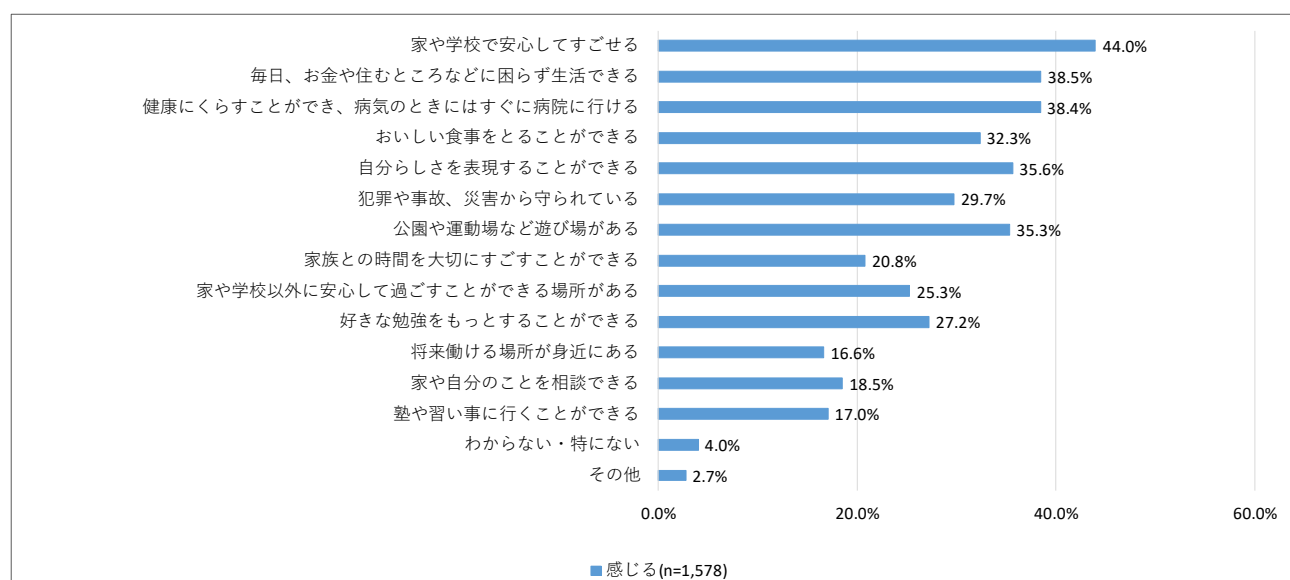


図 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(どちらともいえない)

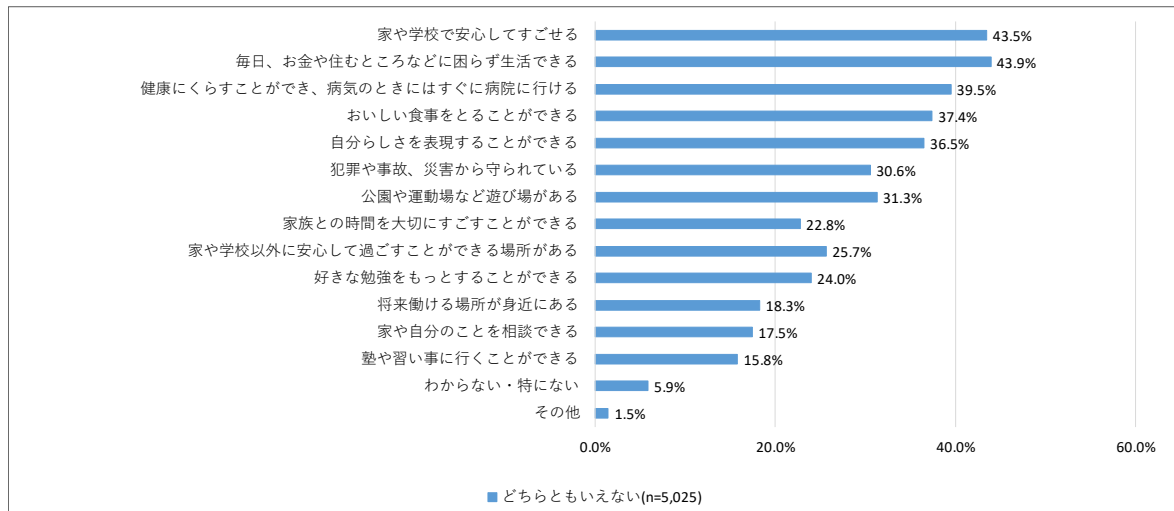


図 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと (あまり感じない)

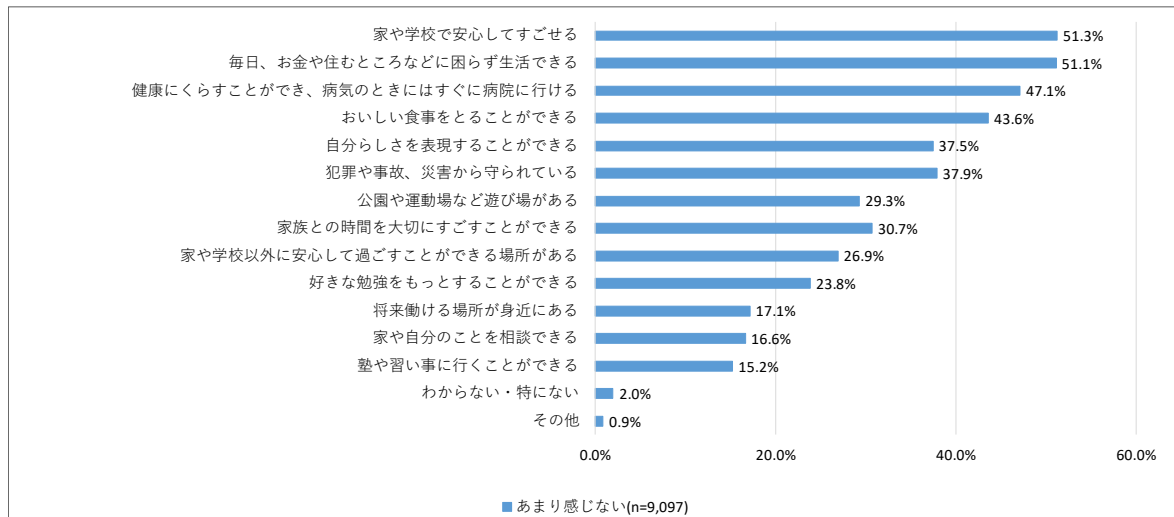
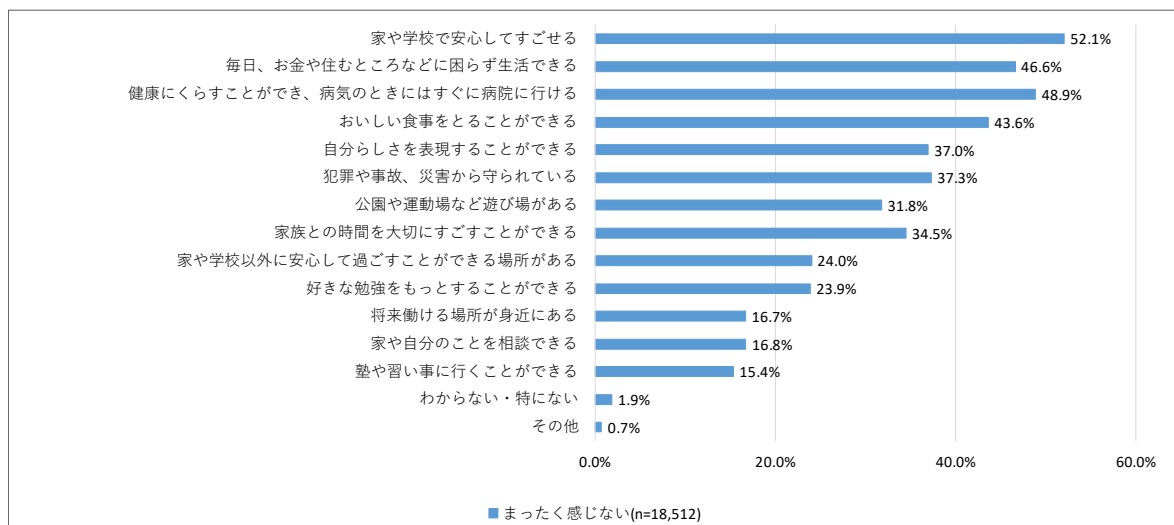


図 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(まったく感じない)



q. 学校区分別差別的な扱いの感じ方別集計

差別の禁止の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、小学生、中学生は「家や学校で安心してすごせる」が、高校生は「公園や運動場など遊び場がある」を選択した割合が最も高かった。

表 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	小学生			中学生			高校生			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	4,077	773	384	6,002	920	408	4,230	492	302	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	3,516	704	318	5,429	947	367	4,340	556	282	16,459
健康に過ごすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	4,197	742	352	5,290	811	360	3,851	432	303	16,338
おいしい食事をとることができる	3,501	638	291	5,097	805	323	3,444	437	234	14,770
自分らしさを表現することができる	2,637	550	285	4,527	822	363	3,095	463	338	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	3,346	579	295	4,255	670	289	2,754	287	167	12,642
公園や運動場など遊び場がある	3,295	705	356	3,457	586	365	1,804	282	347	11,197
家族との時間を大切に過ごすことができる	2,936	459	203	3,778	453	192	2,470	232	168	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	1,940	407	234	2,946	595	227	2,014	288	156	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	2,048	428	250	2,541	488	247	2,003	289	258	8,552
将来働ける場所が身近にある	1,575	329	150	1,852	407	177	1,227	183	116	6,016
家や自分のことを相談できる	1,255	314	166	1,841	364	172	1,522	199	141	5,974
塾や習い事に行くことができる	1,776	329	189	1,665	316	176	794	150	159	5,554
わからない・特にな	144	64	27	219	106	37	162	124	29	912
その他	87	35	30	67	23	21	61	15	23	362
回答者数	8,081	1,675	851	11,297	2,066	930	8,231	1,284	915	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(小学生・権利を守られていると感じない)

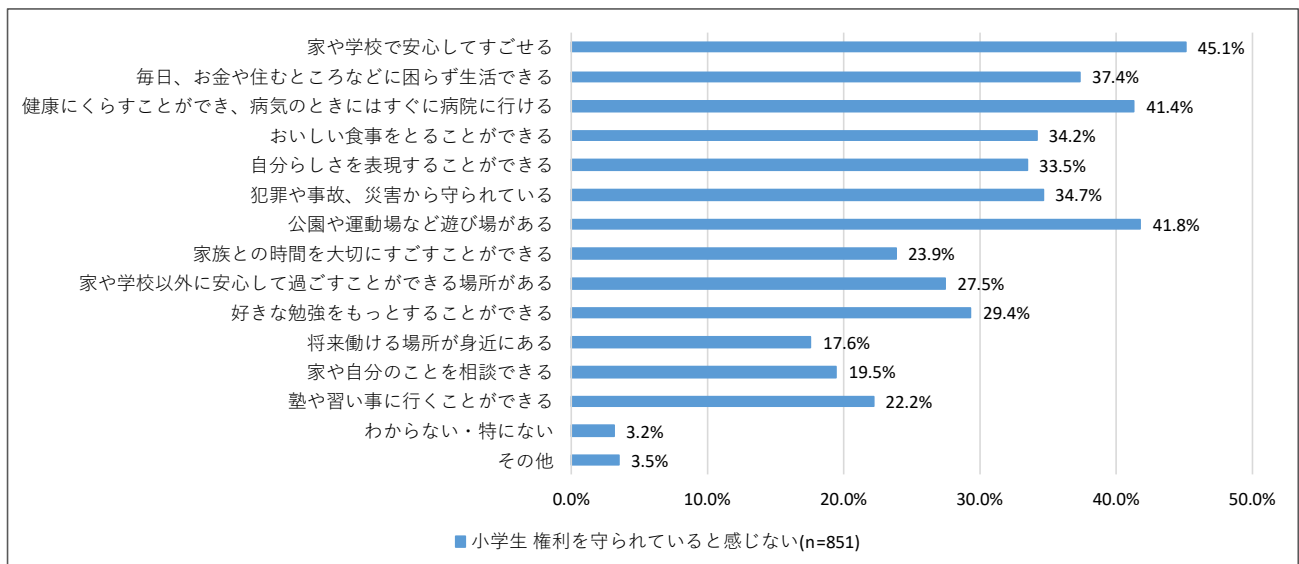


図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(中学生・権利を守られていると感じない)

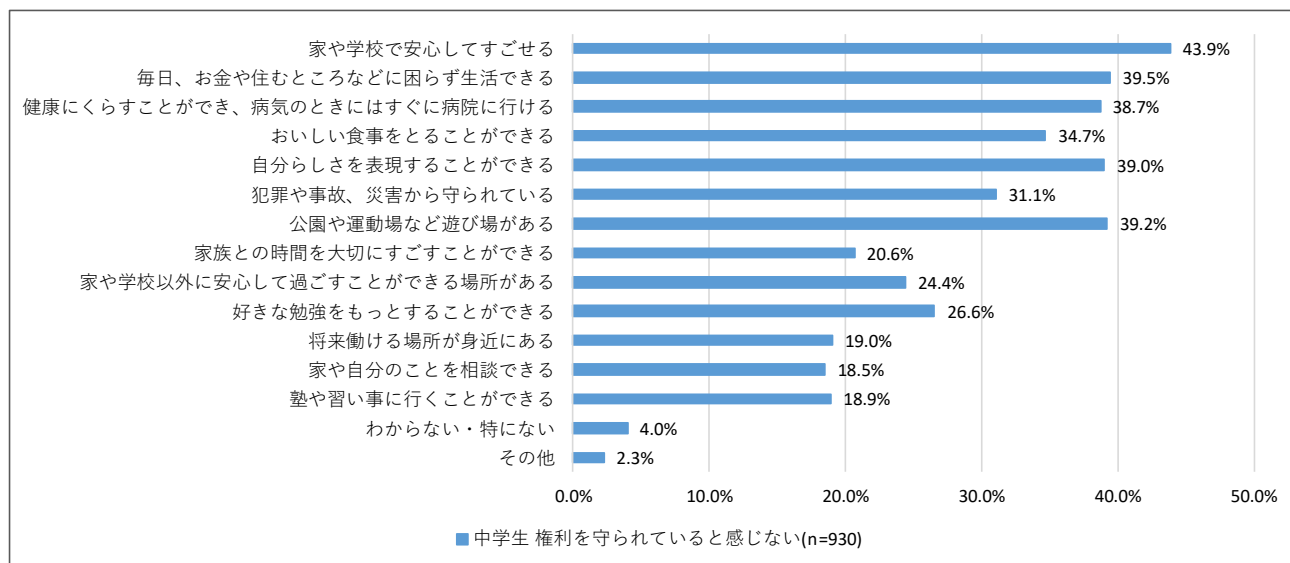
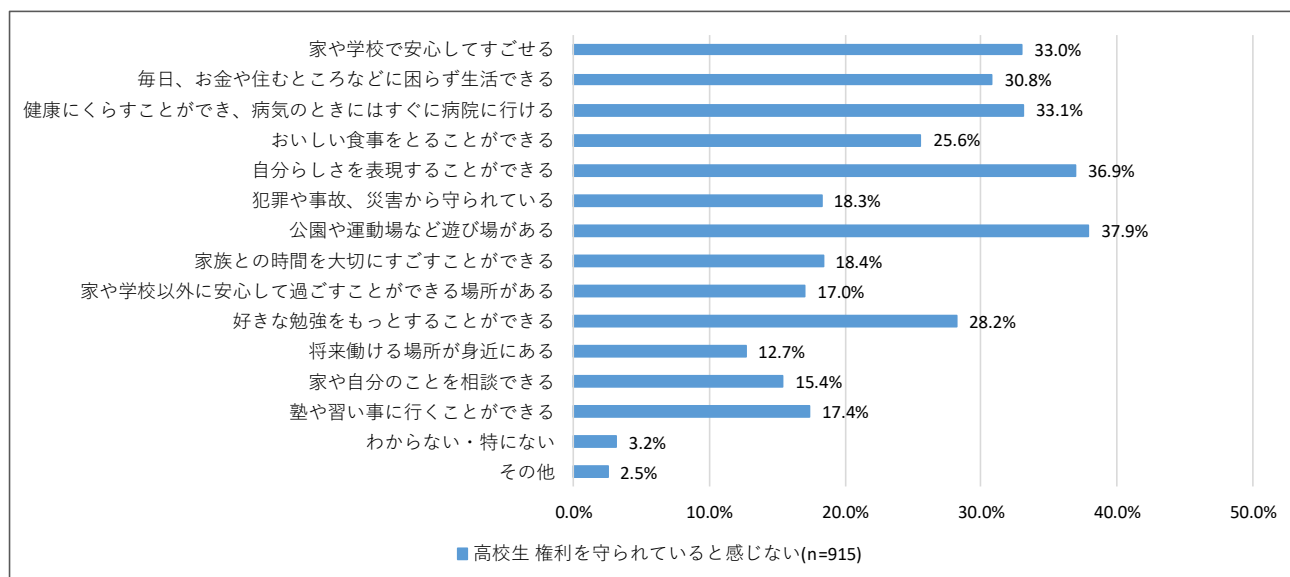


図 学校区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(高校生・権利を守られていると感じない)



r. 世帯人員区分別差別的な扱いの感じ方別集計

差別の禁止の感じ方について「権利を守られていると感じない」層に注目すると、世帯人員区分「2人以下」「3人以上」は「家や学校で安心してすごせる」を選択した割合が最も高かった。

表 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

	2人以下			3人以上			その他			計
	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	権利を守られていると感じる	どちらともいえない	権利を守られていないと感じる	
家や学校で安心してすごせる	322	54	40	13,882	2,097	1,034	105	34	20	17,588
毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる	330	68	33	12,844	2,100	911	111	39	23	16,459
健康にくらすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける	307	55	38	12,921	1,896	958	110	34	19	16,338
おいしい食事をとることができる	286	64	27	11,657	1,784	801	99	32	20	14,770
自分らしさを表現することができる	258	58	35	9,911	1,738	936	90	39	15	13,080
犯罪や事故、災害から守られている	210	39	18	10,063	1,468	717	82	29	16	12,642
公園や運動場など遊び場がある	184	37	26	8,310	1,505	1,025	62	31	17	11,197
家族との時間を大切にすごすことができる	200	30	13	8,913	1,093	545	71	21	5	10,891
家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある	159	33	16	6,683	1,234	591	58	23	10	8,807
好きな勉強をもっとすることができる	151	52	29	6,388	1,121	712	53	32	14	8,552
将来働ける場所が身近にある	126	24	9	4,479	871	420	49	24	14	6,016
家や自分のことを相談できる	119	19	20	4,461	845	453	38	13	6	5,974
塾や習い事に行くことができる	69	23	20	4,132	755	498	34	17	6	5,554
わからない・特にない	11	16	4	492	261	83	22	17	6	912
その他	8	6	0	199	65	65	8	2	9	362
回答者数	660	168	93	26,700	4,744	2,541	249	113	62	35,330

※複数回答の設問であるため、選択肢ごとの回答数の合計が「回答者数合計」と一致しないことに留意

図 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(2人以下・権利を守られていると感じない)

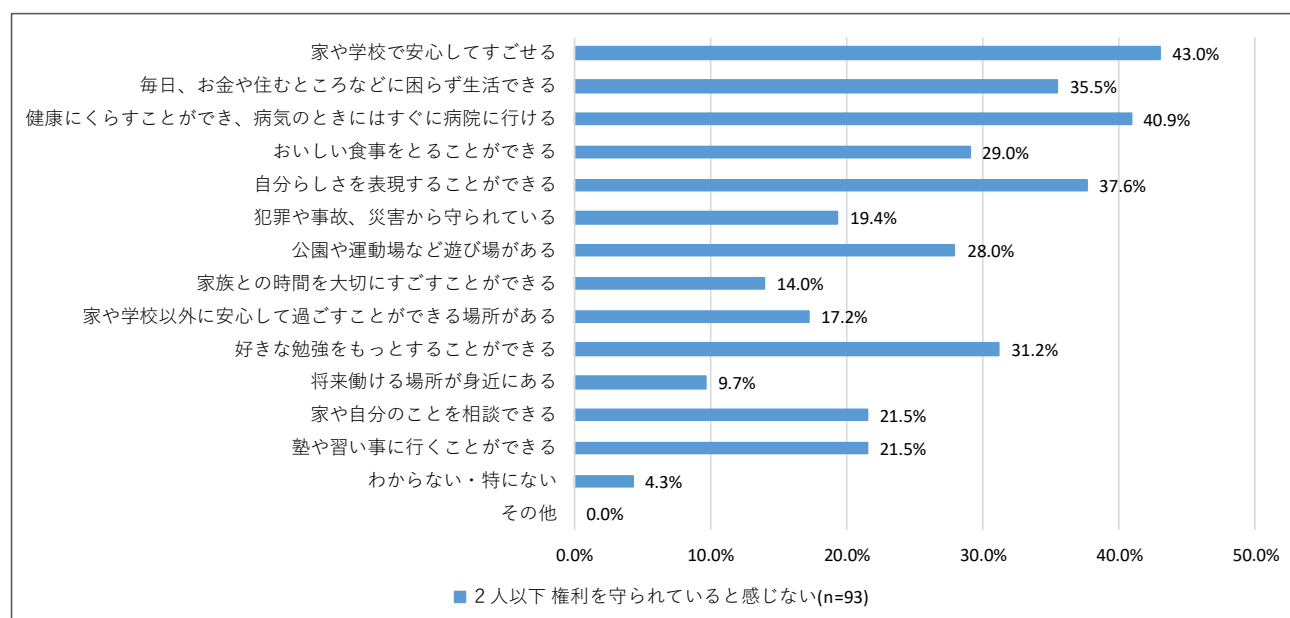
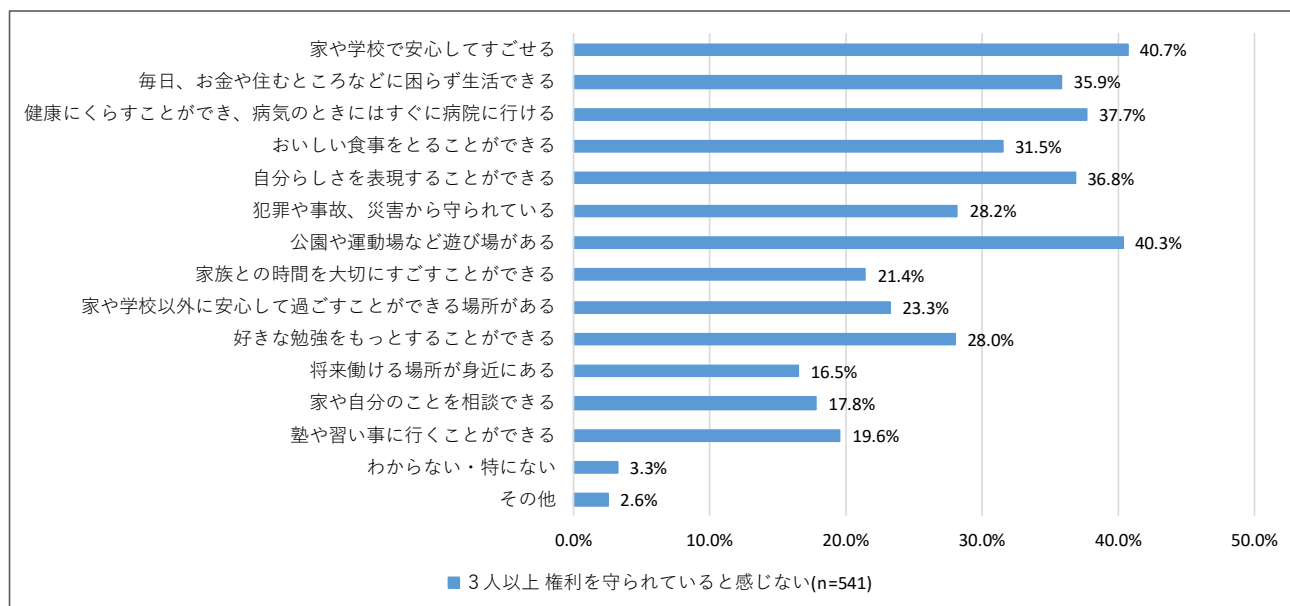


図 世帯人員区分別 差別的な扱いの感じ方別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと
(3人以上・権利を守られていると感じない)



4章 自由記述分析

4. 1 自由記述の集計結果

本アンケートでは、任意回答での自由記述の設問を適宜設けている。自由記述式の設問、その回答数・回答構成比は以下のとおりである。

学校区分別では「高校生」の回答構成比が比較的低い傾向であったが、その他の属性による偏りは見られなかった。

表 自由記述式設問の回答数

自由記述設問 自由記述回答者属性	学校区分別				性別				世帯数別			
	小学生	中学生	高校生	合計	男	女	その他	合計	2人以下	3人以上	その他	合計
どのような場合に生命生存及び発達に対する権利を守られていないと感じるか	335	312	211	858	413	352	93	858	29	793	36	858
どのような場合に子どもの最善の利益を守られていないと感じるか	210	176	107	493	264	176	53	493	18	448	27	493
どのような場合に子どもの意見の尊重を守られていないと感じるか	306	313	185	804	375	354	75	804	28	742	34	804
どのような場合に差別の禁止を守られていないと感じるか	567	431	147	1,145	567	477	101	1,145	33	1,070	42	1,145
子どもの権利を守るためにあると良い仕組みについて	608	590	279	1,477	781	631	65	1,477	39	1,406	32	1,477
将来の希望について	1,870	1,638	553	4,061	2,009	1,907	145	4,061	112	3,877	72	4,061
安心して自分らしく暮らすために必要なことについて	694	641	268	1,603	802	728	73	1,603	54	1,513	36	1,603
何か大人の人に伝えたいことや県の子ども計画に入れてほしいことについて	2,563	2,279	1,166	6,008	3,295	2,495	218	6,008	153	5,748	107	6,008
回答者総数	10,607	14,293	10,430	35,330	17,892	16,598	840	35,330	921	33,985	424	35,330

表 自由記述式設問の回答構成比

自由記述設問 自由記述回答者属性	学校区分別				性別				世帯数別			
	小学生	中学生	高校生	合計	男	女	その他	合計	2人以下	3人以上	その他	合計
どのような場合に生命生存及び発達に対する権利を守られていないと感じるか	39.0%	36.4%	24.6%	100.0%	48.1%	41.0%	10.8%	100.0%	3.4%	92.4%	4.2%	100.0%
どのような場合に子どもの最善の利益を守られていないと感じるか	42.6%	35.7%	21.7%	100.0%	53.5%	35.7%	10.8%	100.0%	3.7%	90.9%	5.5%	100.0%
どのような場合に子どもの意見の尊重を守られていないと感じるか	38.1%	38.9%	23.0%	100.0%	46.6%	44.0%	9.3%	100.0%	3.5%	92.3%	4.2%	100.0%
どのような場合に差別の禁止を守られていないと感じるか	49.5%	37.6%	12.8%	100.0%	49.5%	41.7%	8.8%	100.0%	2.9%	93.4%	3.7%	100.0%
子どもの権利を守るためにあると良い仕組みについて	41.2%	39.9%	18.9%	100.0%	52.9%	42.7%	4.4%	100.0%	2.6%	95.2%	2.2%	100.0%
将来の希望について	46.0%	40.3%	13.6%	100.0%	49.5%	47.0%	3.6%	100.0%	2.8%	95.5%	1.8%	100.0%
安心して自分らしく暮らすために必要なことについて	43.3%	40.0%	16.7%	100.0%	50.0%	45.4%	4.6%	100.0%	3.4%	94.4%	2.2%	100.0%
何か大人の人に伝えたいことや県の子ども計画に入れてほしいことについて	42.7%	37.9%	19.4%	100.0%	54.8%	41.5%	3.6%	100.0%	2.5%	95.7%	1.8%	100.0%

【3次元クロス集計における集計項目の再編成について】

- 個人属性のうち学年を、「小学5年生」「小学6年生」を「小学生」として、「中学1年生」「中学2年生」「中学3年生」を「中学生」として、「高校1年生」「高校2年生」「高校3年生」を「高校生」として集計した。

※3次元クロス集計について、個人属性のうち世帯人員を、「1人」「2人」を「2人以下」として、「3人」「4人」「5人」「6人以上」を「3人以上」として、「その他」を「その他」として集計した。

【自由記述回答のカテゴリ分類について】

※自由記述の分析について、設問内容・回答内容の属性からそれぞれの設問に適したカテゴリを設定し、全ての回答に対し、カテゴリ分類を行い、カテゴリごとの集計を行った。複数のカテゴリに属すると考えられる回答に関しては、それぞれのカテゴリの回答として計上し、集計を行った。同じ文字の羅列等、文章として意味を成していない記述内容や回答を拒否する内容や理由がない等の記述内容に関しては、集計対象から除外することとした。

代表例：問 2.3「どのような場合に生命生存及び発達に対する権利を守られていないと感じるか」での回答「家で親が喧嘩している時。親に一方的に嫌な事を言われるとき。」という回答では「家族」と「暴言」の二つのカテゴリに分類し、それぞれ計上している。

【カテゴリ間集計について】

※上述のカテゴリについて、複数のカテゴリに属する回答を対象にカテゴリ間の関連度を見出すため、カテゴリ同士のクロス集計を実施した。具体的にはカテゴリ A、カテゴリ B が存在するとした場合に、両者のカテゴリに分類される回答数をマトリクス表で示すこととした。また、それぞれのカテゴリの回答数と関連度を直感的に把握できるように各カテゴリを円で表し、関連度が一定以上あるカテゴリを直線で結ぶ模式図を作成した。模式図は、カテゴリの回答数が円の大きさ、カテゴリごとの相関性（直線でつながれた 2 つのカテゴリに分類されている回答数）を直線の太さで表している。それぞれの具体例を次ページに示す。

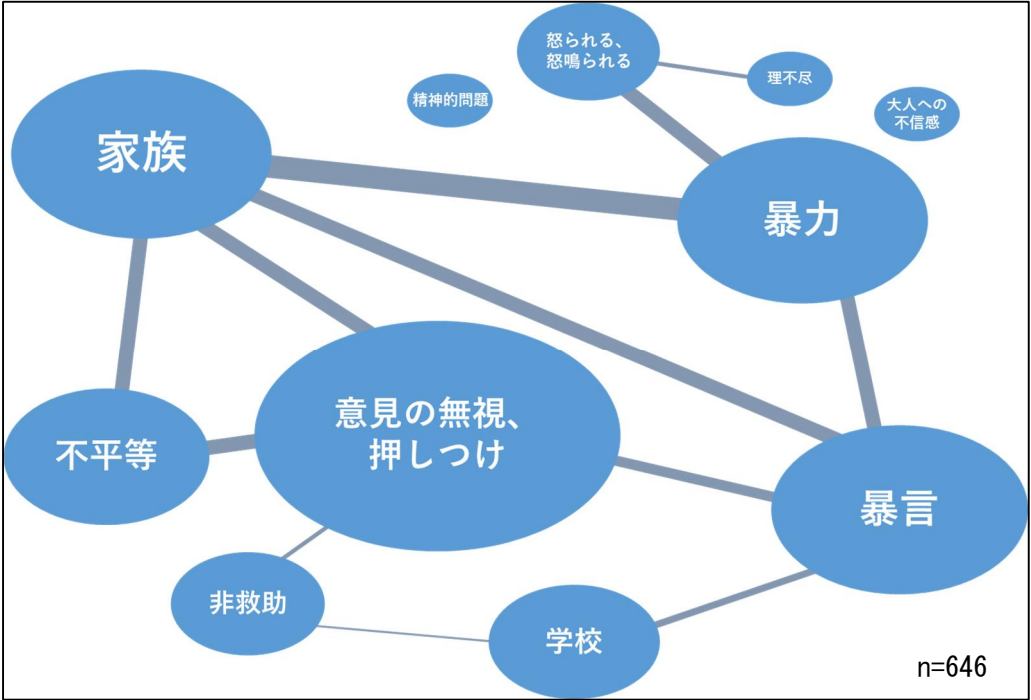
表 5-1.回答数マトリクス表の見方として「暴力」・「意見の無視、押しつけ」の両カテゴリに分類される記述が 4 件、「家族」・「意見の無視、押しつけ」の両カテゴリに分類される記述が 21 件というように縦軸・横軸の対応するカテゴリの回答件数を示すようになっている。

表 5-1 問 2.3「どのような場合に生命生存及び発達に対する権利を守られていないと感じるか」の回答数マトリクス表

		カテゴリ										
		意見の無視、押しつけ	暴力	家族	暴言	不平等	学校	非救助	怒られる、怒鳴られる	理不尽	大人への不信感	精神的問題
カ テ ゴ リ	意見の無視、押しつけ											
	暴力	4										
	家族	21	24									
	暴言	14	18	18								
	不平等	18	4	18	4							
	学校	7	13	5	13	9						
	非救助	9	4	4	3	2	7					
	怒られる、怒鳴られる	6	16	9	4	1	5	2				
	理不尽	5	5	2	5	3	6	0	7			
	大人への不信感	1	0	2	1	0	0	2	0	0		
	精神的問題	3	2	3	4	2	2	3	1	1	0	

図 5-1. カテゴリ間関連度の模式図の見方として、各カテゴリの中で最も回答の多い「意見の無視、押しつけ」の円が 1 番大きく示されており、「家族」、「不平等」、「暴言」、「非救助」と直線で結ばれていることから一定の関連度があることが分かる。また、線の太さに着目すると、「家族」と「暴力」を結ぶ直線が最も太く、他のカテゴリ間と比べ関連度が高いことが分かる。

図 5-1 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間関連度の模式図



4. 2 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由

問 2.3 では、問 2.2「あなたは、まわりの大人があなたの心も体も大事にしてくれていると感じますか？」について、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した回答者を対象に「どのような場合にそう感じましたか？」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 2.3 の各回答内容から以下の 12 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ② 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ③ 暴力…大人から暴力を加えられた経験等に関する記述内容
- ④ 暴言…大人から暴言を言われた経験等に関する記述内容
- ⑤ 不平等…大人からの扱いに他者と差を感じる等、不平等を感じる経験等に関する記述内容
- ⑥ 非救助…大人からの救助・援助を得られなかった経験等に関する記述内容
- ⑦ 意見の無視、押しつけ…回答者自身の意見の無視、もしくは大人から意見を押し付けられた経験等に関する記述内容
- ⑧ 理不尽…大人から理不尽な扱いを受けた経験等に関する記述内容
- ⑨ 大人への不信感…大人への不信感に関する記述内容
- ⑩ 怒られる、怒鳴られる…大人から怒られた経験、怒鳴られた経験等に関する記述内容
- ⑪ 精神的問題…大人と接する中で感じる精神的ストレスや自身の精神問題等に関する記述内容
- ⑫ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
親に相談をしても、話を最後まで聞いてくれない。アドバイス？しかしてくれない	意見の無視、押しつけ	小学6年生	女	3
女の子らしく振る舞うというのを無理やりされている感じ	意見の無視、押しつけ	中学1年生	その他	6
テスト前に時間を拘束してくる（手伝いやボランティア参加、子どもの面倒を見る等）	意見の無視、押しつけ	高校2年生	その他	3
お母さんがたまにすごく怒ると殴られることがあるから	暴力	小学5年生	男	5
お父さんが怒り、家から閉め出された時。	暴力	小学6年生	男	4
家庭での論争や喧嘩が絶えず何もしないで見ていだけで止めてくれない	家族	小学6年生	男	6
家族から心配された記憶がない、励ましてくれない。	家族	中学2年生	女	5
「死ね」や「俺の家から出ていけ」などと暴言を吐かれたとき。	暴言	中学2年生	男	5
他の人と比べて自分のことを貶すような言葉を言われたこと	暴言	中学3年生	女	5
先生が女子と男子での接し方が違う	不平等	小学6年生	男	4
兄弟と比べられる	不平等	中学3年生	女	5
いじめのことを相談しても「我慢しなさい」といわれるとき	非救助	小学6年生	その他	5
体の不調を訴えてもあまり話を聞いてくれない	非救助	中学1年生	女	3
先生がスポーツフェスティバルの練習の時頭が痛くないと水を飲むなどと言っていた	学校	小学6年生	男	4
子どものための機関(学校)にお金が回っていない	学校	高校3年生	男	4
失敗を追求されたときや、キツイ言葉を言われたとき	怒られる、怒鳴られる	中学3年生	男	4
中には優しい大人もいるが、叱り方で心に傷をつけてしまう先生がいろんな学校にいるから。	怒られる、怒鳴られる	中学1年生	女	5
自分が苦痛と感じている勉強を強制されたりするとき。	理不尽	高校1年生	女	5
心の方面には気が配れていないと感じるから	精神的問題	中学3年生	女	3
周りの大人がどう思っているのかわからない	大人への不信任	中学1年生	女	5
健康に育ててくれているから	ポジティブな意見	小学5年生	女	4
子供に関する事件、ニュースがあったとき	その他(社会的な問題)	中学2年生	女	4
疲れがとれないとき	その他 (身体的健康に関連する問題)	中学3年生	女	4
自分のことで精一杯そう	その他 (自己中心的な大人の態度)	高校3年生	男	3

(2) 単純集計

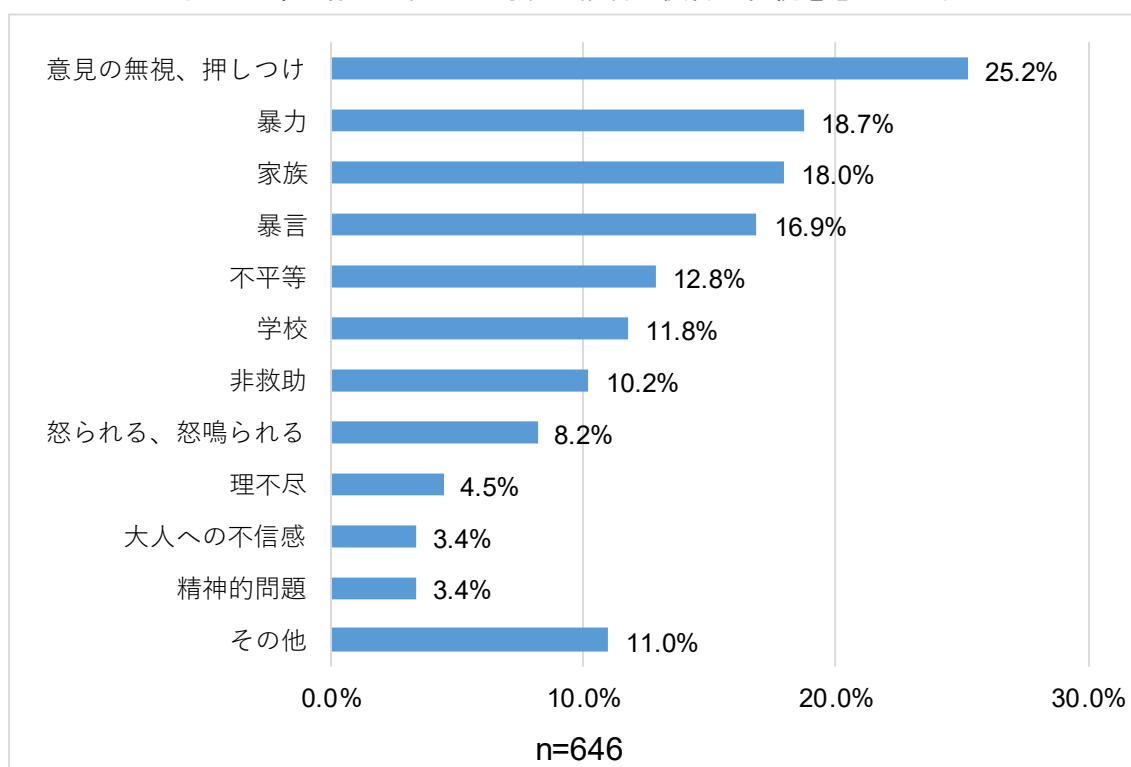
最も回答件数の多かったカテゴリは「意見の無視、押しつけ」であり、回答割合が 19.4% となった。

「回答拒否・理由なし」カテゴリの回答を除くと、次いで「暴力」、「家族」、「暴言」カテゴリの順に回答が多く、それぞれ 10% を上回る結果となった。

表 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ	意見の無視、押しつけ	暴力	家族	暴言	不平等	学校	非救助	怒られる、怒鳴られる	理不尽	大人への不信感	精神的問題	その他	回答者数
回答数	163	121	116	109	83	76	66	53	29	22	22	71	646
比率	25.2%	18.7%	18.0%	16.9%	12.8%	11.8%	10.2%	8.2%	4.5%	3.4%	3.4%	11.0%	100.0%

図 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由



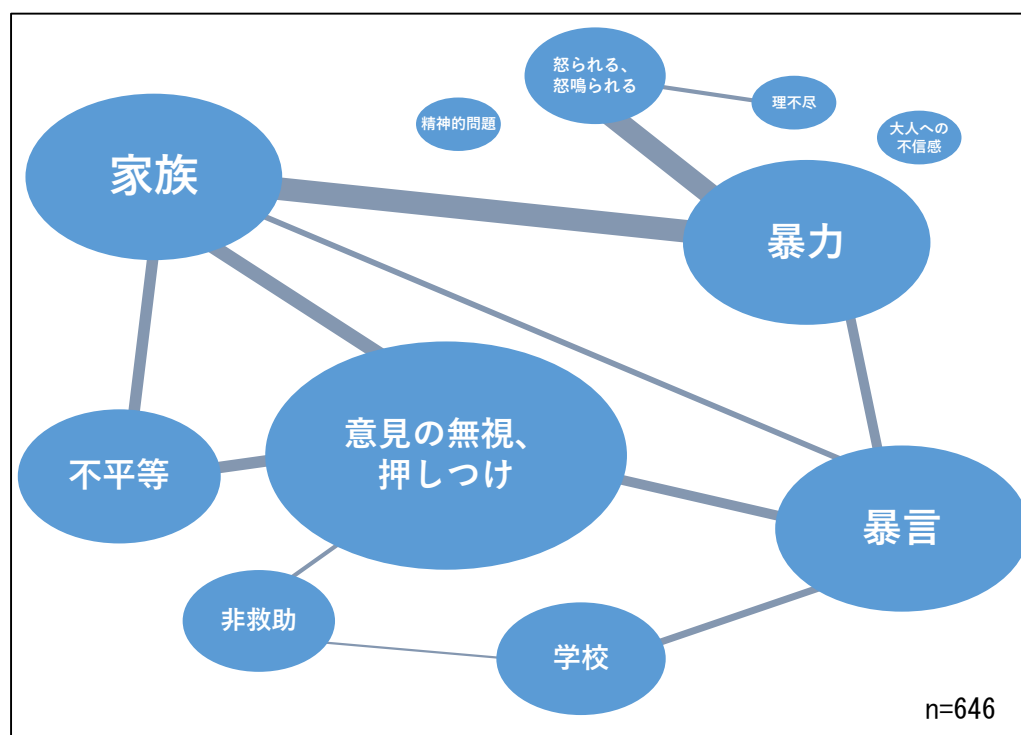
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「家族/暴力」であり、次いで、多かった組み合わせが「家族/意見の無視、押しつけ」であった。

表 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間集計

		カテゴリ										
		意見の無視、押しつけ	暴力	家族	暴言	不平等	学校	非救助	怒られる、怒鳴られる	理不尽	大人への不信感	精神的問題
カ テ ゴ リ	意見の無視、押しつけ											
	暴力	4										
	家族	21	24									
	暴言	14	18	18								
	不平等	18	4	18	4							
	学校	7	13	5	13	9						
	非救助	9	4	4	3	2	7					
	怒られる、怒鳴られる	6	16	9	4	1	5	2				
	理不尽	5	5	2	5	3	6	0	7			
	大人への不信感	1	0	2	1	0	0	2	0	0		
	精神的問題	3	2	3	4	2	2	3	1	1	0	

図 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間関連度の模式図



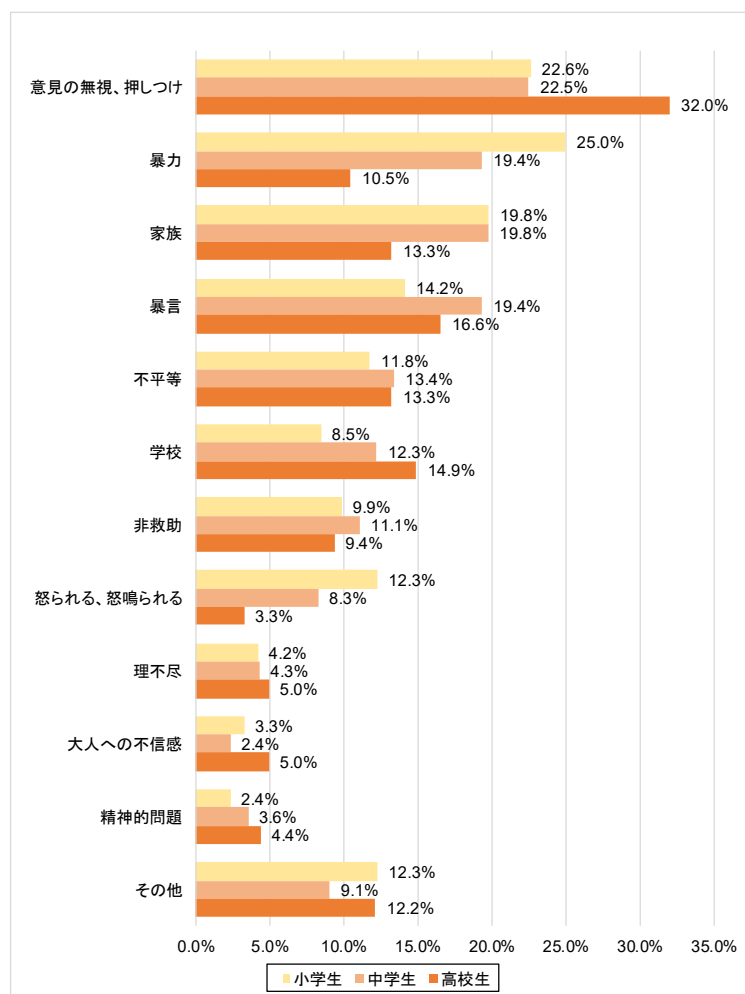
(4) 学年別集計

中学生・高校生の回答で最も回答割合が高いカテゴリは「意見の無視、押しつけ」であり、それぞれ22.5%・32.0%であった。小学生の回答では「その他」を除くと「暴力」で25.0%となった。また、「学校」、「理不尽」、「精神的問題」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一方、「暴力」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、押しつけ	暴力	家族	暴言	不平等	学校	非救助	怒られる、怒鳴られる	理不尽	大人への不信感	精神的問題	その他	回答者数
回答数	小学生	48	53	42	30	25	18	21	26	9	7	5	26	212
	中学生	57	49	50	49	34	31	28	21	11	6	9	23	253
	高校生	58	19	24	30	24	27	17	6	9	9	8	22	181
比率	小学生	22.6%	25.0%	19.8%	14.2%	11.8%	8.5%	9.9%	12.3%	4.2%	3.3%	2.4%	12.3%	100.0%
	中学生	22.5%	19.4%	19.8%	19.4%	13.4%	12.3%	11.1%	8.3%	4.3%	2.4%	3.6%	9.1%	100.0%
	高校生	32.0%	10.5%	13.3%	16.6%	13.3%	14.9%	9.4%	3.3%	5.0%	5.0%	4.4%	12.2%	100.0%

図 学年別 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由（割合）



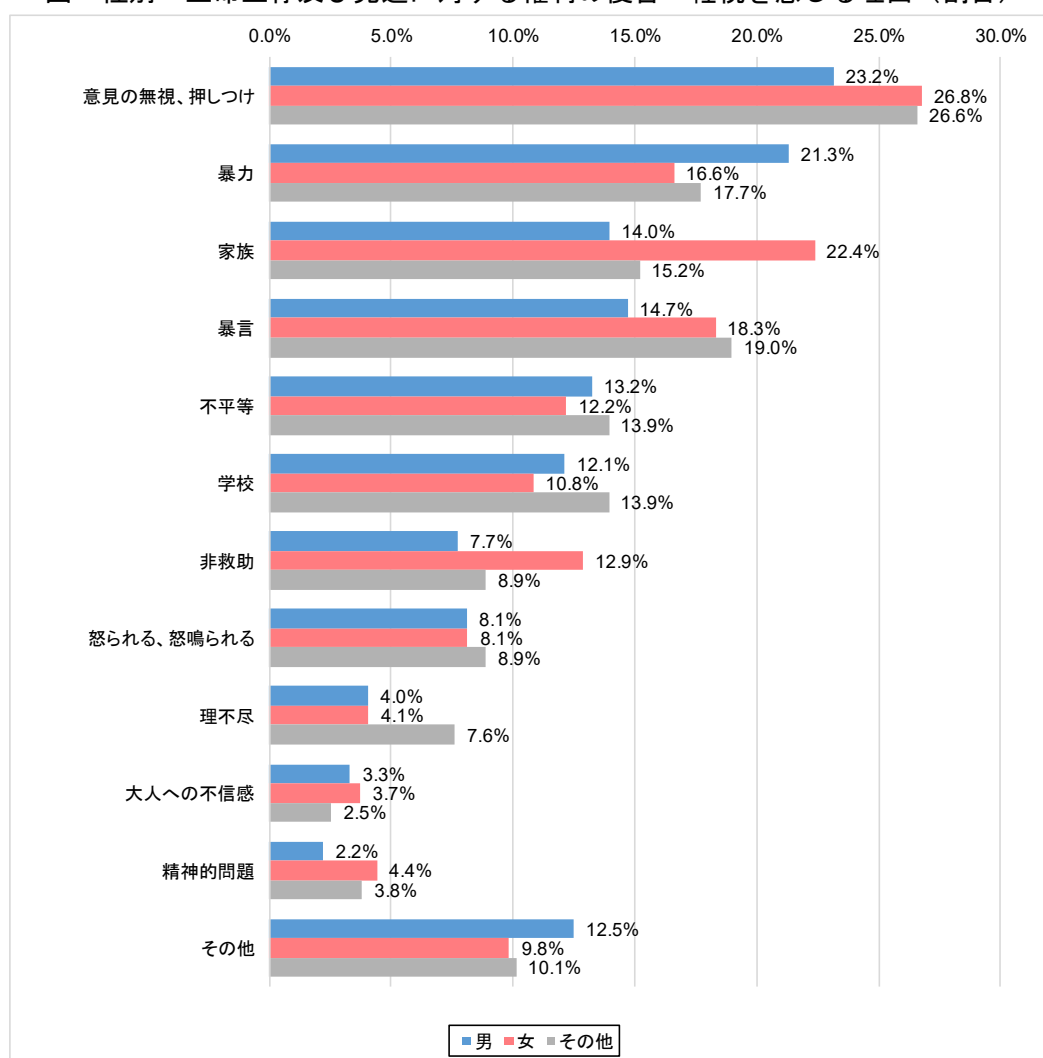
(5) 性別集計

全ての性別において「意見の無視、押しつけ」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、男が23.2%、女が26.8%、その他が26.6%であった。

表 性別 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、押しつけ	暴力	家族	暴言	不平等	学校	非救助	怒られる、怒鳴られる	理不尽	大人への不信感	精神的問題	その他	回答者数
回答数	男	63	58	38	40	36	33	21	22	11	9	6	34	272
	女	79	49	66	54	36	32	38	24	12	11	13	29	295
	その他	21	14	12	15	11	11	7	7	6	2	3	8	79
比率	男	23.2%	21.3%	14.0%	14.7%	13.2%	12.1%	7.7%	8.1%	4.0%	3.3%	2.2%	12.5%	100.0%
	女	26.8%	16.6%	22.4%	18.3%	12.2%	10.8%	12.9%	8.1%	4.1%	3.7%	4.4%	9.8%	100.0%
	その他	26.6%	17.7%	15.2%	19.0%	13.9%	13.9%	8.9%	8.9%	7.6%	2.5%	3.8%	10.1%	100.0%

図 性別 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由（割合）



(6) 世帯数別集計

本設問では、世帯数が「2人以下」、「その他」の回答者数が少数であったため、世帯数別集計を実施していない。

4. 3 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由

問 2.5 では、問 2.4「あなたは、まわりの大人が、あなたにとって良いことは何かを考えて行動してくれていると感じますか？」について、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した回答者を対象に「どのような場合にそう感じましたか？」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 2.5 の各回答内容から以下の 9 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ② 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ③ コミュニケーション…コミュニケーション不足等に関する記述内容
- ④ 教育問題…進学や昨今の教育問題、教育体制等に関する記述内容
- ⑤ 孤独…回答者自身の孤独だと感じた経験に関する記述内容
- ⑥ 不平等…不平等な扱いを受けた経験や不公平を感じた経験等に関する記述内容
- ⑦ 意見の無視、押しつけ…意見の無視、もしくは大人から意見を押し付けられた経験等に関する記述内容
- ⑧ 大人非行動…周囲の大人が行動していない、もしくは模範的でない行動を行っている等の記述内容
- ⑨ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
進路の相談をした際に意見を押し付けてきた	意見の無視、押しつけ	高校2年生	その他	3
意見が通らない	意見の無視、押しつけ	高校2年生	その他	1
自分の夢を危険だやめろと否定された	意見の無視、押しつけ	小学6年生	男	1
口だけで全く動かないから	大人非行動	中学3年生	女	1
子供のお手本になるはずの大人の態度や言葉遣いをみると感じない	大人非行動	中学1年生	女	2
親が不機嫌だと、何もしてなくても自分に怒ってくる	家族	小学6年生	男	1
父親の理不尽	家族	小学6年生	男	2
話を聞いてくれないから。	コミュニケーション	高校1年生	その他	2
自分自身が思ってることを共有できていない	コミュニケーション	高校2年生	その他	1
ほったらかしにされるとき	孤独	中学1年生	女	1
みんな僕のこと興味ないから	孤独	中学1年生	女	3
男女で分けるとき	不平等	中学1年生	女	3
自分は買ってもらえないのに、弟だけたくさん買ってもらっているとき	不平等	小学5年生	男	1
私自身について何も理解しようとしてくれない先生がいる	学校	高校1年生	その他	3
学校にいる時	学校	小学6年生	男	3
勝手に進路をかかれたとき	教育問題	中学3年生	女	2
学校の先生の対応は個人への配慮に欠けているし、教育体制自体があまり良いものとは思えない。	教育問題	中学3年生	女	1
普段の生活で	その他(日常生活)	中学1年生	女	2
大人は心がとても汚いから	その他 (大人への不信感)	中学2年生	女	1

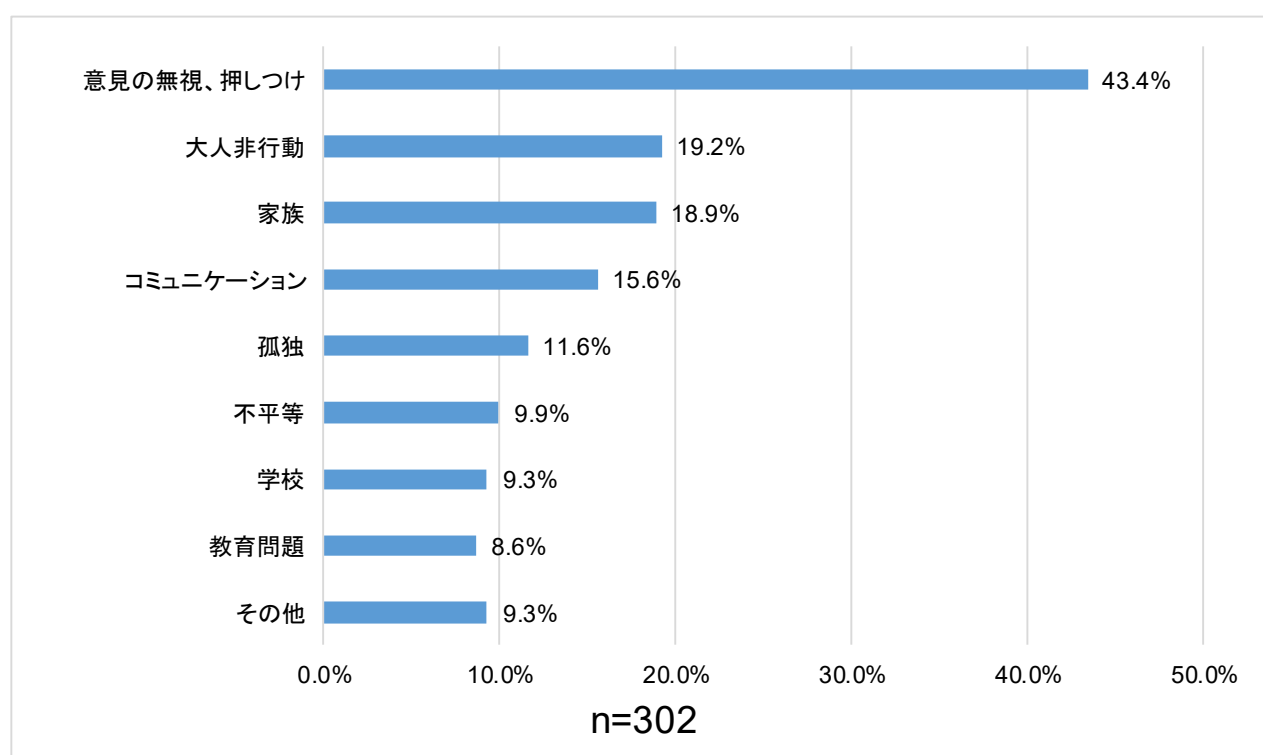
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「意見の無視、押しつけ」であり、回答割合が 43.4%となった。次いで「大人非行動」、「家族」、カテゴリの順に回答が多く、それぞれ 20%近くの回答率となった。

表 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ	意見の無視、押しつけ	大人非行動	家族	コミュニケーション	孤独	不平等	学校	教育問題	その他	回答者数
回答数	134	131	58	57	51	47	35	30	28	302
比率	43.4%	19.2%	18.9%	15.6%	11.6%	9.9%	9.3%	8.6%	9.3%	100.0%

図 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由



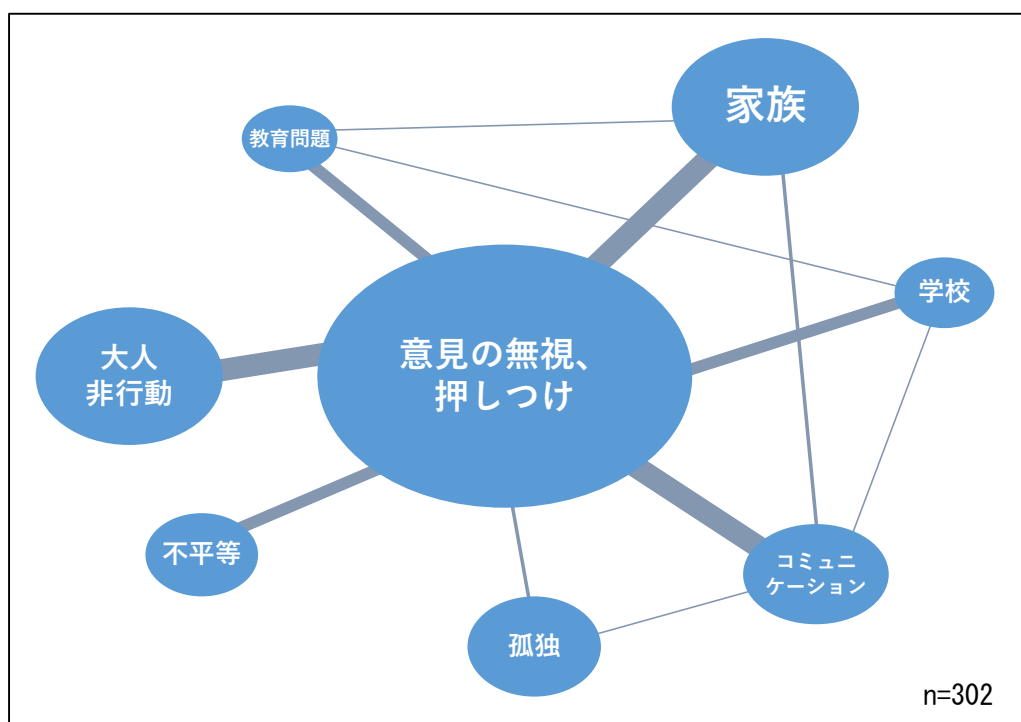
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「家族/意見の無視、押しつけ」「コミュニケーション/意見の無視、押しつけ」であった。模式図を見ると「意見の無視、押しつけ」カテゴリを中心にその他のカテゴリと関連性が伺える。特に「家族」「大人非行動」「コミュニケーション」との関連度が比較的高く、それぞれのカテゴリに関連する場面、状況で「意見の無視、押しつけ」を感じる人が多いと推察される。

表 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間集計

		カテゴリ							
		意見の無視、押しつけ	大人非行動	家族	コミュニケーション	孤独	不平等	学校	教育問題
カテゴリ	意見の無視、押しつけ								
	大人非行動	18							
	家族	19	2						
	コミュニケーション	19	1	6					
	孤独	6	1	4	5				
	不平等	13	1	2	0	2			
	学校	10	2	3	5	2	1		
	教育問題	12	0	5	2	1	2	5	

図 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由（割合） カテゴリ間関連度の模式図



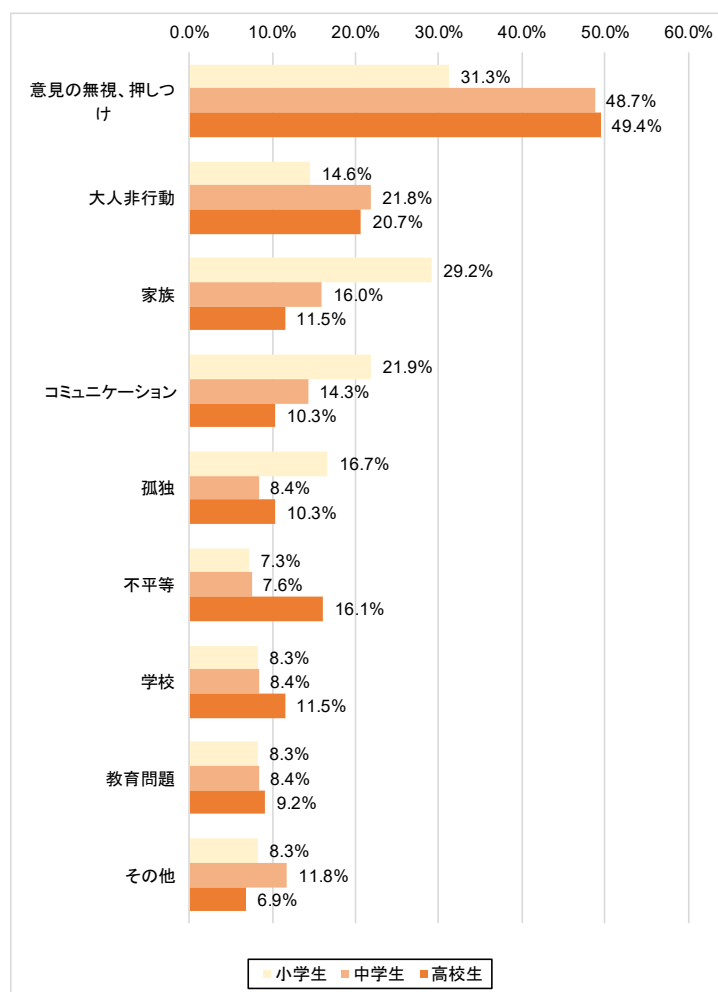
(4) 学年別集計

全ての学年で最も回答割合が高いカテゴリは「意見の無視、押しつけ」であり、小学生が 31.3%、中学生が 48.7%、高校生が 49.4%であった。また、「意見の無視、押しつけ」、「不平等」、「学校」、「教育問題」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一転して、「家族」「コミュニケーション」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、押しつけ	大人非行動	家族	コミュニケーション	孤独	不平等	学校	教育問題	その他	回答者数
回答数	小学生	30	14	28	21	16	7	8	8	8	96
	中学生	58	26	19	17	10	9	10	10	14	119
	高校生	43	18	10	9	9	14	10	8	6	87
比率	小学生	31.3%	14.6%	29.2%	21.9%	16.7%	7.3%	8.3%	8.3%	8.3%	100.0%
	中学生	48.7%	21.8%	16.0%	14.3%	8.4%	7.6%	8.4%	8.4%	11.8%	100.0%
	高校生	49.4%	20.7%	11.5%	10.3%	10.3%	16.1%	11.5%	9.2%	6.9%	100.0%

図 学年別 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由（割合）



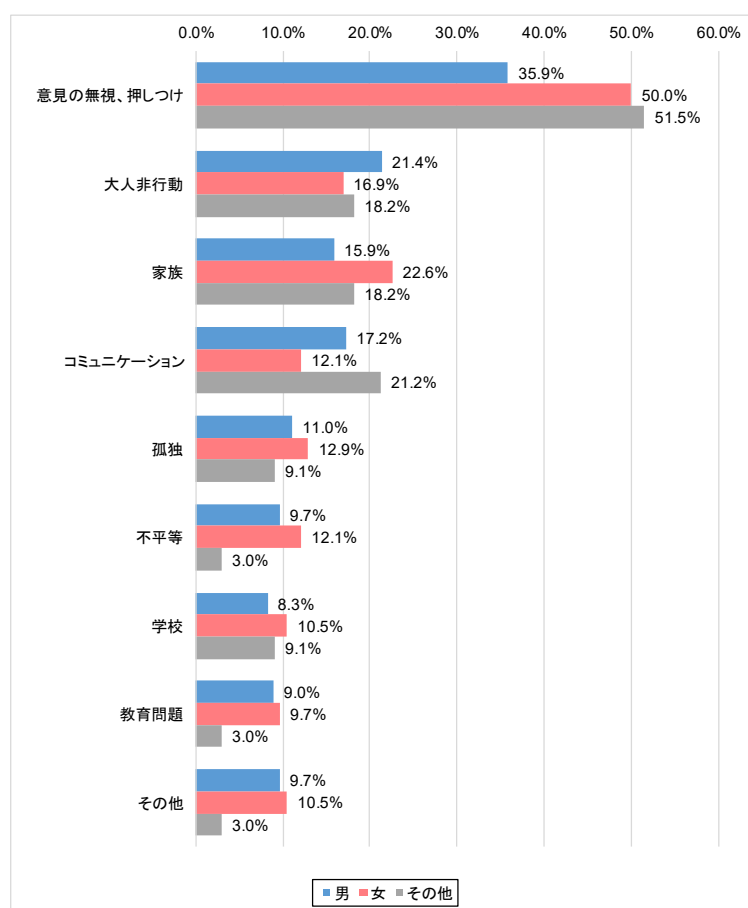
(5) 性別集計

全ての性別において「意見の無視、押しつけ」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、また、女、その他は、男の回答割合と比較して10%以上高く、50%を上回った。女、その他の性別は男よりも意見の無視、もしくは大人から意見を押し付けられたと感じやすい、もしくは感じる場面・経験が多いことが考えられる。

表 性別 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、押しつけ	大人非行動	家族	コミュニケーション	孤独	不平等	学校	教育問題	その他	回答者数
回答数	男	52	31	23	25	16	14	12	13	14	145
	女	62	21	28	15	16	15	13	12	13	124
	その他	17	6	6	7	3	1	3	1	1	33
比率	男	35.9%	21.4%	15.9%	17.2%	11.0%	9.7%	8.3%	9.0%	9.7%	100.0%
	女	50.0%	16.9%	22.6%	12.1%	12.9%	12.1%	10.5%	9.7%	10.5%	100.0%
	その他	51.5%	18.2%	18.2%	21.2%	9.1%	3.0%	9.1%	3.0%	3.0%	100.0%

図 性別 子どもの最善の利益の侵害・軽視を感じる理由（割合）



(6) 世帯数別集計

本設問では、世帯数が「2人以下」、「その他」の回答者数が少数であったため、世帯数別集計を実施していない。

4. 4 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由

問 2.7 では、問 2.6「あなたは、まわりの大人が、あなたの意見を聞いてくれていると感じますか？」について、「あまり感じない」「まったく感じない」と回答した回答者を対象に「どのような場合にそう感じましたか？」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 2.7 の各回答内容から以下の 7 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 意見の無視、非尊重…意見の無視、尊重されていない経験等に関する記述内容
- ② 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ③ 教育問題…進学や昨今の教育問題、教育体制等に関する記述内容
- ④ コミュニケーション…コミュニケーション不足等に関する記述内容
- ⑤ 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑥ 孤独…回答者自身の孤独だと感じた経験に関する記述内容
- ⑦ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
国民の声を聴かず、自分の意見ばかりを尊重する政治家を見たとき	意見の無視、非尊重	小学6年生	男	4
家では話を聞いてもらえない	意見の無視、非尊重	小学5年生	女	6
自分の意見を押し通してあまり自分の考えを聞いてくれないときがあるから	意見の無視、非尊重	小学6年生	女	3
あっそのな感じで流されるから大人を信用することができない。	意見の無視、非尊重	中学2年生	女	3
大人の意見を優先しているから	意見の無視、非尊重	中学2年生	女	4
先生に対して、自分の意見・解釈を伝えたがその後の行動からあまり伝わっている様子が伺えなかった。	意見の無視、非尊重	高校2年生	男	4
学校では、先生たちは、いえば配慮してくれるが、家ではあまり自分の意見が通らないと感じる。	家族	高校3年生	女	5
女だが男の格好がしたい。親は許してくれない。	家族	高校3年生	女	4
子供の意見を聞かずに勝手に部活動を地域クラブにしようとしていること	教育問題	中学2年生	女	3
東京は無償化が多いけど千葉にはない	教育問題	中学3年生	女	3
とても意見を言える雰囲気ではない	コミュニケーション	高校2年生	男	4
話し合いの時	コミュニケーション	小学6年生	女	4
学校で問題があった時泣き出したりした方に先生たちは味方をする	学校	高校2年生	女	3
先生が間違えてしまったときに指摘したら怒鳴られたという話を友達から聞いたこと	学校	高校2年生	その他	7
そのような人間がみじかにいないから	孤独	中学1年生	女	7
誰も本当は見てくれないから	孤独	中学2年生	女	7
社会の構造自体がそうだから。	その他（社会問題）	高校1年生	女	4
信頼できない	その他(信頼関係の欠如)	小学6年生	その他	7
選挙にいかないから	その他（選挙権の有無）	中学3年生	女	4

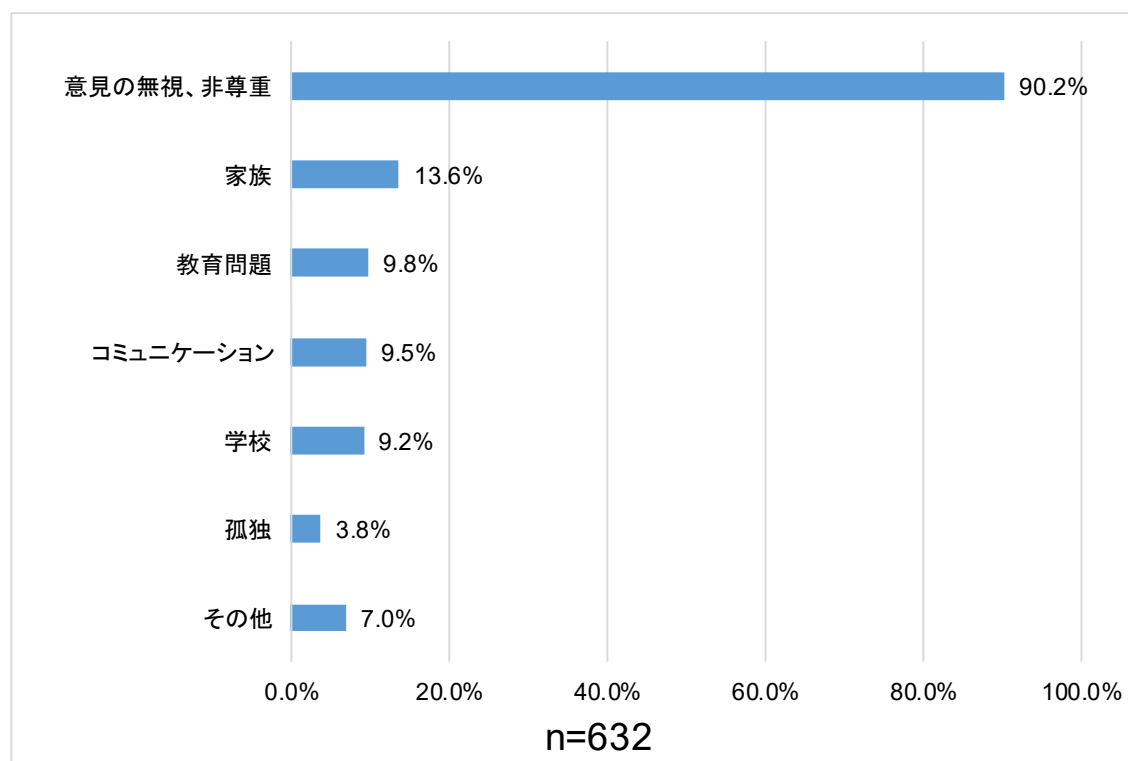
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「意見の無視、非尊重」であり、回答割合が 90.2%とかなり高い割合になった。子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由を問う設問であるため、必然的に上記カテゴリに該当する記述が多くなっていると考えられる。次いで「家族」カテゴリの回答が多かった。

表 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ	意見の無視、非尊重	家族	教育問題	コミュニケーション	学校	孤独	その他	回答者数
回答数	570	86	62	60	58	24	44	632
比率	90.2%	13.6%	9.8%	9.5%	9.2%	3.8%	7.0%	100.0%

図 生命生存及び発達に対する権利の侵害・軽視を感じる理由



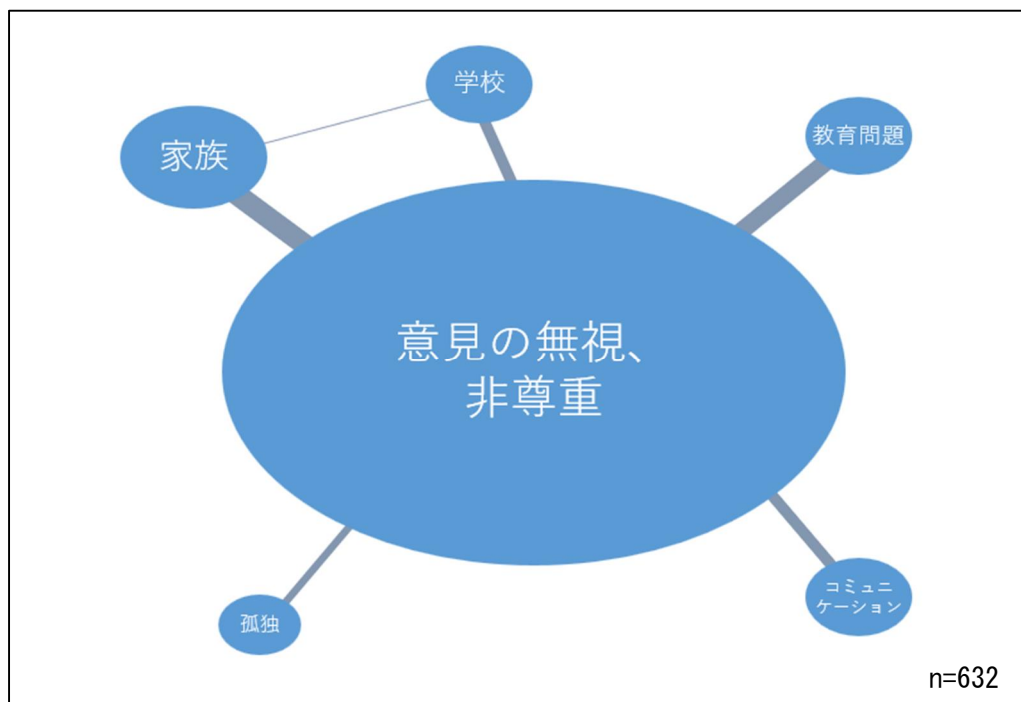
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「家族/意見の無視、非尊重」であり、次いで多かった組み合わせが「教育問題/意見の無視、非尊重」であった。

表 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間集計

		カテゴリ					
		意見の無視、非尊重	家族	教育問題	コミュニケーション	学校	孤独
カテゴリ	意見の無視、非尊重						
	家族	79					
	教育問題	59	1				
	コミュニケーション	50	1	0			
	学校	48	6	0	3		
	孤独	19	0	0	0	1	

図 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間関連度の模式図



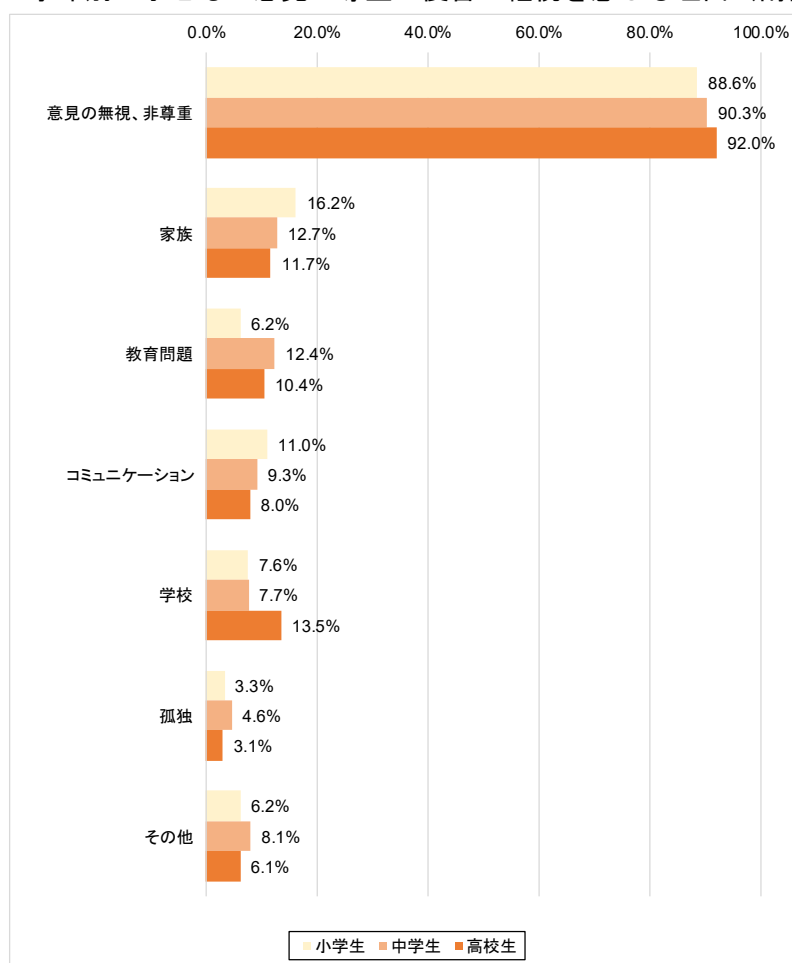
(4) 学年別集計

全ての学年で最も回答割合が高いカテゴリは「意見の無視、非尊重」であり、小学生が 88.6%、中学生が 90.3%、高校生が 92.0%であった。また、「意見の無視、非尊重」、「学校」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一転して、「家族」「コミュニケーション」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、非尊重	家族	教育問題	コミュニケーション	学校	孤独	その他	回答者数
回答数	小学生	186	34	13	23	16	7	13	210
	中学生	234	33	32	24	20	12	21	259
	高校生	150	19	17	13	22	5	10	163
比率	小学生	88.6%	16.2%	6.2%	11.0%	7.6%	3.3%	6.2%	100.0%
	中学生	90.3%	12.7%	12.4%	9.3%	7.7%	4.6%	8.1%	100.0%
	高校生	92.0%	11.7%	10.4%	8.0%	13.5%	3.1%	6.1%	100.0%

図 学年別 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由（割合）



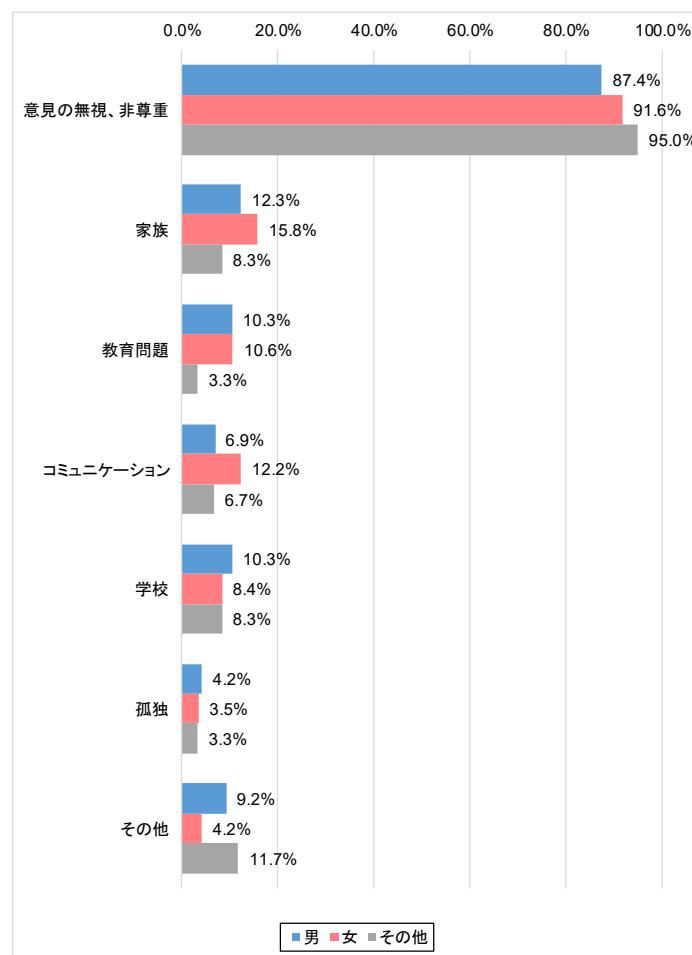
(5) 性別集計

全ての性別において「意見の無視、非尊重」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、女、その他は90%を上回った。

表 性別 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		意見の無視、非尊重	家族	教育問題	コミュニケーション	学校	孤独	その他	回答者数
回答数	男	228	32	27	18	27	11	24	261
	女	285	49	33	38	26	11	13	311
	その他	57	5	2	4	5	2	7	60
比率	男	87.4%	12.3%	10.3%	6.9%	10.3%	4.2%	9.2%	100.0%
	女	91.6%	15.8%	10.6%	12.2%	8.4%	3.5%	4.2%	100.0%
	その他	95.0%	8.3%	3.3%	6.7%	8.3%	3.3%	11.7%	100.0%

図 性別 子どもの意見の尊重の侵害・軽視を感じる理由（割合）



(6) 世帯数別集計

本設問では、世帯数が「2人以下」、「その他」の回答者数が少数であったため、世帯数別集計を実施していない。

4. 5 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由

問 2.9 では、問 2.8「あなたは、まわりからあなた自身の見た目や性別、家のことなどで嫌なことを言われたり、嫌なことをされていると感じますか？」について、「とても感じる」「感じる」と回答した回答者を対象に「どのような場合にそう感じましたか？」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 2.の各回答内容から以下の 9 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 暴言・・・暴言を言われた経験等に関する記述内容
- ② 身体的特徴・・・身体的特徴に関する記述内容
- ③ 家族・・・両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ④ いじめ・・・一定の人間関係のある者から、心理的、 物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じている経験等に関する記述内容
- ⑤ 性別特徴・・・性自認や性別的な特徴に関する記述内容
- ⑥ 暴力・・・暴力を加えられた経験等に関する記述内容
- ⑦ 学校・・・学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑧ 否定・・・意見や考え方、存在等を否定された経験等に関する記述内容
- ⑨ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
悪口をいう	暴言	小学5年生	男	4
容姿に関する悪口を言われている時	暴言	中学3年生	男	4
自分の嫌なあだ名で呼ばれる	暴言	小学6年生	男	3
肌が黒いと言われた時	身体的特徴	高校3年生	女	4
背が高いのを否定・いじってくる	身体的特徴	中学3年生	その他	3
コソコソ話されたり、はぶかれてしまう	いじめ	小学6年生	女	4
いじめられた、無視されたなど	いじめ	小学5年生	女	3
親が容姿をバカにしてくる	家族	中学2年生	女	4
兄や姉に嫌なことを言われる	家族	小学6年生	女	5
学校や教室にいるとき	学校	中学3年生	女	5
学校で担任の先生がいないときに来る先生に男女差別をされて女子だけ、楽にさせている。	学校	小学5年生	男	4
女の子だから、のようなことを言われたとき	性別特徴	小学6年生	その他	4
学校生活は性自認をほかの人に伝えるハードルが高い。	性別特徴	高校1年生	その他	5
親にプライベートゾーンを触られる時	暴力	高校3年生	女	4
殴られる	暴力	小学6年生	男	6
好きな服装を否定される	否定	高校2年生	女	4
意見を尊重してくれない	否定	小学6年生	女	5
勉強に対しての意識が高すぎる	その他（学習意識）	高校2年生	男	4
自分だけものが古かった場合	その他（他人との比較）	中学1年生	その他	4
剣道をやりたくなくても無理やりやられる	その他（習い事の強要）	小学5年生	男	4

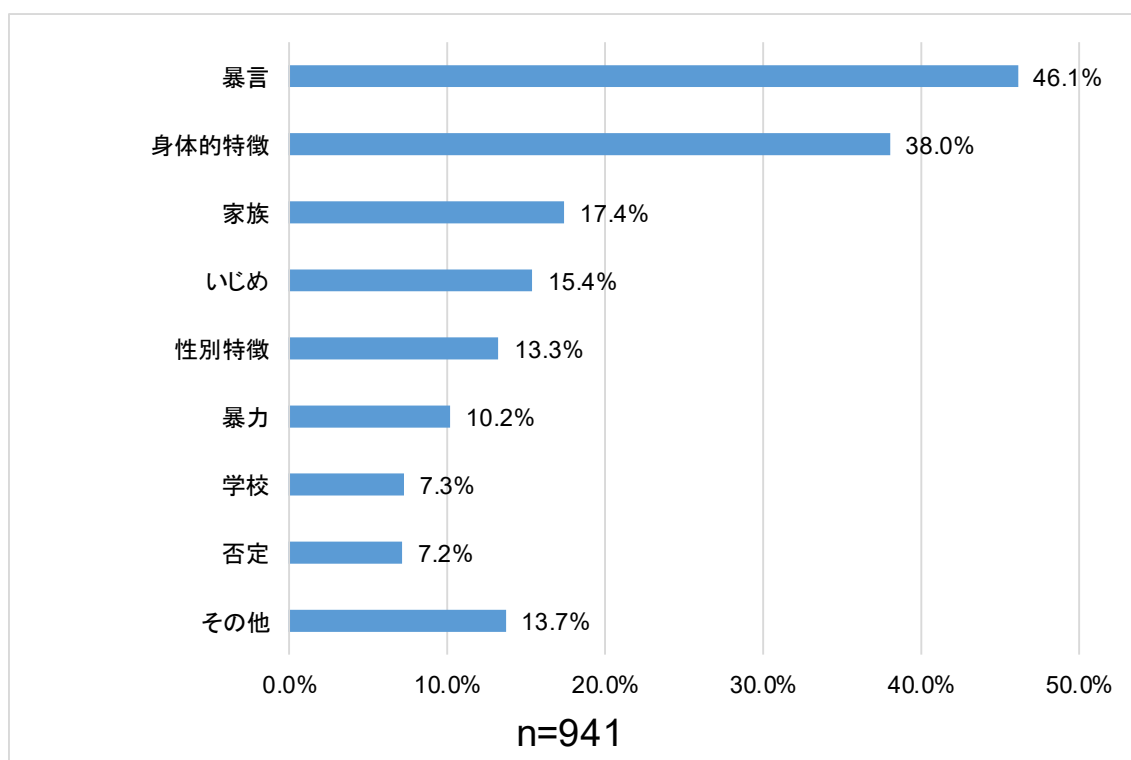
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「暴言」であり、回答割合が 46.1%となった。次いで「身体的特徴」カテゴリの回答が多く、38.0%であった。

表 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ	暴言	身体的特徴	家族	いじめ	性別特徴	暴力	学校	否定	その他	回答者数
回答数	434	358	164	145	125	96	69	68	129	941
比率	46.1%	38.0%	17.4%	15.4%	13.3%	10.2%	7.3%	7.2%	13.7%	100.0%

図 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由



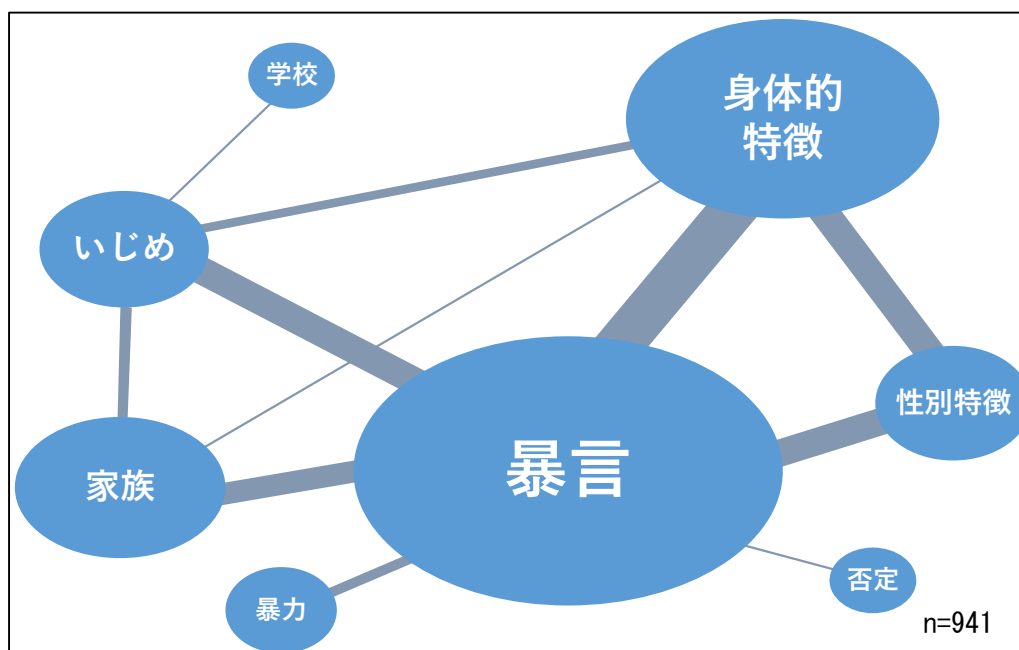
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「身体的特徴/暴言」であり、次いで、多かった組み合わせが「いじめ/暴言」であった。模式図を見ると、「暴言」カテゴリに関連しているカテゴリが多い。理由として、設問文中に「嫌なことを言われたり」という文言があることから、それぞれのカテゴリに関する暴言を言われた経験に関する回答が多かったと考えられる。

表 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間集計

		カテゴリ							
		暴言	身体的特徴	家族	いじめ	性別特徴	暴力	学校	否定
カテゴリ	暴言								
	身体的特徴	168							
	家族	53	25						
	いじめ	66	33	33					
	性別特徴	49	48	14	14				
	暴力	30	15	17	18	3			
	学校	12	11	12	23	6	3		
	否定	20	16	12	3	10	4	4	

図 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由 カテゴリ間関連度の模式図



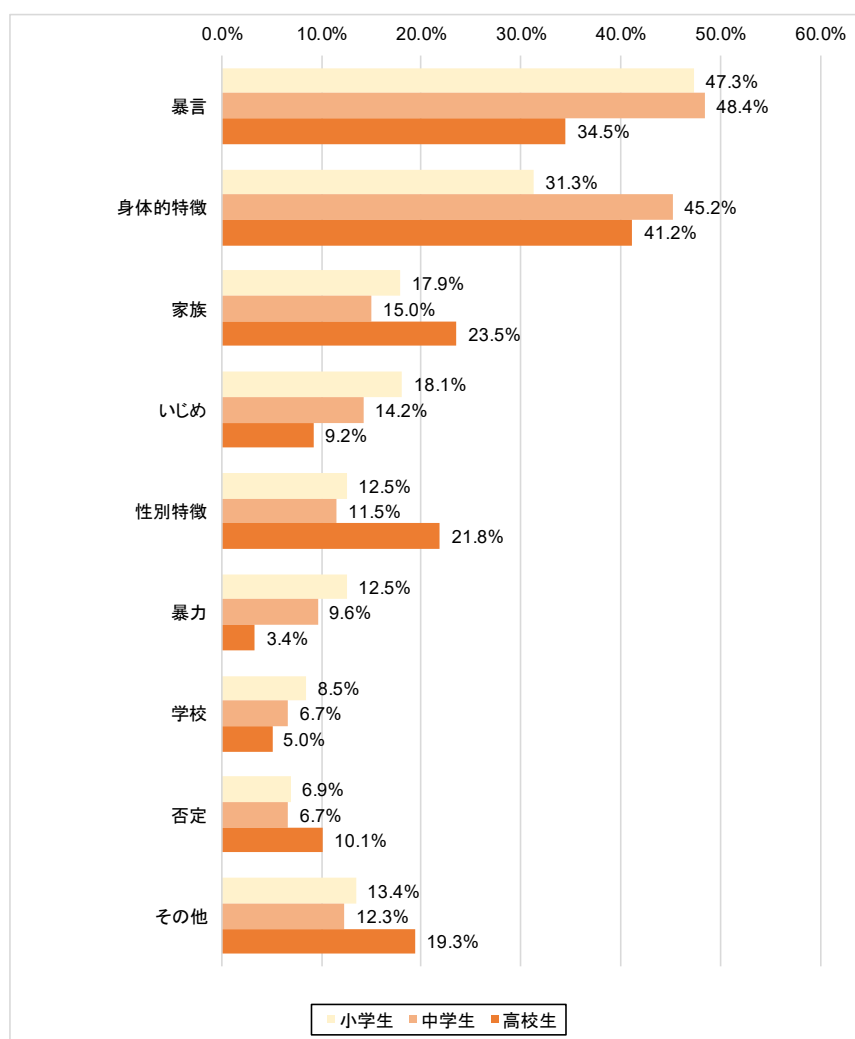
(4) 学年別集計

小学生、中学生で最も回答割合が高いカテゴリは「暴言」であり、小学生が47.3%、中学生が48.4%であった。高校生で最も回答割合が高いカテゴリは、「身体的特徴」の41.2%であり、中学生でも45.2%と2番目に高い割合であった。「身体的特徴」は小学生に対し、中学生や高校生で回答割合が高く、身体の成長に伴い該当のカテゴリに対する意識が増すことが考えられる。

表 学年別 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		暴言	身体的特徴	家族	いじめ	性別特徴	暴力	学校	否定	その他	回答者数
回答数	小学生	212	140	80	81	56	56	38	31	60	448
	中学生	181	169	56	53	43	36	25	25	46	374
	高校生	41	49	28	11	26	4	6	12	23	119
比率	小学生	47.3%	31.3%	17.9%	18.1%	12.5%	12.5%	8.5%	6.9%	13.4%	100.0%
	中学生	48.4%	45.2%	15.0%	14.2%	11.5%	9.6%	6.7%	6.7%	12.3%	100.0%
	高校生	34.5%	41.2%	23.5%	9.2%	21.8%	3.4%	5.0%	10.1%	19.3%	100.0%

図 学年別 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由（割合）



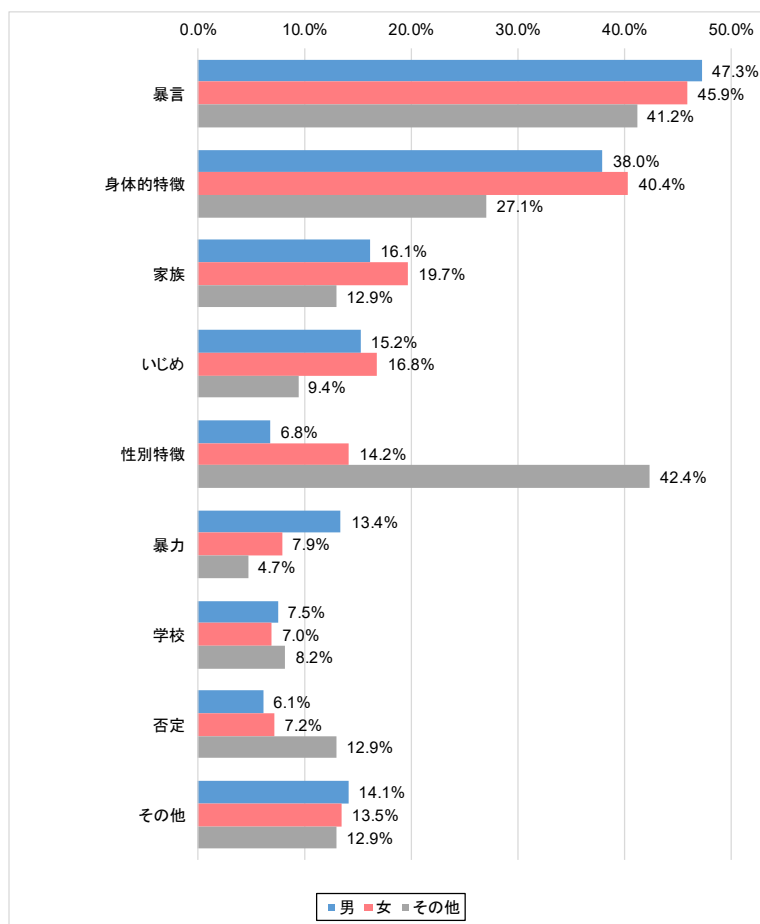
(5) 性別集計

男、女において「暴言」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、男が47.3%、女が45.9%であった。その他は「性別特徴」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く42.4%であり、男の6.8%、女の14.2%と比較して高い割合である。「その他」を選択した回答者は、自身の性別に関する差別的な扱い等を経験することが多いと推察される。

表 性別 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由

カテゴリ		暴言	身体的特徴	家族	いじめ	性別特徴	暴力	学校	否定	その他	回答者数
回答数	男	208	167	71	67	30	59	33	27	62	440
	女	191	168	82	70	59	33	29	30	56	416
	その他	35	23	11	8	36	4	7	11	11	85
比率	男	47.3%	38.0%	16.1%	15.2%	6.8%	13.4%	7.5%	6.1%	14.1%	100.0%
	女	45.9%	40.4%	19.7%	16.8%	14.2%	7.9%	7.0%	7.2%	13.5%	100.0%
	その他	41.2%	27.1%	12.9%	9.4%	42.4%	4.7%	8.2%	12.9%	12.9%	100.0%

図 性別 差別の禁止の侵害・軽視を感じる理由（割合）



(6) 世帯数別集計

本設問では、世帯数が「2人以下」、「その他」の回答者数が少数であったため、世帯数別集計を実施していない。

4. 6 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

問 3.2 では、問 3.1「子どもの権利を守るためにはどんな仕組みがあると良いと思いますか？もっともよいと思うものを選んでください。」について、列挙された選択肢以外に「その他あると良いと思う仕組みがあれば教えてください。」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 3.2 の各回答内容から以下の 11 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 相談窓口…こどもが相談できるサービスや場所等に関する記述内容
- ② 教育支援…子どもの権利についての教育支援に関する記述内容
- ③ 社会参画…こどもの社会参画に関する記述内容
- ④ 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑤ 心理的支援…ストレス等への心理的な支援に関する記述内容
- ⑥ いじめ防止…いじめ防止の活動・取り組み等に関する記述内容
- ⑦ アクティビティ・イベント…イベントやアクティビティに関する記述内容
- ⑧ 虐待防止…虐待防止の活動に関する記述内容
- ⑨ 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ⑩ 施設…こどもが利用できる公共施設に関する記述内容
- ⑪ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
手紙で伝えることができる。	相談窓口	小学5年生	女	4
子供が親へ伝えたいことの仲介をしてもらえるサービス。(養護教諭の先生などが)	相談窓口	小学6年生	女	4
強制的にカウンセラーの人とみんなが話せるようにしたほうが良いと思う。なぜなら言いたいことがあっても、なかなか言い出せない人がたくさんいると思うから。	相談窓口	中学2年生	男	5
授業参観の日に子どもの権利について学習する。	教育支援	小学6年生	女	4
子供の権利について楽しく学ぶために動画などを作る。	教育支援	中学1年生	男	4
政治に関わる人に、子どもの意見を伝える機会。	社会参画	小学6年生	男	4
参政権の対象年齢を下げる	社会参画	中学1年生	その他	6
男女関係なく公平に学校生活、学習したい	学校	小学6年生	女	4
先生と仲良く話たりできる	学校	中学2年生	男	6
困っていてストレスなどが溜まっているときは休める	心理的支援	小学6年生	男	5
人をいじめている人の精神的サポートをした方が良いと思う。	心理的支援	中学1年生	女	3
されたらどう思うかと考えさせられるような動画を見せる	いじめ防止	小学6年生	男	4
もしいじめを受けている人がいたら1日でも早く相談できる相談室があるといいんじゃないかなと思います。	いじめ防止	中学2年生	女	6
一緒にゲームなどスポーツを一緒にやって楽しむ	アクティビティ・イベント	小学5年生	男	3
こどもの権利について大人たちに主張したい子を募集してポスターや、イベントなどで伝える	アクティビティ・イベント	中学1年生	女	5
家庭訪問〔虐待防止の為〕一人でおこなう家庭アンケート	虐待防止	小学5年生	女	5
子供が家などでの虐待などから逃げるができる保護施設を拡充する。	虐待防止	高校3年生	男	5
親が子どもの権利について知ってもらえるようにする	家族	中学2年生	男	4
子供のけんりを守る会を作り、数人の子供で会をすすめ、親に対する不満（こどものけんりに関わること）に対しての解決策を生み出す。	家族	小学5年生	女	4
困ったときに逃げだせる場所	施設	小学6年生	その他	7
子供が身を守るために子供自身の意思で過ごせるシェルター	施設	高校1年生	女	3
こういうアンケートを毎月取ってどう改善されたかを、調べる	その他 (子供の意見の調査)	中学2年生	男	3
千葉県全域にお金配る家計を助ける	その他 (経済的援助)	中学3年生	女	3
権利を守らなかった人は逮捕する	その他 (刑罰の厳格化)	小学6年生	女	4

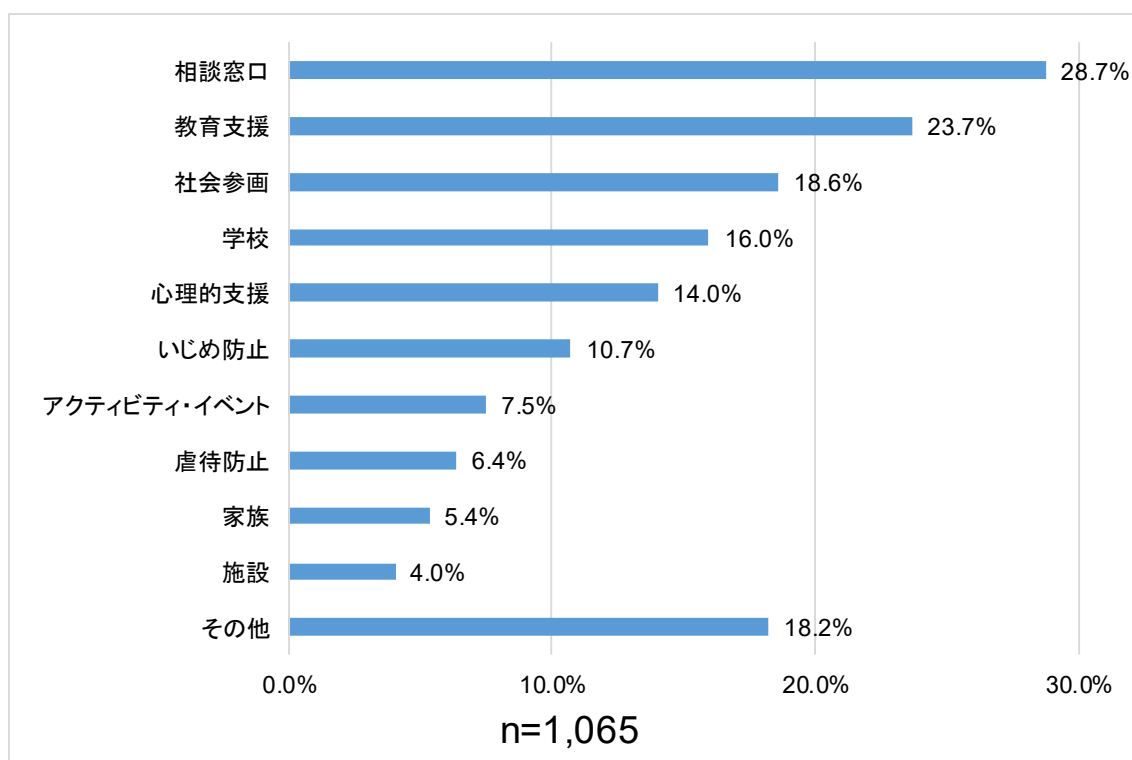
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「相談窓口」であり、回答割合が 28.7% となった。次いで「教育支援」、「社会参画」カテゴリの順に回答が多かった。

表 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

カテゴリ	相談窓口	教育支援	社会参画	学校	心理的支援	いじめ防止	アクティビティ・イベント	虐待防止	家族	施設	その他	回答者数
回答数	306	252	198	170	149	114	80	68	57	43	194	1,065
比率	28.7%	23.7%	18.6%	16.0%	14.0%	10.7%	7.5%	6.4%	5.4%	4.0%	18.2%	100.0%

図 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み



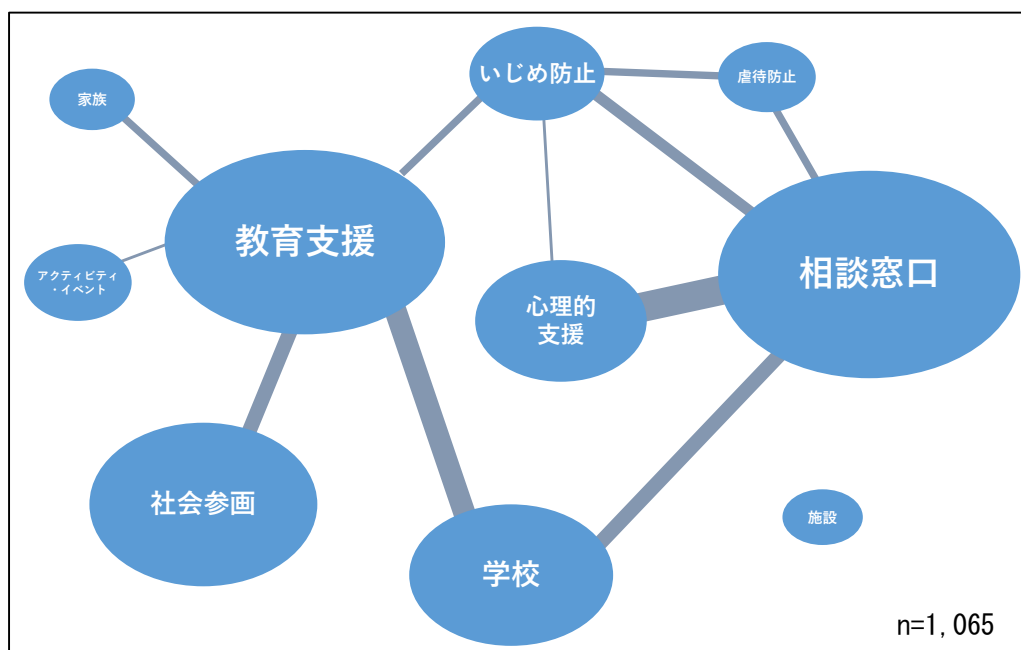
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「心理的支援/相談窓口」であり、次いで、多かった組み合わせが「学校/教育支援」であった。模式図に着目すると、「相談窓口」と「教育支援」の2つのカテゴリと一定の関連性があるカテゴリが多く、これらの整備・充実等がそれぞれに関連するカテゴリの課題等を防止・解消するために有用であると考えられていると推察される。

表 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み カテゴリ間集計

		カテゴリ									
		相談窓口	教育支援	社会参画	学校	心理的支援	いじめ防止	アクティビティ・イベント	虐待防止	家族	施設
カテゴリー	相談窓口										
	教育支援	22									
	社会参画	11	42								
	学校	38	68	14							
	心理的支援	88	7	2	11						
	いじめ防止	29	24	8	19	15					
	アクティビティ・イベント	5	17	13	6	3	0				
	虐待防止	19	3	3	8	5	20	0			
	家族	10	20	2	6	9	6	2	6		
	施設	10	4	2	1	3	1	5	5	0	

図 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み カテゴリ間関連度の模式図



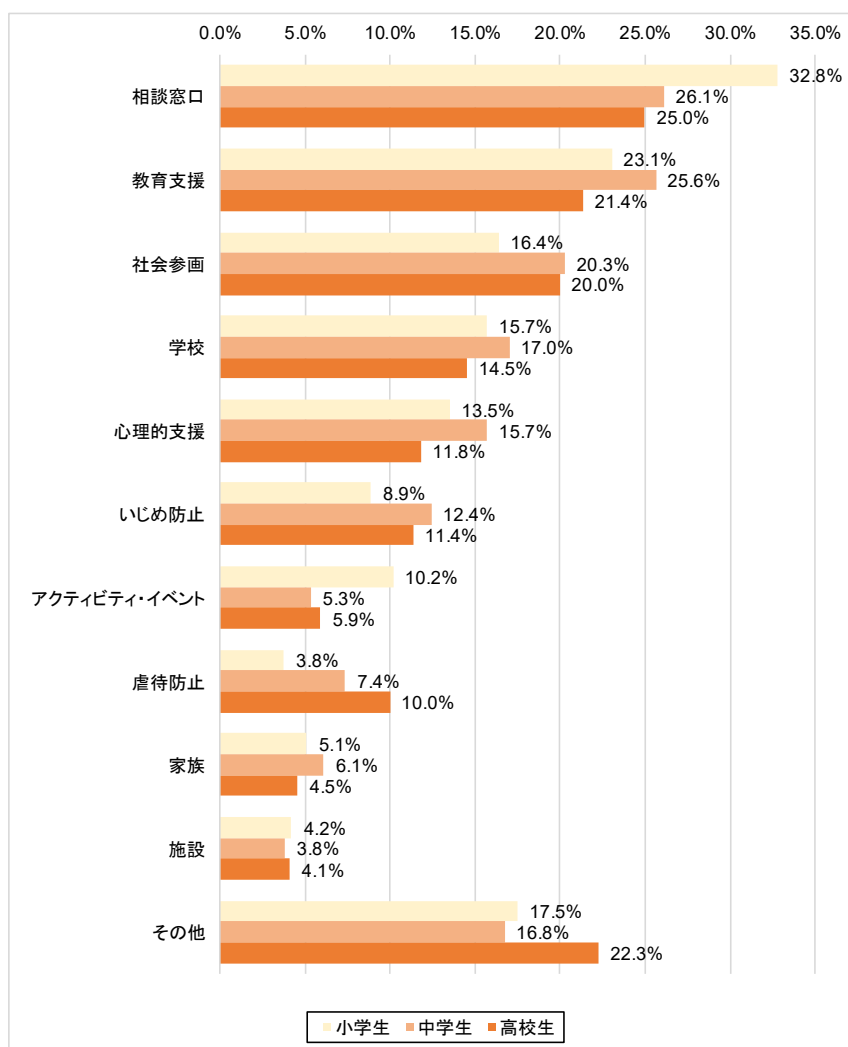
(4) 学年別集計

全ての学年で最も回答割合が高いカテゴリは「相談窓口」であり、小学生が 32.8%、中学生が 26.1%、高校生が 25.0%であった。また、「相談窓口」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。低学年が利用できる「相談窓口」が子どもの権利を守るための仕組みとしてニーズが高いことが推察される。一方、「虐待防止」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。

表 学年別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

カテゴリ		相談窓口	教育支援	社会参画	学校	心理的支援	いじめ防止	アクティビティ・イベント	虐待防止	家族	施設	その他	回答者数
回答数	小学生	148	104	74	71	61	40	46	17	23	19	79	451
	中学生	103	101	80	67	62	49	21	29	24	15	66	394
	高校生	55	47	44	32	26	25	13	22	10	9	49	220
比率	小学生	32.8%	23.1%	16.4%	15.7%	13.5%	8.9%	10.2%	3.8%	5.1%	4.2%	17.5%	100.0%
	中学生	26.1%	25.6%	20.3%	17.0%	15.7%	12.4%	5.3%	7.4%	6.1%	3.8%	16.8%	100.0%
	高校生	25.0%	21.4%	20.0%	14.5%	11.8%	11.4%	5.9%	10.0%	4.5%	4.1%	22.3%	100.0%

図 学年別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（割合）



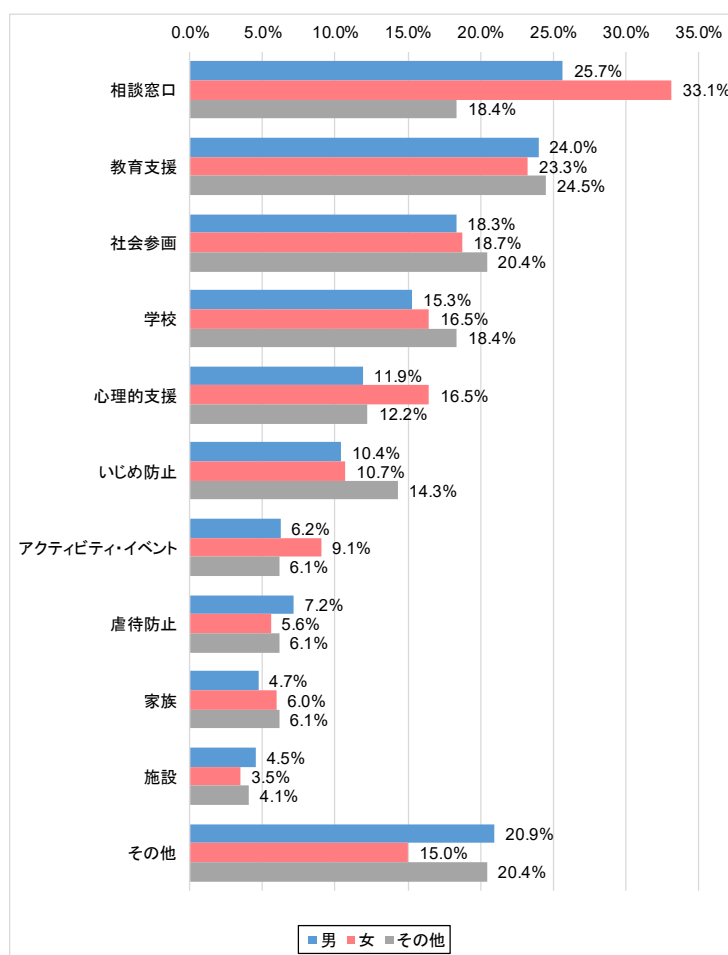
(5) 性別集計

男、女において「相談窓口」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、男が 25.7%、女が 33.1% であった。男、その他に対する女の「相談窓口」の回答割合が高く、子どもの権利を守るための仕組みとしてのニーズが高いことが推察される。その他は「教育支援」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、24.5%であった。

表 性別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み

カテゴリ		相談窓口	教育支援	社会参画	学校	心理的支援	いじめ防止	アクティビティ・イベント	虐待防止	家族	施設	その他	回答者数
回答数	男	136	127	97	81	63	55	33	38	25	24	111	530
	女	161	113	91	80	80	52	44	27	29	17	73	486
	その他	9	12	10	9	6	7	3	3	3	2	10	49
比率	男	25.7%	24.0%	18.3%	15.3%	11.9%	10.4%	6.2%	7.2%	4.7%	4.5%	20.9%	100.0%
	女	33.1%	23.3%	18.7%	16.5%	16.5%	10.7%	9.1%	5.6%	6.0%	3.5%	15.0%	100.0%
	その他	18.4%	24.5%	20.4%	18.4%	12.2%	14.3%	6.1%	6.1%	6.1%	4.1%	20.4%	100.0%

図 性別 子どもの権利を守るためにあると良い仕組み（割合）



(6) 世帯数別集計

本設問では、世帯数が「2人以下」、「その他」の回答者数が少数であったため、世帯数別集計を実施していない。

4. 7 将来の希望

問 4.2 では、問 4.1「あなたは将来どうなっていきたいと思いますか？」について列挙された選択肢以外で「その他に将来なっていきたいものがあれば教えてください。」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 4.2 の各回答内容から以下の 13 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 職業・キャリア…回答者自身の将来就きたい職業・キャリアに関する記述内容
- ② 自己成長・自己実現…回答者自身が将来ありたい姿に関する記述内容
- ③ 幸福感…幸せに過ごすことに関する記述内容
- ④ 趣味…趣味に励むことに関する記述内容
- ⑤ ライフスタイル…理想のライフスタイルに関する記述内容
- ⑥ 家族・家庭…両親や兄弟等、家族や家庭に関する記述内容
- ⑦ 人間関係…将来どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ⑧ 経済状況…将来どのような経済状況を望んでいるかに関する記述内容
- ⑨ 安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ⑩ 健康…健康に過ごすことに関する記述内容
- ⑪ 安定…安定に過ごすことに関する記述内容
- ⑫ メンタル…ストレス等メンタル面に関する記述内容
- ⑬ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
野球選手	職業・キャリア	小学6年生	男	4
人を喜ばせる仕事をしたい	職業・キャリア	中学2年生	女	5
農業界に革命を起こす。	職業・キャリア	高校2年生	男	4
自分のなりたいこと、やりたいことをちゃんとやっている	自己成長・自己実現	小学6年生	女	5
夢を叶える	自己成長・自己実現	中学1年生	女	4
結婚してパートナーと幸せに暮らしている、好きな仕事をしている、みんながちゃんと家を持って幸せな家庭を築いている	幸福感	小学6年生	女	4
幸せに過ごす	幸福感	小学5年生	男	5
推し活	趣味	小学6年生	女	4
ミニカー収集	趣味	小学5年生	男	6
外国で暮らしている	ライフスタイル	中学3年生	女	6
大きい家に住みたい	ライフスタイル	小学5年生	男	4
家族3人で楽しく話したい	家族・家庭	中学3年生	女	2
最高4人、子供を生む	家族・家庭	小学5年生	女	5
誰かに頼られる存在になる	人間関係	中学1年生	女	3
たくさんの人達とコミュニケーションがとれる機会がほしい	人間関係	中学2年生	女	4
大富豪	経済状況	中学3年生	その他	1
FIREしたい	経済状況	高校2年生	男	4
安心な世の中になってほしい。	安心	小学6年生	女	4
相談場所がある	安心	小学6年生	男	4
長生きしたい	健康	中学1年生	男	4
健康で楽しく暮らす	健康	高校1年生	女	4
安定的な大手企業	安定	小学5年生	女	4
お金と生活を安定	安定	小学6年生	女	6
不安・心配しないで過ごしたい	メンタル	小学6年生	女	4
楽しいストレスなくらせる将来	メンタル	中学1年生	男	4
性別に縛られない世界が欲しい	その他（ジェンダーの問題）	中学2年生	男	4
日本をさらにいい国にしたい	その他（社会貢献）	小学6年生	男	5
学校にシャーペンやペンを持っていける。	その他（学校生活）	小学5年生	女	4

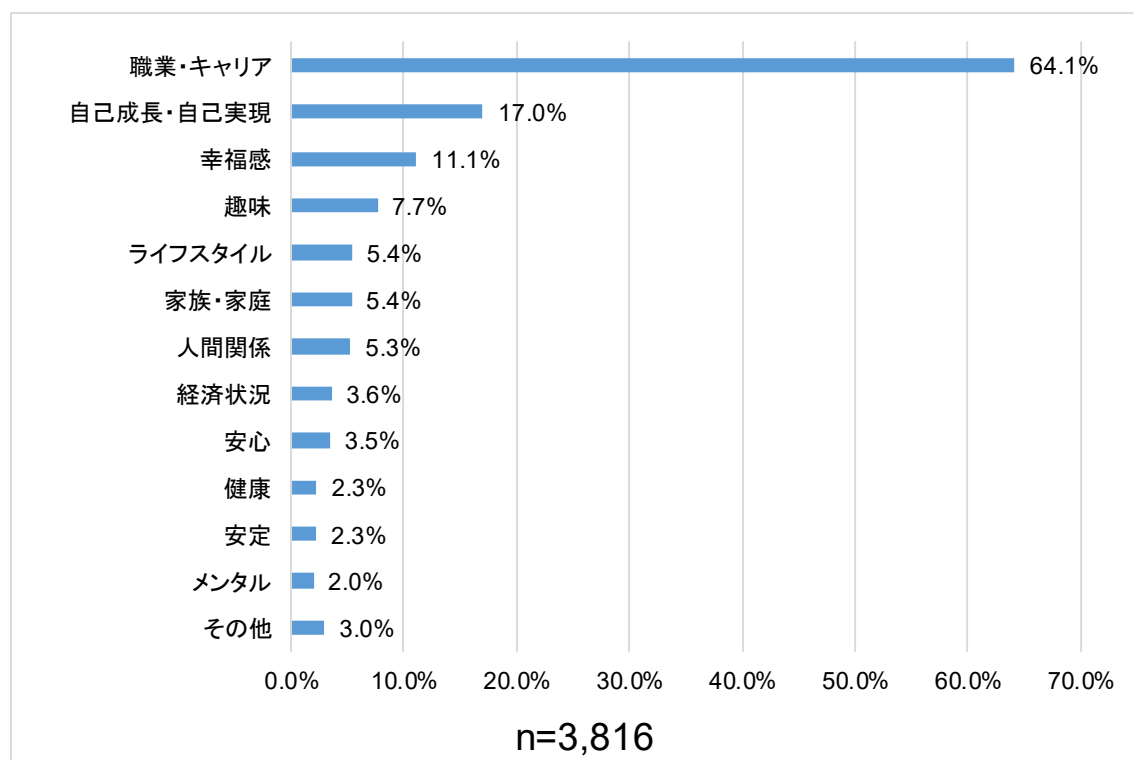
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「職業・キャリア」であり、回答割合が 64.1%となった。将来の希望を問う設問であるため、必然的に上記カテゴリに該当する記述が多くなっていると考えられる。次いで「自己成長・自己実現」、「幸福感」カテゴリの順に回答が多く、それぞれ 10%を上回る結果となった。

表 将来の希望に関する自由記述

カテゴリ	職業・キャリア	自己成長・自己実現	幸福感	趣味	ライフスタイル	家族・家庭	人間関係	経済状況	安心	健康	安定	メンタル	その他	回答者数
回答数	2,446	648	423	292	207	205	203	137	132	88	86	76	114	3,816
比率	64.1%	17.0%	11.1%	7.7%	5.4%	5.4%	5.3%	3.6%	3.5%	2.3%	2.3%	2.0%	3.0%	100.0%

図 将来の希望に関する自由記述



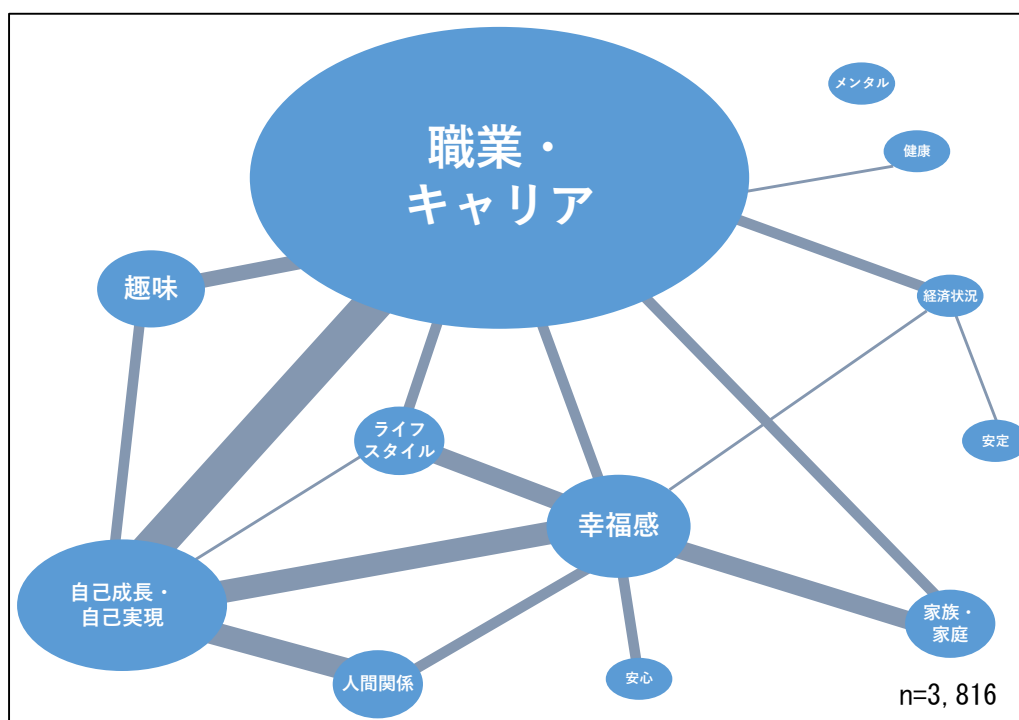
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「自己成長・自己実現/職業・キャリア」であり、次いで、多かった組み合わせが「人間関係/自己成長・自己実現」であった。模式図に着目すると、「幸福感」と直線で結ばれているカテゴリが多く、「幸福感」の理由として結ばれている各カテゴリを想像していると考えられる。

表 将来の希望に関する自由記述 カテゴリ間集計

		カテゴリ											
		職業・キャリア	自己成長・自己実現	幸福感	趣味	ライフスタイル	家族・家庭	人間関係	経済状況	安心	健康	安定	メンタル
カテゴリ	職業・キャリア												
	自己成長・自己実現	199											
	幸福感	45	100										
	趣味	74	46	9									
	ライフスタイル	44	33	66	19								
	家族・家庭	46	25	53	10	18							
	人間関係	15	108	39	11	13	29						
	経済状況	39	18	32	7	17	19	11					
	安心	16	17	43	7	18	25	15	28				
	健康	30	18	20	8	10	19	12	14	22			
	安定	23	20	18	8	13	14	10	34	25	12		
	メンタル	12	25	28	8	13	13	12	8	12	10	10	

図 将来の希望に関する自由記述 カテゴリ間関連度の模式図



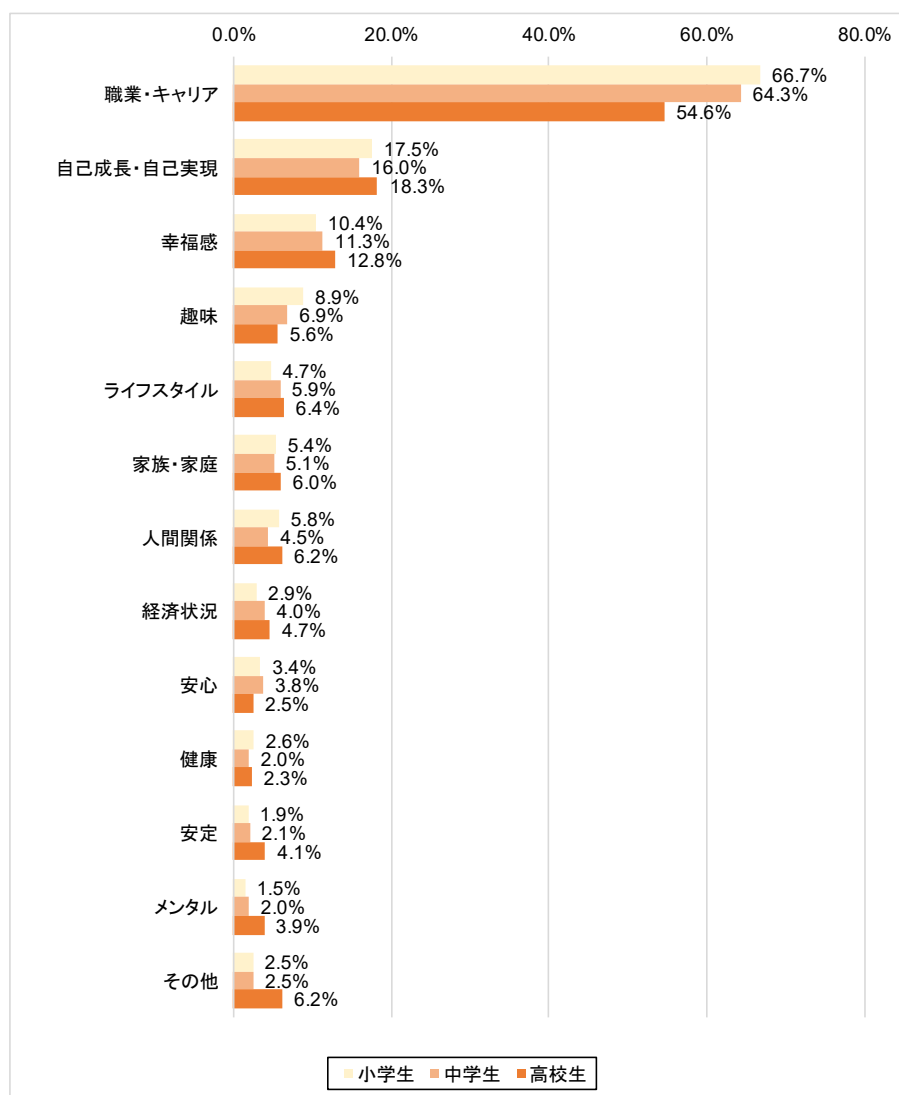
(4) 学年別集計

全ての学年で最も回答割合が高いカテゴリは「職業・キャリア」であり、小学生が 66.7%、中学生が 64.3%、高校生が 54.6%であった。また、「幸福感」、「ライフスタイル」、「安定」、「メンタル」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一方、「職業・キャリア」「趣味」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 将来の希望に関する自由記述

カテゴリ		職業・キャリア	自己成長・自己実現	幸福感	趣味	ライフスタイル	家族・家庭	人間関係	経済状況	安心	健康	安定	メンタル	その他	回答者数
回答数	小学生	1,186	311	185	158	84	96	103	52	61	46	33	26	44	1,778
	中学生	979	243	172	105	90	78	68	61	58	30	32	30	38	1,523
	高校生	281	94	66	29	33	31	32	24	13	12	21	20	32	515
比率	小学生	66.7%	17.5%	10.4%	8.9%	4.7%	5.4%	5.8%	2.9%	3.4%	2.6%	1.9%	1.5%	2.5%	100.0%
	中学生	64.3%	16.0%	11.3%	6.9%	5.9%	5.1%	4.5%	4.0%	3.8%	2.0%	2.1%	2.0%	2.5%	100.0%
	高校生	54.6%	18.3%	12.8%	5.6%	6.4%	6.0%	6.2%	4.7%	2.5%	2.3%	4.1%	3.9%	6.2%	100.0%

図 学年別 将来の希望に関する自由記述（割合）



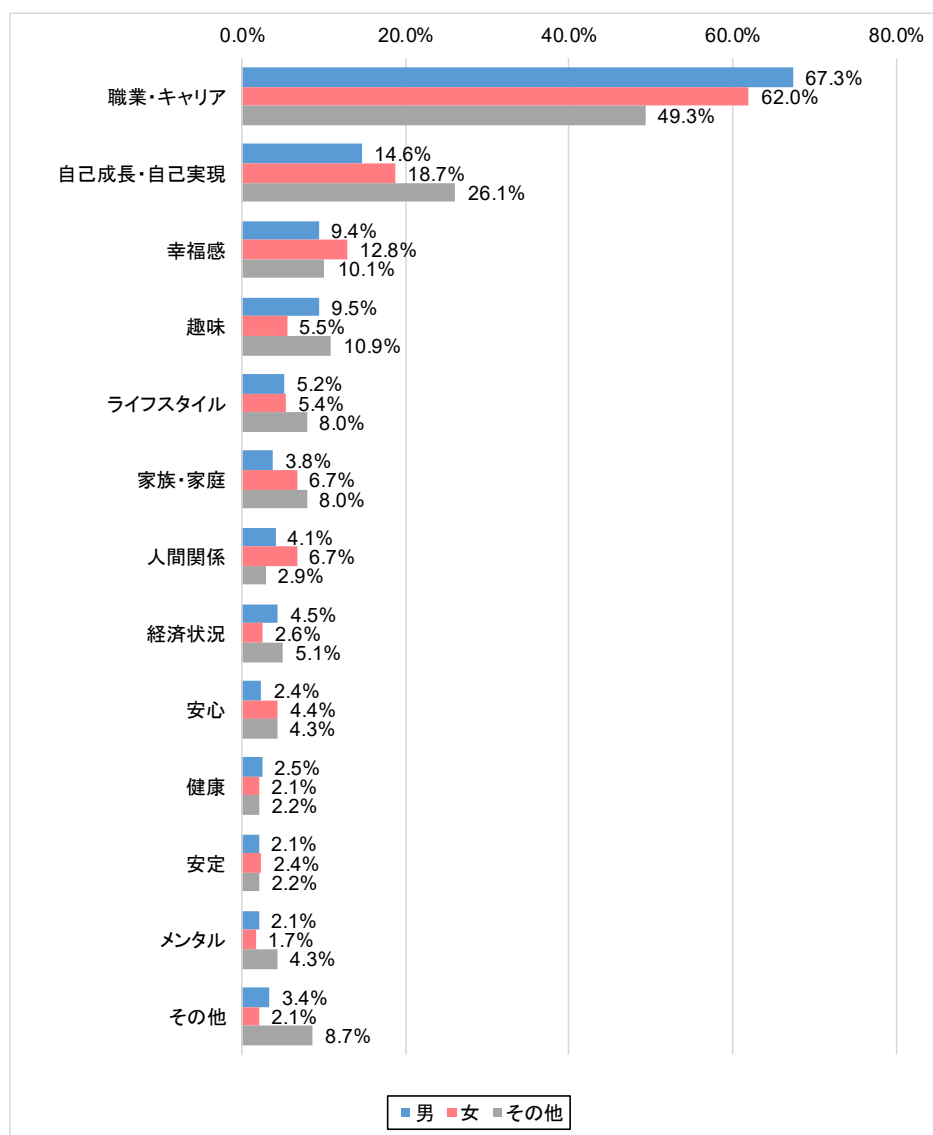
(5) 性別集計

全ての性別において「職業・キャリア」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、男が 67.3%、女が 62.0%、その他が 49.3%であった。その他は、男、女に対して「自己成長・自己実現」カテゴリに分類される回答の割合が高かった。

表 性別 将来の希望に関する自由記述

カテゴリ		職業・キャリア	自己成長・自己実現	幸福感	趣味	ライフスタイル	家族・家庭	人間関係	経済状況	安心	健康	安定	メンタル	その他	回答者数
回答数	男	1,248	271	175	176	97	71	76	83	45	46	39	39	63	1,854
	女	1,130	341	234	101	99	123	123	47	81	39	44	31	39	1,824
	その他	68	36	14	15	11	11	4	7	6	3	3	6	12	138
比率	男	67.3%	14.6%	9.4%	9.5%	5.2%	3.8%	4.1%	4.5%	2.4%	2.5%	2.1%	2.1%	3.4%	100.0%
	女	62.0%	18.7%	12.8%	5.5%	5.4%	6.7%	6.7%	2.6%	4.4%	2.1%	2.4%	1.7%	2.1%	100.0%
	その他	49.3%	26.1%	10.1%	10.9%	8.0%	8.0%	2.9%	5.1%	4.3%	2.2%	2.2%	4.3%	8.7%	100.0%

図 性別 将来の希望に関する自由記述（割合）



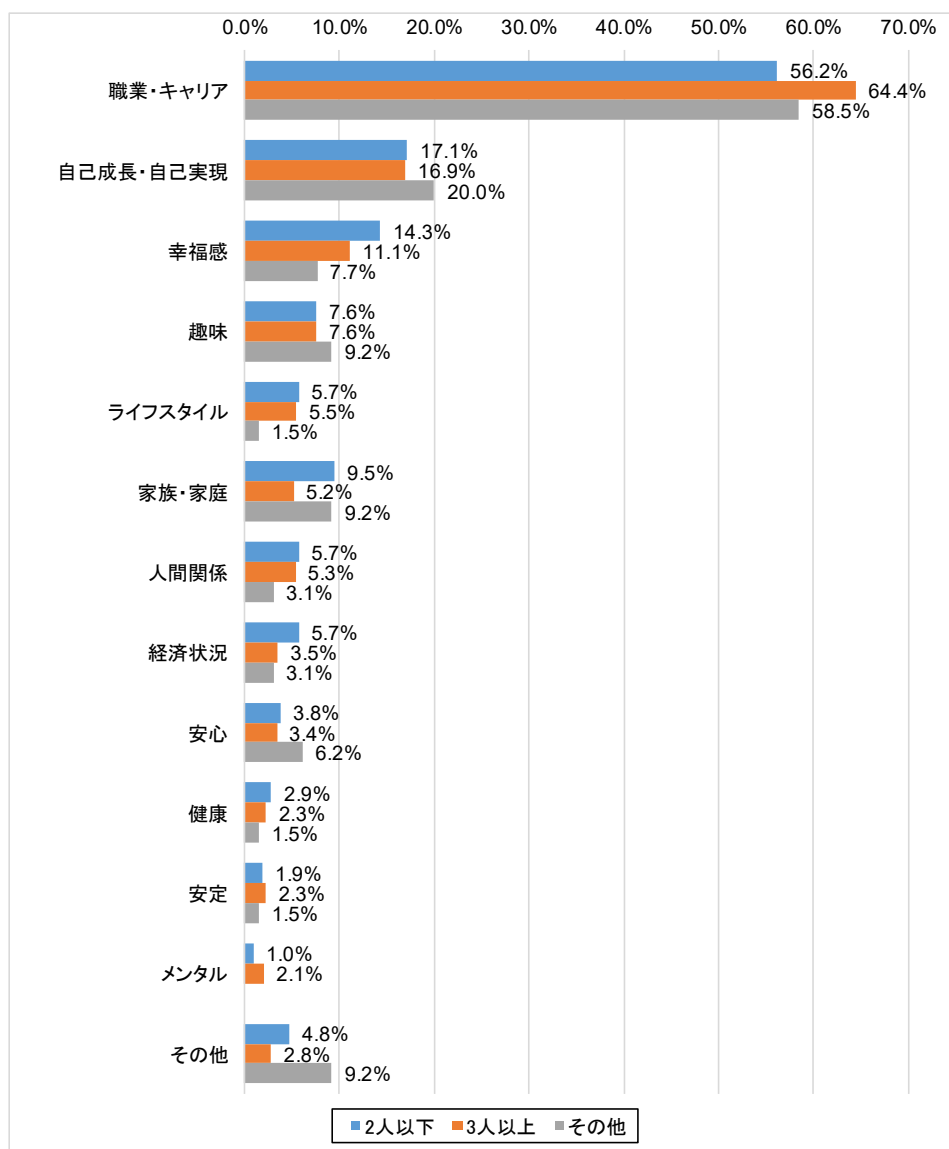
(6) 世帯数別集計

全ての世帯数において「職業・キャリア」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、2人以下が56.2%、3人以上が64.4%、その他が58.5%であった。

表 世帯数別 将来の希望に関する自由記述

カテゴリ		職業・キャリア	自己成長・自己実現	幸福感	趣味	ライフスタイル	家族・家庭	人間関係	経済状況	安心	健康	安定	メンタル	その他	回答者数
回答数	2人以下	59	18	15	8	6	10	6	6	4	3	2	1	5	105
	3人以上	2,349	617	403	278	200	189	195	129	124	84	83	75	103	3,646
	その他	38	13	5	6	1	6	2	2	4	1	1	0	6	65
比率	2人以下	56.2%	17.1%	14.3%	7.6%	5.7%	9.5%	5.7%	5.7%	3.8%	2.9%	1.9%	1.0%	4.8%	100.0%
	3人以上	64.4%	16.9%	11.1%	7.6%	5.5%	5.2%	5.3%	3.5%	3.4%	2.3%	2.3%	2.1%	2.8%	100.0%
	その他	58.5%	20.0%	7.7%	9.2%	1.5%	9.2%	3.1%	3.1%	6.2%	1.5%	1.5%	0.0%	9.2%	100.0%

図 世帯数別 将来の希望に関する自由記述（割合）



4. 8 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

問 5.2 では、問 5.1「あなたが安心して自分らしくくらすためには、どのようなことが必要だと思いますか？」について、列挙された選択肢以外に「その他に自分らしく暮らすために必要なことがあれば教えてください。」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問 5.2 の各回答内容から以下の 12 項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① 人間関係…どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ② 自己成長・自己実現…回答者自身がありたい姿に関する記述内容
- ③ 安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ④ ライフスタイル…理想のライフスタイルに関する記述内容
- ⑤ 趣味…趣味に励むことに関する記述内容
- ⑥ メンタル…ストレス等メンタル面に関する記述内容
- ⑦ 経済状況…どのような経済状況を望んでいるかに関する記述内容
- ⑧ 幸福感…幸せに過ごすことに関する記述内容
- ⑨ 公共施設の増加…公園等公共施設を増やす要望に関する記述内容
- ⑩ 家族・家庭…両親や兄弟等、家族や家庭に関する記述内容
- ⑪ 健康…健康に過ごすことに関する記述内容
- ⑫ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
みんなを大事にする	人間関係	小学5年生	女	3
頼れる友人がいる。	人間関係	小学5年生	女	5
他人をリスペクトする	人間関係	中学2年生	男	3
自分の納得出来るような生活にする。	自己成長・自己実現	中学2年生	女	5
人と違うことを怖がらない	自己成長・自己実現	高校1年生	女	6
お金などに困らず生活できる	安心	小学5年生	女	4
安心できる場所があること。	安心	中学1年生	女	3
駅が近くにある事	ライフスタイル	小学6年生	男	4
自由な空間	ライフスタイル	中学3年生	男	4
ゲームが出来る	趣味	中学1年生	男	4
好きなものが見つかって好きなことをできる。	趣味	小学6年生	女	4
ストレスなく暮らす	メンタル	中学2年生	男	4
心の余裕ができるようにする	メンタル	小学6年生	女	4
お金。大学に行きたい。	経済状況	高校1年生	女	4
年金制度で特ができる	経済状況	高校3年生	男	4
楽しく笑顔で過ごす	幸福感	小学5年生	男	4
何もかもが明るくなることをする	幸福感	小学6年生	その他	7
バスケットゴールがある公園が近くにある	公共施設の増加	小学5年生	男	5
学校の設備が整えられている	公共施設の増加	高校3年生	女	3
友達や家族、周りの人に大切にされる	家族・家庭	中学1年生	男	6
家族や友人など誰でも良いので、誰かに愛されている	家族・家庭	高校3年生	男	5
健康バランスの取れる食事	健康	小学6年生	男	4
たくさん寝る	健康	小学5年生	女	4
政治を理解し、きちんと関われる。	その他（社会参画）	高校3年生	男	4
高校の自由度を高める	その他（学校規則）	高校2年生	男	4
ひとりひとりに基本的人権の尊重がある	その他（人権意識）	中学2年生	女	4

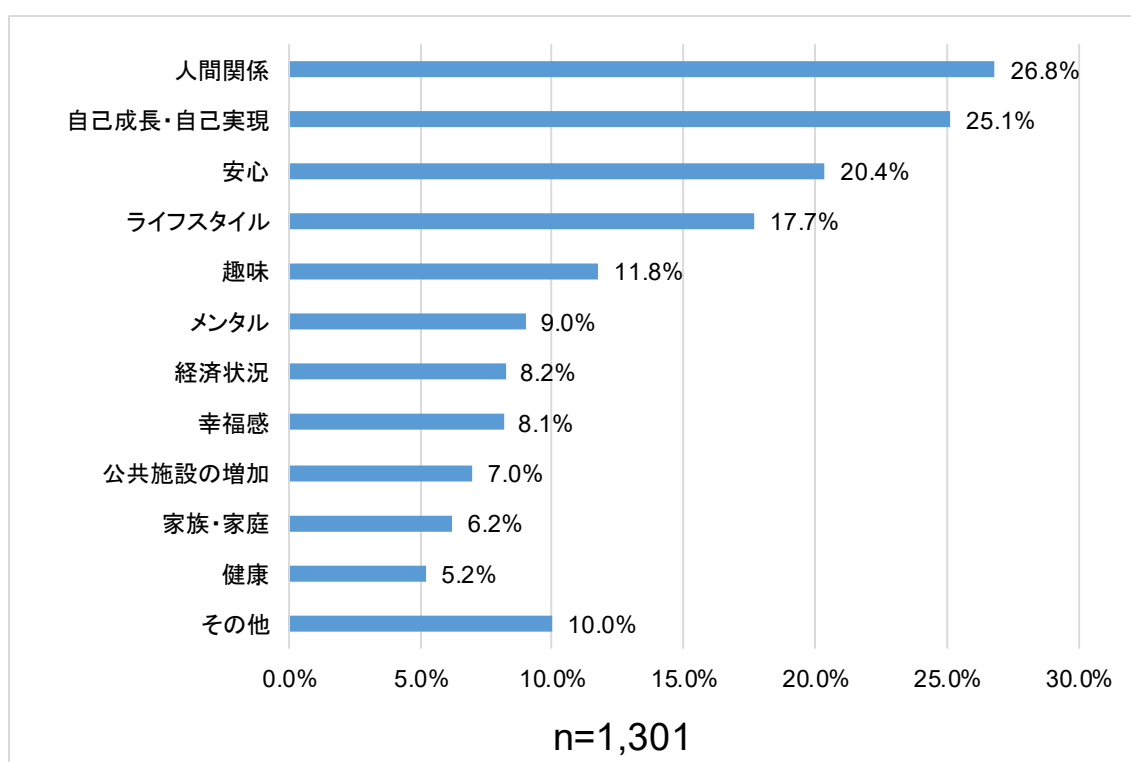
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「人間関係」であり、回答割合が 26.8%となった。次いで「自己成長・自己実現」、「安心」カテゴリの順に回答が多く、それぞれ 20%を上回る結果となった。

表 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

カテゴリ	人間関係	自己成長・自己実現	安心	ライフスタイル	趣味	メンタル	経済状況	幸福感	公共施設の増加	家族・家庭	健康	その他	回答者数
回答数	349	327	265	230	153	117	107	106	91	81	68	130	1,301
比率	26.8%	25.1%	20.4%	17.7%	11.8%	9.0%	8.2%	8.1%	7.0%	6.2%	5.2%	10.0%	100.0%

図 安心して自分らしく暮らすために必要なこと



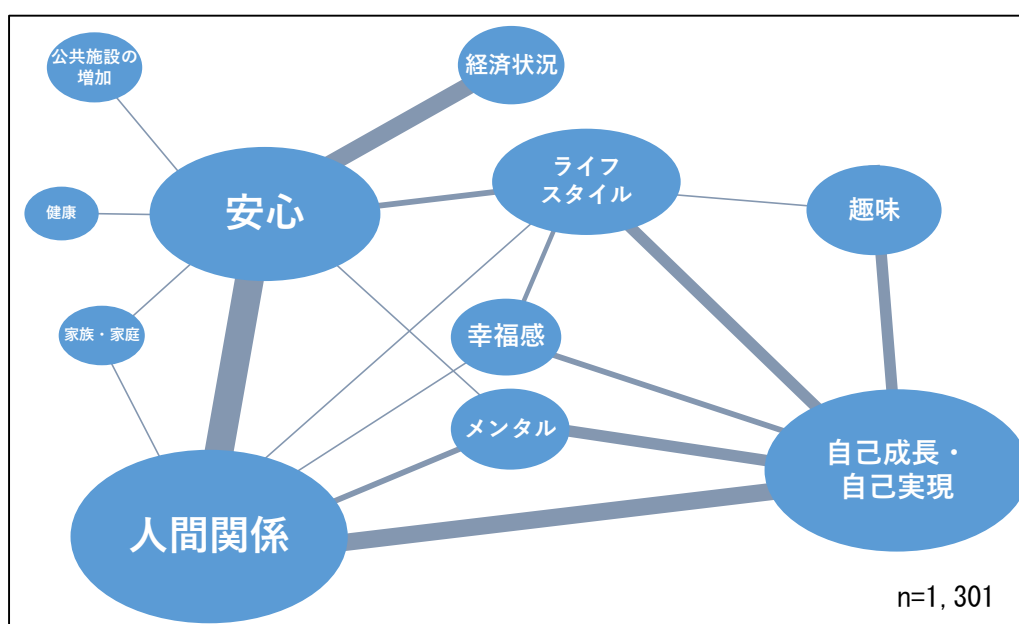
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「安心/人間関係」であり、次いで、多かった組み合わせが「経済状況/安心」であったことから、「人間関係」「経済状況」を充実させることが「安心」につながると考えている回答者が多いことが推察される。

表 安心して自分らしく暮らすために必要なこと カテゴリ間集計

		人間関係	自己成長・自己実現	安心	ライフスタイル	趣味	メンタル	経済状況	幸福感	公共施設の増加	家族・家庭	健康
人間関係												
自己成長・自己実現		50										
安心		77	25									
ライフスタイル		17	37	30								
趣味		13	38	5	20							
メンタル		30	38	20	17	3						
経済状況		5	10	50	8	4	4					
幸福感		21	32	11	25	4	11	6				
公共施設の増加		8	6	18	9	2	5	3	3			
家族・家庭		22	13	21	6	2	6	10	5	7		
健康		5	9	23	10	3	5	8	6	5	9	

図 安心して自分らしく暮らすために必要なこと カテゴリ間関連度の模式図



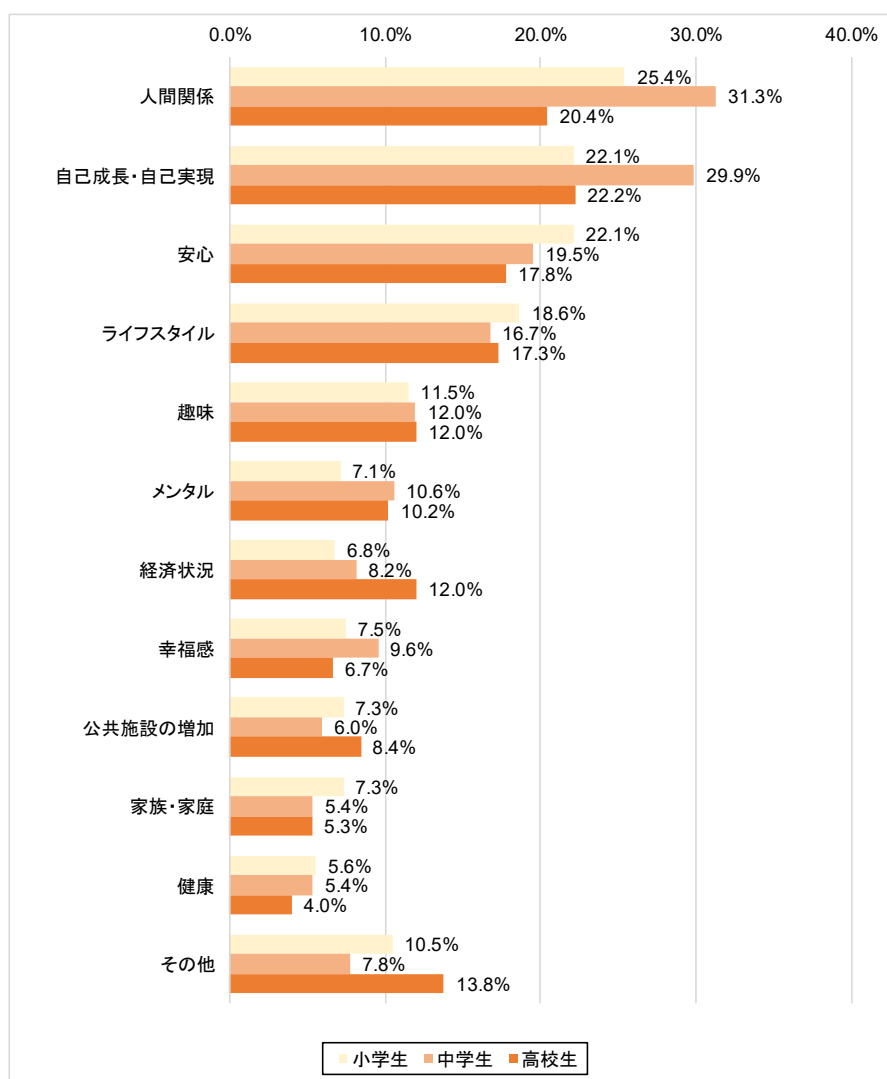
(4) 学年別集計

小学生、中学生で最も回答割合が高いカテゴリは「人間関係」であり、小学生が 25.4%、中学生が 31.3%であった。高校生で最も回答割合が高いカテゴリは「自己成長・自己実現」であり、22.2%であった。また、「経済状況」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一方、「安心」「家族・家庭」「健康」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

カテゴリ	人間関係	自己成長・自己実現	安心	ライフスタイル	趣味	メンタル	経済状況	幸福感	公共施設の増加	家族・家庭	健康	その他	回答者数
回答数	小学生	146	127	107	66	41	39	43	42	42	32	60	574
	中学生	157	150	98	84	53	41	48	30	27	27	39	502
	高校生	46	50	40	39	27	23	27	15	19	12	31	225
比率	小学生	25.4%	22.1%	22.1%	18.6%	11.5%	7.1%	6.8%	7.5%	7.3%	5.6%	10.5%	100.0%
	中学生	31.3%	29.9%	19.5%	16.7%	12.0%	10.6%	8.2%	9.6%	6.0%	5.4%	7.8%	100.0%
	高校生	20.4%	22.2%	17.8%	17.3%	12.0%	10.2%	12.0%	6.7%	8.4%	5.3%	13.8%	100.0%

図 学年別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（割合）



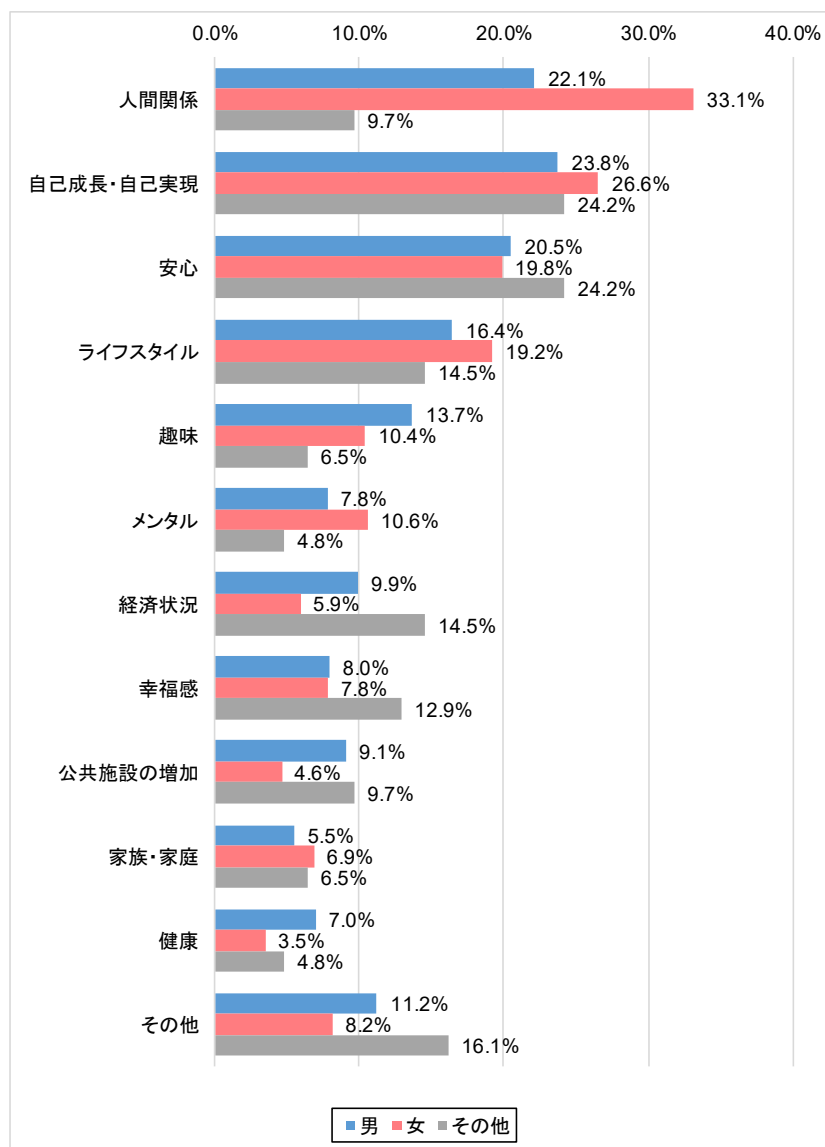
(5) 性別集計

男、その他において「自己成長・自己実現」カテゴリに分類される回答の割合が最も高かった。女は「人間関係」に分類される回答の割合が 33.1%で最も高く、男の 22.1%、その他の 9.7%と比較し、それぞれ 10%以上の開きがあった。

表 性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

カテゴリ	人間関係	自己成長・自己実現	安心	ライフスタイル	趣味	メンタル	経済状況	幸福感	公共施設の増加	家族・家庭	健康	その他	回答者数
回答数	男	136	146	126	101	84	48	61	49	56	34	43	614
	女	207	166	124	120	65	66	37	49	29	43	22	625
	その他	6	15	15	9	4	3	9	8	6	4	3	62
比率	男	22.1%	23.8%	20.5%	16.4%	13.7%	7.8%	9.9%	8.0%	9.1%	5.5%	7.0%	100.0%
	女	33.1%	26.6%	19.8%	19.2%	10.4%	10.6%	5.9%	7.8%	4.6%	6.9%	3.5%	100.0%
	その他	9.7%	24.2%	24.2%	14.5%	6.5%	4.8%	14.5%	12.9%	9.7%	6.5%	4.8%	100.0%

図 性別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（割合）



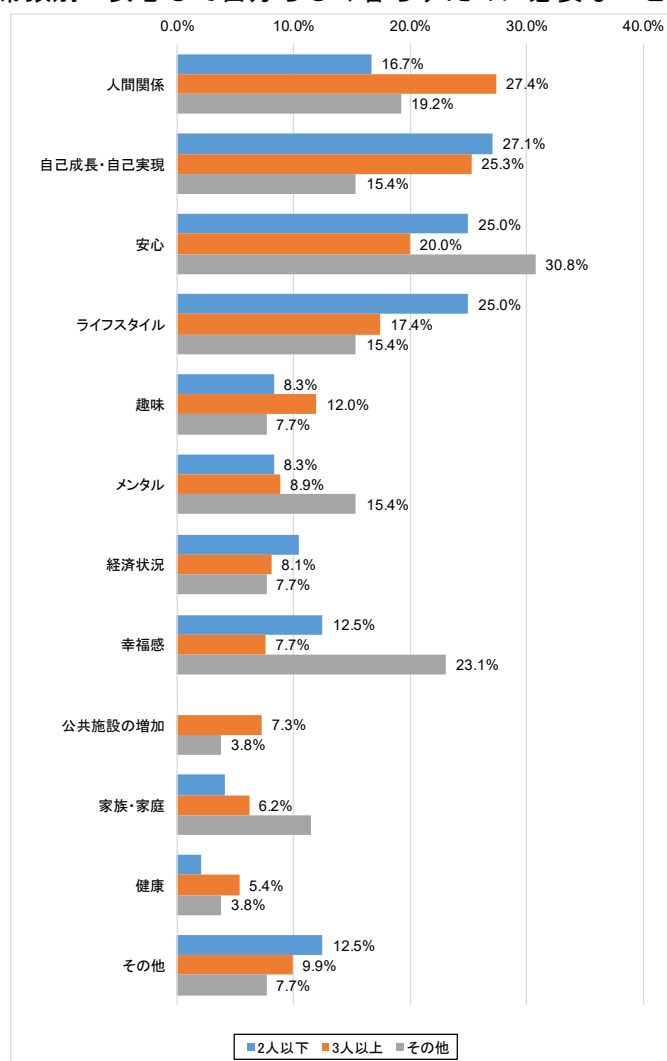
(6) 世帯数別集計

世帯数2人以下では「自己成長・自己実現」が27.1%で最も高い回答割合であった。世帯数3人以上では「人間関係」が27.4%で最も高い回答割合であった。世帯数その他では「安心」が30.8%で最も高い回答割合であった。「幸福感」は世帯数その他では23.1%であり、2人以下、3人以上と比較し10%以上の開きがあった。

表 世帯数別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと

カテゴリ		人間関係	自己成長・自己実現	安心	ライフスタイル	趣味	メンタル	経済状況	幸福感	公共施設の増加	家族・家庭	健康	その他	回答者数
回答数	2人以下	8	13	12	12	4	4	5	6	0	2	1	6	48
	3人以上	336	310	245	214	147	109	100	94	90	76	66	122	1,227
	その他	5	4	8	4	2	4	2	6	1	3	1	2	26
比率	2人以下	16.7%	27.1%	25.0%	25.0%	8.3%	8.3%	10.4%	12.5%	0.0%	4.2%	2.1%	12.5%	100.0%
	3人以上	27.4%	25.3%	20.0%	17.4%	12.0%	8.9%	8.1%	7.7%	7.3%	6.2%	5.4%	9.9%	100.0%
	その他	19.2%	15.4%	30.8%	15.4%	7.7%	15.4%	7.7%	23.1%	3.8%	11.5%	3.8%	7.7%	100.0%

図 世帯数別 安心して自分らしく暮らすために必要なこと（割合）



4. 9 何か大人の人に伝えたいことやこども計画に入れてほしいこと

問6では、「何か大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいことがあれば自由に書いてください。」と自由記述での回答を求めた。

(1) カテゴリの設定・分類

問6の各回答内容から以下の13項目のカテゴリを設定した。それぞれのカテゴリに分類される内容については、以下のとおりである。

- ① こどもの意見尊重…こどもの意見尊重の要望等に関する記述内容
- ② 政策提言…具体的な政策提案に関する記述内容
- ③ 公共施設の増加…公園など公共施設を増やす要望に関する記述内容
- ④ イベント・アクティビティ…イベントやアクティビティに関する記述内容
- ⑤ 学校…学校生活や教師等、学校に関する記述内容
- ⑥ 人間関係…どのような人間関係を望んでいるかに関する記述内容
- ⑦ 相談・要望…こどもが相談できるサービス等に関する記述内容
- ⑧ 安心…安心して過ごすことに関する記述内容
- ⑨ いじめ…一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じている経験等に関する記述内容
- ⑩ 安全…安全に過ごすことに関する記述内容
- ⑪ 地域との関り…回答者自身の身近な地域に関する記述内容
- ⑫ 家族…両親や兄弟等、家族に関する記述内容
- ⑬ その他

各カテゴリに分類される記述内容の代表例をまとめたものを以下に示す。(回答例は原文を引用)

表 各カテゴリ別回答記述内容（一部抜粋）

記述内容	カテゴリ	学年	性別	世帯人員
子供の限界を知ってほしい	こどもの意見尊重	小学6年生	男	4
自分の意見を押し付けずに、もっと話を聞いてほしい。	こどもの意見尊重	小学5年生	女	5
大人と子どもが平等な社会にしたい	こどもの意見尊重	小学5年生	男	4
給食費を無償化してください。	政策提言	中学2年生	女	2
選挙権を15歳以上にしたいですまた非選挙権を20歳以上にしたいです	政策提言	小学6年生	男	4
公園を増やしてほしい	公共施設の増加	小学6年生	男	3
無料の塾がほしい	公共施設の増加	高校2年生	女	4
できればいいけどキッズニアみたい職業体験施設を作してほしい	イベント・アクティビティ	小学5年生	男	4
千葉県で夏祭りなどの祭りのイベントをやしてほしい	イベント・アクティビティ	小学6年生	女	4
4つの原則などが学べる。	学校	小学6年生	女	5
学校に行けない子が安心できる場所で授業などを受けさせてくれる場所。	学校	小学6年生	男	4
仲良くしてください	人間関係	小学6年生	女	3
大人に対して、もっと話しかけやすくする。	人間関係	小学5年生	女	5
月に一回子供に相談の機会を設けてほしい	相談・要望	小学6年生	男	6
匿名で相談できる掲示板	相談・要望	小学6年生	女	3
子供が安心して暮らせる計画	安心	中学1年生	女	6
誰もが安心して暮らせる	安心	小学6年生	男	4
いじめや差別をなくす	いじめ	小学6年生	女	6
誹謗中傷など傷つくことをいうのをやめてほしい	いじめ	小学5年生	その他	4
犯罪者を捕まえる	安全	小学6年生	男	5
帰り道が危なすぎる	安全	中学2年生	男	4
地域の人と交流したい！	地域との関わり	中学1年生	女	6
ポイ捨てを減らす	地域との関わり	中学3年生	男	3
家族との時間を大切にしましょう！	家族	中学3年生	男	6
親に相談する	家族	小学5年生	女	3
子供でも働きたい	その他（子供の労働）	小学6年生	男	4
自然を増やしてもいいと思います（SDGs）	その他（SDGs）	小学5年生	女	6
男女平等である世の中にしてほしいです。	その他（ジェンダーの問題）	小学5年生	女	4

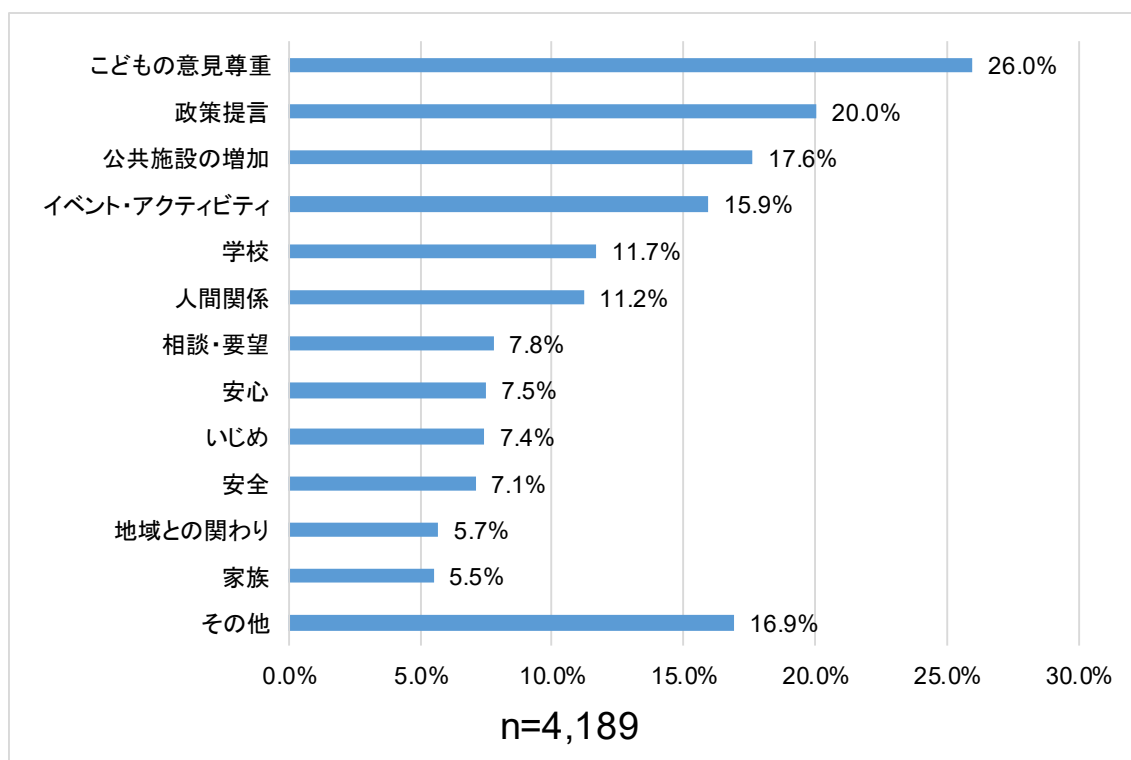
(2) 単純集計

最も回答件数の多かったカテゴリは「こどもの意見尊重」であり、回答割合が 26.0%となった。
次いで「政策提言」「公共施設の増加」カテゴリの順に回答が多かった。

表 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと

カテゴリ	こどもの意見尊重	政策提言	公共施設の増加	イベント・アクティビティ	学校	人間関係	相談・要望	安心	いじめ	安全	地域との関わり	家族	その他	回答者数
回答数	1,088	839	738	667	489	469	327	315	312	298	239	231	708	4,189
比率	26.0%	20.0%	17.6%	15.9%	11.7%	11.2%	7.8%	7.5%	7.4%	7.1%	5.7%	5.5%	16.9%	100.0%

図 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと



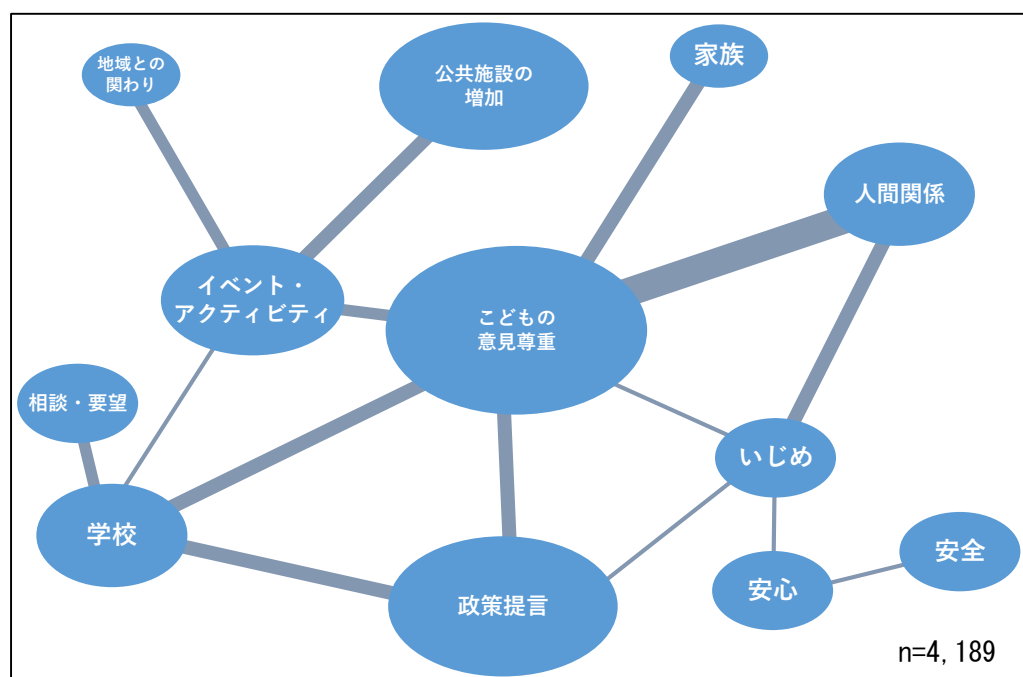
(3) カテゴリ間集計

最も回答数の多かったカテゴリの組み合わせは、「人間関係/こどもの意見尊重」であり、次いで、多かった組み合わせが「学校/政策提言」であった。

表 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと カテゴリ間集計

		カテゴリ											
		こどもの意見尊重	政策提言	公共施設の増加	イベント・アクティビティ	学校	人間関係	相談・要望	安心	いじめ	安全	地域との関わり	家族
カテゴリー	こどもの意見尊重												
	政策提言	116											
	公共施設の増加	12	23										
	イベント・アクティビティ	63	73	111									
	学校	107	132	46	64								
	人間関係	217	34	1	21	48							
	相談・要望	35	35	21	28	63	33						
	安心	43	22	18	15	24	46	46					
	いじめ	56	61	3	4	37	86	36	53				
	安全	25	44	37	14	23	22	20	57	34			
	地域との関わり	15	43	28	82	10	2	8	14	2	18		
	家族	90	29	3	6	5	41	29	31	9	8	10	

図 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと カテゴリ間関連度の模式図



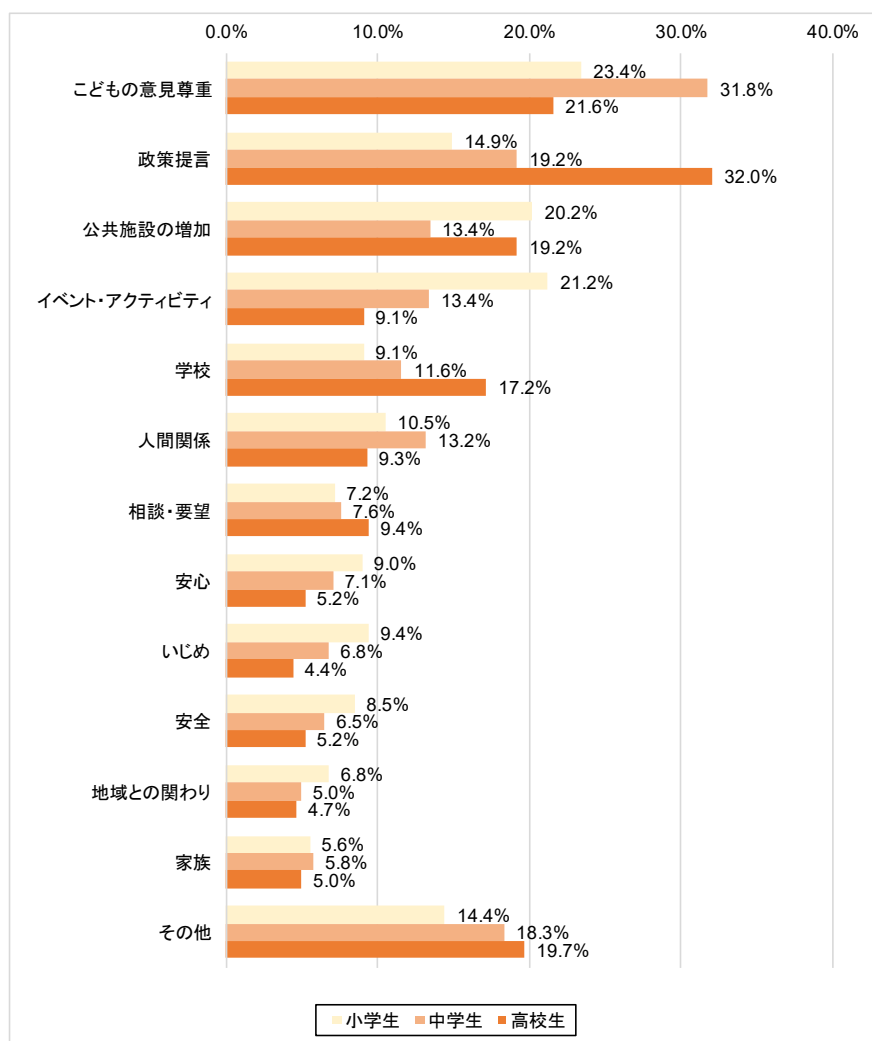
(4) 学年別集計

小学生・中学生で最も回答割合が高いカテゴリは「こどもの意見尊重」であり、小学生で 23.4%、中学生で 31.8%であった。高校生で最も回答割合が高いカテゴリは「政策提言」で 32.0%であった。また、「政策提言」、「学校」、「相談・要望」は学年が上がるごとに回答割合が高くなる傾向にあった。一方、「イベント・アクティビティ」「安心」「いじめ」「安全」は学年が上がるごとに回答割合が低くなる傾向にあった。

表 学年別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと

カテゴリ		こどもの意見尊重	政策提言	公共施設の増加	イベント・アクティビティ	学校	人間関係	相談・要望	安心	いじめ	安全	地域との関わり	家族	その他	回答者数
回答数	小学生	430	274	371	390	167	193	132	165	173	156	125	102	265	1,836
	中学生	468	283	198	197	171	194	112	104	100	96	73	85	270	1,473
	高校生	190	282	169	80	151	82	83	46	39	46	41	44	173	880
比率	小学生	23.4%	14.9%	20.2%	21.2%	9.1%	10.5%	7.2%	9.0%	9.4%	8.5%	6.8%	5.6%	14.4%	100.0%
	中学生	31.8%	19.2%	13.4%	13.4%	11.6%	13.2%	7.6%	7.1%	6.8%	6.5%	5.0%	5.8%	18.3%	100.0%
	高校生	21.6%	32.0%	19.2%	9.1%	17.2%	9.3%	9.4%	5.2%	4.4%	5.2%	4.7%	5.0%	19.7%	100.0%

図 学年別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと（割合）



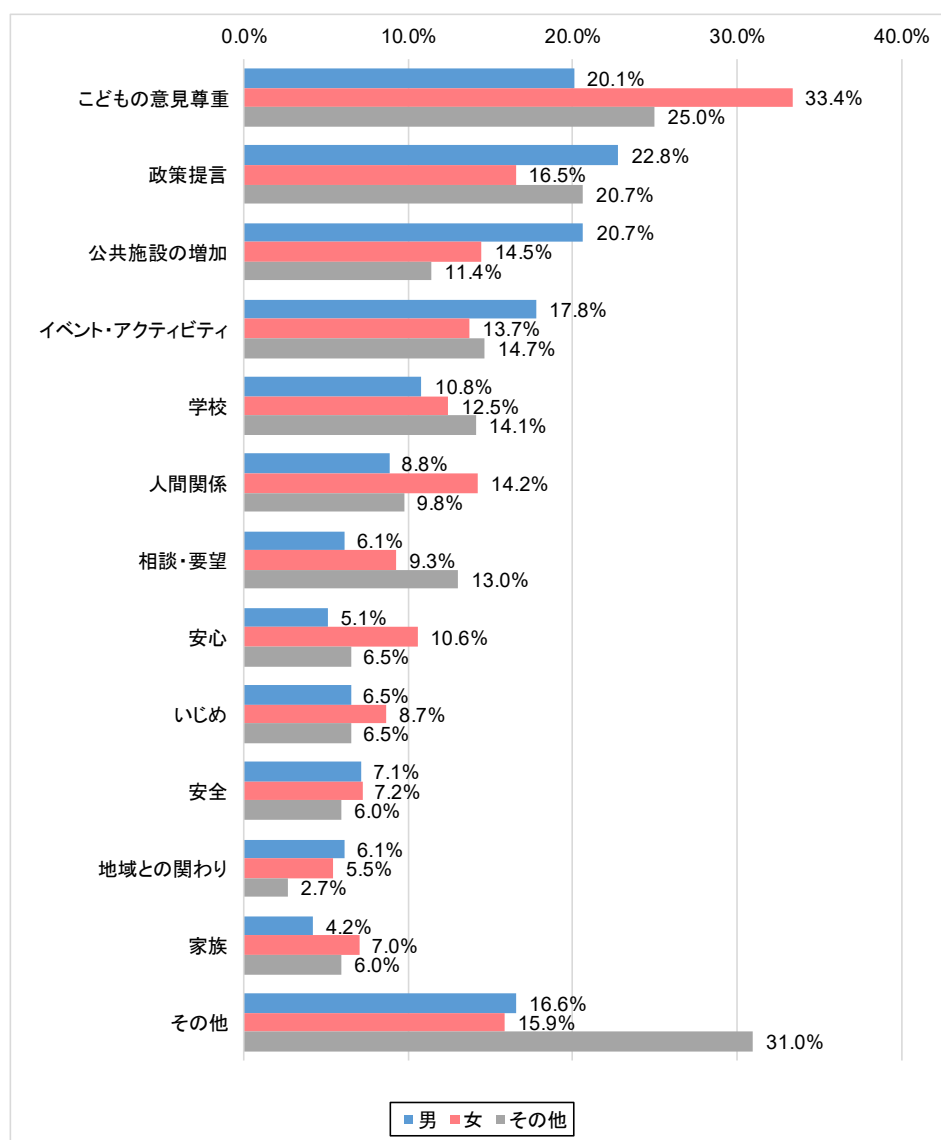
(5) 性別集計

女、その他において「こどもの意見尊重」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、女が 33.4%、その他が 25.0%であった。男は「政策提言」カテゴリに分類される回答の割合が最も高く、22.8%であった。

表 性別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと

カテゴリ		こどもの意見尊重	政策提言	公共施設の増加	イベント・アクティビティ	学校	人間関係	相談・要望	安心	いじめ	安全	地域との関わり	家族	その他	回答者数
回答数	男	445	505	458	394	240	196	136	114	144	158	136	94	367	2,215
	女	597	296	259	246	223	255	167	189	156	129	98	126	284	1,790
	その他	46	38	21	27	26	18	24	12	12	11	5	11	57	184
比率	男	20.1%	22.8%	20.7%	17.8%	10.8%	8.8%	6.1%	5.1%	6.5%	7.1%	6.1%	4.2%	16.6%	100.0%
	女	33.4%	16.5%	14.5%	13.7%	12.5%	14.2%	9.3%	10.6%	8.7%	7.2%	5.5%	7.0%	15.9%	100.0%
	その他	25.0%	20.7%	11.4%	14.7%	14.1%	9.8%	13.0%	6.5%	6.5%	6.0%	2.7%	6.0%	31.0%	100.0%

図 性別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと（割合）



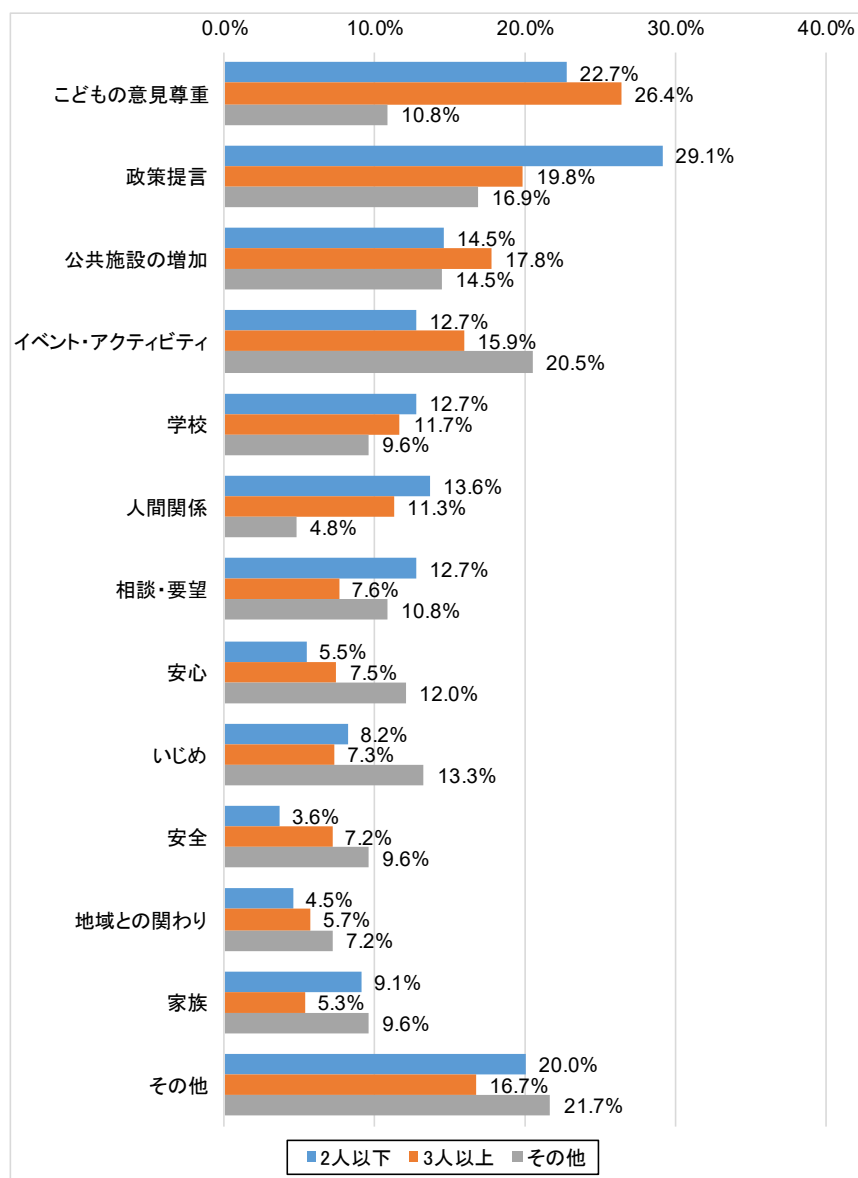
(6) 世帯数別集計

世帯数2人以下では「政策提言」が最も高い回答割合で29.1%であった。世帯数3人以上では「こどもの意見尊重」が最も高い回答割合で26.4%であった。世帯数その他は「イベント・アクティビティ」が最も高い回答割合で20.5%であった。

表 世帯数別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと

カテゴリ		こどもの 意見尊重	政策提言	公共施設 の増加	イベント・ アクティビ ティ	学校	人間関係	相談・要 望	安心	いじめ	安全	地域との 関わり	家族	その他	回答者数
回答数	2人以下	25	32	16	14	14	15	14	6	9	4	5	10	22	110
	3人以上	1054	793	710	636	467	450	304	299	292	286	228	213	668	3,996
	その他	9	14	12	17	8	4	9	10	11	8	6	8	18	83
比率	2人以下	22.7%	29.1%	14.5%	12.7%	12.7%	13.6%	12.7%	5.5%	8.2%	3.6%	4.5%	9.1%	20.0%	100.0%
	3人以上	26.4%	19.8%	17.8%	15.9%	11.7%	11.3%	7.6%	7.5%	7.3%	7.2%	5.7%	5.3%	16.7%	100.0%
	その他	10.8%	16.9%	14.5%	20.5%	9.6%	4.8%	10.8%	12.0%	13.3%	9.6%	7.2%	9.6%	21.7%	100.0%

図 世帯数別 大人の人に伝えたいことや県のこども計画に入れてほしいこと（割合）



5章 調査の課題点・改善点及び工夫点

こどもを対象としたアンケート調査における課題点・改善点及び工夫点を整理し、今後実施する調査の参考情報とする。

- 発注者（子育て支援課）と県教育委員会及び市町村教育委員会、対象学校との協力体制が整えられていた。そのため、受託者が調査を円滑に遂行することが可能だった。
- 児童生徒向けのアンケート調査周知用チラシを作成し **QR** コード及び **URL** を記載した。これにより、児童生徒自身が自らの一人一台端末により回答できる仕組みとした。
- 回答フォームを小学生用と中高生用の2パターン作成した。これにより、小学生でも理解しやすい文言となり、調査の精度向上につながったと考えられる。
- アンケート調査の事前に、**Google Forms** への接続確認を実施した。これにより、回答フォームへの事前接続を行うと同時に、対象校の教職員に対する事前周知、対象校の担当者の連絡先収集を行うことができ、調査開始後の流れをスムーズに進めることが可能となった。
- 教職員に対して、なるべく児童生徒が一同に会する **HR** 等でアンケート調査を実施してもらうように周知した。これにより、クラスや学校単位での回答が多く、回答率向上に繋がったと考えられる。
- 回答期限前には、発注者及び受注者よりリマインドのための架電・メール送付を行った。これにより、リマインド後の回答が集まり、最終的に高い回答率（約 70%）を達成した。
- 一方で、上記の通り複数回にわたるリマインドを実施したにもかかわらず未回答の学校があったり回答遅れが発生したりした。
- 本回答フォームでは個人を特定するための識別コード等は設けなかった。これにより、同一人物が二重に回答する可能性や教職員による回答を排除できていない可能性があった。一方で識別コード等を設けると個人を特定できるリスクがあることから、今後の調査においても個人情報の取り扱いについては十分に留意する必要がある。

参考資料１ アンケート項目

【３次元クロス集計における集計項目の再編成について】

- 個人属性のうち学年を、「小学５年生」「小学６年生」を「小学生」として、「中学１年生」「中学２年生」「中学３年生」を「中学生」として、「高校１年生」「高校２年生」「高校３年生」を「高校生」として集計した。
- 個人属性のうち世帯人員を、「１人」「２人」を「２人以下」、「３人」「４人」「５人」「６人以上」を「３人以上」、「その他」を「その他」として集計した。世帯人員「その他」については、３次元クロス分析で人数が少ないため、削除した。
- 各子どもの権利の感じ方のうち「生命生存及び発達に対する権利の感じ方」「子どもの最善の利益の感じ方」「子どもの意見の尊重の感じ方」を、「とても感じる」「感じる」を「権利を守られていると感じる」として、「どちらともいえない」を「どちらともいえない」として、「あまり感じない」「まったく感じない」を「権利を守られていると感じない」として集計した。
- 各子どもの権利の感じ方のうち「差別的な扱いの感じ方」を、「とても感じる」「感じる」を「権利を守られていると感じない」として、「どちらともいえない」を「どちらともいえない」として、「あまり感じない」「まったく感じない」を「権利を守られていると感じる」として集計した。

表 アンケート調査票

※小学生向け調査票には適宜ふりがなをふっています

※回答形式：SA 択一式 / MA 複数選択式 / FA 自由記述式

大問	No	設問	選択肢		回答形式	必須回答
1.あなたのことについて教えてください。						
	1	1.1 あなたの学年を教えてください。	※小学生向け 1.小学５年生 2.小学６年生	※中高生向け 1.中学１年生 2.中学２年生 3.中学３年生 4.高校１年生 5.高校２年生 6.高校３年生	SA	○
	2	1.2 あなたの通っている学校がある地域を教えてください。	※小・中高それぞれの調査対象校が所属する市町村も併せて記載 1.千葉・市原地域 2.葛南地域 3.東葛飾地域 4.印旛地域 5.香取地域 6.海匠地域 7.山武地域 8.長生地域 9.夷隅地域 10.安房地域 11.君津地域		SA	○
	3	1.3 あなたの通っている学校を教えてください。 ※この質問は学校ごとに答えてくれた人数を知るために聞くものです。だれが答えたかわからないようになっています。	* 地域ごとの調査対象校		SA	○
	4	1.4 あなたの性別を教えてください。	1.男 2.女 3.その他〈どちらともいえない・わからない・答えたくない〉		SA	○
	5	1.5 一緒にくらしている人は、全員で〈あなたをいれて〉何人ですか？ 例) 母と兄１人と一緒にくらしている場合 → ３人	※小学生向け選択肢 1.２人 2.３人 3.４人 4.５人 5.６人以上 6.その他〈わからない・答えたくない場合はこちら〉	※中高生向け選択肢 1.１人 2.２人 3.３人 4.４人 5.５人 6.６人以上 7.その他〈わからない・答えたくない場合はこちら〉	SA	○
2. 子どもの権利について知っていることを教えてください。*子どもの権利は、あなたやまわりのこどもたちが生きていくうえで大切なことをしめしたものです。「子どもの権利条約」や「こども基本法」により定められています。						

大問	No	設問	選択肢	回答形式	必須回答
	1	2.1 あなたは子どもの権利について知っていますか？ 【子どもの権利条約のいわゆる4つの原則】 ①生命、生存及び発達に対する権利 〈命を守られ成長できること〉 すべての子どもの命が守られ、もって生まれた能力を十分にのばして成長できるよう、医療、教育、生活への支援などを受けることが保障されます。 ※上記の青文字は小学生向け調査票では記載なし（以下同様） ②子どもの最善の利益 〈子どもにとって最も良いことは何かを考える〉 子どもに関することが決められ、行われる時は、「その子どもにとって最も良いことは何か」を第一に考えます。 ③子どもの意見の尊重 〈意見を表明し参加できること〉 子どもは自分に関係のある事柄について自由に意見を表すことができ、おとなはその意見を子どもの発達におうじて十分に考慮します。 ④差別の禁止 〈差別のないこと〉 すべての子どもは、子ども自身や親の人種や国籍、性、意見、障がい、経済状況などどんな理由でも差別されず、条約の定めるすべての権利が保障されます。	1.聞いたことがあり、内容も知っている。 2.聞いたことはあるが、内容まではわからない。 3.聞いたことがない。	SA	○
	2	2.2 あなたは、まわりの大人があなたの心も体も大事にしてくれていると感じますか？	1.とても感じる 2.感じる 3.どちらともいえない 4.あまり感じない 5.まったく感じない	SA	○
	3	2.3 「あまり感じない」、「まったく感じない」と答えた場合どのような場合にそう感じましたか？	—	FA	
	4	2.4 あなたは、まわりの大人が、あなたにとって良いことは何かを考えて行動してくれていると感じますか？	1.とても感じる 2.感じる 3.どちらともいえない 4.あまり感じない 5.まったく感じない	SA	○
	5	2.5 「あまり感じない」、「まったく感じない」と答えた場合どのような場合にそう感じましたか？	—	FA	
	6	2.6 あなたは、まわりの大人があなたの意見をきいてくれていると感じますか？	1.とても感じる 2.感じる 3.どちらともいえない 4.あまり感じない 5.まったく感じない	SA	○
	7	2.7 「あまり感じない」、「まったく感じない」と答えた場合どのような場合にそう感じましたか？	—	FA	
	8	2.8 あなたは、まわりからあなた自身の見た目や性別、家のことなどで嫌なことを言われたり、嫌なことをされていると感じますか？ ※「差別の禁止」を反転させています	1.とても感じる 2.感じる 3.どちらともいえない 4.あまり感じない 5.まったく感じない	SA	○
	9	2.9 「とても感じる」、「感じる」と答えた場合どのような場合にそう感じましたか？	—	FA	
3. 子どもの権利を守るためにはどんな仕組みがあると良いと思いますか？もっともよいと思うものを選んでください。〈3つまで選べます。〉					
	1	—	1.子どもの権利について、学校などでもっと学べる機会をふやす。 2.困っていることについて、電話、SNS、メールなどで自由に相談できる。 3.困ったときに直接相談できる場所がある。 4.大人に子どもの権利についてもっと知ってもらう。 5.大人や世の中〈社会〉に対してこどもが意見を伝える機会をふやす。 6.こどもが困ったことや大人に伝えたいことを伝えるサポートをしてくれる。 7.わからない・特にない 8.その他〈具体的には下に書いてください。〉	MA	○
	2	3.2 その他あると良いと思う仕組みがあれば教えてください。	—	FA	

大問	No	設問	選択肢	回答形式	必須回答
4. あなたは将来どうなっていきたいと思いますか？〈5つまで選べます。〉					
	1	—	1.好きなことをしてすごしている。 2.自分らしさを表現できている。 3.まわりに友人などたよれる人がいる。 4.心も体も健康にすごしている。 5.犯罪や事故、災害から守られて安全にいらしている。 6.お金や住むところなどに困らず安定した生活を送っている。 7.子どもを育てている。 8.結婚している・パートナーと一緒にいらしている。 9.好きな仕事をしている。 10.人の役に立っている。 11.お金持ちになっている。 12.世界で活躍している。 13.わからない・特にない。 14.その他〈具体的には下に書いてください。〉	MA	○
	2	4.2 その他に将来なっていきたいものがあれば教えてください。	—	FA	
5. あなたが安心して自分らしくくらすためには、どのようなことが必要だと思いますか？〈5つまで選べます。〉					
	1	—	1.公園や運動場など遊び場がある。 2.好きな勉強をもっとすることができる。 3.自分らしさを表現することができる。 4.塾や習い事に行くことができる。 5.健康にくらすことができ、病気のときにはすぐに病院に行ける。 6.家や学校で安心してすごせる。 7.家や学校以外に安心して過ごすことができる場所がある。 8.家や自分のことを相談できる。 9.家族との時間を大切にすごすことができる。 10.犯罪や事故、災害から守られている。 11.将来働ける場所が身近にある。 12.毎日、お金や住むところなどに困らず生活できる。 13.おいしい食事をとることができる。 14.わからない・特にない 15.その他〈具体的には下に書いてください。〉	MA	○
	2	5.2 その他に自分らしく暮らすために必要なことがあれば教えてください。	—	FA	
6. 何か大人の人に伝えたいことや県のことも計画に入れてほしいことがあれば自由に書いてください。					
	1	—	—	FA	

図 アンケート周知チラシ（小学生向け）

保護者等おとなの方へ

本アンケートの趣旨や目的をご理解の上、本人が気持ちや考えを自由に回答できるようご協力をお願いします。

千葉県からのお願い

千葉県でくらす「こども」の みなさんの意見をきく アンケート(小学生向け)

※「こども」とは、年齢^{ねんれい}に関係なく、おとなとして生活を送れるようになるまでの間にいるみなさんのことです。

千葉県では、県内でくらす**みなさんが、日ごろ何を思っているか、感じているかを知りたい**と思っています。

そこで、**みなさんの考えをアンケートで聞かせてください！**

このアンケートで分かったことは、みなさんのための計画（県のこども計画）を作るために使います。この計画は、**みなさんがより幸せにくらしていくためにつくる計画**です。

このアンケートについて

学校など、**みなさんが落ち着ける場所**で答えてください。

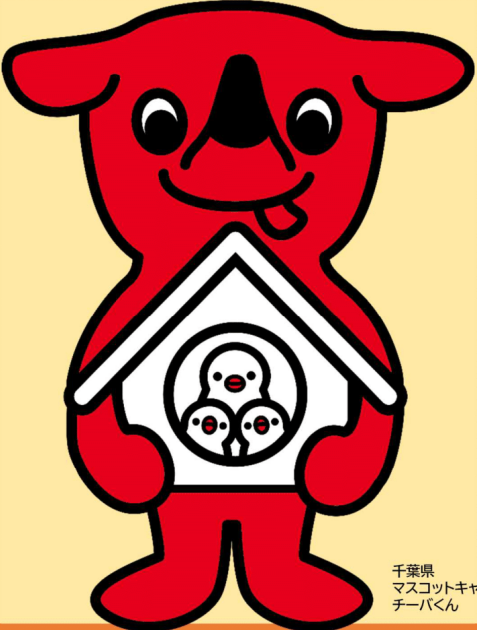
アンケートに答えるには、一番下にあるQRコードを読みこむかURLをタブレットやパソコンなどに入力してください。

答えた内容^{ないよう}は、だれが答えたか分からないようなアンケートになっていますので、安心して答えてください。

答えるときに気をつけること

あまりむずかしく考えずに、自分が思っていること・感じていることを答えてください。

アンケートは必ず1回だけ答えてください。



千葉県
マスコットキャラクター
チーバくん

【アンケートの答え方】 ※令和6年7月1日～7月17日の間に回答してください。

①左のQRコードを読みこむ

②下のURLをタブレット・パソコンなどに
入力する（先生からURLをもらってください）

こどもの権利について知ろう！

こどものみなさんは、「弱くておとなから守られる存在」というだけではありません。みなさんは、おとなと同じように、「ひとりの人間として大切にされる権利(人権)」をもっています。それだけでなく、みなさんの成長にあわせて、守られる、助けられる権利をもっています。これらの権利のことをこどもの権利といいます。

こどもの権利は、70 年以上前から議論されてきました

- 1948年に国際連合で、すべての人が生まれながらに基本的人権をもっていることを認めた「世界人権宣言」が採択されました。その時に、社会で弱い立場に立たされているこどもたちの状況が世界で注目されるようになりました。
- 1959年の国連総会において「児童の権利に関する宣言」が採択され、1989年の第44回国連総会にて「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」が採択され、1990年に発効しました。
- 日本では、1994年にこの「子どもの権利条約」を批准しました(守ることを決めました)。



「子どもの権利条約」には4つの原則があります

差別の禁止 (差別のないこと)	子どもの最善の利益 (子どもにとって最もよいこと)
生命、生存及び発達に対する権利 (命を守られ成長できること)	子どもの意見の尊重 (意見を表明し参加できること)

こどもの権利を守るために「こども施策」を進めます

- すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、2023年4月、こども家庭庁ができるのと同時にこども基本法が動き出しました。
- これから国や都道府県、市区町村は、このこども基本法の内容にそって、こどもや若者に関する取組「こども施策」を進めていきます。

たとえば、

- ◇ こどものみなさんが、おとなになるまでの心や身体の成長をサポートする取組
 - ◇ 子育てをする人たちへのサポートをする取組
- を進めていきます。



こどもの権利について
もっと知りたい人はこちら

こどもの権利

こども家庭庁の取組やこども基本法について
もっと知りたい人はこちら

こども家庭庁

千葉県の取組について
もっと知りたい人はこちら

千葉県 子育て支援

保護者等おとなの方へ

本アンケートの趣旨や目的をご理解の上、本人が気持ちや考えを自由に回答できるようにご協力をお願いします。

千葉県からのお願い

千葉県でくらす「こども」の みなさんの意見をきく アンケート(中高生向け)

※「こども」とは、年齢に関係なく、おとなとして生活を送れるようになるまでの間にいるみなさんのことです。

千葉県では、県内でくらす**みなさんが、日ごろ何を思っているか、感じているかを知りたい**と思っています。

そこで、**みなさんの考えをアンケートで聞かせてください！**

このアンケートで分かったことは、みなさんのための計画（県のこども計画）を作るために使います。この計画は、**みなさんがより幸せにくらしていくためにつくる計画**です。

このアンケートについて

学校など、みなさんが落ち着ける
場所で答えてください。

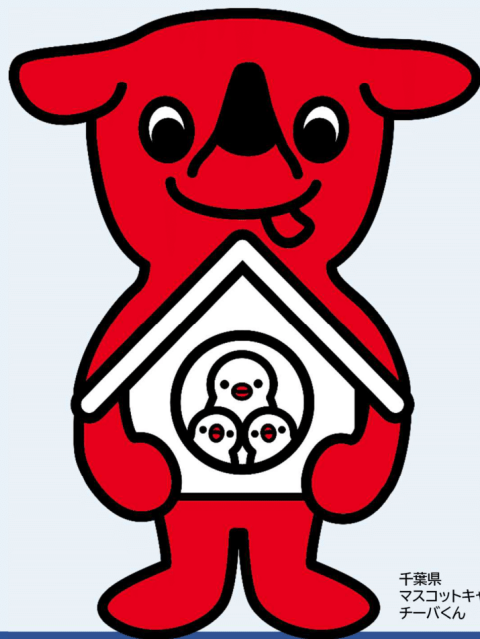
アンケートに答えるには、一番下にある
QRコードを読みこむかURLをタブレットや
パソコンなどに入力してください。

答えた内容は、だれが答えたか分からない
ようなアンケートになっていますので、安心
して答えてください。

答えるときに気をつけること

あまりむずかしく考えずに、自分が思っ
ていること・感じていることを答えてください。

アンケートは必ず1回だけ答えてください。



千葉県
マスコットキャラクター
チーパくん

【アンケートの答え方】 ※令和6年7月1日～7月17日の間に回答してください。

- ①左のQRコードを読みこむ
- ②下のURLをタブレット・パソコンなどに
入力する（先生からURLをもらってください）

こどもの権利について知ろう！

こどものみなさんは、「弱くておとなから守られる存在」というだけではありません。みなさんは、おとなと同じように、「ひとりの人間として大切にされる権利(人権)」をもっています。それだけでなく、みなさんの成長にあわせて、守られる、助けられる権利をもっています。これらの権利のことをこどもの権利といいます。

こどもの権利は、70 年以上前から議論されてきました

- 1948年に国際連合で、すべての人が生まれながらに基本的人権をもっていることを認めた「世界人権宣言」が採択されました。その時に、社会で弱い立場に立たされているこどもたちの状況が世界で注目されるようになりました。
- 1959年の国連総会において「児童の権利に関する宣言」が採択され、1989年の第44回国連総会にて「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」が採択され、1990年に発効しました。
- 日本では、1994年にこの「子どもの権利条約」を批准しました(守ることを決めました)。



「子どもの権利条約」には4つの原則があります

差別の禁止 (差別のないこと)	子どもの最善の利益 (子どもにとって最もよいこと)
生命、生存及び発達に対する権利 (命を守られ成長できること)	子どもの意見の尊重 (意見を表明し参加できること)

こどもの権利を守るために「こども施策」を進めます

- すべてのこどもが幸せな生活を送ることができる社会を目指して、2023年4月、こども家庭庁ができるのと同時にこども基本法が動き出しました。
- これから国や都道府県、市区町村は、このこども基本法の内容にそって、こどもや若者に関する取組「こども施策」を進めていきます。

たとえば、

- ◇ こどものみなさんが、おとなになるまでの心や身体の成長をサポートする取組
 - ◇ 子育てをする人たちへのサポートをする取組
- を進めていきます。



こどもの権利について
もっと知りたい人はこちら

こどもの権利 🔍

こども家庭庁の取組やこども基本法について
もっと知りたい人はこちら

こども家庭庁 🔍

千葉県の取組について
もっと知りたい人はこちら

千葉県 子育て支援 🔍

千葉県 健康福祉部 子育て支援課